

平成 27 年度食品安全モニター課題報告  
「食品の安全性に関する意識等について」の結果  
報告書

(平成 28 年 3 月実施)

内閣府食品安全委員会事務局

## 目次

○調査目的等	1
○調査結果	7
I. 食品の安全性に係る危害要因等について	7
1.日常生活を取り巻く分野別不安の程度（問1）	7
2.食品の安全性の観点から感じる不安の程度（問2）	10
3.食品の安全性の観点から不安を感じる理由（放射性物質以外）（問3）	38
4.食品の安全性の観点から不安を感じない理由（放射性物質以外）（問4）	54
5.放射性物質について不安を感じる理由（問5）	69
II. 食品の安全性の確保について	71
<食品安全行政全般について>	71
6.食品の安全性確保のための取組に対する評価（問6）	71
7.食品の安全の分野における行政のリスクコミュニケーションの評価（問7）	73
8.リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由（問8）	75
<食品安全委員会について>	77
9.よく利用する食品安全委員会からの情報（問9）	77
10.食品の安全についての意見交換会への参加（問10）	83
11.食品安全委員会から得た情報の活用方法（問11）	85
12.食品の安全性に関する認識のギャップ（問12）	90
13.食品安全委員会に対する認識の変化（問13）	92
III. 最近の食品の安全性に関するトピックスについて	97
<加工肉・レッドミートに関する IARC（国際がん研究機関）の発表について>	97
14.食品安全委員会で発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の情報の閲覧状況（問14）	97
15.媒体別の「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の情報の評価（問15）	101
16.食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の、周囲への伝達状況（問16）	104
<「健康食品」について>	107
17.食品安全委員会が発信した「健康食品」についての閲覧状況（問17）	107
18.食品安全委員会が発信した「健康食品」についての、周囲への伝達状況（問18）	112
19.「健康食品」の摂取の状況（問19）	114
20.「健康食品」の摂取をやめた理由（問20）	118
21.「健康食品」を摂取したことがない理由（問21）	119
○「その他」の記載分類整理表	120
○統計表	138

## ○ 調査目的等

### (1) 調査目的

内閣府食品安全委員会事務局が実施している食品安全モニター（以下「モニター」という。）の方を対象とした調査から、食品の安全性に関する意識等について明らかにする。また、平成16年度からの継続調査であり、経年での意識の変化についても分析する。

### (2) 調査項目

調査項目は、次の3項目である。

- I. 食品の安全性に係る危害要因等について  
（食品の安全性に係る不安の程度、不安を感じる理由等）
- II. 食品の安全性の確保について  
（食品の安全性の確保のための取組への評価等）
- III. 最近の食品の安全性に関するトピックスについて  
（食品安全委員会の発信情報の評価等）

### (3) 実施期間

平成28年3月4日～3月18日

### (4) 対象

食品安全モニター 467名  
有効回答数 425名（有効回答率：91.0%）

### (5) 食品安全モニターの回答者人数の内訳

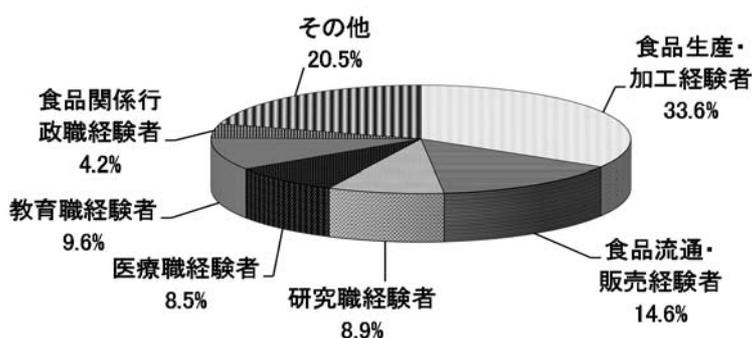
#### 1. 性別・年代

	男性	女性	回答者人数計	割合
20～30代	22人	53人	75人	17.6%
40代	49人	52人	101人	23.8%
50代	66人	63人	129人	30.4%
60代以上	96人	24人	120人	28.2%
合計	233人	192人	425人	—
割合	54.8%	45.2%	—	100.0%

## 2. 職務経験区分

職務経験区分	区分の説明	回答者人数 (割合)
食品生産・加工経験者	現在又は過去において、食品の生産、加工に関する職業（調理従事者を含む）に5年以上従事している方	143人 (33.6%)
食品流通・販売経験者	現在又は過去において、食品の流通、販売等（会社、団体の役員を含む）に関する職業に5年以上従事している方	62人 (14.0%)
研究職経験者	現在又は過去において、試験研究機関（民間を含む）、大学等で食品や、食品の安全に関する研究の経験を5年以上有している方	38人 (8.9%)
医療職経験者	現在又は過去において、医療等に関する職業（医師、獣医師、薬剤師等）に就いた経験を5年以上有している方	36人 (8.5%)
教育職経験者	現在又は過去において、教育に従事した経験を5年以上有している方	41人 (9.6%)
食品関係行政職経験者	過去に食品の安全に関する行政に従事した経験を有している方	18人 (4.2%)
その他食品安全モニター (文中「その他」) <sup>※</sup>	上記の項目に該当しない方	87人 (20.5%)

図表 職務経験区分 (n=425)



<sup>※</sup>食品安全モニターは、モニター活動を行う上で、食品安全委員会が行うリスク評価や食品安全行政について一定の理解ができる必要があることから、次の条件のいずれかを満たしていることを応募資格としている。

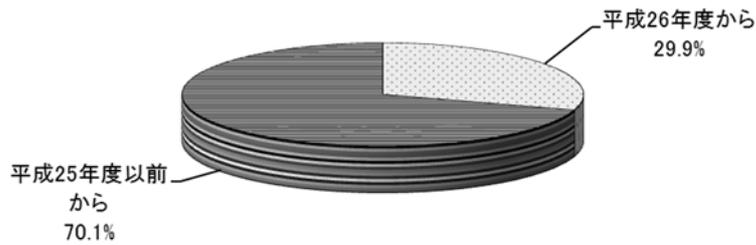
- [1] 大学等で食品に関係の深い学問（医学、歯学、薬学、獣医学、畜産学、水産学、農芸化学、家政学、食品工学等）を専攻し修了した方
- [2] 食品に関係の深い資格（栄養士、管理栄養士、調理師、専門調理師、製菓衛生師又は食品衛生管理者その他の事務局長が適当と認めるもの）を保有の方
- [3] 食品安全に関する業務を業としている方若しくはしていた方又は常勤公務員として食品の安全に関する行政に従事していた方（平成27年4月1日現在常勤の公務員でないこと）

3. 性別、年代区分、職務経験の内訳

	性別		年代区分				合計
	男性	女性	20~30代	40代	50代	60代以上	
食品生産・加工経験者	97人 67.8%	46人 32.2%	18人 12.6%	37人 25.9%	48人 33.6%	40人 28.0%	143人 100%
食品流通・販売経験者	44人 71.0%	18人 29.0%	9人 14.5%	14人 22.6%	19人 30.6%	20人 32.3%	62人 100%
研究職経験者	30人 78.9%	8人 21.1%	7人 18.4%	11人 28.9%	7人 18.4%	13人 34.2%	38人 100%
医療職経験者	16人 44.4%	20人 55.6%	7人 19.4%	7人 19.4%	12人 33.3%	10人 27.8%	36人 100%
教育職経験者	13人 31.7%	28人 68.3%	6人 14.6%	11人 26.8%	11人 26.8%	13人 31.7%	41人 100%
食品関係行政職経験者	8人 44.4%	10人 55.6%	1人 5.6%	2人 11.1%	3人 16.7%	12人 66.7%	18人 100%
その他	25人 28.7%	62人 71.3%	27人 31.0%	19人 21.8%	29人 33.3%	12人 13.8%	87人 100%

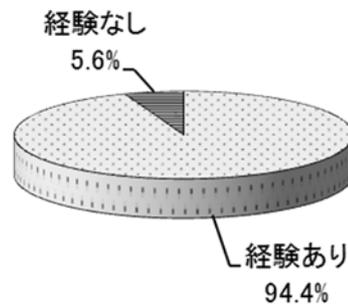
4. モニター継続区分別

図表 モニター継続区分 (n=425)



5. 食品安全モニター一会議出欠区分

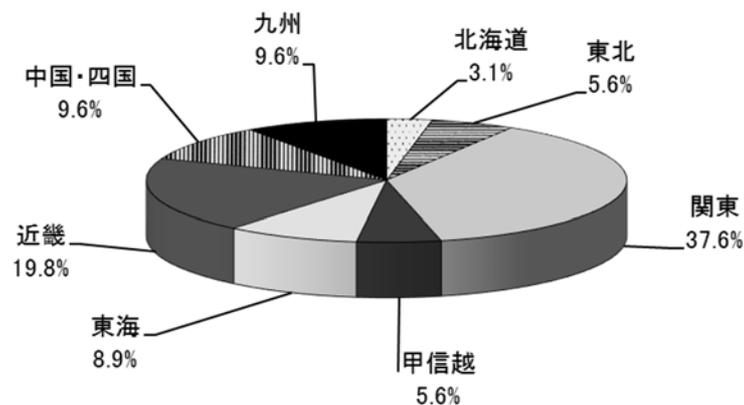
図表 食品安全モニター一会議出欠区分 (n=425)



## 6. 居住地区分

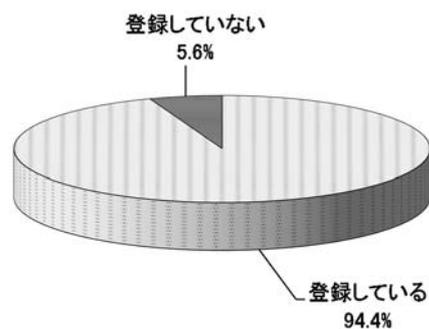
北海道	13人 (3.1%)
東北 (青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)	24人 (5.6%)
関東 (茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川)	160人 (37.6%)
甲信越 (新潟、富山、石川、福井、山梨、長野)	24人 (5.6%)
東海 (岐阜、静岡、愛知、三重)	38人 (8.9%)
近畿 (滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)	84人 (19.8%)
中国・四国 (鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知)	41人 (9.6%)
九州 (福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)	41人 (9.6%)

図表 居住地区分 (n=425)



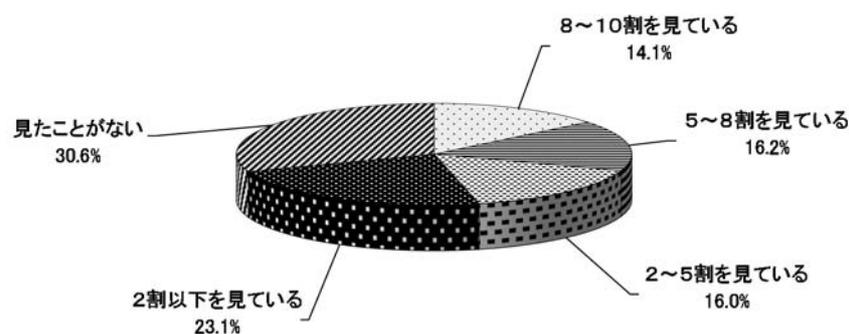
## 7. 食品安全委員会のメールマガジン登録区分 (n=425)

図表 食品安全委員会のメールマガジン登録区分

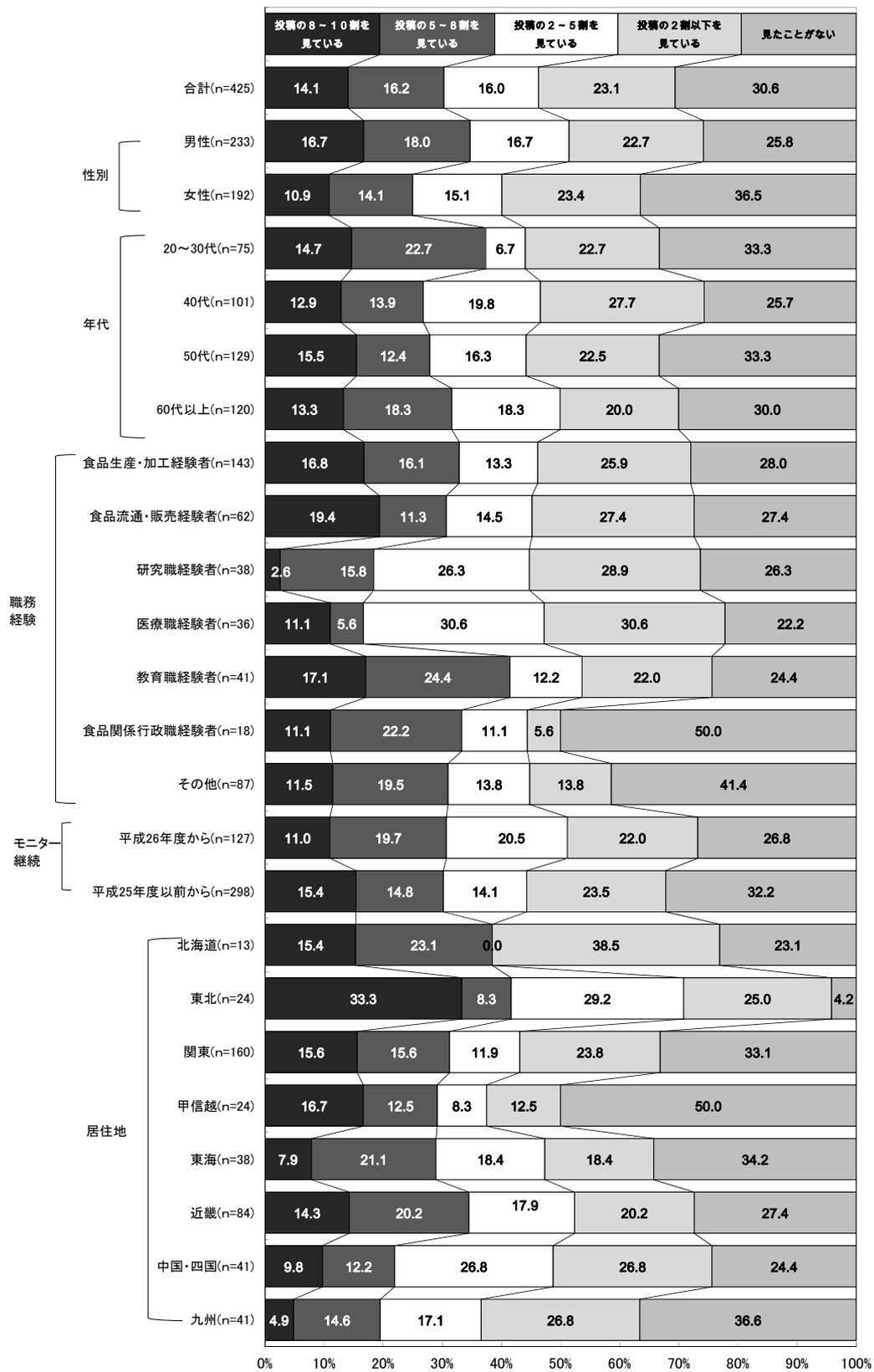


## 8. 食品安全委員会のフェイスブックの閲覧状況 (n=425)

図表 食品安全委員会のフェイスブックの閲覧状況



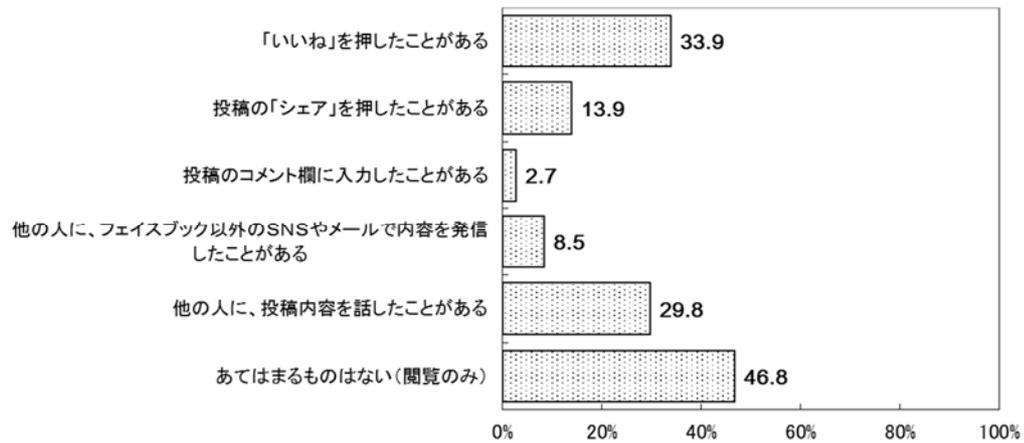
図表 食品安全委員会のフェイスブックの閲覧状況（属性別）



## 9. 食品安全委員会のフェイスブックの投稿への反応

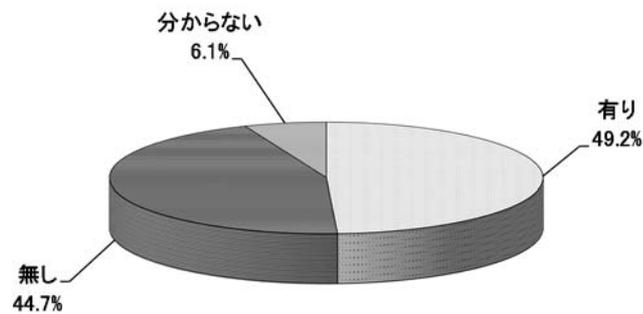
図表 食品安全委員会のフェイスブックの投稿への反応 (n=295)

(食品安全委員会のフェイスブックの閲覧状況の間でフェイスブックを「見ている」と回答した方のみ回答。当てはまるもの全てを選択)



## 10. フェイスブックのアカウントの有無

図表 フェイスブックのアカウント有無 (n=425)



## ○ 調査結果

### I. 食品の安全性に係る危害要因等について

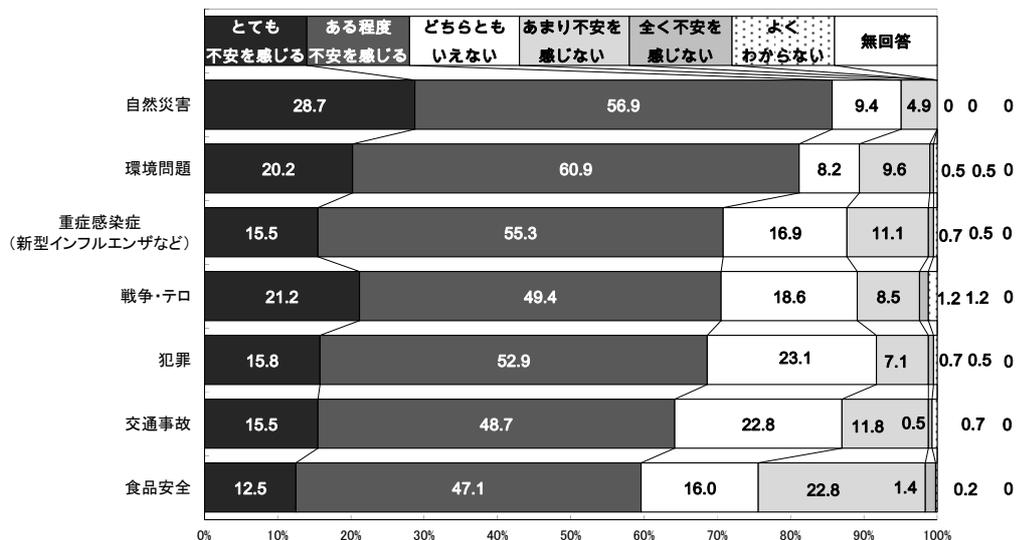
#### 1. 日常生活を取り巻く分野別不安の程度（問1）

問1 A～Gに掲げる事項についてリスクの観点からあなたはどのように思いますか。それぞれの事項について、選択肢1～6の中から1つずつ選んでください。

##### 1-1 日常生活を取り巻く分野別不安の程度の回答割合

- 環境問題、自然災害、食品安全、重症感染症（新型インフルエンザなど）、犯罪、戦争・テロ、交通事故の7のリスク分野について、それぞれ不安の程度を尋ねたところ、食品安全については、「とても不安を感じる」が12.5%、「ある程度不安を感じる」が47.1%で、合わせて59.6%が不安を感じるとしている。

図表 1-1 日常生活を取り巻く分野別不安の程度

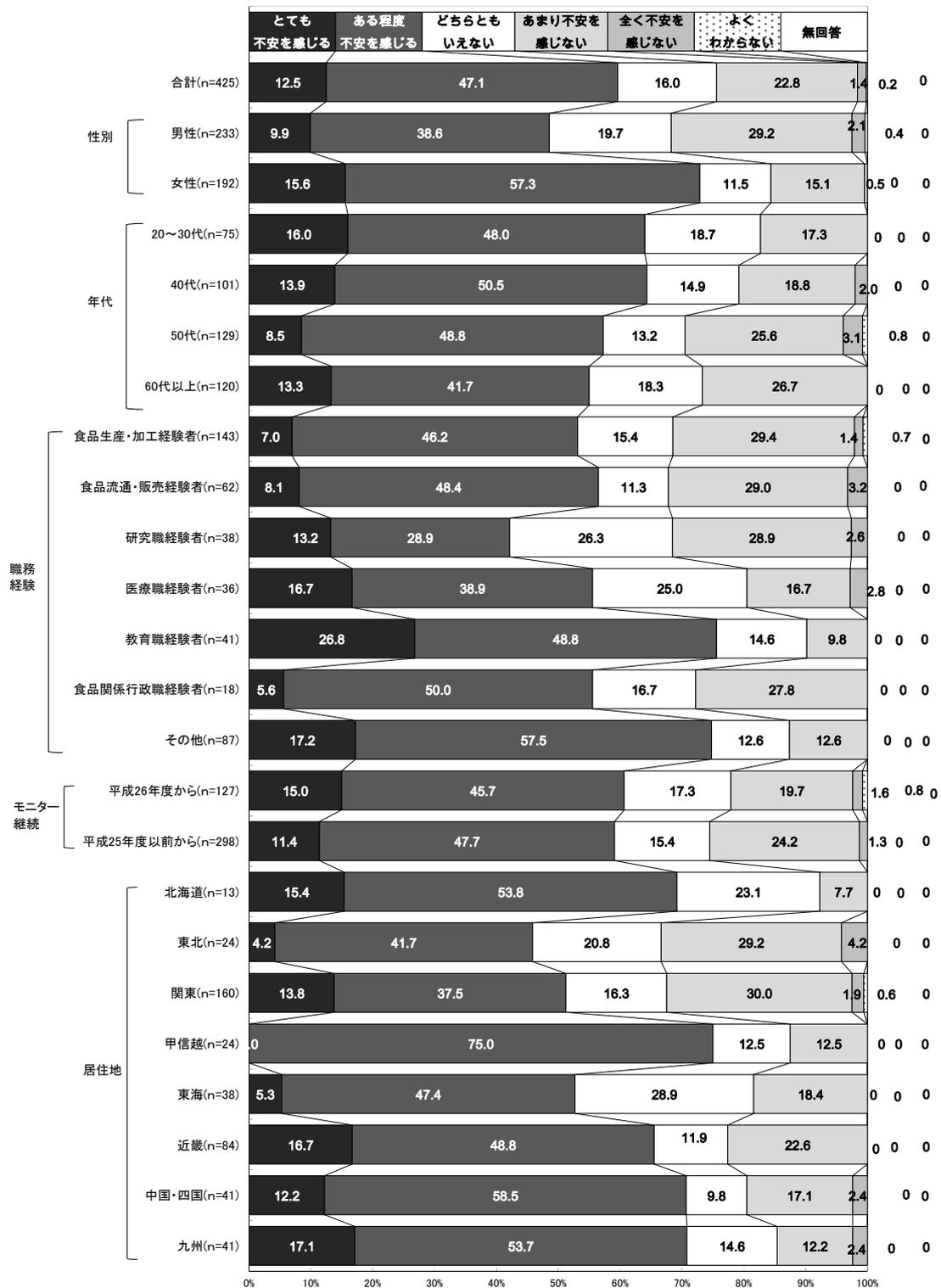


※ 「とても不安を感じる」「ある程度不安を感じる」の合計が高いもの順に並び替え

## 1-2 「食品安全」についての不安の程度の属性別回答割合

- 食品安全についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安を感じる」と「ある程度不安を感じる」の合計は、男性（48.5%）よりも女性（72.9%）の方が有意に高い。

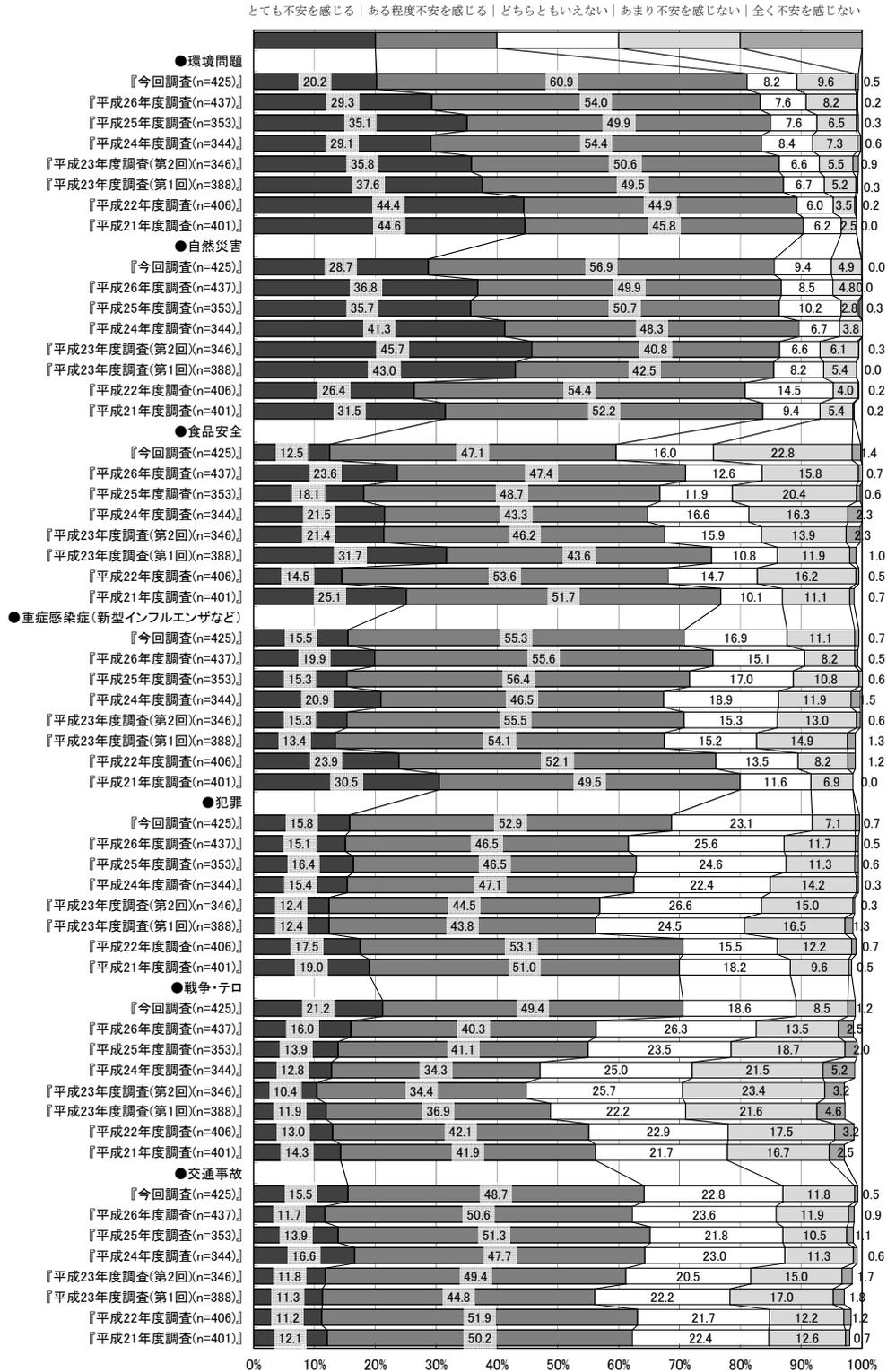
図表 1-2 「食品安全」に対する不安の程度（属性別）



### 1-3 日常生活を取り巻く分野別不安の程度の年度別回答割合

- 食品安全についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安を感じる」の割合は東日本大震災直後の平成23年度(第1回)の31.7%をピークに低下傾向を示し、26年度は一時は増加に転じていたが、27年度調査では前年の23.6%に比べ12.5%と減少している。

図表 1-3 日常生活を取り巻く分野別不安の程度(年度別)



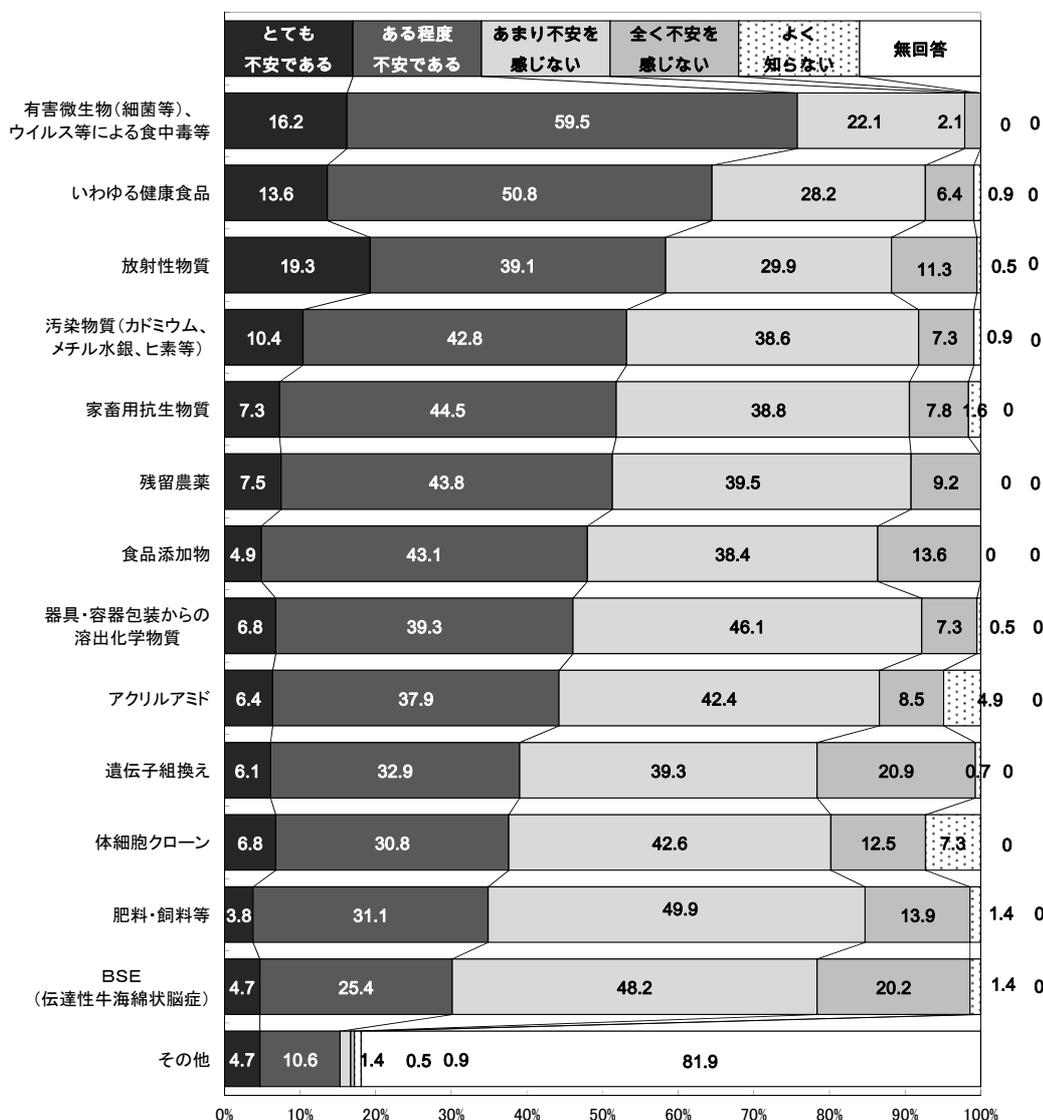
## 2. 食品の安全性の観点から感じる不安の程度（問2）

問2 A～Mに掲げるハザード等について、食品の安全性の観点からあなたはどのように思いますか。それぞれのハザード等について、選択肢1～5の中から1つずつ選んでください。また、A～Mのハザード等以外に食品の安全性の観点で気になるものがあれば、「N その他」に具体的な例を記入し、それについても選択肢1～5の中から1つ選んでください。

### 2-1 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度

- 食品安全に関するハザードについて、それぞれ不安の程度を尋ねたところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計が最も高いのは「有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等」(75.7%)、次いで「いわゆる健康食品」(64.4%)、「放射性物質」(58.4%)と続いている。

図表 2-1 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度

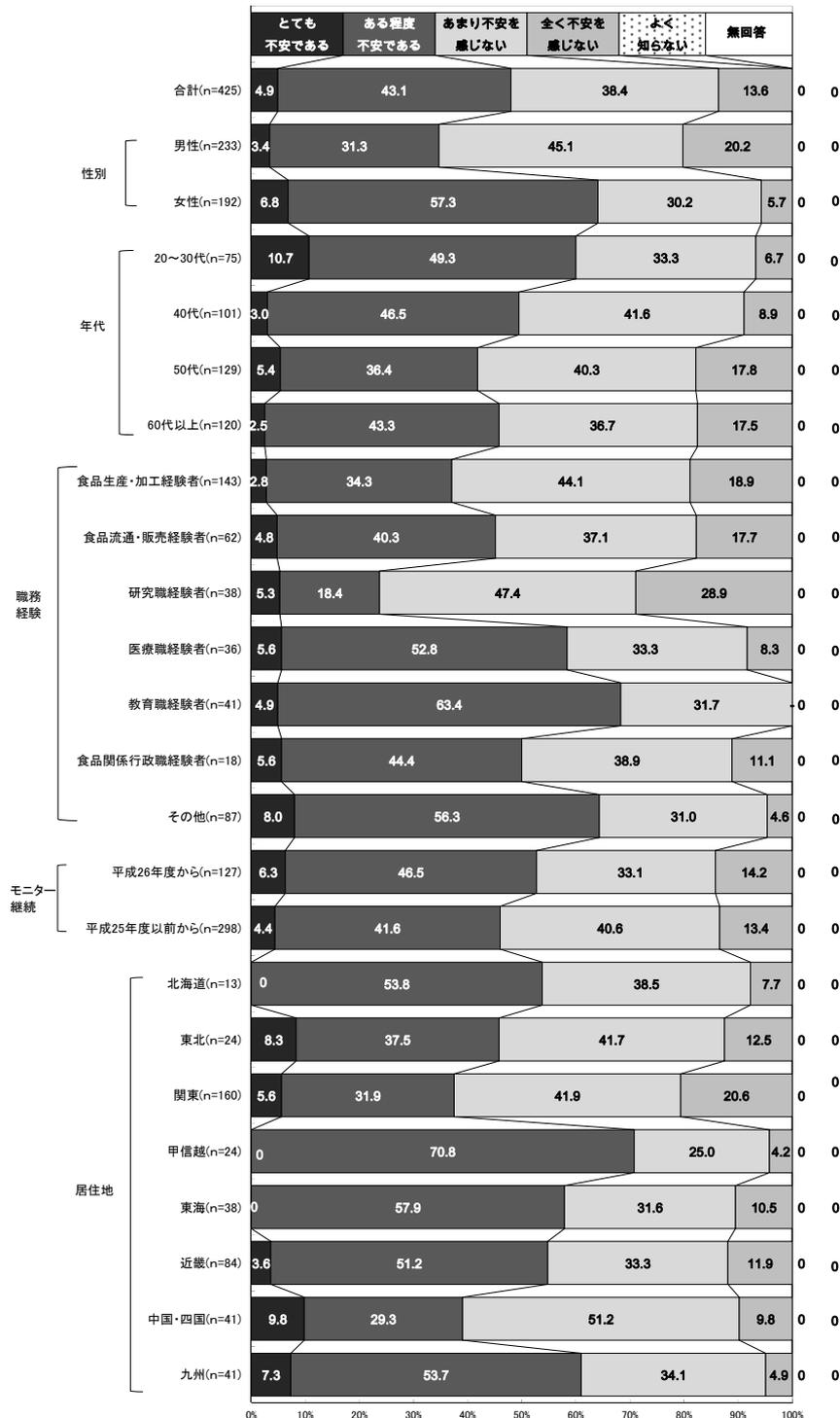


※「とても不安である」「ある程度不安である」の合計が高いもの順に並び替え

## A. 食品添加物

- 食品添加物についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（34.7%）よりも女性（64.1%）のほうが有意に高い。

図表 2-2 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度  
 <食品添加物・属性別>

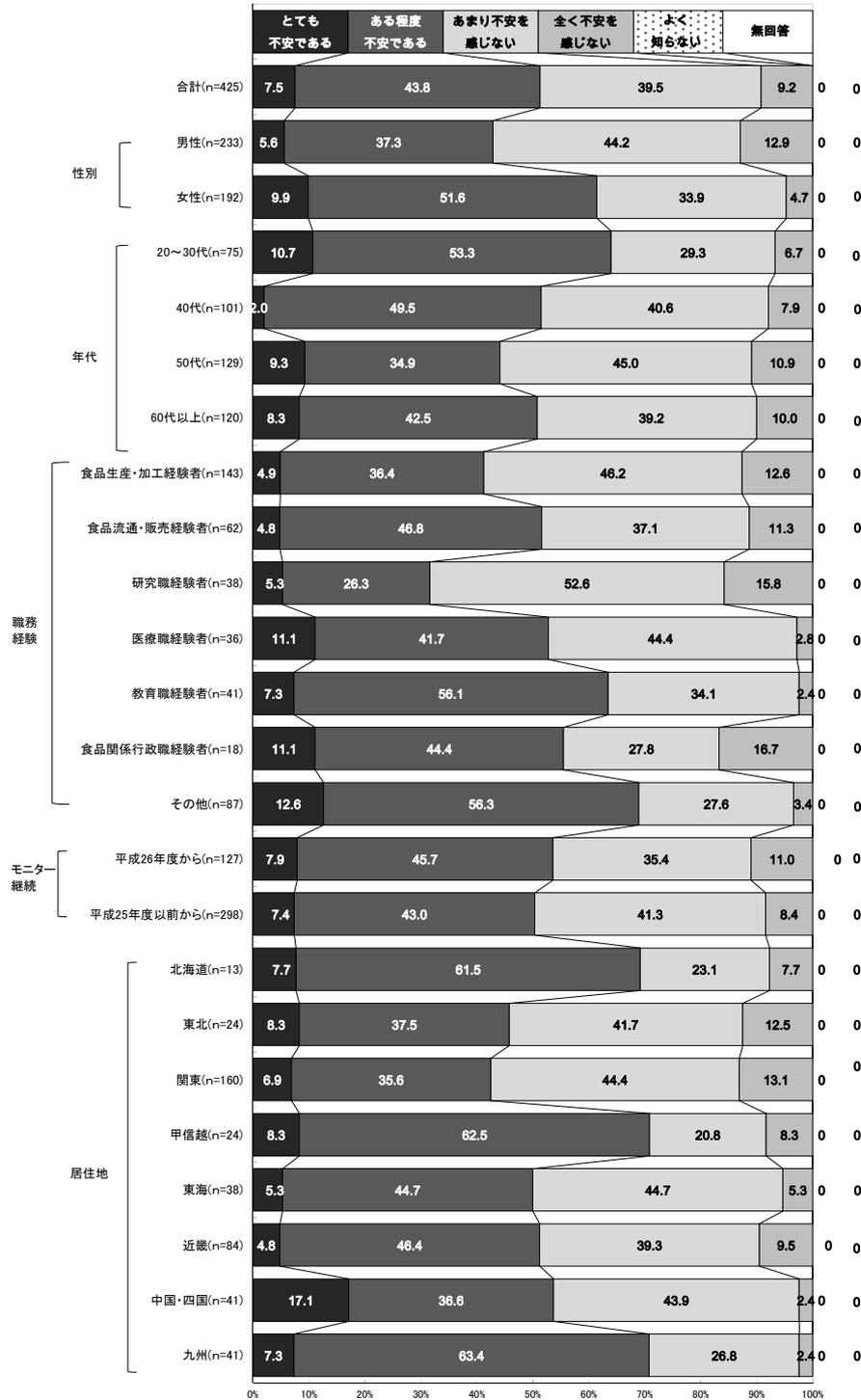


## B. 残留農薬

- 残留農薬についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（42.9%）よりも女性（61.5%）のほうが有意に高い。

図表 2-3 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度

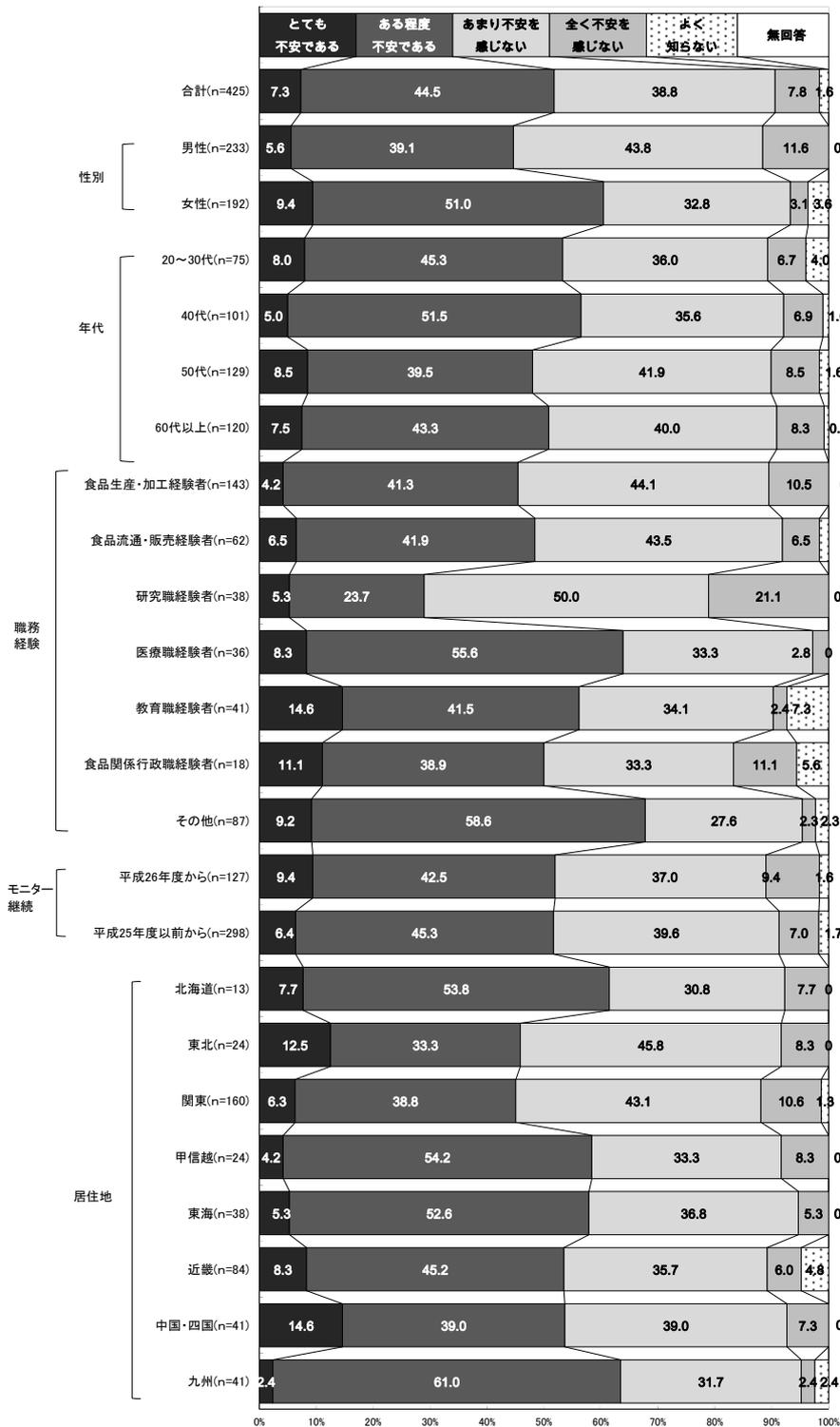
<残留農薬・属性別>



### C. 家畜用抗生物質

- 家畜用抗生物質についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（44.7%）よりも女性（60.4%）のほうが有意に高く、職務経験別では、他の職務経験に比べて研究職経験者（29.0%）で有意に低い。

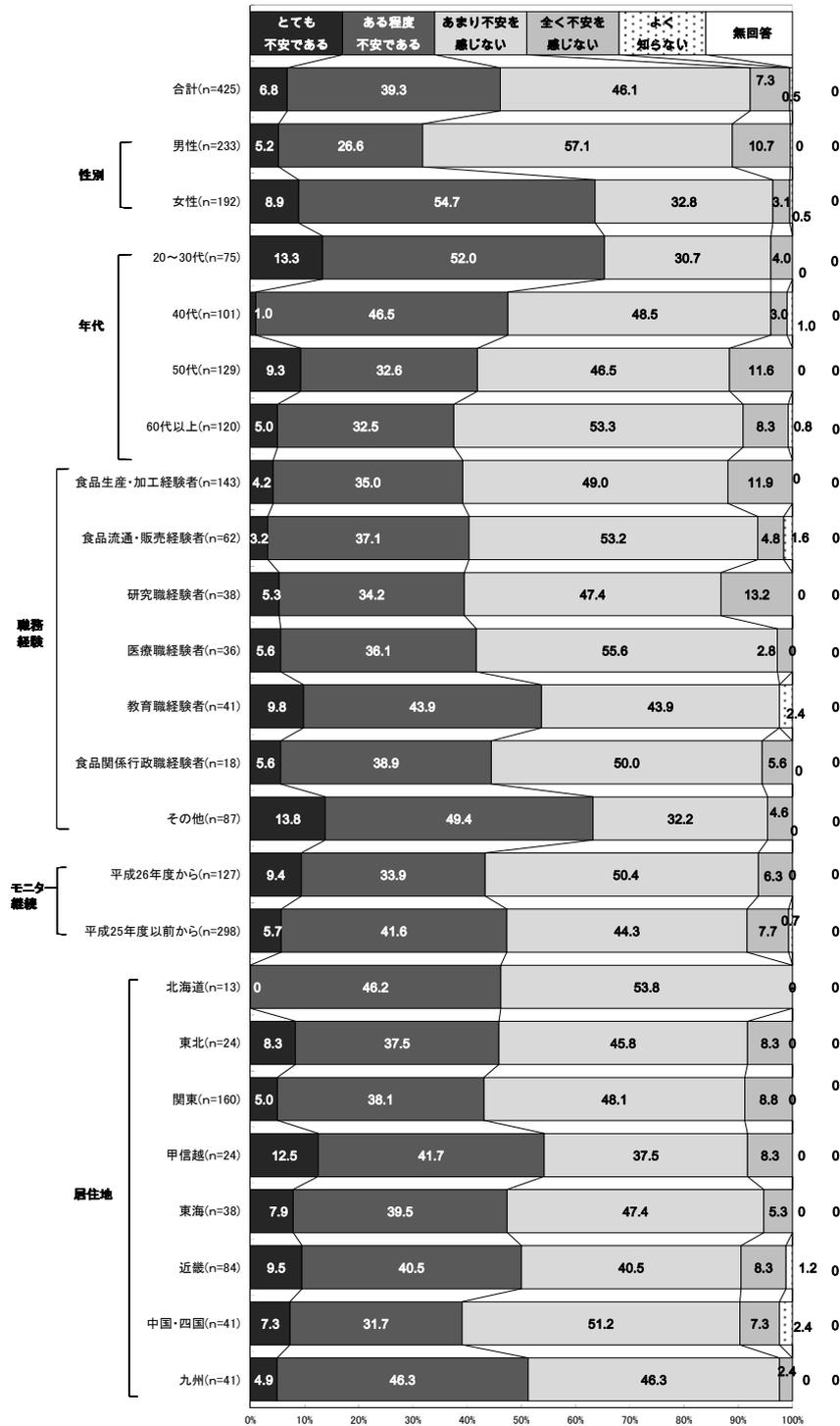
図表 2-4 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度  
 <家畜用抗生物質・属性別>



#### D. 器具・容器包装からの溶出化学物質

- 器具・容器包装からの溶出化学物質についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（31.8%）よりも女性（63.6%）のほうが有意に高く、年代別では、他の年代に比べて、20～30代（65.3%）が有意に高い。

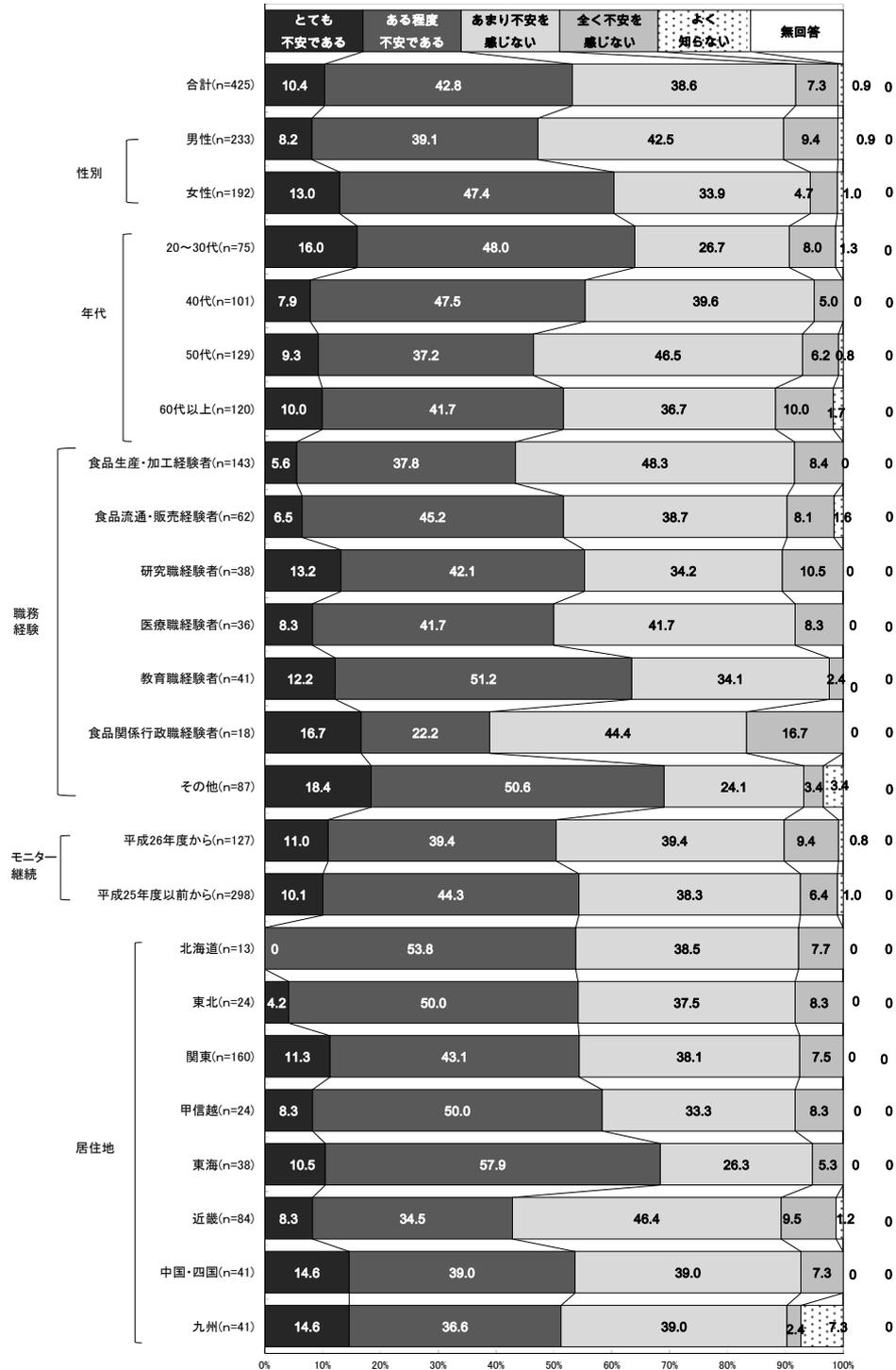
図表 2-5 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度  
 <器具・容器包装・属性別>



E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）

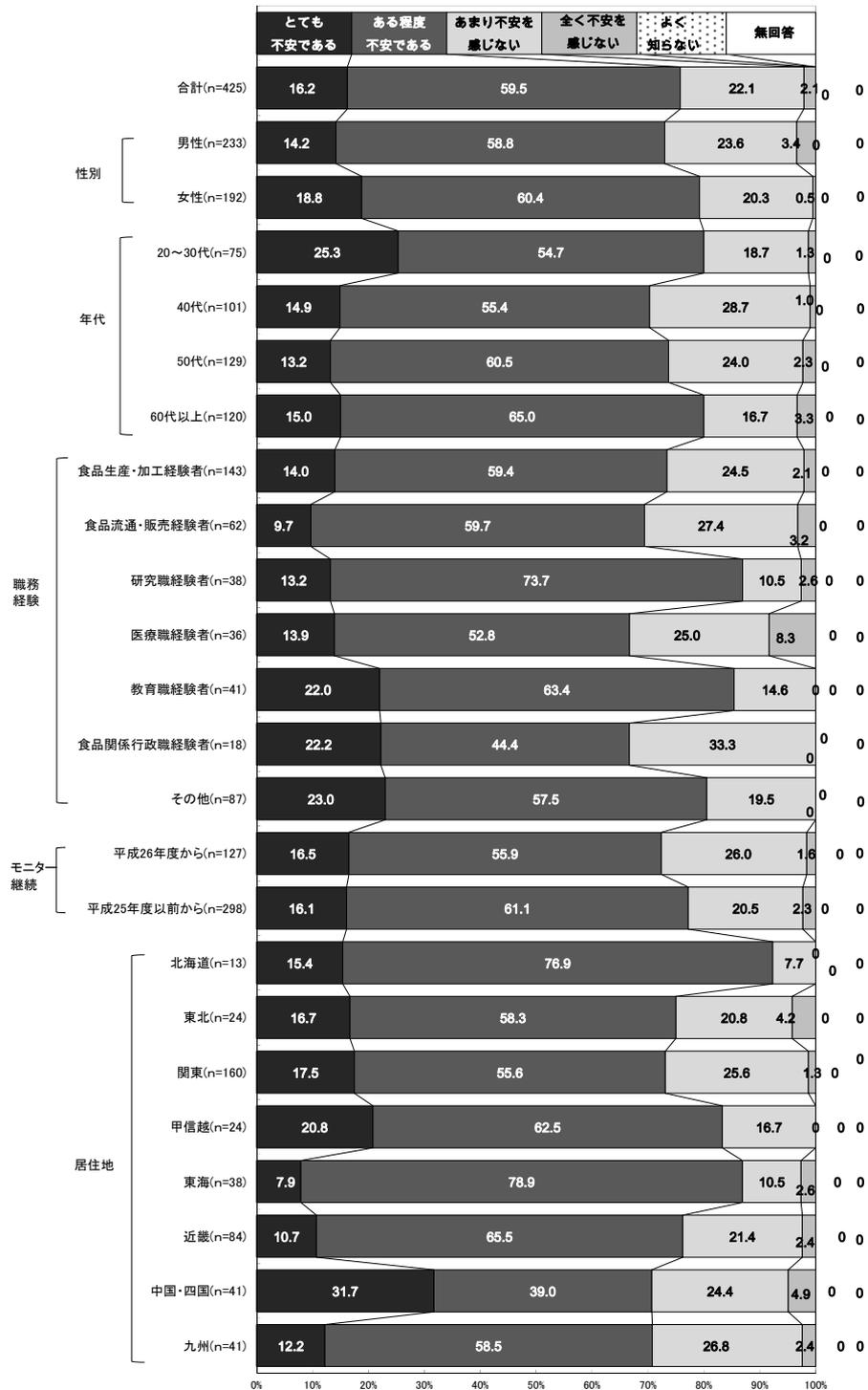
- 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、職務経験別では、他の職務経験に比べて食品関係行政経験者（38.9%）のほうが低い。

図表 2-6 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度  
 <汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）・属性別>



## F. 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等

- 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計に大きな差は見られなかった。
- 図表 2-7 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度  
〈有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等〉・属性別〉

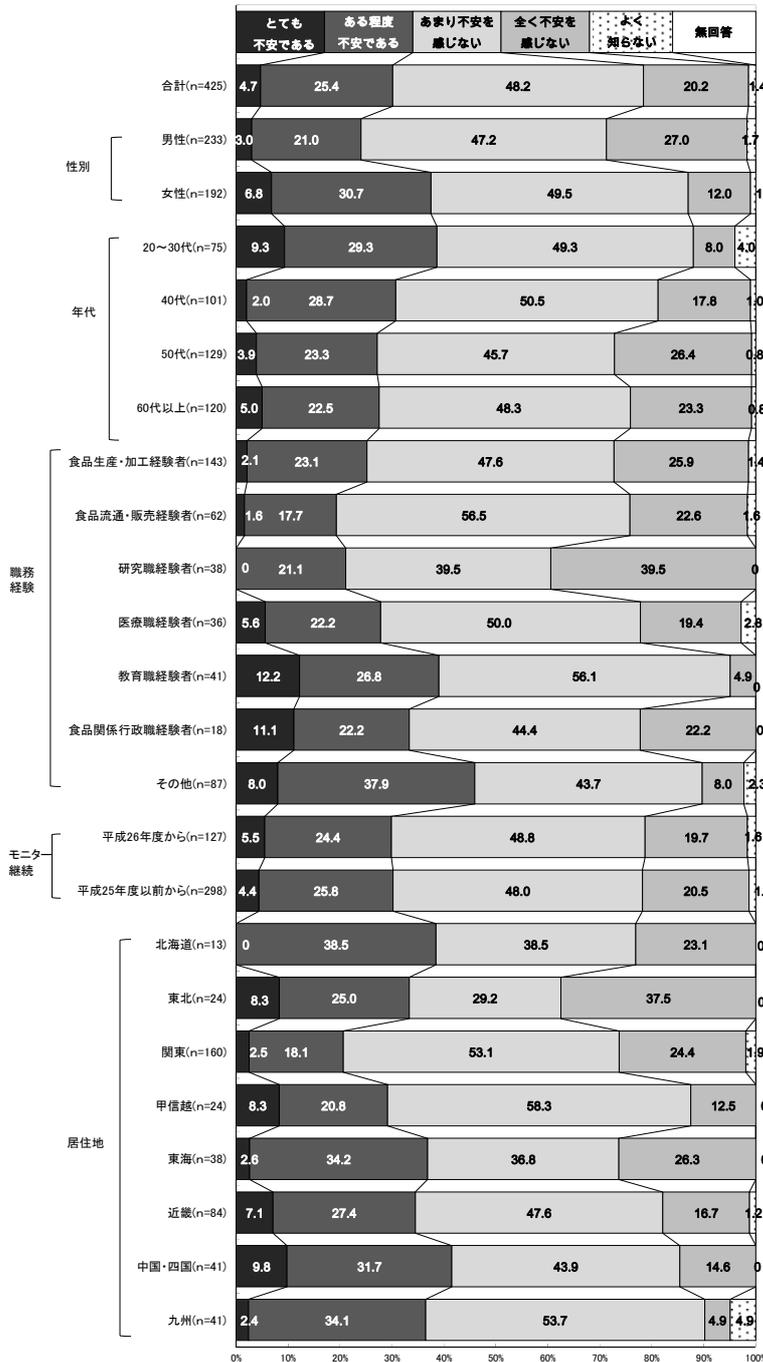


### G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）

- BSE（伝達性牛海綿状脳症）についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（24.0%）よりも女性（37.5%）のほうが有意に高く、職務経験別では、他の職務経験に比べてその他（45.9%）が高い。
- 「あまり不安を感じない」と「全く不安を感じない」の合計は68.4%と、調査項目のハザード等の中で最も高い値となった。また、「全く不安を感じない」の割合は20.2%と、遺伝子組換えの20.9%に次いで高い値であった。

図表 2-8 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度

#### <BSE（伝達性牛海綿状脳症）・属性別>

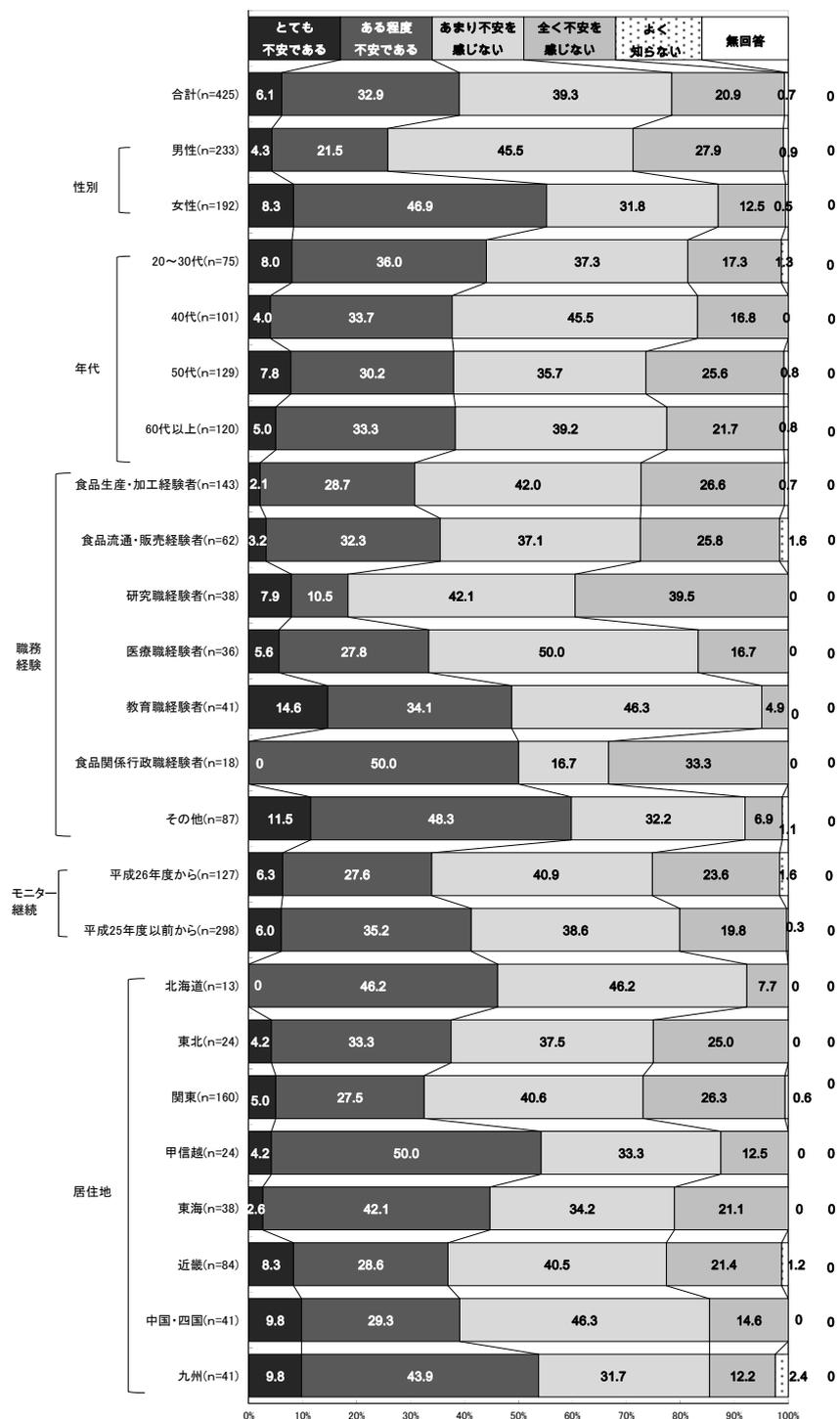


## H. 遺伝子組換え

- 遺伝子組換えについての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（25.8%）よりも女性（55.2%）のほうが有意に高く、職務経験別では、他の職務経験に比べて研究職経験者（18.4%）が有意に低い。
- 「全く不安を感じない」の割合は20.9%と、調査項目のハザード等の中で最も高い値となった。また、「あまり不安を感じない」と「全く不安を感じない」の合計は60.2%と、BSE（68.4%）、肥料・飼料等（63.8%）に次いで高い値であった。

図表 2-9 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度

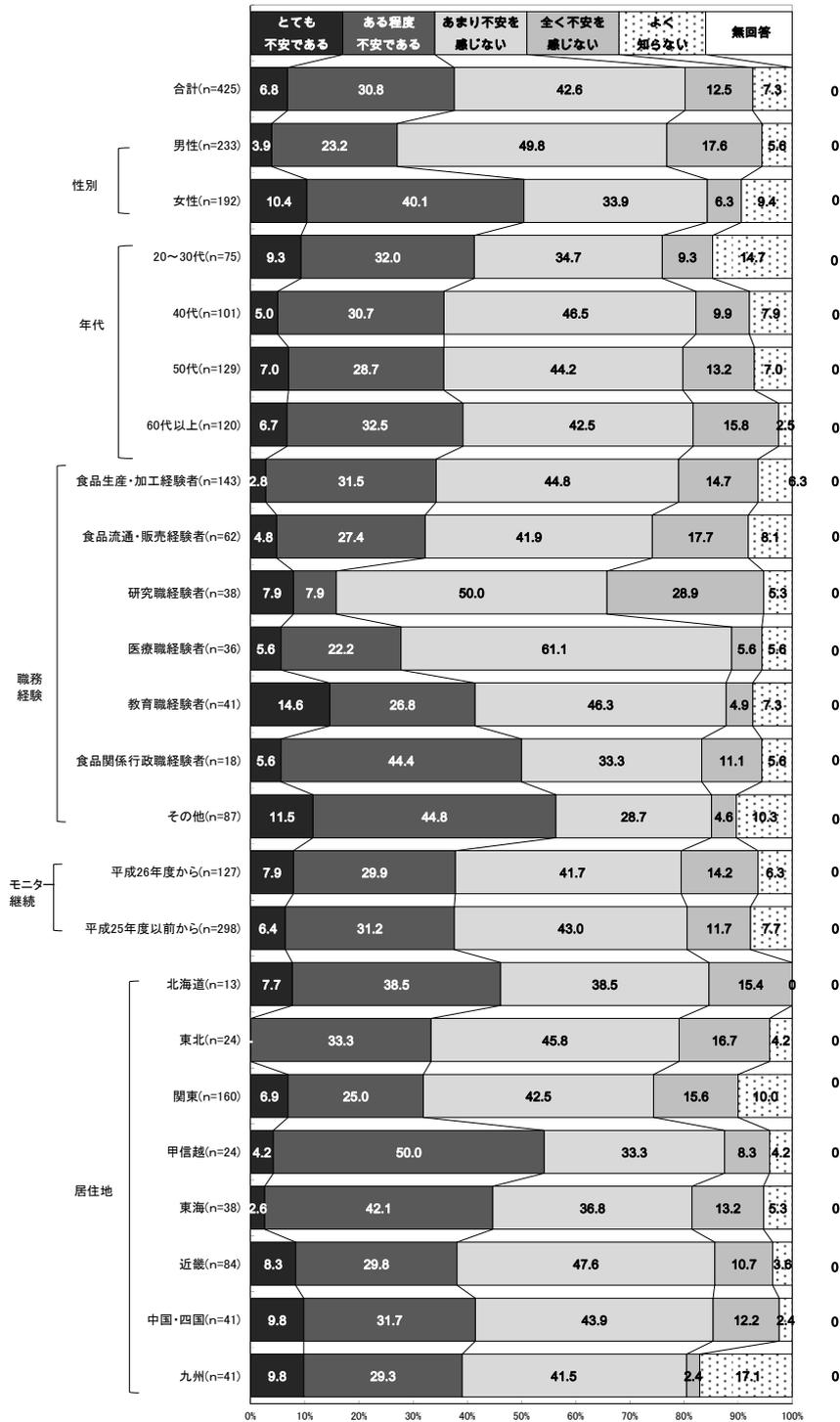
### <遺伝子組換え・属性別>



# I. 体細胞クローン

- 体細胞クローンについての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（27.1%）よりも女性（50.5%）のほうが有意に高く、職務経験別では、他の職務経験に比べて研究職経験者（15.8%）が有意に低い。

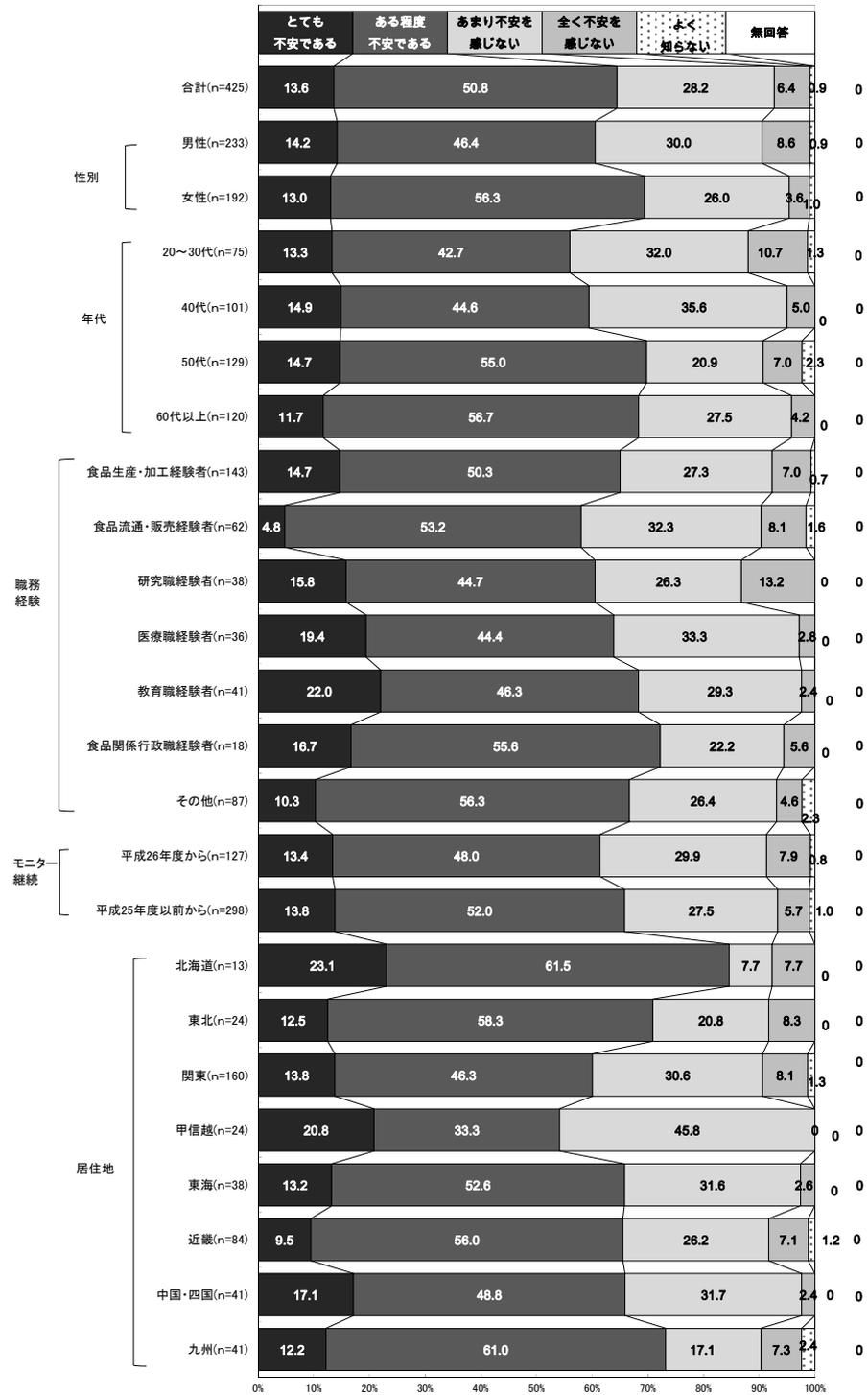
図表 2-10 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度  
 <体細胞クローン・属性別>



## J. いわゆる健康食品

- いわゆる健康食品についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計に大きな差は見られなかった。

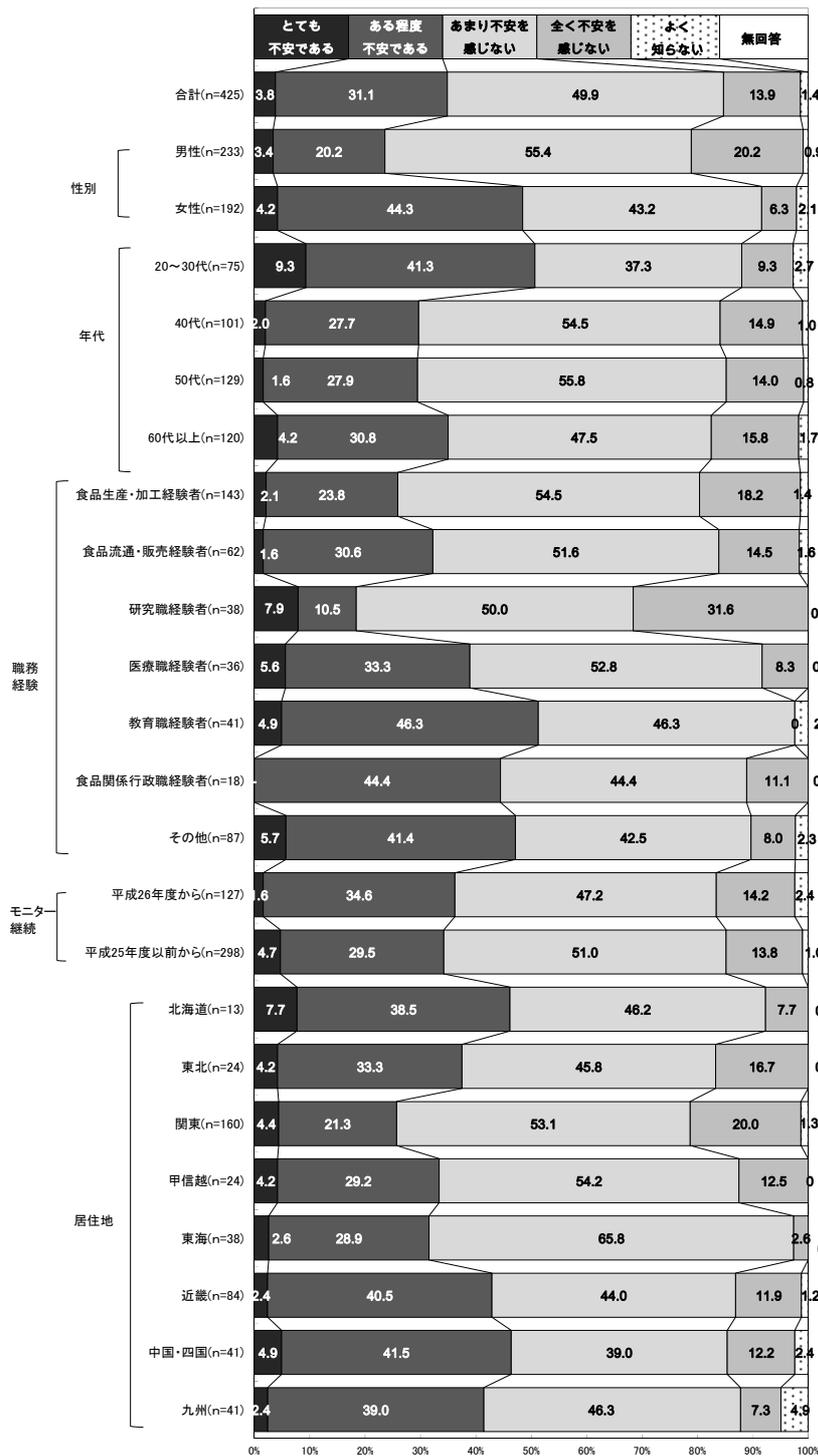
図表 2-11 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度  
 <いわゆる健康食品・属性別>



### K. 肥料・飼料等

- 肥料・飼料等についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（23.6%）よりも女性（48.5%）のほうが有意に高い。
- 「あまり不安を感じない」と「全く不安を感じない」の合計は63.8%と、BSE（68.4%）に次いで高い値であった。

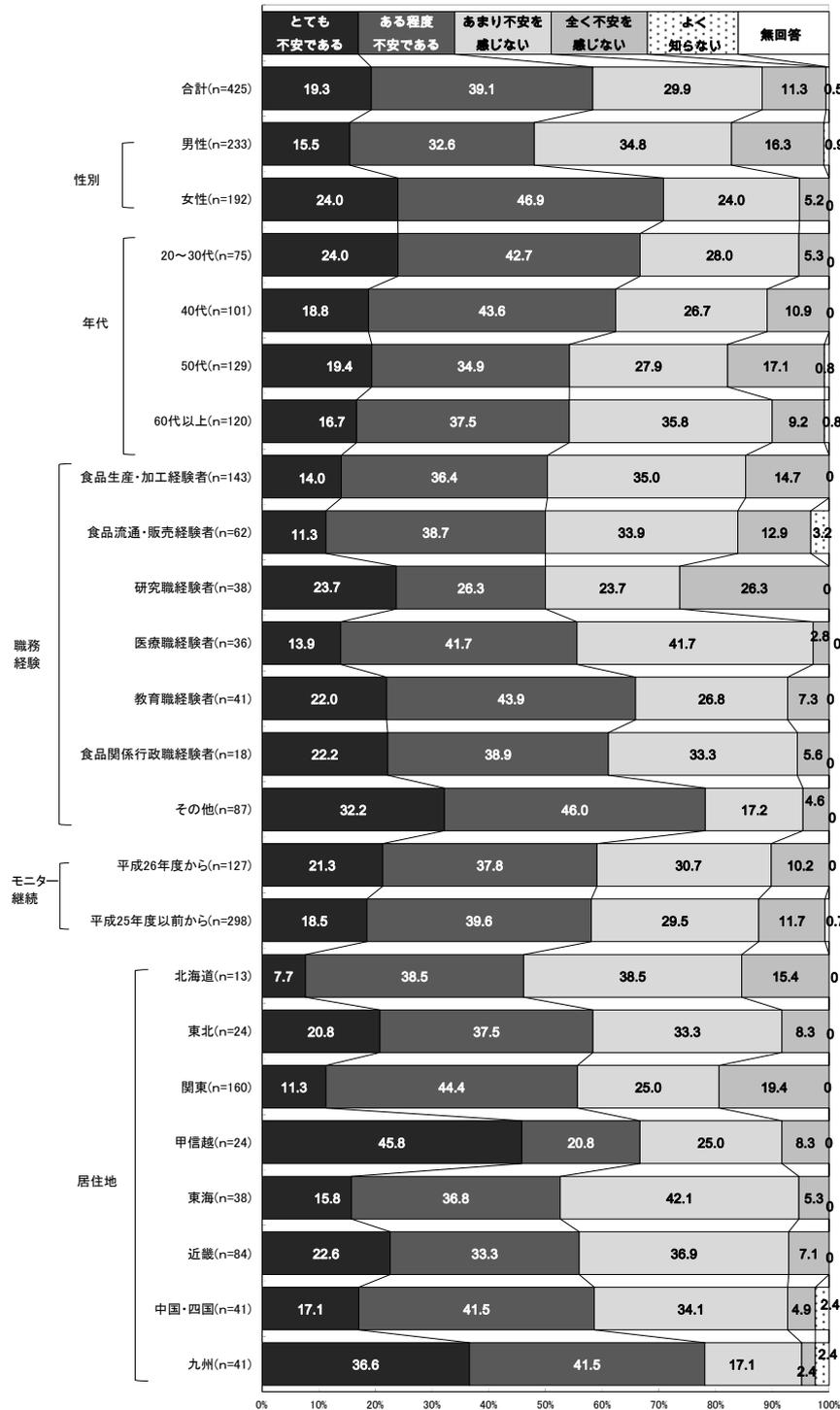
図表 2-12 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度  
 <肥料・飼料等・属性別>



## L. 放射性物質

- 放射性物質についての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（48.1%）よりも女性（70.9%）のほうが有意に高く、職務経験別では、他の職務経験に比べてその他（78.2%）が有意に高い。また、居住地別では、他の区域に比べて、九州（78.1%）が有意に高い。

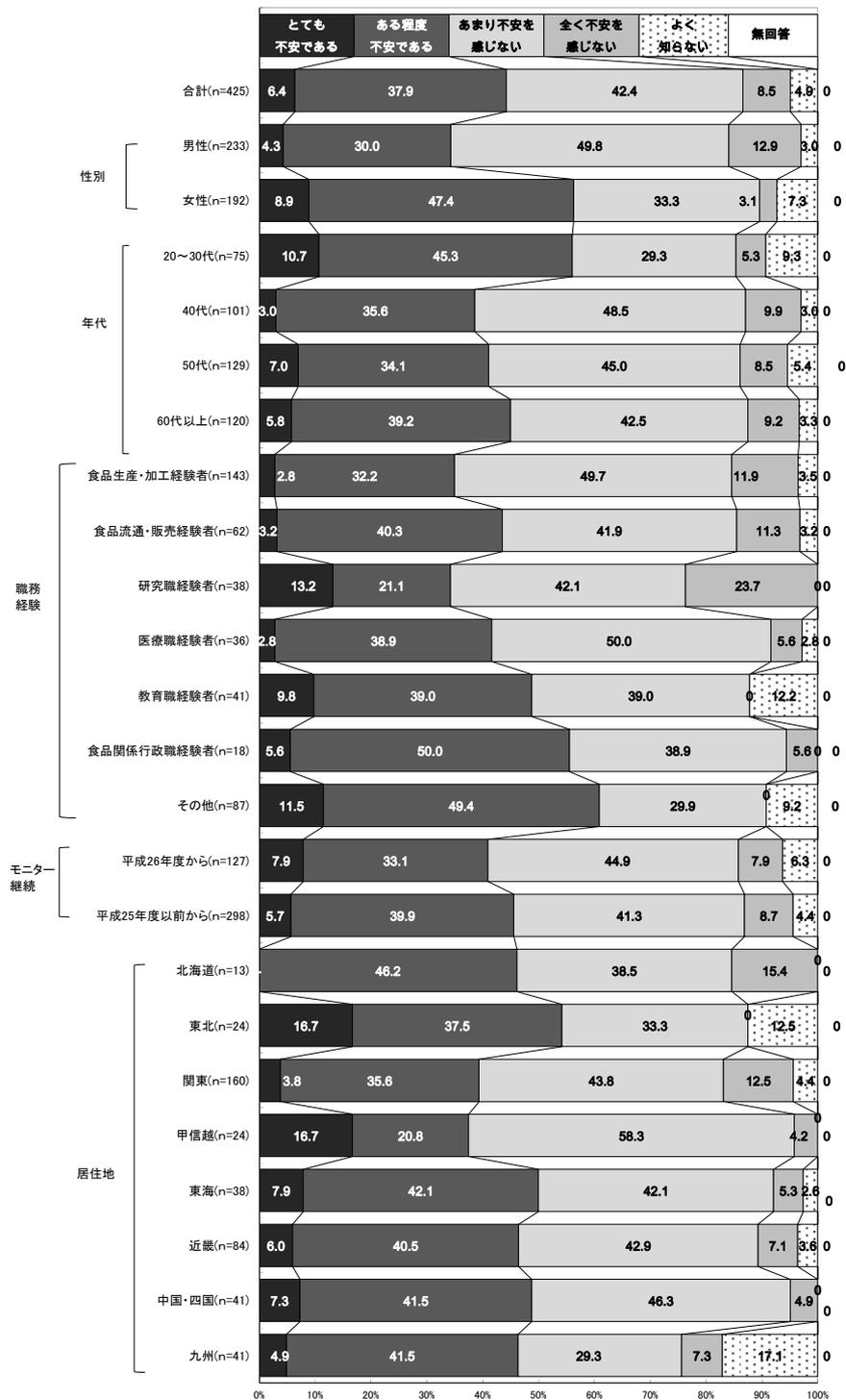
図表 2-13 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度  
 <放射性物質・属性別>



### M. アクリルアミド

- アクリルアミドについての不安の程度を属性別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、性別では男性（34.3%）よりも女性（56.3%）のほうが有意に高く、職務経験別では、他の職務経験に比べてその他（60.9%）が有意に高い。

図表 2-14 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度  
 <アクリルアミド・属性別>



図表 2-15 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度（年度別）

（「とても不安である」「ある程度不安である」の合計割合の上位7位）

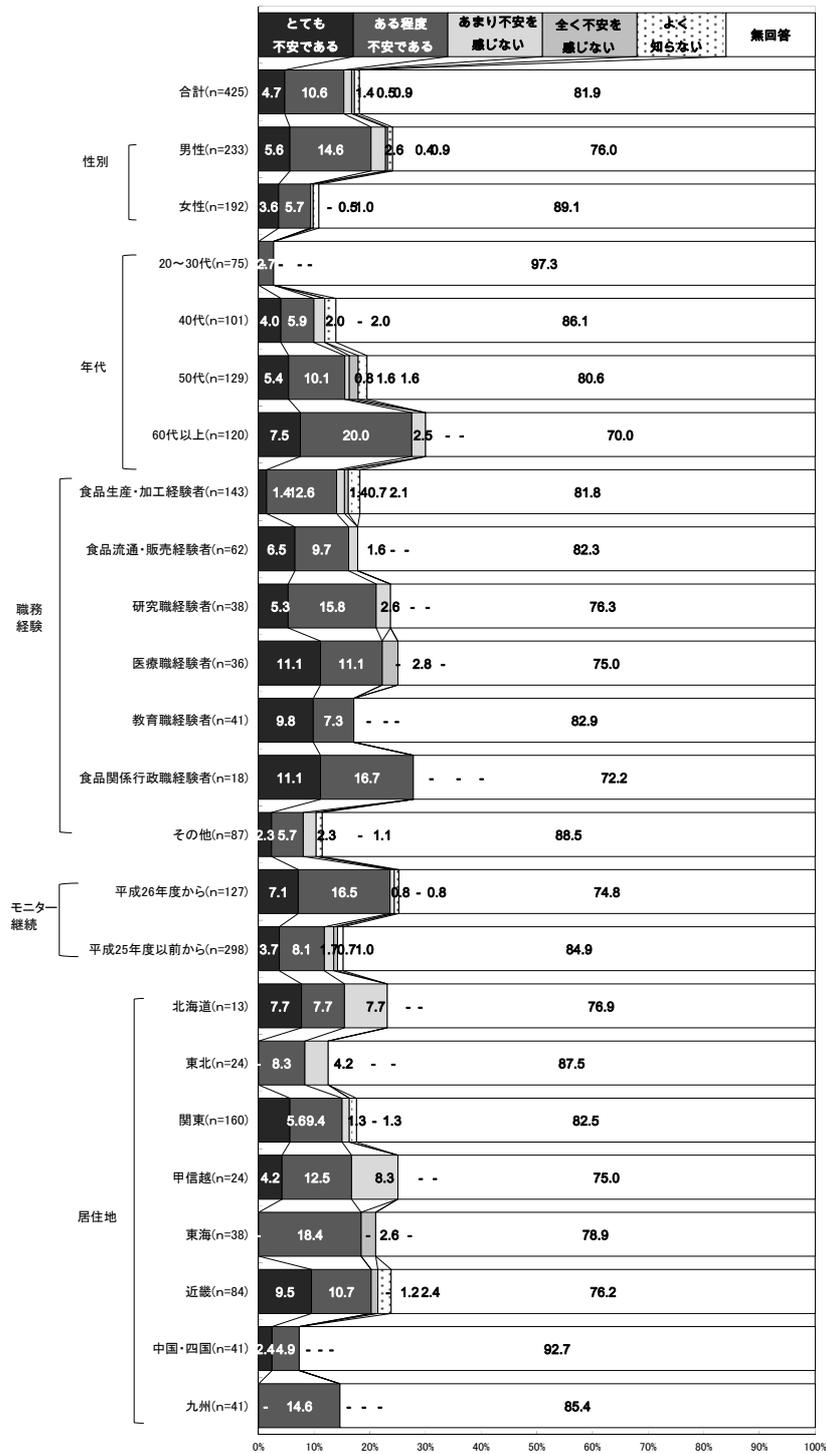
年度	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
今回調査	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（75.7%）	いわゆる健康食品（64.4%）	放射性物質（58.4%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（53.2%）	家畜用抗生物質（51.8%）	残留農薬（51.3%）	食品添加物（48%）
平成26年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（78.5%）	放射性物質（64.1%）	いわゆる健康食品（64.1%）	残留農薬（58.8%）	家畜用抗生物質（55.4%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（53.6%）	食品添加物（50.4%）
平成25年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（80.8%）	放射性物質（67.5%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（62.6%）	いわゆる健康食品（62.6%）	残留農薬（61.5%）	家畜用抗生物質（59.5%）	器具・容器包装からの溶出化学物質（50.7%）
平成24年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（79%）	放射性物質（74.2%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（64.5%）	残留農薬（63.4%）	家畜用抗生物質（57.3%）	器具・容器包装からの溶出化学物質（55.6%）	いわゆる健康食品（55.5%）
平成23年度（第2回）	放射性物質（80.3%）	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（75.8%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（64.4%）	残留農薬（62.5%）	いわゆる健康食品（57.5%）	家畜用抗生物質（57.2%）	食品添加物（56.4%）
平成23年度（第1回）	放射性物質（85.5%）	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（76%）	残留農薬（60.3%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（58.5%）	家畜用抗生物質（56.4%）	肥料・飼料等（55.4%）	いわゆる健康食品（54.9%）
平成22年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（76.4%）	残留農薬（68.1%）	家畜用抗生物質（62.8%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（61.6%）	食品添加物（59.9%）	器具・容器包装からの溶出化学物質（59.9%）	いわゆる健康食品（56.4%）
平成21年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（79.6%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（78.1%）	残留農薬（73.1%）	家畜用抗生物質（68.2%）	器具・容器包装からの溶出化学物質（67.5%）	遺伝子組換え（64.6%）	食品添加物（62.5%）
平成20年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（75.3%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（74.8%）	残留農薬（70.6%）	家畜用抗生物質（64.4%）	器具・容器包装からの溶出化学物質（63.2%）	BSE（伝達性牛海綿状脳症）（62.5%）	体細胞クローン（59.2%）
平成19年度	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（88.4%）	残留農薬（80.2%）	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（78.3%）	家畜用抗生物質（74.2%）	食品添加物（67.3%）	BSE（伝達性牛海綿状脳症）（64.4%）	いわゆる健康食品（62.8%）
平成18年度	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（88.4%）	残留農薬（82.8%）	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（80.6%）	家畜用抗生物質（77.3%）	BSE（伝達性牛海綿状脳症）（75%）	食品添加物（72.7%）	遺伝子組換え（69.4%）
平成17年度	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（90.2%）	残留農薬（86.4%）	家畜用抗生物質（80.4%）	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（79.3%）	遺伝子組換え（77%）	BSE（伝達性牛海綿状脳症）（75.2%）	食品添加物（72.5%）
平成16年度	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（91.7%）	残留農薬（89.7%）	家畜用抗生物質（83.5%）	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（80.9%）	食品添加物（76.4%）	遺伝子組換え（74.7%）	BSE（伝達性牛海綿状脳症）（74.5%）

※以下の調査項目は（ ）内年度の調査より追加した。

器具・容器包装からの溶出化学物質（平成20年度）、体細胞クローン（平成20年度）、肥料・飼料（平成22年度）、放射性物質（平成23年度）、アクリルアミド（平成26年度）

## N. その他

- A~Mのハザード等以外に食品の安全性の観点で気になるものを「N その他」として記入を求めたところ、「とても不安である」「ある程度不安である」ものとして、アレルギー、異物混入、食品偽装、廃棄食品の流通、特定保健用食品・機能性表示食品、トランス脂肪酸、輸入食品、レッドミート、野生動物の肉、自然毒、寄生虫、かび毒、飲料水などが挙げられ、「あまり不安を感じない」、「全く不安を感じない」ものとして、飲料水、トランス脂肪酸、放射線照射食品、非意図的生成物などが挙げられた。

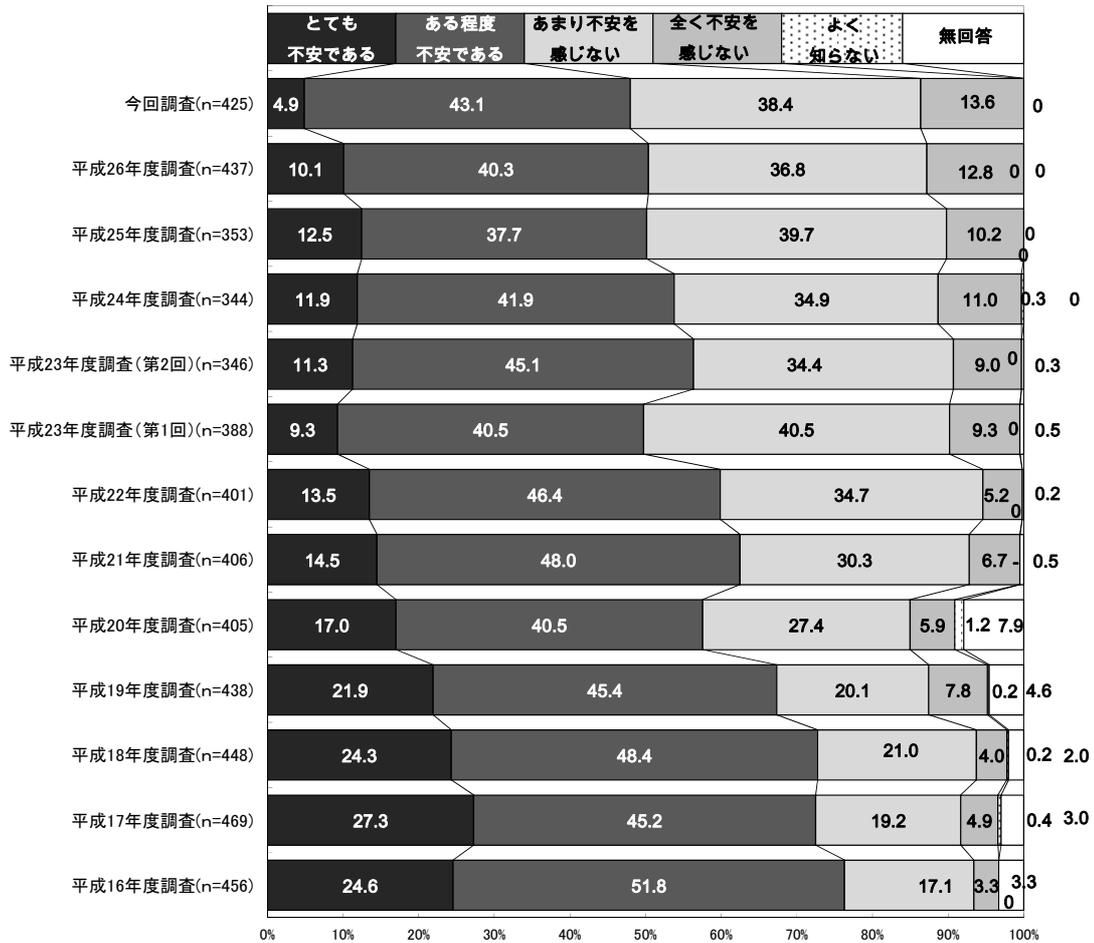


## 2-2 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度の年度別回答割合

### A. 食品添加物

- 食品添加物についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成16年度調査の76.4%から今回調査の48.0%と、経年的には低下傾向が見られる。
- 「とても不安である」の割合は、平成16～19年度は20%台であったが、その後10%台に低下し、今回調査では4.9%とこれまでで最も低い値となった。

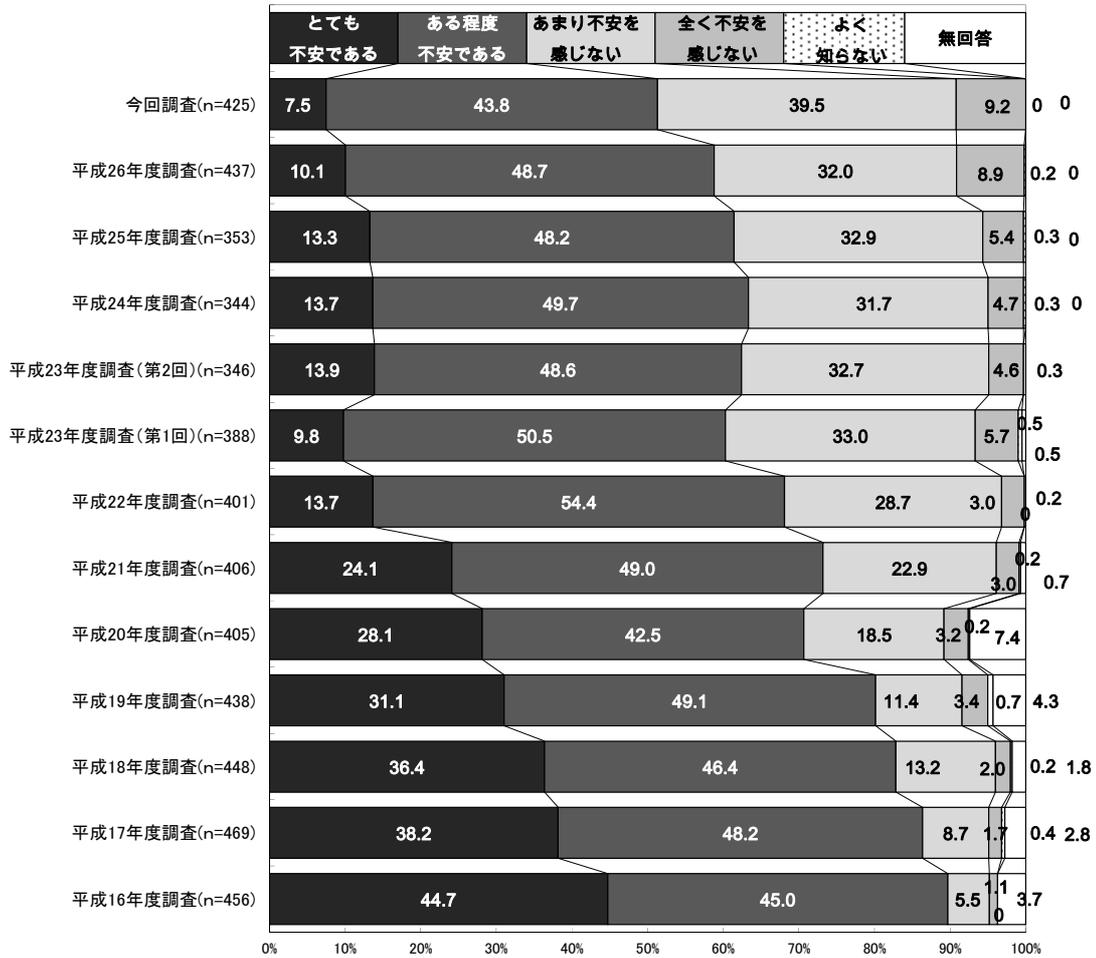
図表 2-16 食品の安全性の観点から感じる不安の程度  
 <食品添加物・年度別>



## B. 残留農薬

- 残留農薬についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成16年度から23年度（第1回）にかけて89.7%から60.3%へ低下し、23年度以降、前回調査までは60%前後で横ばい傾向となっていたが、今回調査では51.3%と、これまでで最も低い値となった。
- 「とても不安である」の割合は、今回調査では7.5%とこれまでで最も低い値となった。

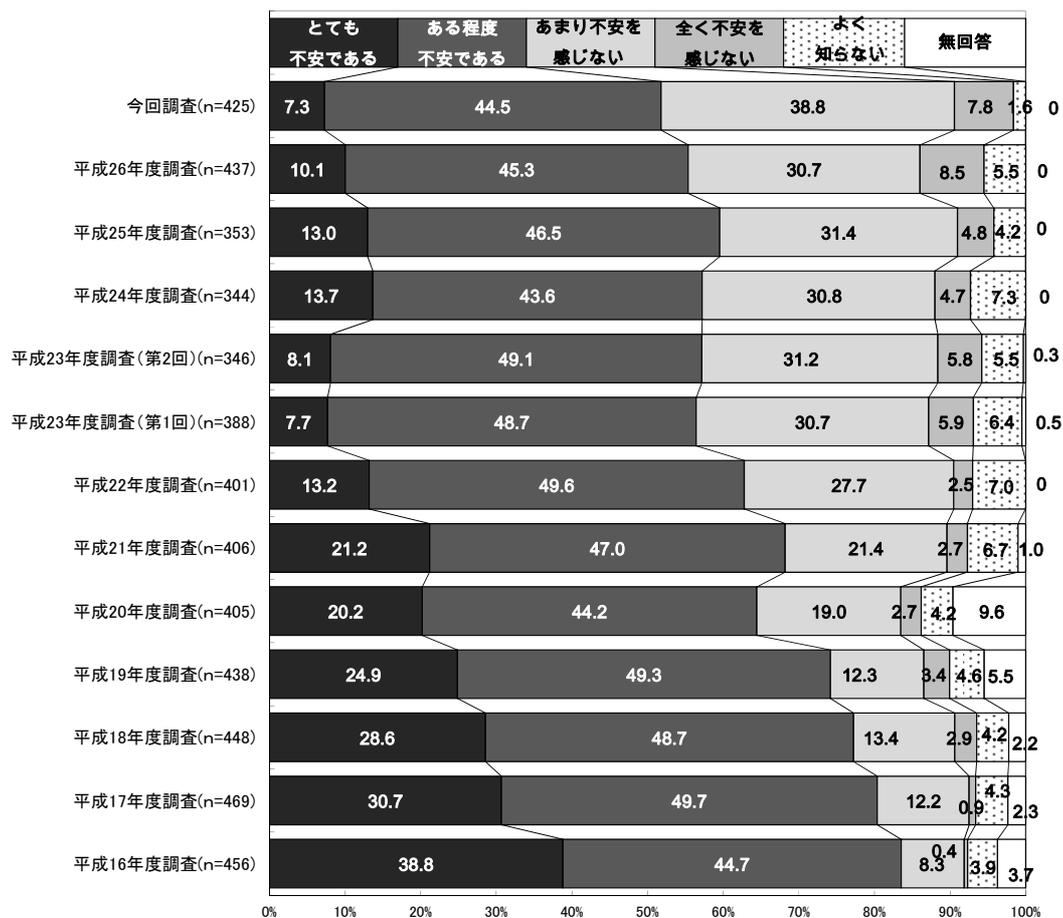
図表 2-17 食品の安全性の観点から感じる不安の程度  
 <残留農薬・年度別>



### C. 家畜用抗生物質

- 家畜用抗生物質についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成16年度から23年度（第1回）にかけて83.5%から56.4%へ低下したが、23年度以降は55~60%程度で横ばい傾向となっている。また、今回調査では、前回調査よりやや低下している（55.4%→51.8%）。

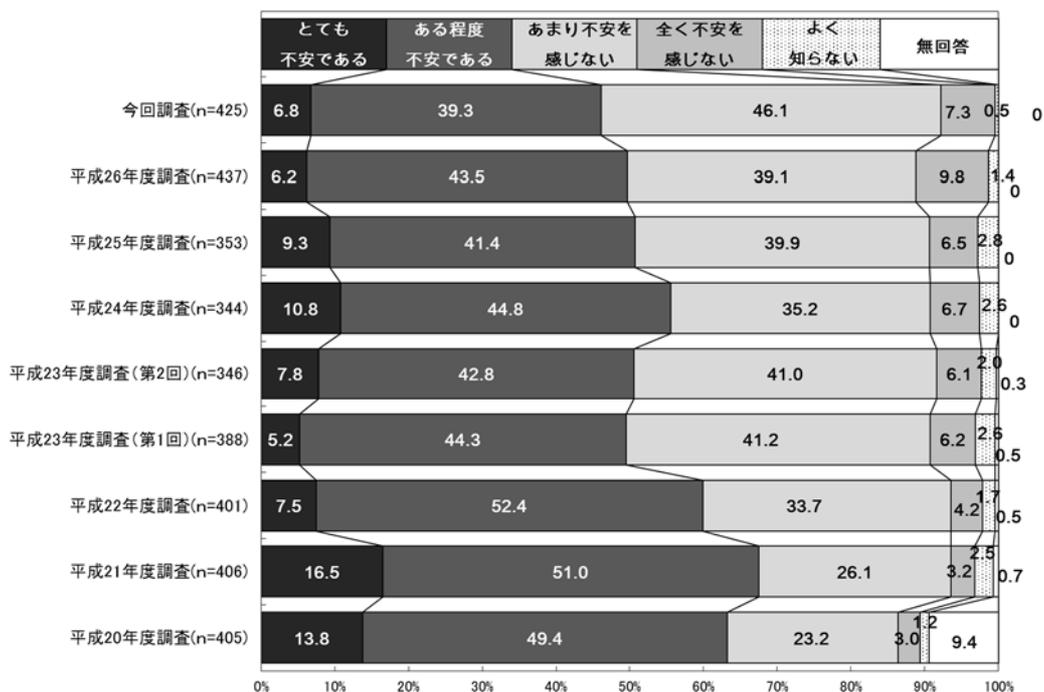
図表 2-18 食品の安全性の観点から感じる不安の程度  
 <家畜用抗生物質・年度別>



#### D. 器具・容器包装からの溶出化学物質

- 器具・容器包装からの溶出化学物質についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成21年度調査(67.5%)をピークに、23年度にかけて50%前後に低下し、その後は横ばい傾向である。
- 今回調査では、前回調査よりやや低下している(49.7%→46.1%)。

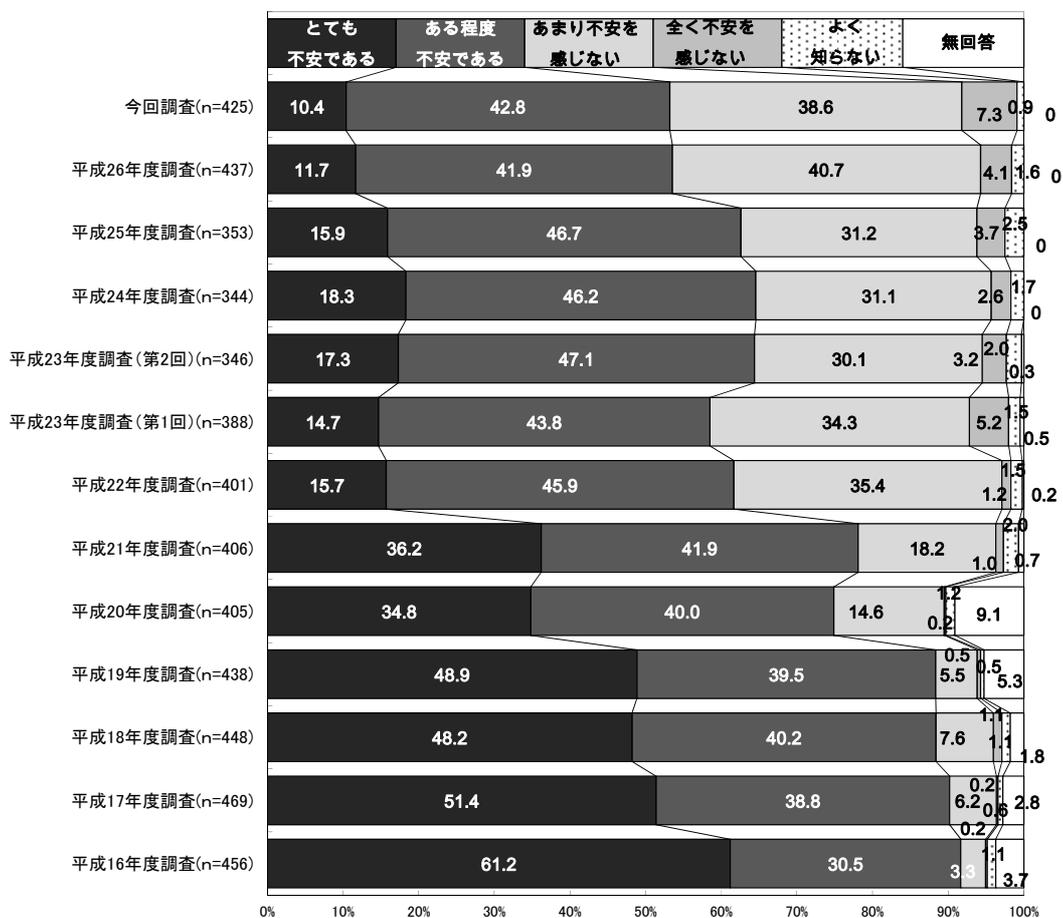
図表 2-19 食品の安全性の観点から感じる不安の程度  
 <器具・容器包装からの溶出化学物質・年度別>



### E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）

- 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成16年度の91.7%から今回調査の53.2%と、経年的に低下傾向が見られる。
- 「とても不安である」の割合は、平成16年度は61.2%であったが、17年度から19年度は50%前後、20年度、21年度は35%前後、22年度以降は15%前後にまで低下し、さらに前回調査と今回調査では、10%前後に低下している。

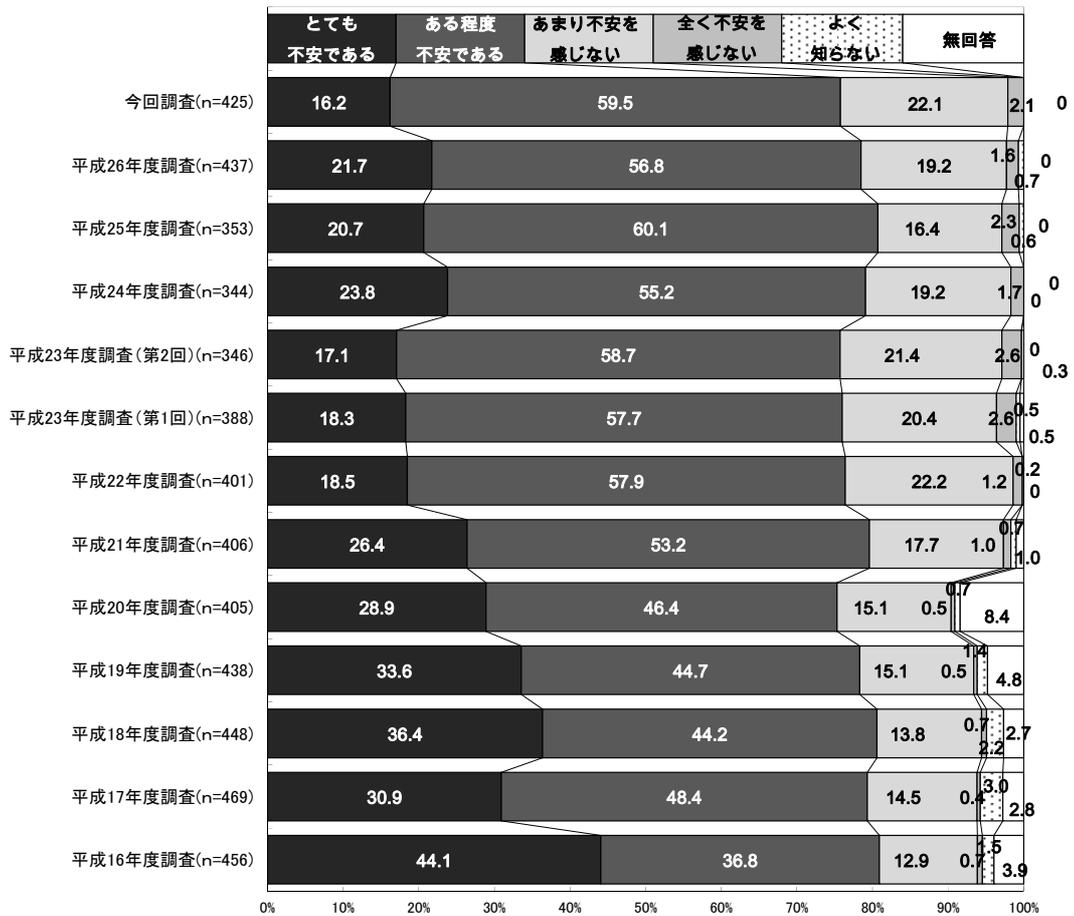
図表 2-20 食品の安全性の観点から感じる不安の程度  
 <汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）・年度別>



F. 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等

- 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」の割合は、平成16年度から22年度にかけて44.1%から18.5%へ低下し、その後は、20%前後で横ばい傾向となっている。また、今回調査では16.2%と、これまでで最も低い値となった。
- 「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、長期的に80%前後で横ばいとなっている。

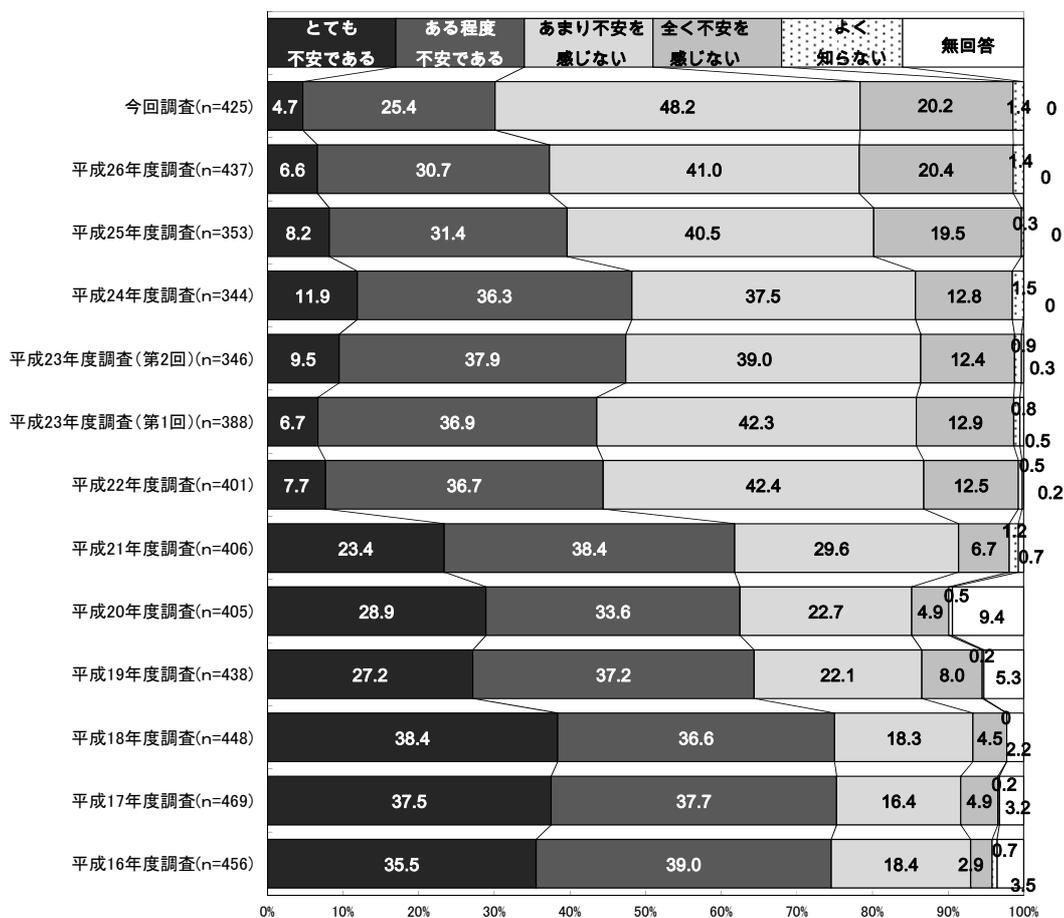
図表 2-21 食品の安全性の観点から感じる不安の程度  
 <有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等・年度別>



### G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）

- BSE（伝達性牛海綿状脳症）についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成16年度の74.5%から今回調査の30.1%と、経年的に低下傾向が見られる。
- 「とても不安である」の割合は、平成16年度から18年度まで35%前後であったが、19年度から21年度は25%前後、22年度から前回調査までは10%前後にまで低下した。また、今回調査では4.7%とこれまでで最も低い値となった。

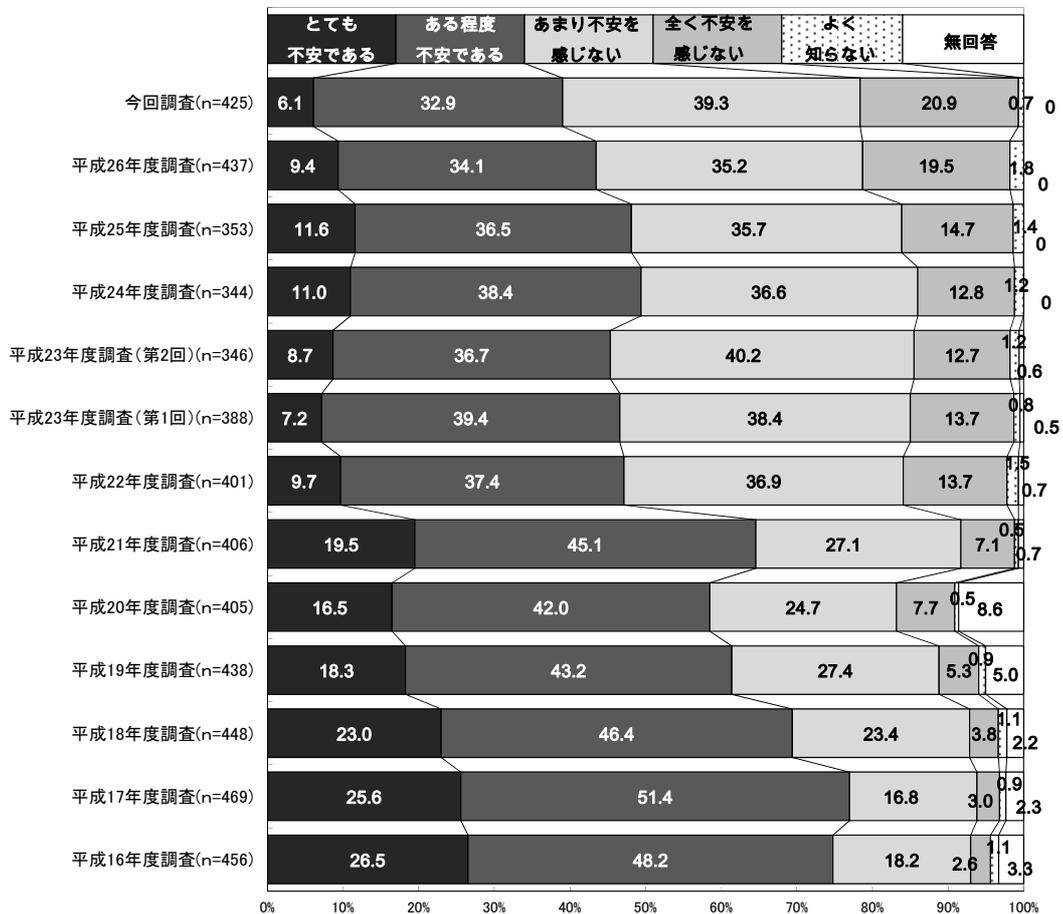
図表 2-22 食品の安全性の観点から感じる不安の程度  
 <BSE（伝達性牛海綿状脳症）・年度別>



## H. 遺伝子組換え

- 遺伝子組換えについての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成16年度の74.7%から今回調査の39.0%と、経年的には低下傾向が見られる。16年度、17年度には「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は70%を超えていたが、22年度以降は50%を下回り、今回調査では39.0%にまで低下している。
- 「とても不安である」の割合は、16年度から22年度にかけて26.5%から9.7%へ低下し、その後は10%前後で横ばい傾向である。また、今回調査では6.1%と最も低い値となった。

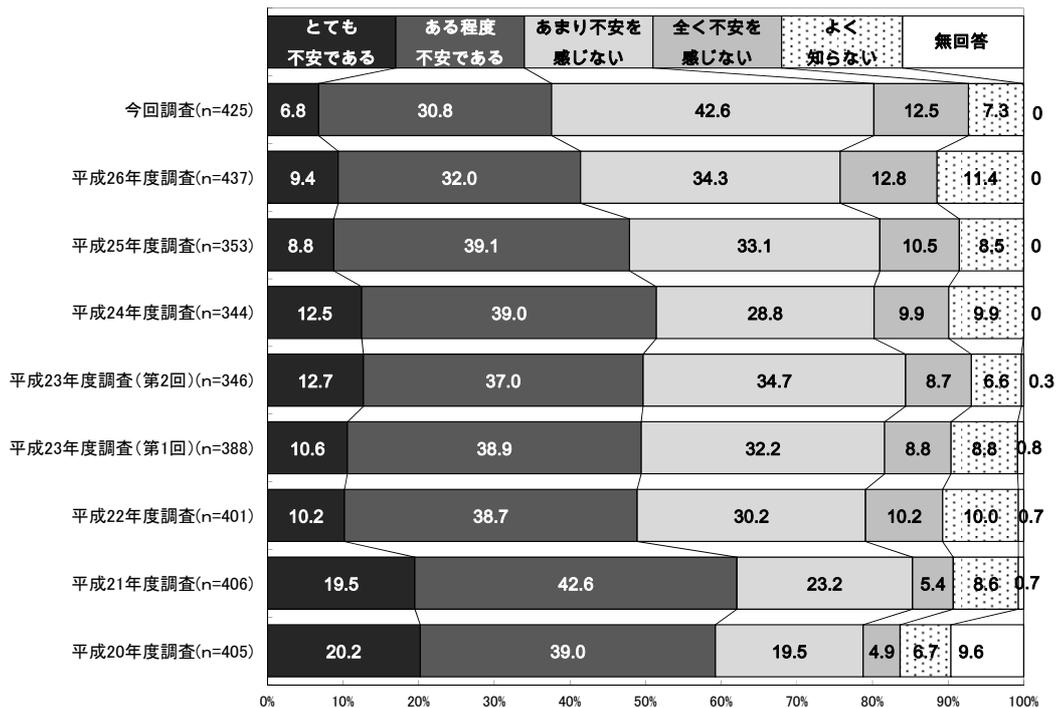
図表 2-23 食品の安全性の観点から感じる不安の程度  
 <遺伝子組換え・年度別>



## I. 体細胞クローン

- 体細胞クローンについての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、平成20年度、21年度は60%前後であったが、22年度は48.9%に低下し、その後50%前後で横ばい、25年度以降は低下傾向が見られる。また、今回調査では37.6%とこれまでで最も低い値となった。

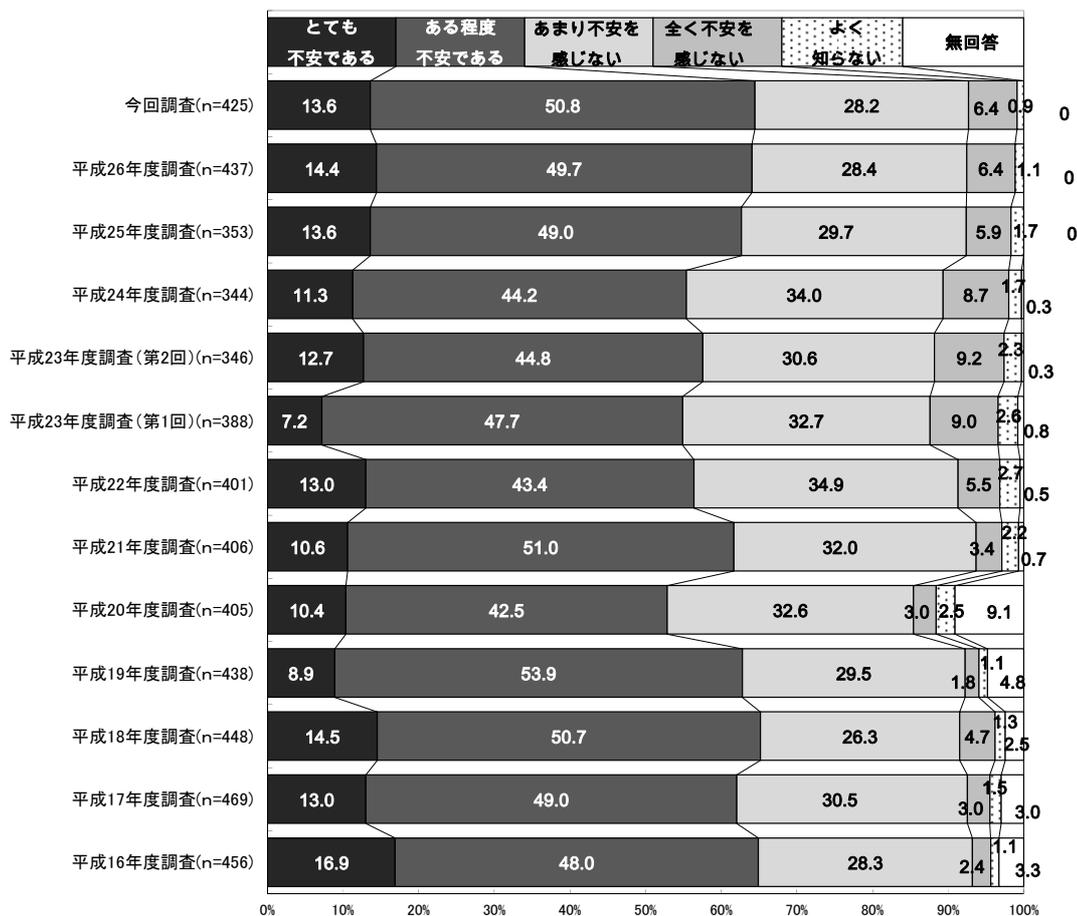
図表 2-24 食品の安全性の観点から感じる不安の程度  
 <体細胞クローン・年度別>



## J. いわゆる健康食品

- いわゆる健康食品についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、長期的には50%~60%台でほぼ横ばい傾向である。

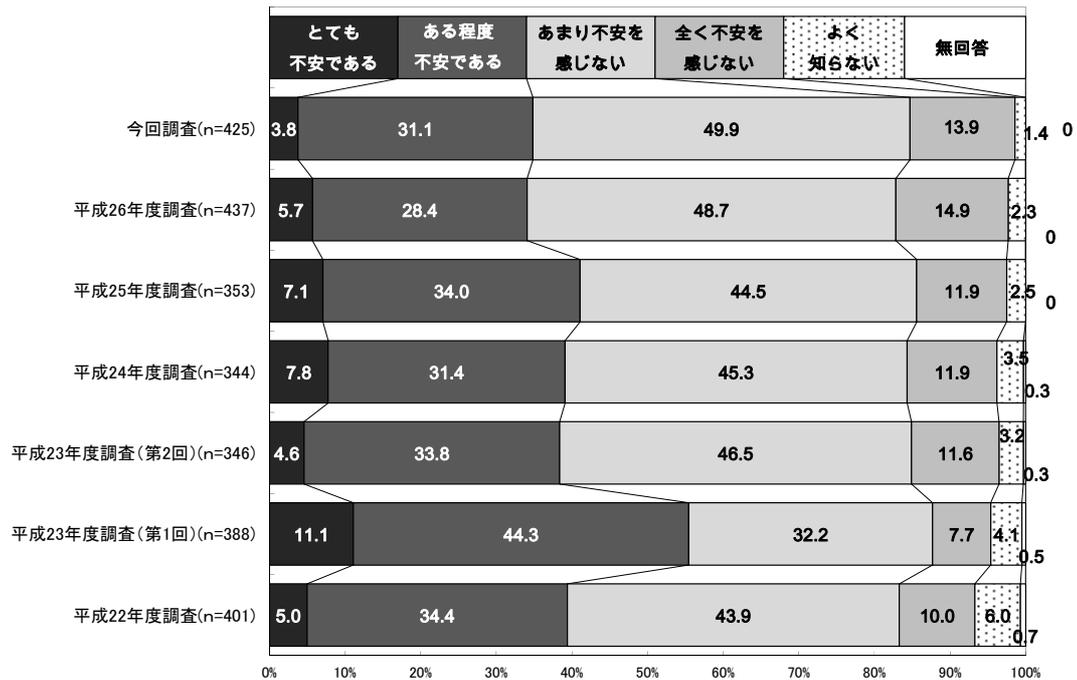
図表 2-25 食品の安全性の観点から感じる不安の程度  
 <いわゆる健康食品・年度別>



## K. 肥料・飼料等

- 肥料・飼料等についての不安の程度を年度別に比較したところ、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故直後の平成23年度第1回調査で55.4%と高くなったが、同年の第2回調査以降では前年並みの40%前後に低下し、横ばい傾向である。

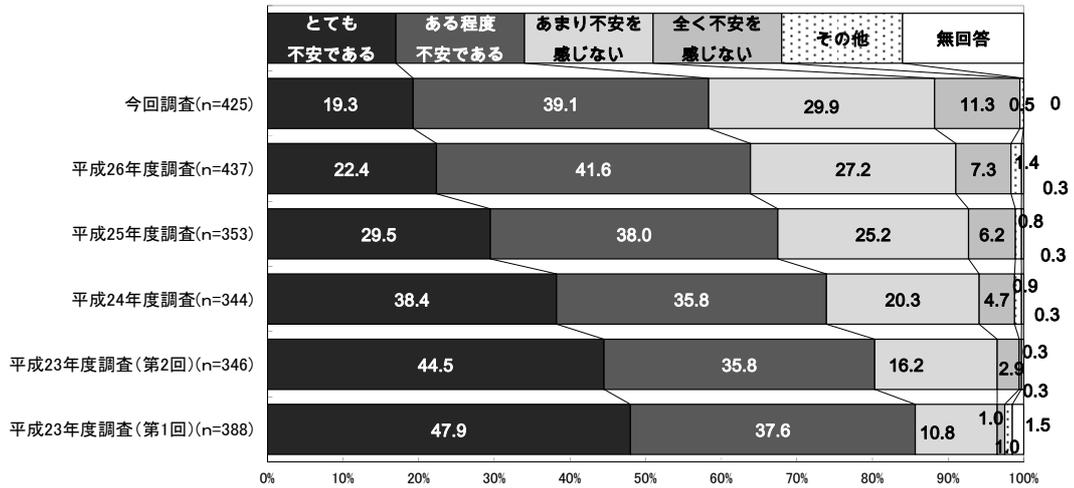
図表 2-26 食品の安全性の観点から感じる不安の程度  
 <肥料・飼料等・年度別>



## L. 放射性物質

- 東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故以来調査している放射性物質についての不安の程度は、年々低下し、「とても不安である」と「ある程度不安である」の合計は、事故直後は85.5%であったが、今回調査では58.4%にまで低下している。

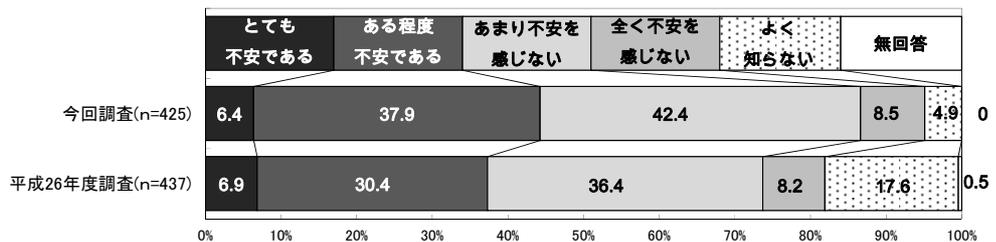
図表 2-27 食品の安全性の観点から感じる不安の程度  
 <放射性物質・年度別>



## M. アクリルアミド

- 前回調査より対象としているアクリルアミドについての不安の程度は、昨年度に比べて増加している。(37.3%→44.3%)

図表 2-28 食品の安全性の観点から感じる不安の程度  
 <アクリルアミド・年度別>



### 3. 食品の安全性の観点から不安を感じる理由（放射性物質以外）（問3）

問3 問2のA～K及びM、Nに掲げるハザード等において、「1 とても不安である」又は「2 ある程度不安である」を選んだ方にお聞きします。それぞれのハザード等について、不安を感じる理由を選択肢1～8の中から1つずつ選んでください。

- 食品の安全性の観点から放射性物質以外のハザードについて「とても不安である」、「ある程度不安である」と回答した者に対し、不安を感じている理由を尋ねたところ、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため」「安全性についての科学的な根拠に疑問があるため」の2つが上位に挙がっているハザードが多い。

図表 3-1 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

ハザード	1位	2位	3位
食品添加物	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (28.9%) [13.9%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (26.5%) [12.7%]	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため (15.2%) [7.3%]
残留農薬	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (34.9%) [17.9%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (16.1%) [8.2%]	過去に問題になった事例があるため (14.2%) [7.3%]
家畜用抗生物質	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (31.8%) [16.5%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (16.4%) [8.5%]	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため (15.0%) [7.8%]
器具・容器包装からの溶出化学物質	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (20.4%) [9.4%]	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (17.3%) [8.0%]	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため (15.3%) [7.1%]
汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)	過去に問題になった事例があるため (36.3%) [19.3%]	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (17.3%) [9.2%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (11.9%) [6.4%]
有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (39.4%) [29.9%]	過去に問題になった事例があるため (26.4%) [20.0%]	漠然と不安 (8.1%) [6.1%]
			安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (8.1%) [6.1%]
BSE(伝達性牛海綿状脳症)	過去に問題になった事例があるため (38.3%) [11.5%]	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (17.2%) [5.2%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (15.6%) [4.7%]
遺伝子組換え	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (44.6%) [17.4%]	漠然と不安 (15.1%) [5.9%]	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (9.6%) [3.8%]
			行政による規制が不十分なため (9.6%) [3.8%]
体細胞クローン	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (38.1%) [14.4%]	漠然と不安 (28.1%) [10.6%]	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため (10.0%) [3.8%]
いわゆる健康食品	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (33.9%) [21.9%]	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (19.7%) [12.7%]	行政による規制が不十分なため (15.7%) [10.1%]
肥料・飼料等	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため (27.7%) [9.6%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (18.2%) [6.4%]	漠然と不安 (16.2%) [5.6%]
アクリルアミド	漠然と不安 (23.9%) [10.6%]	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため (19.7%) [8.7%]	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため (13.3%) [5.9%]

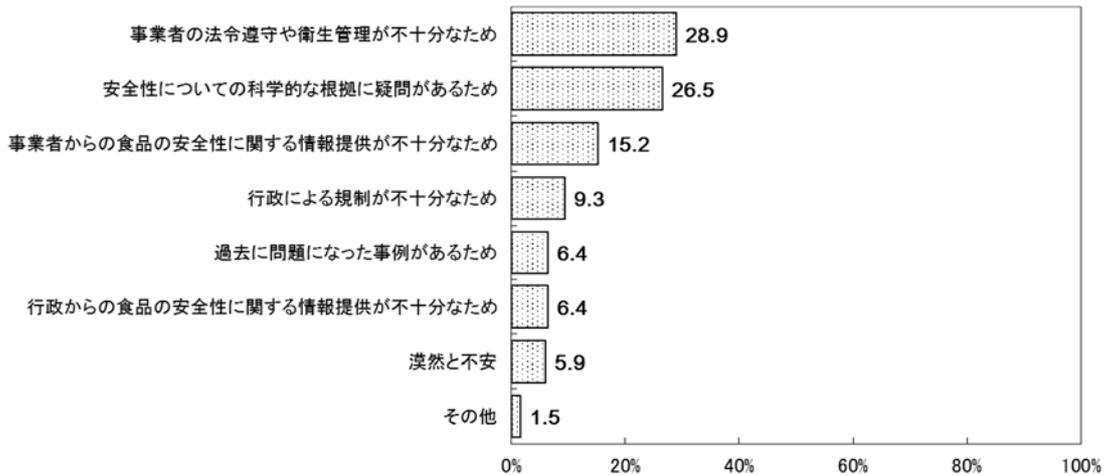
※( )内は「不安である」と回答した人数に占める割合、[ ]内は回答者全体(425名)に占める割合である。

## A. 食品添加物

- 食品添加物について不安を感じる理由は、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」と「安全性についての科学的な根拠に疑問」が上位2位。
- 年度別では、5年連続で「安全性についての科学的な根拠に疑問」が第1位だったが、今年度は、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が第1位となった。

図表 3-2 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

<食品添加物> (n=204)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-3 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

<食品添加物・年度別>

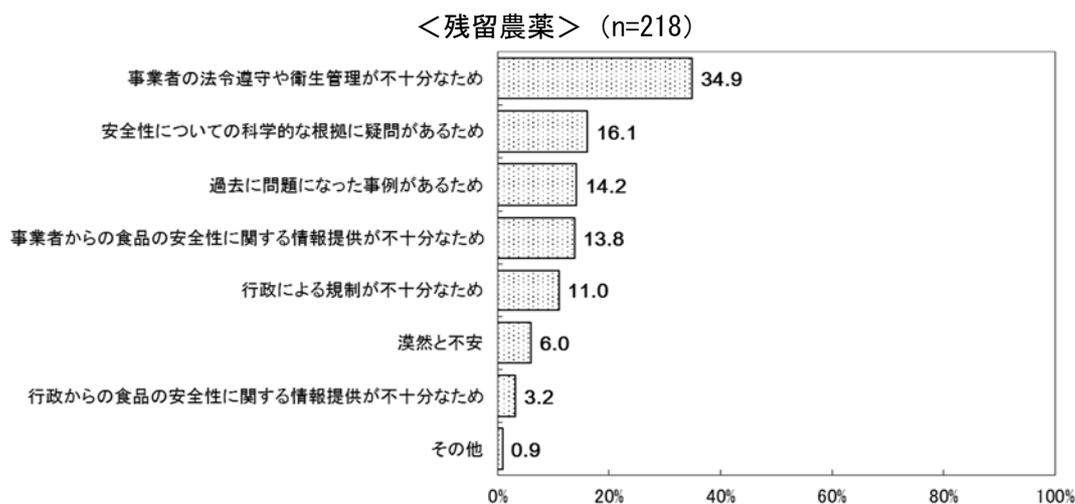
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=204)	26.5	9.3	28.9	6.4	15.2	6.4	5.9	1.5	0.0
平成26年度調査(n=220)	30.0	9.5	26.4	4.1	10.9	6.4	6.4	5.0	1.4
平成25年度調査(n=177)	36.7	9.0	22.6	4.0	6.2	7.9	7.9	2.3	3.4
平成24年度調査(n=185)	37.8	7.6	24.9	6.5	9.7	4.3	4.3	3.8	1.1
平成23年度調査(第1回)(n=193)	39.9	6.7	15.5	7.3	12.4	7.3	6.7	3.1	1.0
平成22年度調査(n=240)	33.3	7.5	20.4	6.3	9.6	7.9	4.2	10.4	0.4
平成21年度調査(n=254)	10.6	25.6	28.0	16.1	-	11.0	4.7	3.9	0.0
平成20年度調査(n=233)	11.6	26.2	27.0	18.9	-	8.2	4.7	0.9	2.6
平成19年度調査(n=295)	17.3	25.8	25.1	13.9	-	10.8	2.7	3.1	1.4
平成18年度調査(n=335)	11.0	31.3	22.7	14.6	-	10.1	3.9	2.7	3.6
平成17年度調査(n=340)	12.1	32.4	29.7	12.9	-	7.9	2.9	1.8	0.3
平成16年度調査(n=348)	15.5	33.3	23.0	13.8	-	7.2	2.9	3.2	1.1

※網掛け：各年度の第1位

## B. 残留農薬

- 残留農薬について不安を感じる理由は、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が 34.9%で最も多く、次いで「安全性についての科学的な根拠に疑問」が 16.1%、「過去に問題になった事例があるために不安」が 14.2%となっている。
- 年度別では、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が平成 16 年度以降毎年第 1 位となっている。

図表 3-4 食品の安全性の観点から不安を感じる理由



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-5 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

### ＜残留農薬・年度別＞

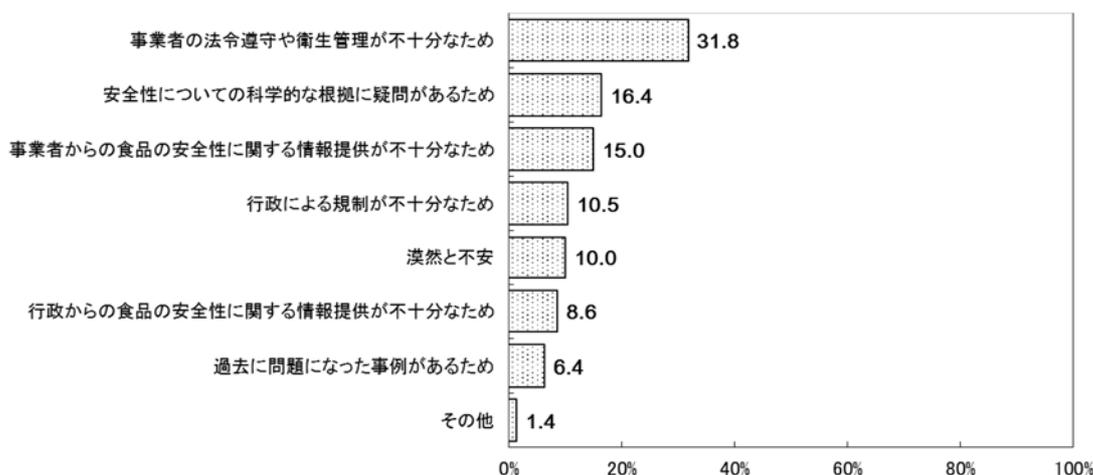
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=218)	16.1	11.0	34.9	3.2	13.8	14.2	6.0	0.9	0.0
平成26年度調査(n=257)	17.5	9.3	32.7	5.4	11.3	13.2	5.4	4.3	0.8
平成25年度調査(n=217)	19.4	12.4	29.5	4.1	7.8	11.5	7.4	4.6	3.2
平成24年度調査(n=218)	23.4	6.4	30.7	5.0	9.6	10.6	8.7	3.2	2.3
平成23年度調査(第1回)(n=234)	20.1	13.7	34.6	5.1	4.3	9.8	7.3	4.3	0.9
平成22年度調査(n=273)	19.0	10.6	30.4	3.3	8.4	13.2	4.8	8.4	1.8
平成21年度調査(n=297)	8.8	18.2	34.7	10.8	-	16.5	5.7	5.1	0.3
平成20年度調査(n=286)	6.3	16.4	43.7	6.6	-	17.5	4.5	2.1	2.8
平成19年度調査(n=351)	8.0	20.5	40.2	9.7	-	14.0	3.4	2.3	2.0
平成18年度調査(n=379)	5.3	21.4	39.8	9.5	-	11.3	4.7	5.0	2.9
平成17年度調査(n=405)	7.7	25.4	36.8	8.4	-	13.3	5.2	2.0	1.2
平成16年度調査(n=409)	8.6	23.7	31.8	13.0	-	14.4	4.9	2.7	1.0

※網掛け：各年度の第 1 位

### C. 家畜用抗生物質

- 家畜用抗生物質について不安を感じる理由は「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が31.8%で最も多く、次いで「安全性についての科学的な根拠に疑問」が16.4%、「事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分のため」が15.0%となっている。
- 年度別では、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が平成16年度以降毎年第1位となっている。

図表 3-6 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <家畜用抗生物質> (n=220)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-7 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <家畜用抗生物質・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=220)	16.4	10.5	31.8	8.6	15.0	6.4	10.0	1.4	0.0
平成26年度調査(n=242)	19.4	9.1	28.1	9.5	11.2	5.0	11.6	5.0	1.2
平成25年度調査(n=210)	18.1	11.4	32.4	8.1	10.0	3.3	8.1	4.8	3.8
平成24年度調査(n=197)	21.3	6.1	35.0	7.6	12.7	5.1	8.1	3.6	0.5
平成23年度調査(第1回)(n=219)	22.8	11.4	29.7	9.6	9.1	4.1	9.6	2.7	0.9
平成22年度調査(n=252)	21.0	7.5	27.4	10.7	11.5	4.4	10.3	5.2	2.0
平成21年度調査(n=277)	14.4	12.6	35.4	19.5	-	5.4	9.0	3.2	0.4
平成20年度調査(n=261)	10.0	11.5	39.8	13.8	-	6.5	12.6	4.2	1.5
平成19年度調査(n=325)	13.2	16.3	39.7	13.5	-	6.8	7.1	1.8	1.5
平成18年度調査(n=356)	8.1	14.6	40.4	15.7	-	4.5	8.4	4.2	3.9
平成17年度調査(n=377)	10.6	14.3	44.3	18.0	-	3.4	6.6	2.4	0.3
平成16年度調査(n=381)	9.7	14.4	41.5	19.7	-	3.1	7.9	3.7	0.0

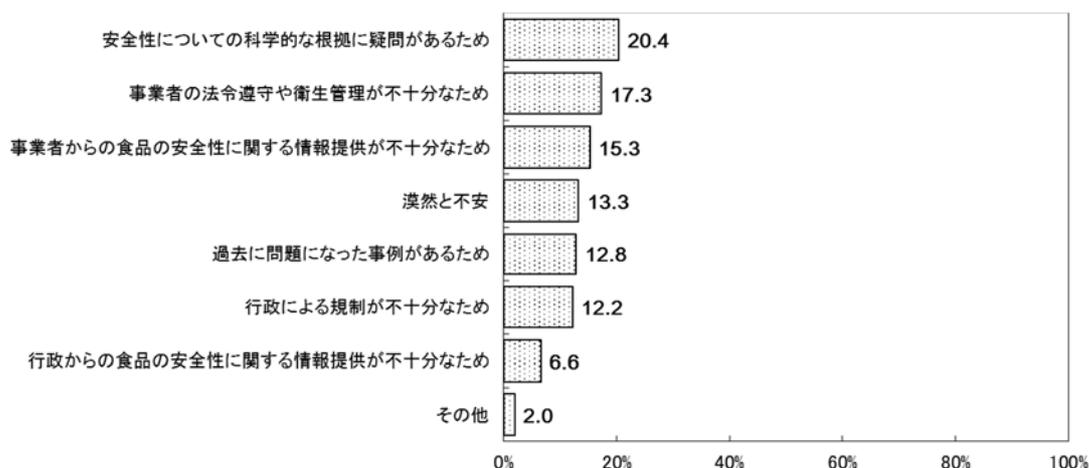
※網掛け：各年度の第1位

#### D. 器具・容器包装からの溶出化学物質

- 器具・容器包装からの溶出化学物質について不安を感じる理由は「安全性についての科学的な根拠に疑問」が20.4%で最も多く、次いで「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため」が17.3%、「事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため」が15.3%となっている。
- 年度別では、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が平成22年度以降毎年第1位となっている。

図表 3-8 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

＜器具・容器包装からの溶出化学物質＞ (n=196)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-9 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

＜器具・容器包装からの溶出化学物質・年度別＞

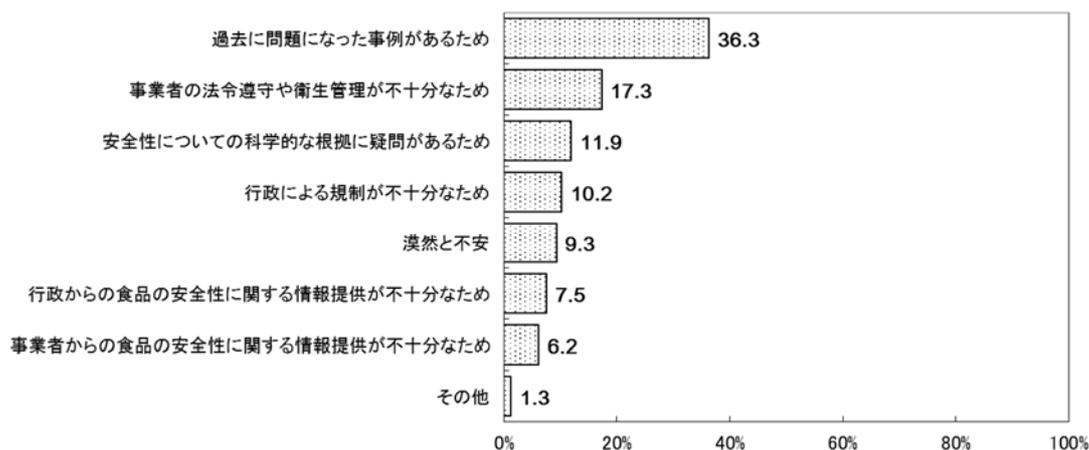
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるため不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=196)	20.4	12.2	17.3	6.6	15.3	12.8	13.3	2.0	0.0
平成26年度調査(n=217)	30.0	9.7	15.2	6.9	12.0	10.1	9.7	3.2	3.2
平成25年度調査(n=179)	27.4	11.2	16.2	6.1	8.4	14.0	10.1	3.4	3.4
平成24年度調査(n=191)	23.0	11.5	18.3	6.3	14.7	9.4	12.0	4.2	0.5
平成23年度調査(第1回)(n=192)	30.2	9.4	12.0	9.9	11.5	13.0	11.5	2.1	0.5
平成22年度調査(n=240)	21.7	7.5	12.9	12.1	12.1	16.3	10.4	4.2	2.9
平成21年度調査(n=274)	10.9	27.0	18.2	10.6	-	16.1	13.1	4.0	0.0
平成20年度調査(n=256)	14.1	24.2	12.9	16.4	-	12.5	16.0	2.7	1.2

※網掛け：各年度の第1位

### E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）

- 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）について不安を感じる理由は「過去に問題になった事例があるために不安」が36.3%と最も多く突出している。
- 年度別では、「過去に問題になった事例があるために不安」が平成20年度以降毎年第1位となっている。

図表 3-10 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）> (n=226)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-11 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）・年度別>

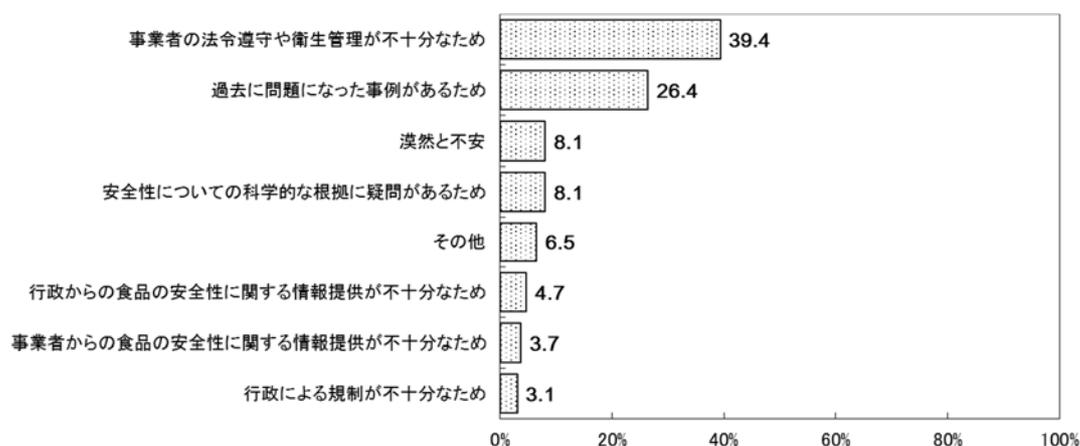
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=226)	11.9	10.2	17.3	7.5	6.2	36.3	9.3	1.3	0.0
平成26年度調査(n=234)	12.0	7.3	14.5	8.1	8.1	37.6	6.8	4.7	0.9
平成25年度調査(n=221)	14.9	11.8	12.2	5.9	4.5	33.9	7.7	4.1	5.0
平成24年度調査(n=222)	14.4	10.8	18.5	5.9	5.0	36.5	5.0	3.2	0.9
平成23年度調査(第1回)(n=227)	10.6	9.7	9.7	8.8	3.5	42.7	9.7	4.0	1.3
平成22年度調査(n=247)	10.5	9.3	10.9	9.3	4.5	38.1	6.9	7.3	3.2
平成21年度調査(n=317)	7.3	6.9	18.0	8.8	-	49.5	6.3	2.8	0.3
平成20年度調査(n=303)	4.0	9.9	16.5	7.3	-	51.2	6.6	3.3	1.3
平成19年度調査(n=387)	8.5	11.1	30.7	8.8	-	28.2	7.0	3.9	1.8
平成18年度調査(n=404)	7.2	10.1	20.3	15.1	-	29.5	9.7	4.7	3.5
平成17年度調査(n=423)	6.4	10.6	27.2	10.6	-	32.4	7.1	4.3	1.4
平成16年度調査(n=418)	6.2	10.0	23.4	10.3	-	35.4	10.0	3.6	1.0

※網掛け：各年度の第1位

F. 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等

- 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等について不安を感じる理由は「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が39.4%で最も多く、次いで「過去に問題になった事例があるため」が26.4%となっている。
- 年度別に比較したところ、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が平成16年度以降毎年、30～40%程度で第1位となっている。また、「過去に問題になった事例があるため」が20%前後で、ほとんどの年度で第2位となっている。「漠然と不安」は、平成16年度から20年度までは、20%前後だったが、21年度以降は10%以下となっている。

図表 3-12 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等> (n=322)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-13 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるため不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=322)	8.1	3.1	39.4	4.7	3.7	26.4	8.1	6.5	0.0
平成26年度調査(n=343)	8.2	7.0	37.0	5.2	2.9	25.1	4.4	8.2	2.0
平成25年度調査(n=285)	10.5	9.8	33.7	3.5	3.9	20.7	5.6	9.1	3.2
平成24年度調査(n=272)	8.1	5.9	40.4	5.5	2.9	21.7	9.6	4.4	1.5
平成23年度調査(第1回)(n=295)	5.8	8.5	35.3	6.4	2.7	20.7	9.2	8.5	3.1
平成22年度調査(n=306)	6.5	5.6	32.7	6.2	4.6	21.2	9.2	11.1	2.9
平成21年度調査(n=323)	5.3	5.0	40.9	6.8	-	27.9	9.6	3.7	0.9
平成20年度調査(n=305)	4.9	3.0	30.5	12.5	-	18.4	21.0	6.9	3.0
平成19年度調査(n=343)	5.2	6.7	31.2	11.1	-	17.8	16.3	5.8	5.8
平成18年度調査(n=373)	5.4	3.8	28.4	10.2	-	20.9	19.0	7.0	5.4
平成17年度調査(n=372)	3.2	3.2	34.4	11.8	-	21.0	19.9	5.1	1.3
平成16年度調査(n=369)	4.6	3.3	35.2	13.6	-	18.7	17.9	5.4	1.4

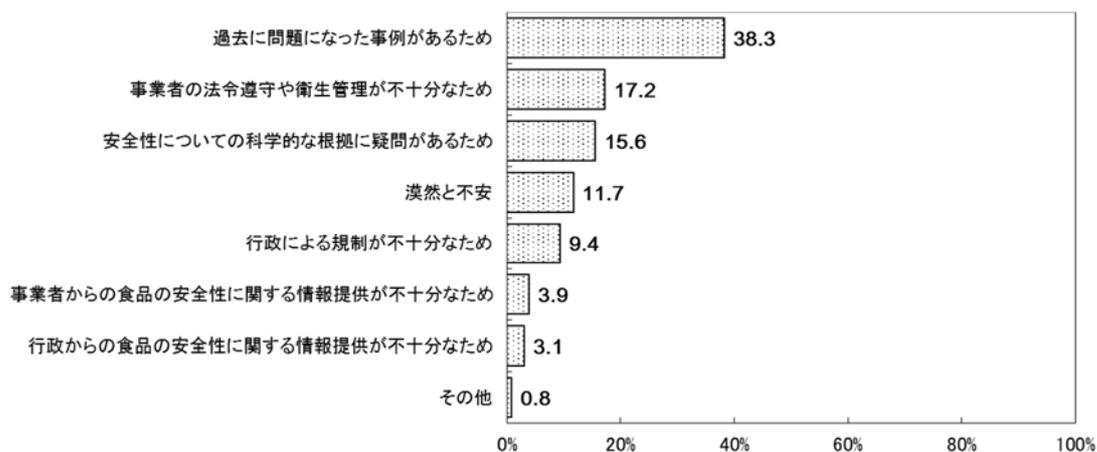
※網掛け：各年度の第1位

### G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）

- BSE（伝達性牛海綿状脳症）について不安を感じる理由は「過去に問題になった事例があるために不安」が38.3%で最も多く、2位以下を大きく離している。
- 年度別では、「過去に問題になった事例があるために不安」が平成16年度以降毎年第1位となっている。

図表 3-14 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

<BSE（伝達性牛海綿状脳症）> (n=128)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-15 食品の安全性の観点から不安を感じる理由

<BSE（伝達性牛海綿状脳症）・年度別>

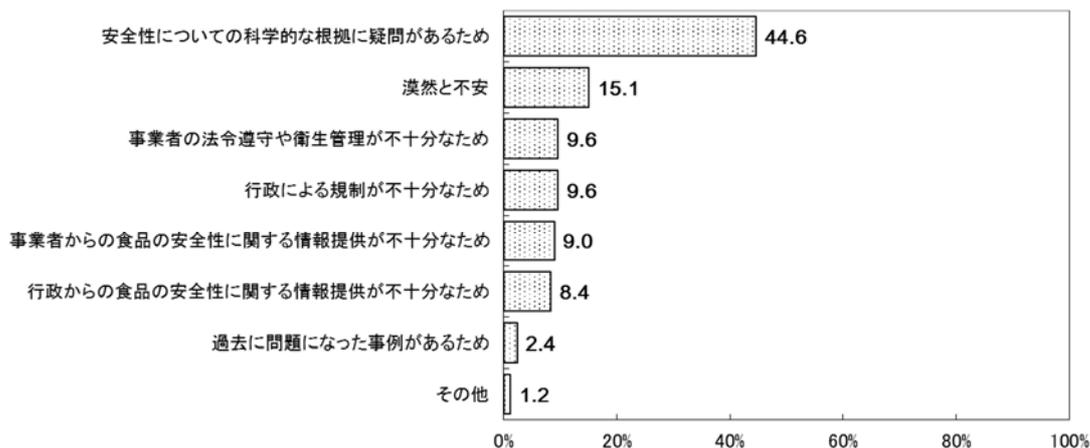
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=128)	15.6	9.4	17.2	3.1	3.9	38.3	11.7	0.8	0.0
平成26年度調査(n=163)	16.0	12.3	12.3	9.2	6.7	32.5	7.4	2.5	1.2
平成25年度調査(n=140)	17.9	17.1	11.4	9.3	2.1	28.6	5.7	2.1	5.7
平成24年度調査(n=272)	15.1	13.9	11.4	6.6	3.6	39.8	5.4	3.0	1.2
平成23年度調査(第1回)(n=169)	10.7	8.3	11.8	9.5	4.7	45.0	6.5	1.8	1.8
平成22年度調査(n=178)	11.2	11.8	12.4	11.8	3.4	38.2	7.3	2.2	1.7
平成21年度調査(n=251)	20.3	4.8	18.7	5.2	-	39.0	8.0	3.6	0.4
平成20年度調査(n=253)	13.4	7.5	17.4	7.1	-	43.5	5.9	3.6	1.6
平成19年度調査(n=282)	15.6	5.0	22.3	6.0	-	40.4	5.7	2.1	2.8
平成18年度調査(n=346)	11.8	8.1	26.9	8.7	-	31.8	5.2	4.3	3.2
平成17年度調査(n=353)	18.1	7.9	17.0	11.3	-	32.0	6.5	5.7	1.4
平成16年度調査(n=340)	11.8	5.3	21.8	14.7	-	31.2	10.3	3.8	1.2

※網掛け：各年度の第1位

## H. 遺伝子組換え

- 遺伝子組換えについて不安を感じる理由は「安全性についての科学的な根拠に疑問」が44.6%で最も多く、2位以下を大きく離している。
- 年度別では、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が平成16年度以降毎年第1位となっている。

図表 3-16 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <遺伝子組換え> (n=166)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-17 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <遺伝子組換え・年度別>

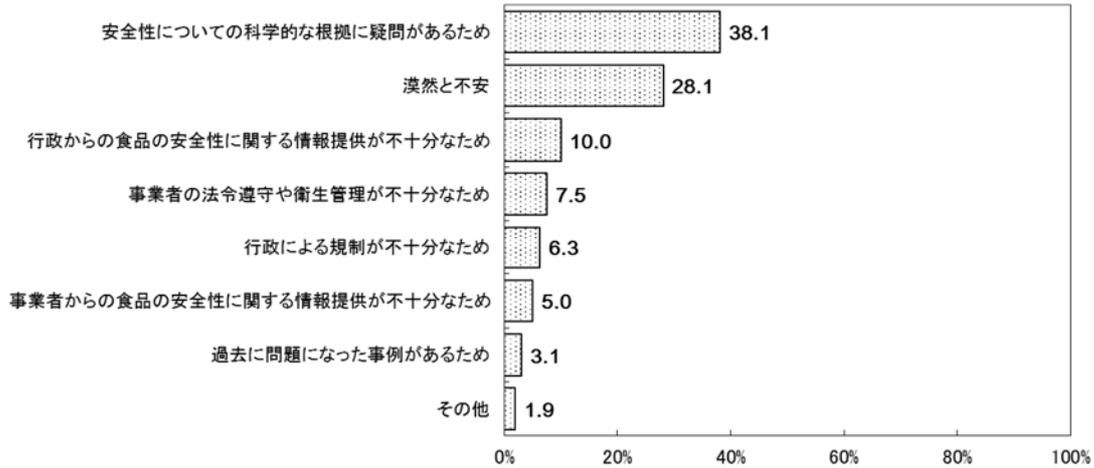
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるため不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=166)	44.6	9.6	9.6	8.4	9.0	2.4	15.1	1.2	0.0
平成26年度調査(n=190)	45.3	13.2	7.9	7.9	5.8	3.7	11.1	3.2	2.1
平成25年度調査(n=170)	51.2	8.2	10.6	7.1	2.4	4.1	7.6	4.1	4.7
平成24年度調査(n=170)	49.4	12.4	8.2	8.8	2.4	2.4	11.8	2.4	2.4
平成23年度調査(第1回)(n=181)	55.2	3.9	3.3	8.3	6.6	3.3	13.3	5.0	1.1
平成22年度調査(n=189)	48.7	5.3	4.2	12.7	5.3	2.1	13.8	5.3	2.6
平成21年度調査(n=262)	49.2	12.2	4.2	19.1	-	1.1	9.2	5.0	0.0
平成20年度調査(n=237)	45.6	12.2	3.4	23.2	-	1.3	6.3	6.3	1.7
平成19年度調査(n=269)	46.5	10.8	3.7	17.1	-	1.9	8.9	8.9	2.2
平成18年度調査(n=321)	40.5	14.0	5.3	18.1	-	2.2	8.1	8.1	3.7
平成17年度調査(n=361)	44.0	11.6	8.9	17.5	-	1.4	8.0	7.5	1.1
平成16年度調査(n=341)	47.2	12.3	4.1	14.4	-	2.3	10.9	7.9	0.9

※網掛け：各年度の第1位

## 1. 体細胞クローン

- 体細胞クローンについて不安を感じる理由を尋ねると、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が38.1%で最も多く、2位以下を大きく離している。
- 年度別では、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が平成20年度以降毎年第1位となっている。

図表 3-18 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <体細胞クローン> (n=160)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-19 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <体細胞クローン・年度別>

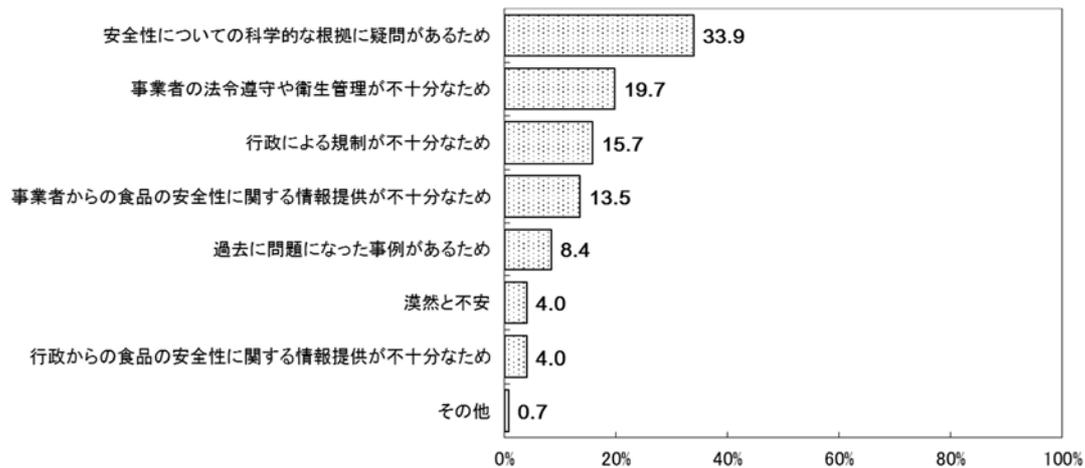
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるため不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=160)	38.1	6.3	7.5	10.0	5.0	3.1	28.1	1.9	0.0
平成26年度調査(n=181)	47.0	9.4	7.2	8.3	2.8	1.7	18.8	1.7	3.3
平成25年度調査(n=169)	52.7	7.7	5.3	5.3	0.6	3.0	17.2	4.7	3.6
平成24年度調査(n=177)	49.7	8.5	3.4	12.4	4.5	2.8	15.3	1.7	1.7
平成23年度調査(第1回)(n=192)	51.6	3.1	2.1	10.9	3.1	2.1	21.4	3.6	2.1
平成22年度調査(n=196)	52.0	4.1	3.1	10.2	2.6	1.5	19.4	5.1	2.0
平成21年度調査(n=252)	52.4	6.3	3.2	14.3	-	2.4	15.1	4.4	2.0
平成20年度調査(n=240)	40.0	5.8	2.1	22.1	-	2.1	23.8	2.9	1.3

※網掛け：各年度の第1位

## J. いわゆる健康食品

- いわゆる健康食品について不安を感じる理由は「安全性についての科学的な根拠に疑問」が 33.9%で最も多く、次いで、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が 19.7%、「行政による規制が不十分」が 15.7%となっている。
- 年度別では、長期的には「安全性についての科学的な根拠に疑問」又は「行政による規制が不十分」が1位となっている。

図表 3-20 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <いわゆる健康食品> (n=274)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-21 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <いわゆる健康食品・年度別>

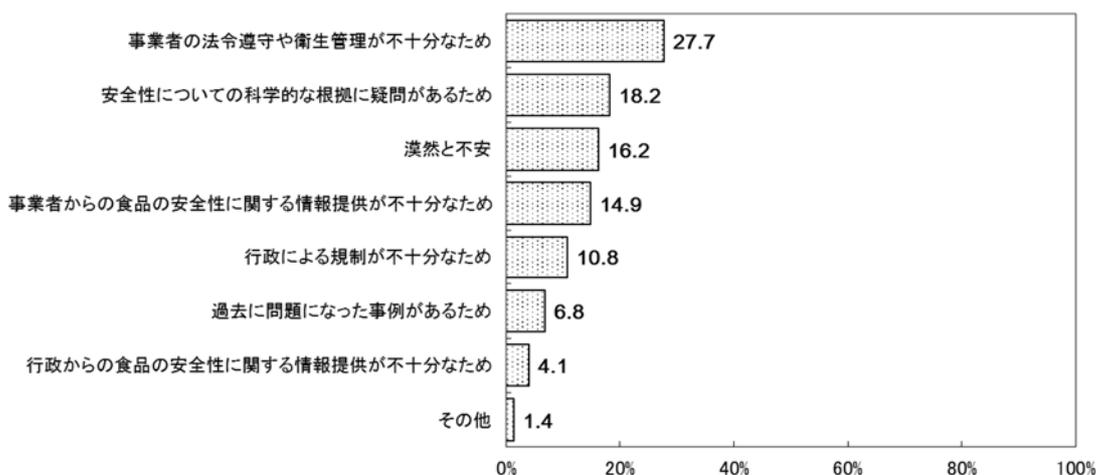
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるため不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=274)	33.9	15.7	19.7	4.0	13.5	8.4	4.0	0.7	0.0
平成26年度調査(n=280)	28.6	16.1	21.4	1.4	13.2	9.6	4.3	3.9	1.4
平成25年度調査(n=221)	19.5	21.3	18.6	3.6	16.3	7.2	4.5	5.4	3.6
平成24年度調査(n=191)	22.5	20.9	17.8	4.2	13.1	10.5	2.1	6.8	2.1
平成23年度調査(第1回)(n=213)	27.2	16.0	14.6	1.4	15.5	10.8	5.6	4.2	4.7
平成22年度調査(第2回)(n=226)	30.1	14.2	13.7	5.3	16.4	6.2	6.6	3.1	4.4
平成21年度調査(n=251)	25.6	28.4	18.0	10.4	-	10.8	2.8	3.2	0.8
平成20年度調査(n=214)	28.5	28.0	18.7	7.9	-	9.8	1.4	4.2	1.4
平成19年度調査(n=275)	29.5	30.2	14.2	9.5	-	10.5	1.5	2.2	2.5
平成18年度調査(n=303)	27.7	27.1	17.2	7.3	-	9.2	2.0	5.6	4.0
平成17年度調査(n=291)	29.2	28.2	18.9	7.2	-	8.9	3.1	4.5	0.0
平成16年度調査(n=296)	19.3	38.5	14.2	7.1	-	12.5	4.4	3.4	0.7

※網掛け：各年度の第1位

### K. 肥料・飼料等

- 肥料・飼料等について不安を感じる理由は「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が27.7%で最も多く、次いで、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が18.2%、「漠然と不安」が16.2%となっている。
- 年度別では、「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」が最も多く、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が続いているという傾向は、平成22年度以降変動していない。

図表 3-22 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <肥料・飼料等> (n=148)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-23 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <肥料・飼料等・年度別>

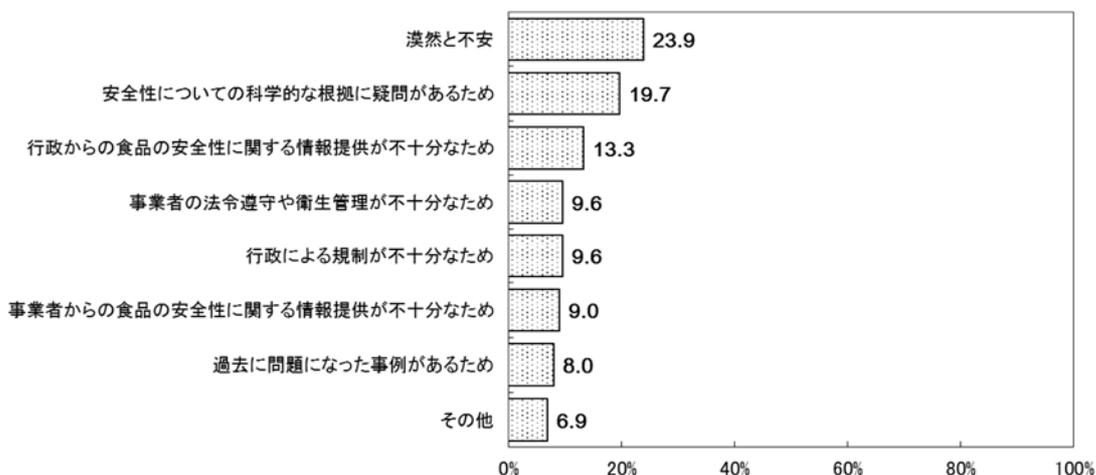
	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=148)	18.2	10.8	27.7	4.1	14.9	6.8	16.2	1.4	0.0
平成26年度調査(n=149)	19.5	8.7	30.9	7.4	14.1	4.0	10.7	2.0	2.7
平成25年度調査(n=145)	20.7	13.1	30.3	4.8	8.3	6.9	7.6	1.4	6.9
平成24年度調査(n=135)	16.3	11.1	34.8	5.9	13.3	7.4	7.4	3.0	0.7
平成23年度調査(第1回)(n=215)	14.9	14.4	21.4	5.1	7.0	9.3	14.9	5.1	7.9
平成22年度調査(n=158)	18.4	13.3	26.6	6.3	15.8	5.7	8.9	1.9	3.2

※網掛け：各年度の第1位

### M.アクリルアミド

- アクリルアミドについて不安を感じる理由を尋ねると、「漠然と不安」が23.9%で最も多く、次いで、「安全性についての科学的な根拠に疑問」が19.7%となっている。

図表 3-24 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <アクリルアミド> (n=188)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 3-25 食品の安全性の観点から不安を感じる理由  
 <アクリルアミド・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答
今回調査(n=188)	19.7	9.6	9.6	13.3	9.0	8.0	23.9	6.9	0.0
平成26年度調査(n=163)	22.7	9.8	6.7	13.5	9.8	8.6	21.5	5.5	1.8

※網掛け：各年度の第1位

※本項目は平成26年度調査から追加

## 不安を感じる理由として、「その他」に記入された回答

### A. 食品添加物（回答者数3人）

「食品添加物に関する本はいろいろあるが、正しい情報が何かわからない」、「海外（中国など）のものに不安を感じる」などの回答があった。

### B. 残留農薬（回答者数2人）

「海外（中国など）のものに不安を感じる」などの回答があった。

### C. 家畜用抗生物質（回答者数3人 うち「とても不安である」が1人）

「耐性菌の懸念がある」、「身近に情報が入ってこない」などの回答があった。

### D. 器具・容器包装からの溶出化学物質（回答者数4人）

「家庭での間違った使用方法（耐熱、耐酸など）に不安を感じる」、「海外（中国など）のものに不安を感じる」などの回答があった。

### E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（回答者数1人）

「信頼できるデータがどれかわからない」との回答があった。

### F. 有害微生物（細菌）、ウイルス等による食中毒等（回答者数19人 うち「とても不安である」が1人）

「知識不足による取扱いの不備」、「いくら気をつけても食中毒が発生しているため」、「微生物汚染が目に見えないため」、「ウイルスの変異に対策が追いつけていけるかが不安」などの回答があった。

### G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）（回答者数1人）

「発生の防止策が未完成」との回答があった。

### H. 遺伝子組換え（回答者数2人）

「食用油や醤油など、遺伝子組換え表示義務がない食品があること」、「安全性が検証されていない」との回答があった。

### I. 体細胞クローン（回答者数3人）

「よくわからないから不安」、「安全性が検証されていない」との回答があった。

**J. いわゆる健康食品** (回答者数2人 うち「とても不安である」が2人)

「健康への効果があるようなイメージを持たせてしまうため、本来の成分を理解しないまま購入してしまう」などの回答があった。

**K. 肥料・飼料等** (回答者数2人)

「身近に情報が入ってくるものではないため」などの回答があった。

**M. アクリルアミド** (回答者数12人 うち「とても不安である」が1人)

「食生活の変化などにより摂取する機会が増えているため」、「十分な検証がされていない」、「知識不足」などの回答があった。

#### 4. 食品の安全性の観点から不安を感じない理由（放射性物質以外）（問4）

問4 問2のA～K及びM、Nに掲げるハザード等において、「3 あまり不安を感じない」又は「4 全く不安を感じない」を選んだ方にお聞きします。それぞれのハザード等について、不安を感じない理由を選択肢1～8の中から1つずつ選んでください。

- 問2で、食品の安全性の観点から放射性物質以外のハザードについて「あまり不安を感じない」、「全く不安を感じない」と回答した者に対し、不安を感じていない理由を尋ねたところ、「安全性についての科学的な根拠に納得」「行政による規制が十分なため」の2つが上位に挙がっているハザードが多い。

図表 4-1 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

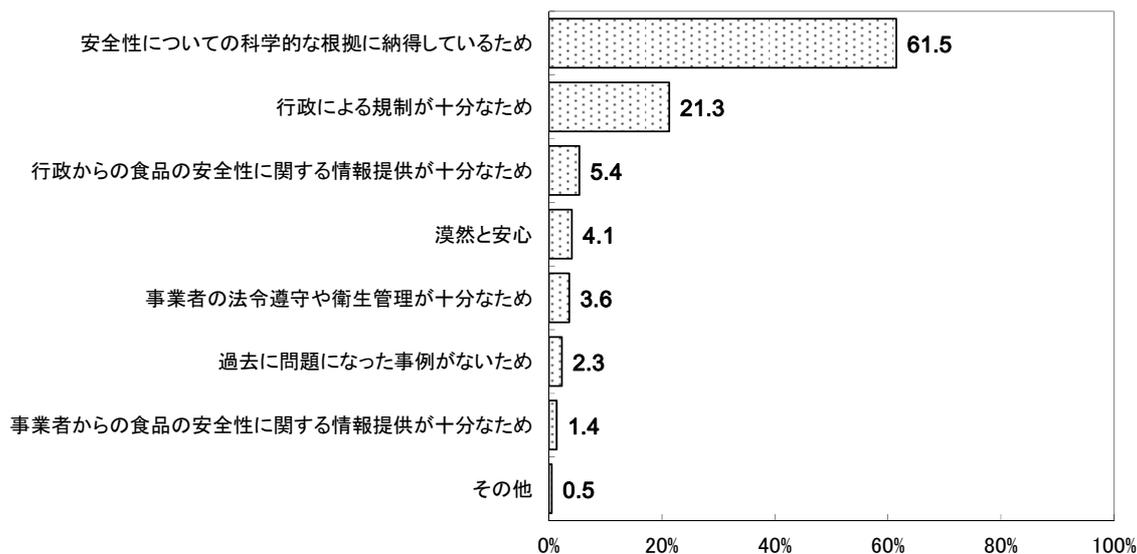
ハザード	1位	2位	3位
食品添加物	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (61.5%) [32%]	行政による規制が十分なため (21.3%) [11.1%]	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため (5.4%) [2.8%]
残留農薬	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (40.6%) [19.8%]	行政による規制が十分なため (34.3%) [16.7%]	事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため (8.2%) [4.0%]
家畜用抗生物質	行政による規制が十分なため (33.3%) [15.5%]	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (29.3%) [13.6%]	事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため (10.1%) [4.7%]
器具・容器包装からの溶出化学物質	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (28.2%) [15.1%]	行政による規制が十分なため (26.9%) [14.4%]	事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため (12.3%) [6.6%]
汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)	行政による規制が十分なため (43.6%) [20%]	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (17.9%) [8.2%]	漠然と安心 (12.3%) [5.6%]
有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等	事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため (22.3%) [5.4%]	行政による規制が十分なため (21.4%) [5.2%]	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため (15.5%) [3.8%]
BSE (伝達性牛海綿状脳症)	行政による規制が十分なため (41.6%) [28.5%]	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (26.1%) [17.9%]	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため (12.7%) [8.7%]
遺伝子組換え	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (41.4%) [24.9%]	行政による規制が十分なため (21.5%) [12.9%]	過去に問題になった事例がないため (14.5%) [8.7%]
体細胞クローン	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (30.3%) [16.7%]	行政による規制が十分なため (22.6%) [12.5%]	過去に問題になった事例がないため (18.8%) [10.4%]
いわゆる健康食品	漠然と安心 (25.2%) [8.7%]	その他 (16.3%) [5.6%]	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (13.6%) [4.7%]
肥料・飼料等	行政による規制が十分なため (29.5%) [18.8%]	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (21.8%) [13.9%]	漠然と安心 (17.3%) [11.1%]
アクリルアミド	安全性についての科学的な根拠に納得しているため (29.2%) [14.8%]	過去に問題になった事例がないため (17.1%) [8.7%]	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため (17.1%) [8.7%]

※( )内は「不安を感じない」と回答した人数に占める割合、[ ]内は回答者全体(425名)に占める割合である。

## A. 食品添加物

- 食品添加物について不安を感じない理由は「安全性についての科学的な根拠に納得」が61.5%で最も多い。
- 年度別では「安全性についての科学的な根拠に納得」が平成22年度以降毎年第1位となっている。

図表 4-2 食品の安全性の観点から不安を感じない理由  
 <食品添加物> (n=221)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-3 食品の安全性の観点から不安を感じない理由  
 <食品添加物・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=221)	61.5	21.3	3.6	5.4	1.4	2.3	4.1	0.5	0.0
平成26年度調査(n=217)	59.4	20.3	3.7	4.1	0.5	1.8	3.7	0.9	5.5
平成25年度調査(n=176)	60.2	19.9	8.0	3.4	0.6	1.1	4.0	0.6	2.3
平成24年度調査(n=158)	53.2	23.4	5.1	1.9	0.6	1.9	5.1	1.9	7.0
平成23年度調査(第1回)(n=193)	49.7	23.3	5.2	5.7	1.0	3.1	3.6	3.1	5.2
平成22年度調査(n=160)	51.9	29.4	2.5	4.4	0.0	2.5	3.1	3.8	2.5
平成21年度調査(n=150)	22.7	52.7	6.7	8.0	—	2.7	2.0	2.7	2.7

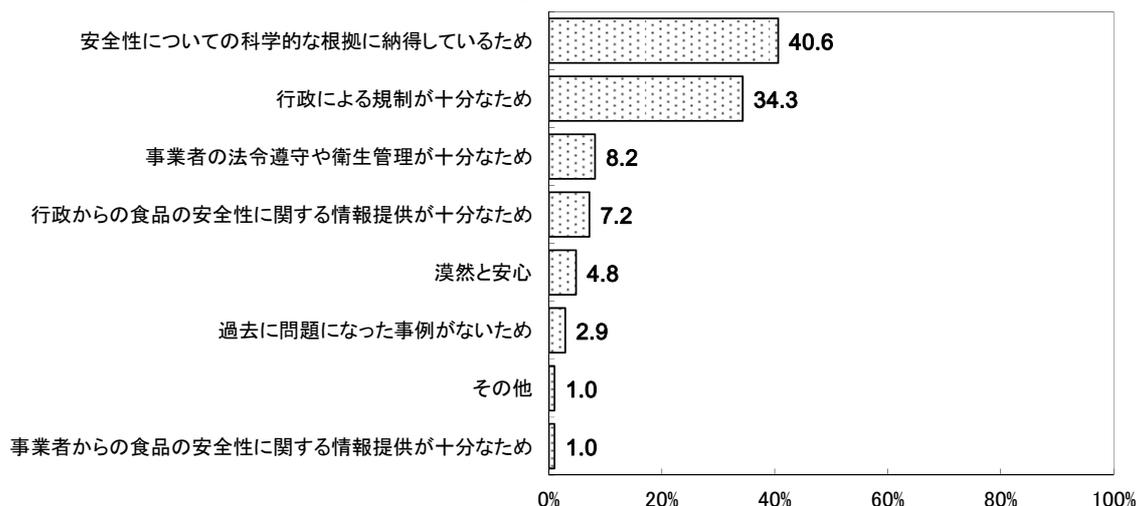
※網掛け：各年度の第1位

## B. 残留農薬

- 残留農薬について不安を感じない理由は「安全性についての科学的な根拠に納得しているため」が40.6%で最も多い。
- 年度別では「行政による規制が十分」が、本設問を追加した平成21年度以降第1位となっていたが、今回調査で「安全性についての科学的な根拠に納得しているため」が単独で第1位となった。

図表 4-4 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

＜残留農薬＞ (n=207)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-5 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

＜残留農薬・年度別＞

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=207)	40.6	34.3	8.2	7.2	1.0	2.9	4.8	1.0	0.0
平成26年度調査(n=179)	32.4	41.3	10.6	2.8	1.7	1.7	3.4	0.6	5.6
平成25年度調査(n=135)	39.3	39.3	8.1	4.4	1.5	0.0	3.7	0.0	3.7
平成24年度調査(n=125)	39.2	43.2	6.4	0.0	0.8	1.6	5.6	1.6	1.6
平成23年度調査(第1回)(n=150)	38.0	40.0	6.0	2.7	0.0	3.3	6.0	1.3	2.7
平成22年度調査(n=127)	33.1	44.9	7.1	3.9	1.6	1.6	3.1	3.1	1.6
平成21年度調査(n=105)	24.8	43.8	14.3	6.7	—	1.9	3.8	1.9	2.9

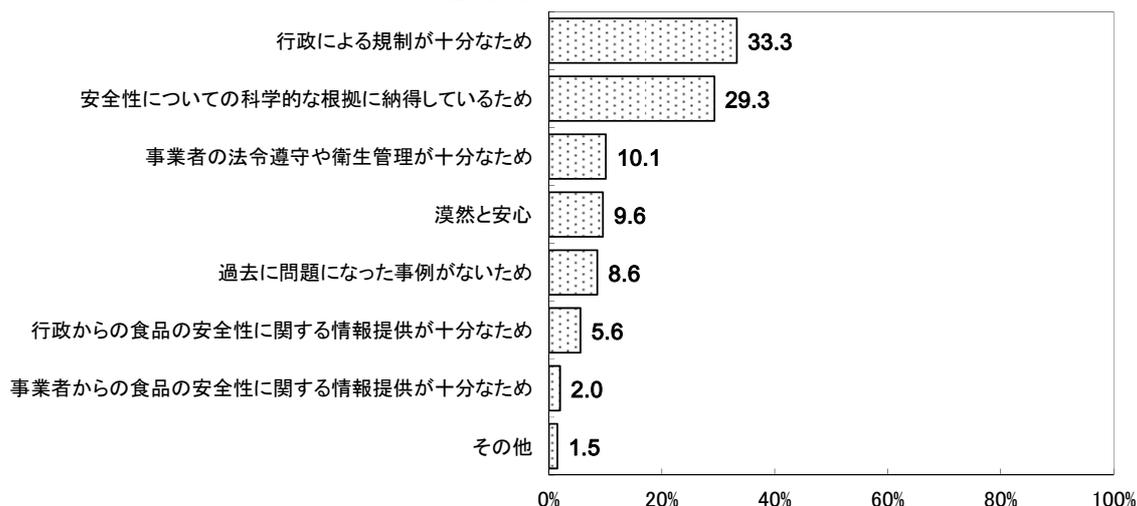
※網掛け：各年度の第1位

### C. 家畜用抗生物質

- 家畜用抗生物質について不安を感じない理由は「行政による規制が十分」が 33.3%で最も多く、次いで、「安全性についての科学的な根拠に納得」が 29.3%となっている。
- 年度別では、「行政による規制が十分」が、本設問を追加した平成 21 年度以降第 1 位となっている。

図表 4-6 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

＜家畜用抗生物質＞ (n=198)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-7 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

＜家畜用抗生物質・年度別＞

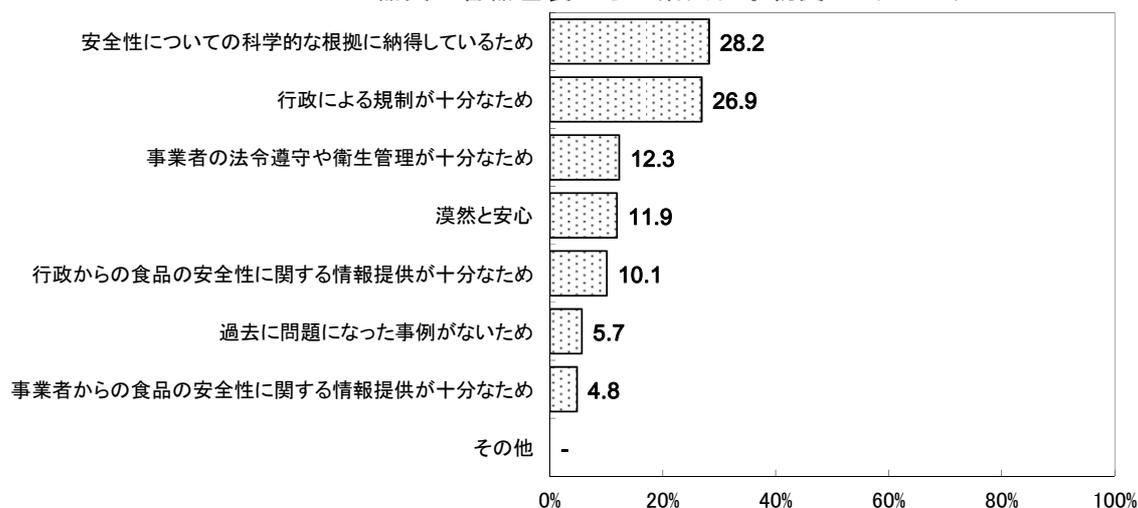
	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=198)	29.3	33.3	10.1	5.6	2.0	8.6	9.6	1.5	0.0
平成26年度調査(n=171)	26.9	35.7	8.2	2.3	0.0	7.0	12.3	2.3	5.3
平成25年度調査(n=128)	31.3	38.3	12.5	2.3	0.8	6.3	5.5	0.8	2.3
平成24年度調査(n=122)	25.4	36.9	11.5	0.8	2.5	4.9	14.8	0.8	2.5
平成23年度調査(第1回)(n=142)	26.1	31.0	7.7	3.5	0.7	9.2	12.7	4.9	4.2
平成22年度調査(n=121)	24.8	38.0	7.4	3.3	2.5	9.9	9.1	2.5	2.5
平成21年度調査(n=98)	10.2	32.7	22.4	6.1	—	11.2	11.2	1.0	5.1

※網掛け：各年度の第 1 位

#### D. 器具・容器包装からの溶出化学物質

- 器具・容器包装からの溶出化学物質について不安を感じない理由は「安全性についての科学的な根拠に納得」(28.2%)と「行政による規制が十分」(26.9%)が上位2位となっている。
- 年度別では、「行政による規制が十分」が、本設問を追加した平成21年度以降第1位となっているが、今回調査では「安全性についての科学的な根拠に納得」が第1位となった。

図表 4-8 食品の安全性の観点から不安を感じない理由  
 <器具・容器包装からの溶出化学物質> (n=227)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-9 食品の安全性の観点から不安を感じない理由  
 <器具・容器包装からの溶出化学物質・年度別>

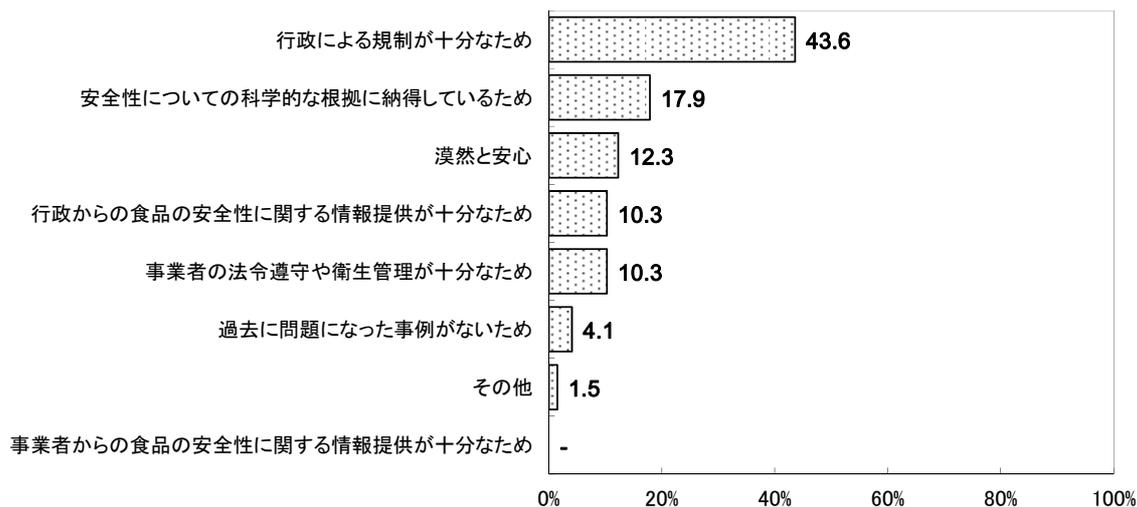
	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=227)	28.2	26.9	12.3	10.1	4.8	5.7	11.9	0.0	0.0
平成26年度調査(n=214)	24.8	27.6	13.1	5.1	0.9	5.1	14.0	1.4	7.9
平成25年度調査(n=164)	27.4	28.7	12.2	4.3	3.0	6.1	11.6	0.6	6.1
平成24年度調査(n=144)	20.1	25.7	16.0	2.8	2.8	3.5	18.1	2.8	8.3
平成23年度調査(第1回)(n=184)	19.6	21.7	15.8	4.9	1.1	9.2	16.8	4.3	6.5
平成22年度調査(n=152)	23.7	27.0	14.5	5.3	2.6	5.3	13.2	2.6	5.9
平成21年度調査(n=119)	12.6	35.3	7.6	6.7	-	7.6	17.6	1.7	10.9

※網掛け：各年度の第1位

### E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）

- 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）について不安を感じない理由は「行政による規制が十分」が43.6%で2位以下を大きく離している。
- 年度別では、「行政による規制が十分」が、本設問を追加した平成21年度以降第1位となっている。

図表 4-10 食品の安全性の観点から不安を感じない理由  
 <汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）> (n=195)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-11 食品の安全性の観点から不安を感じない理由  
 <汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=195)	17.9	43.6	10.3	10.3	0.0	4.1	12.3	1.5	0.0
平成26年度調査(n=196)	15.3	45.9	8.7	8.2	0.0	2.6	12.8	2.0	4.6
平成25年度調査(n=123)	19.5	45.5	13.0	7.3	0.8	0.8	8.1	0.0	4.9
平成24年度調査(n=116)	15.5	45.7	9.5	4.3	2.6	0.9	12.9	1.7	6.9
平成23年度調査(第1回)(n=153)	14.4	45.8	11.8	4.6	2.0	3.3	9.8	3.3	5.2
平成22年度調査(n=147)	14.3	46.3	9.5	8.2	1.4	0.7	12.2	3.4	4.1
平成21年度調査(n=78)	11.5	34.6	16.7	12.8	-	5.1	7.7	6.4	5.1

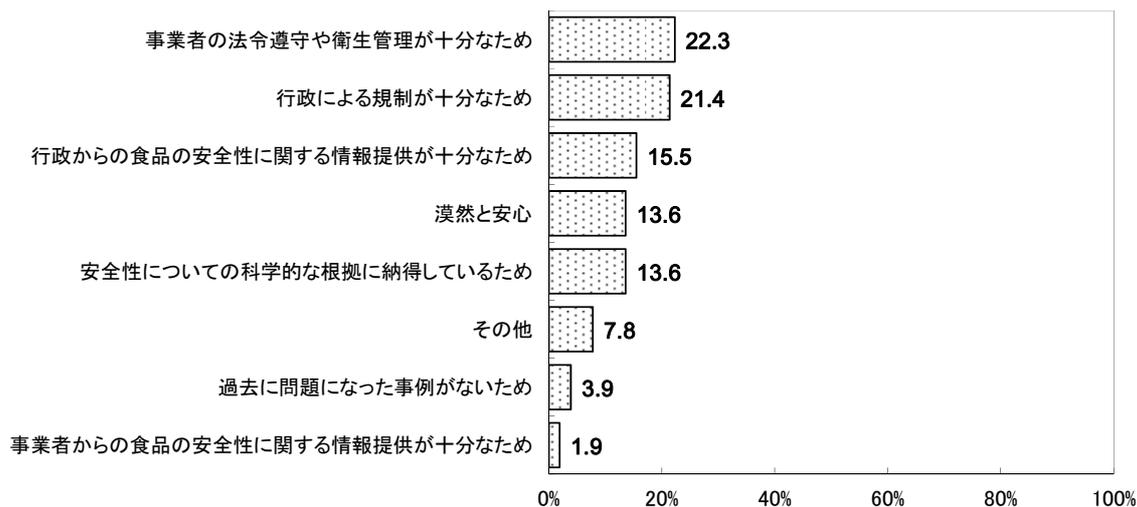
※網掛け：各年度の第1位

F. 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等

- 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等について不安を感じない理由は「事業者の法令遵守や衛生管理が十分」が 22.3%で最も多い。
- 年度別でも、直近3年は「事業者の法令遵守や衛生管理が十分」が第1位となっている。

図表 4-12. 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等> (n=103)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-13 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=103)	13.6	21.4	22.3	15.5	1.9	3.9	13.6	7.8	0.0
平成26年度調査(n=91)	14.3	20.9	27.5	8.8	1.1	3.3	8.8	8.8	6.6
平成25年度調査(n=66)	21.2	16.7	22.7	7.6	4.5	1.5	7.6	12.1	6.1
平成24年度調査(n=72)	15.3	22.2	20.8	15.3	1.4	2.8	5.6	11.1	5.6
平成23年度調査(第1回)(n=89)	12.4	20.2	14.6	12.4	2.2	2.2	15.7	13.5	6.7
平成22年度調査(n=94)	13.8	23.4	21.3	14.9	0.0	2.1	10.6	6.4	7.4
平成21年度調査(n=76)	7.9	6.6	32.9	30.3	—	1.3	5.3	6.6	9.2

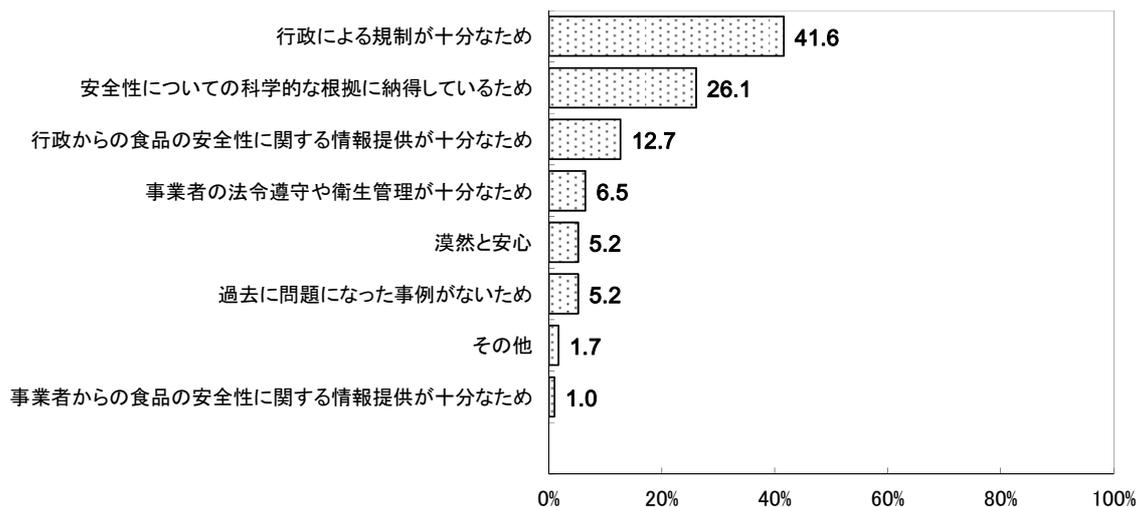
※網掛け：各年度の第1位

### G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）

- BSE（伝達性牛海綿状脳症）について不安を感じない理由は「行政による規制が十分」が41.6%で最も多い。
- 年度別では、「行政による規制が十分」と「安全性についての科学的な根拠に納得」が7年連続で上位2位となっている。

図表 4-14 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

＜BSE（伝達性牛海綿状脳症）＞（n=291）



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-15 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

＜BSE（伝達性牛海綿状脳症）・年度別＞

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=291)	26.1	41.6	6.5	12.7	1.0	5.2	5.2	1.7	0.0
平成26年度調査(n=268)	25.7	41.0	4.9	9.7	0.7	3.4	5.6	2.6	6.3
平成25年度調査(n=212)	34.9	30.2	6.6	11.8	1.9	2.4	3.3	0.9	8.0
平成24年度調査(n=173)	25.4	40.5	8.1	11.6	0.0	1.7	4.6	4.0	4.0
平成23年度調査(第1回)(n=214)	20.1	41.1	5.1	7.0	1.4	3.7	11.7	2.8	7.0
平成22年度調査(n=220)	27.7	35.0	2.3	13.6	0.0	2.7	9.1	4.5	5.0
平成21年度調査(n=147)	28.6	23.8	9.5	11.6		4.1	8.2	8.2	6.1

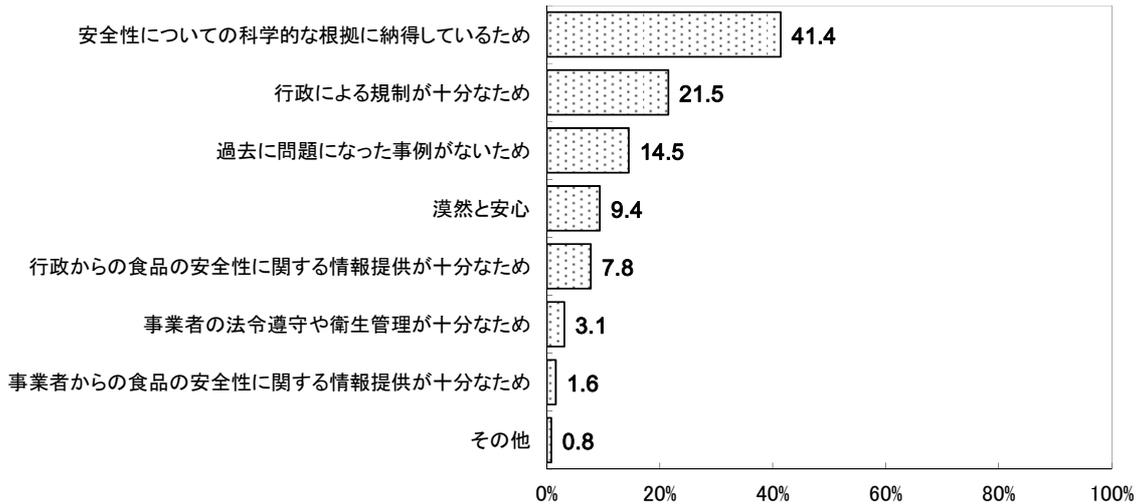
※網掛け：各年度の第1位

## H. 遺伝子組換え

- 遺伝子組換えについて不安を感じない理由は「安全性についての科学的な根拠に納得」が41.4%で最も多く、2位以下を大きく離している。
- 年度別では、「安全性についての科学的な根拠に納得」が、本設問を追加した平成21年度以降第1位となっている。

図表 4-16 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<遺伝子組換え> (n=256)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-17 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<遺伝子組換え・年度別>

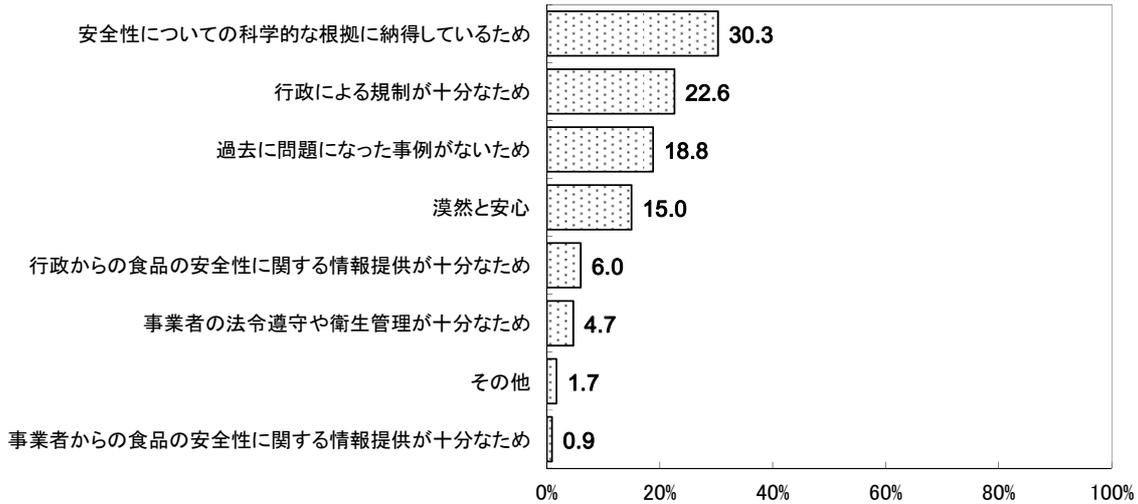
	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=256)	41.4	21.5	3.1	7.8	1.6	14.5	9.4	0.8	0.0
平成26年度調査(n=239)	40.6	19.7	4.6	5.9	1.7	9.6	9.2	2.5	6.3
平成25年度調査(n=178)	40.4	21.9	2.8	10.7	1.7	7.3	8.4	0.6	6.2
平成24年度調査(n=170)	37.6	18.2	3.5	4.7	1.8	12.9	11.8	2.9	6.5
平成23年度調査(第1回)(n=202)	37.1	14.4	2.5	5.9	2.0	10.9	16.3	4.0	6.9
平成22年度調査(n=203)	39.9	12.8	2.5	8.4	2.5	17.2	10.3	1.5	4.9
平成21年度調査(n=139)	48.2	11.5	1.4	2.9	—	15.8	12.2	4.3	3.6

※網掛け：各年度の第1位

## I. 体細胞クローン

- 体細胞クローンについて不安を感じない理由は「安全性についての科学的根拠に納得」が30.3%で第1位となった。次いで、「行政による規制が十分」が22.6%となっている。
- 年度別では、前回調査以外は「安全性についての科学的な根拠に納得」が第1位となっている。

図表 4-18 食品の安全性の観点から不安を感じない理由  
 <体細胞クローン> (n=234)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-19 食品の安全性の観点から不安を感じない理由  
 <体細胞クローン・年度別>

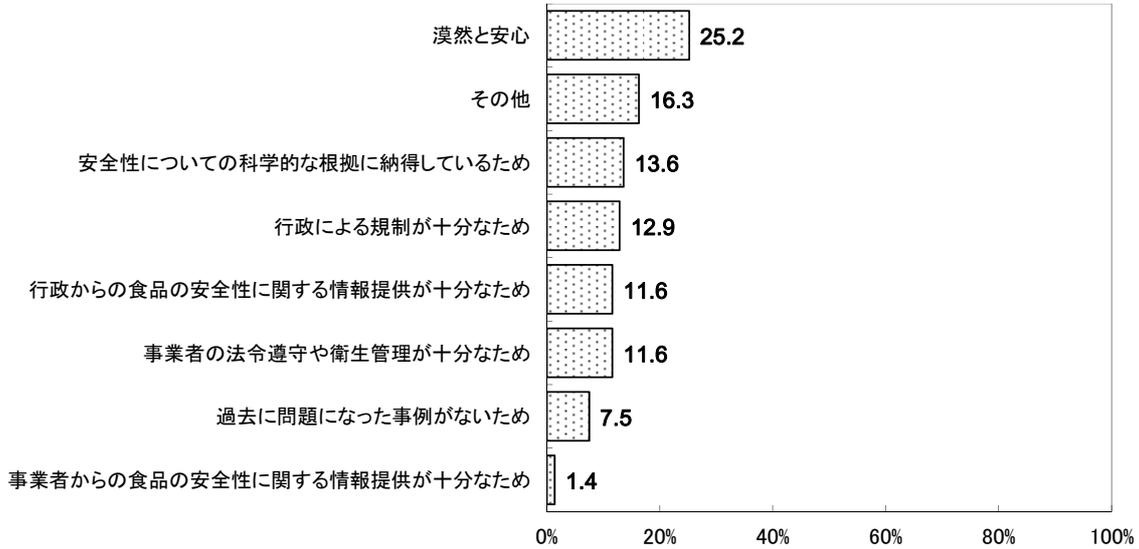
	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=234)	30.3	22.6	4.7	6.0	0.9	18.8	15.0	1.7	0.0
平成26年度調査(n=206)	22.3	20.9	2.4	1.9	0.5	15.5	23.8	3.4	9.2
平成25年度調査(n=154)	31.2	16.9	1.9	4.5	1.3	16.9	17.5	2.6	7.1
平成24年度調査(n=133)	30.1	22.6	1.5	3.0	0.8	9.8	21.8	2.3	8.3
平成23年度調査(第1回)(n=159)	32.1	21.4	1.3	3.1	0.6	8.8	23.3	4.4	5.0
平成22年度調査(n=162)	35.8	13.6	1.9	6.8	1.2	12.3	20.4	4.3	3.7
平成21年度調査(n=116)	47.4	12.1	3.4	4.3	—	12.9	12.9	1.7	5.2

※網掛け：各年度の第1位

## J. いわゆる健康食品

- いわゆる健康食品について不安を感じない理由は「漠然と安心」が25.2%で最も多く、次いで、「その他」が16.3%となっている。
- 年度別では、「漠然と安心」が平成21年度以降毎年第1位となっている。

図表 4-20 食品の安全性の観点から不安を感じない理由  
 <いわゆる健康食品> (n=147)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-21 食品の安全性の観点から不安を感じない理由  
 <いわゆる健康食品・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=147)	13.6	12.9	11.6	11.6	1.4	7.5	25.2	16.3	0.0
平成26年度調査(n=152)	9.2	21.7	5.9	5.9	4.6	6.6	23.0	11.2	11.8
平成25年度調査(n=126)	11.9	17.5	8.7	6.3	2.4	4.0	21.4	16.7	11.1
平成24年度調査(n=147)	15.0	13.6	6.8	3.4	0.7	5.4	24.5	18.4	12.2
平成23年度調査(第1回)(n=162)	11.1	11.7	2.5	4.3	2.5	4.9	30.2	22.2	10.5
平成22年度調査(n=162)	8.6	16.0	6.2	4.3	4.3	6.2	35.2	12.3	6.8
平成21年度調査(n=144)	9.0	18.1	12.5	4.2	—	6.9	20.8	18.8	9.7

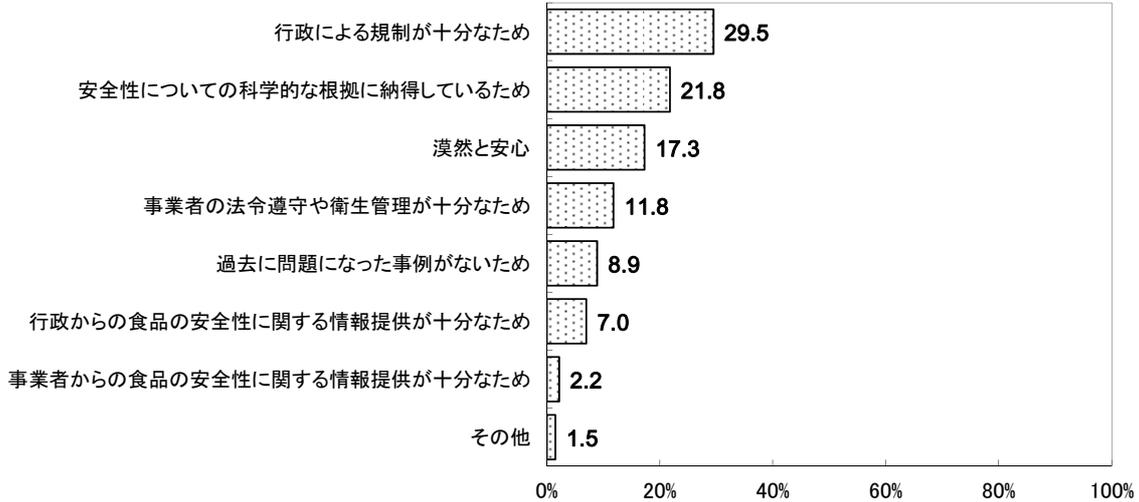
※網掛け：各年度の第1位

K. 肥料・飼料等

- 肥料・飼料等について不安を感じない理由は「行政による規制が十分」が29.5%で最も多い。
- 年度別では、「行政による規制が十分」が平成24年度以降第1位となっている。

図表 4-22 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<肥料・飼料等> (n=271)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-23 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

<肥料・飼料等・年度別>

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=271)	21.8	29.5	11.8	7.0	2.2	8.9	17.3	1.5	0.0
平成26年度調査(n=278)	16.9	31.7	10.8	2.9	1.1	8.3	19.8	0.7	7.9
平成25年度調査(n=199)	20.1	29.1	9.5	4.0	2.0	6.0	20.6	0.5	8.0
平成24年度調査(n=197)	16.2	32.5	8.1	2.5	1.0	7.6	21.3	2.0	8.6
平成23年度調査(第1回)(n=155)	15.5	23.2	13.5	3.2	0.6	8.4	23.9	3.2	8.4
平成22年度調査(n=216)	11.1	24.5	8.8	2.3	2.8	10.2	32.9	0.9	6.5

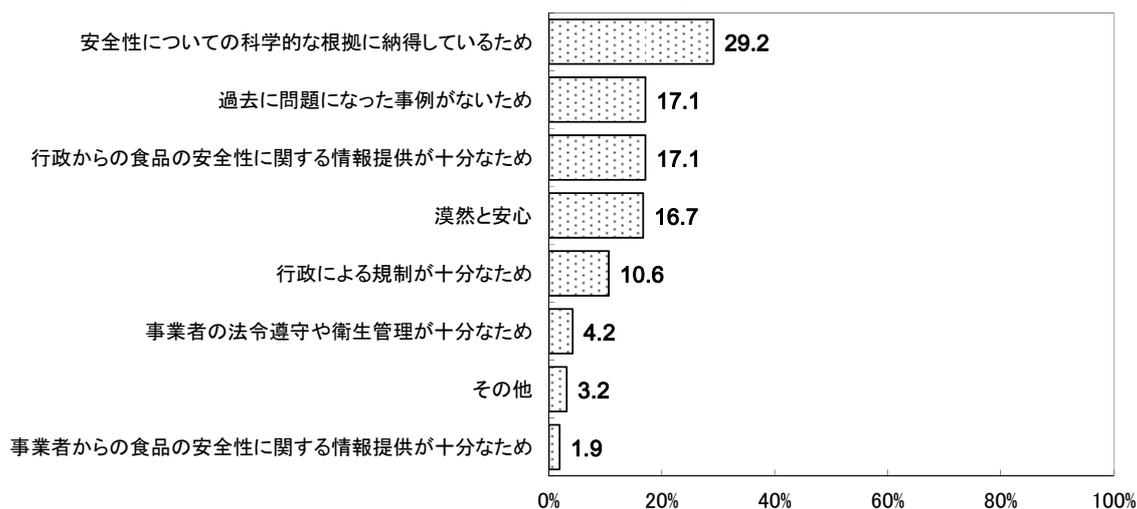
※網掛け：各年度の第1位

### M. アクリルアミド

- アクリルアミドについて不安を感じない理由は「安全性についての科学的な根拠に納得」が29.2%で最も多い。
- 年度別では、今年度、昨年度ともに「安全性についての科学的な根拠に納得」が第1位となっている。

図表 4-24 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

＜アクリルアミド＞ (n=216)



※回答割合が多いもの順に並び替え

図表 4-25 食品の安全性の観点から不安を感じない理由

＜アクリルアミド・年度別＞

	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答
今回調査(n=216)	29.2	10.6	4.2	17.1	1.9	17.1	16.7	3.2	0.0
平成26年度調査(n=195)	28.7	11.8	5.6	11.3	0.5	9.2	23.1	4.1	5.6

※網掛け：各年度の第1位

※本項目は平成26年度調査から追加

## 不安を感じない理由として「その他」に記入された回答

### A. 食品添加物（回答者数1人）

「事業者が虚偽の申告をしていないか不安である」との回答があった。

### B. 残留農薬（回答者数2人 うち「全く不安を感じない」が1人）

「安全性試験の結果を信じているため」などの回答があった。

### C. 家畜用抗生物質（回答者数3人 うち「全く不安を感じない」が1人）

「出荷制限があるため」、「多少なら混入しても健康に影響はないと考える」などの回答があった。

### D. 器具・容器包装からの溶出化学物質（該当なし）

### E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（回答者数3人）

「同じものばかり食べない、くらいしか気にしようがないため」、「危険性が周知され管理が厳格であるため」などの回答があった。

### F. 有害微生物（細菌）、ウイルス等による食中毒等（回答者数8人 うち「全く不安を感じない」が1人）

「よく加熱して食べる等、自衛できる」、「事業者の管理がある程度進んでおり、不十分だったとしても対処可能なことが多いため」などの回答があった。

### G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）（回答者数5人 うち「全く不安を感じない」が2人）

「牛肉を食べない」、「発生が収束している」などの回答があった。

### H. 遺伝子組換え（回答者数2人 うち「全く不安を感じない」が2人）

「科学者を信じている」などの回答があった。

### I. 体細胞クローン（回答者数4人 うち「全く不安を感じない」が2人）

「身近でないため」、「多少なら混入していても健康に影響がないと考える」などの回答があった。

### J. いわゆる健康食品（回答者数24人 うち「全く不安を感じない」が3人）

「利用していない」、「よく理解している」、「効果も害もない」などの回答があった。

### K. 肥料・飼料等（回答者数3人 うち「全く不安を感じない」が1人）

「多少なら混入していても健康に影響がないと考える」などの回答があった。

### M. アクリルアミド（回答者数6人）

「危険性の高い食事に偏らないようにしている」、「昔からあるものであり、いまさら気にしてもしょうがない」などの回答があった。

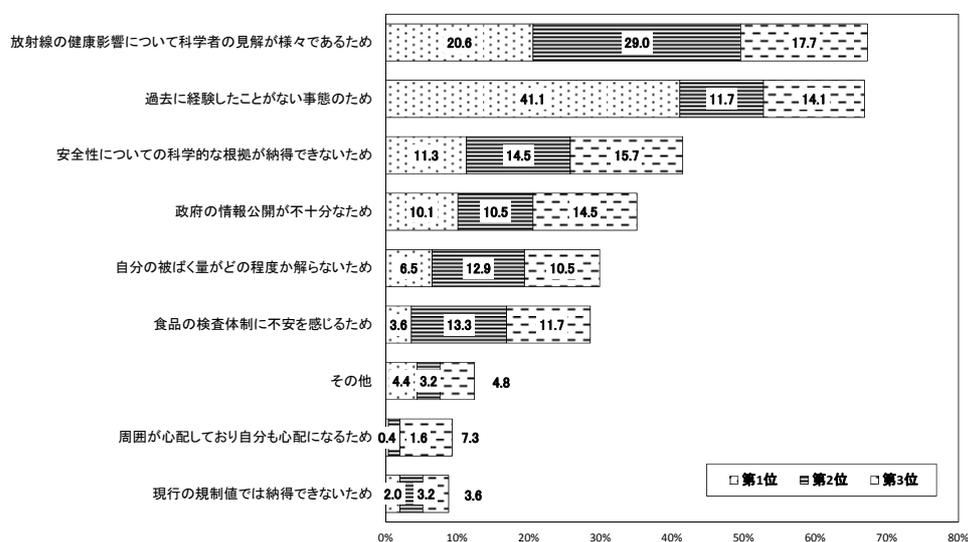
## 5. 放射性物質について不安を感じる理由（問5）

問5 問2のL（放射性物質）で、「1 とても不安である」又は「2 ある程度不安である」を選んだ方にお聞きします。不安を感じる理由を選択肢1～9の中から強く当てはまる順に3つ選んでください。

### 5-1 放射性物質について不安を感じる理由の回答割合

- 放射性物質について不安を感じる理由を、強く当てはまる順に3つ尋ねたところ、第1位は「過去に経験したことがない事態のため」が41.1%で最も多く、2位以降を大きく離している。第1位から第3位に選ばれたものの単純合計は、第1位が「放射線の健康影響について科学者の見解が様々であるため」（67.3%）、第2位「過去に経験したことがない事態のため」（66.9%）となっている。

図表 5-1 放射性物質について不安を感じる理由（n=248）



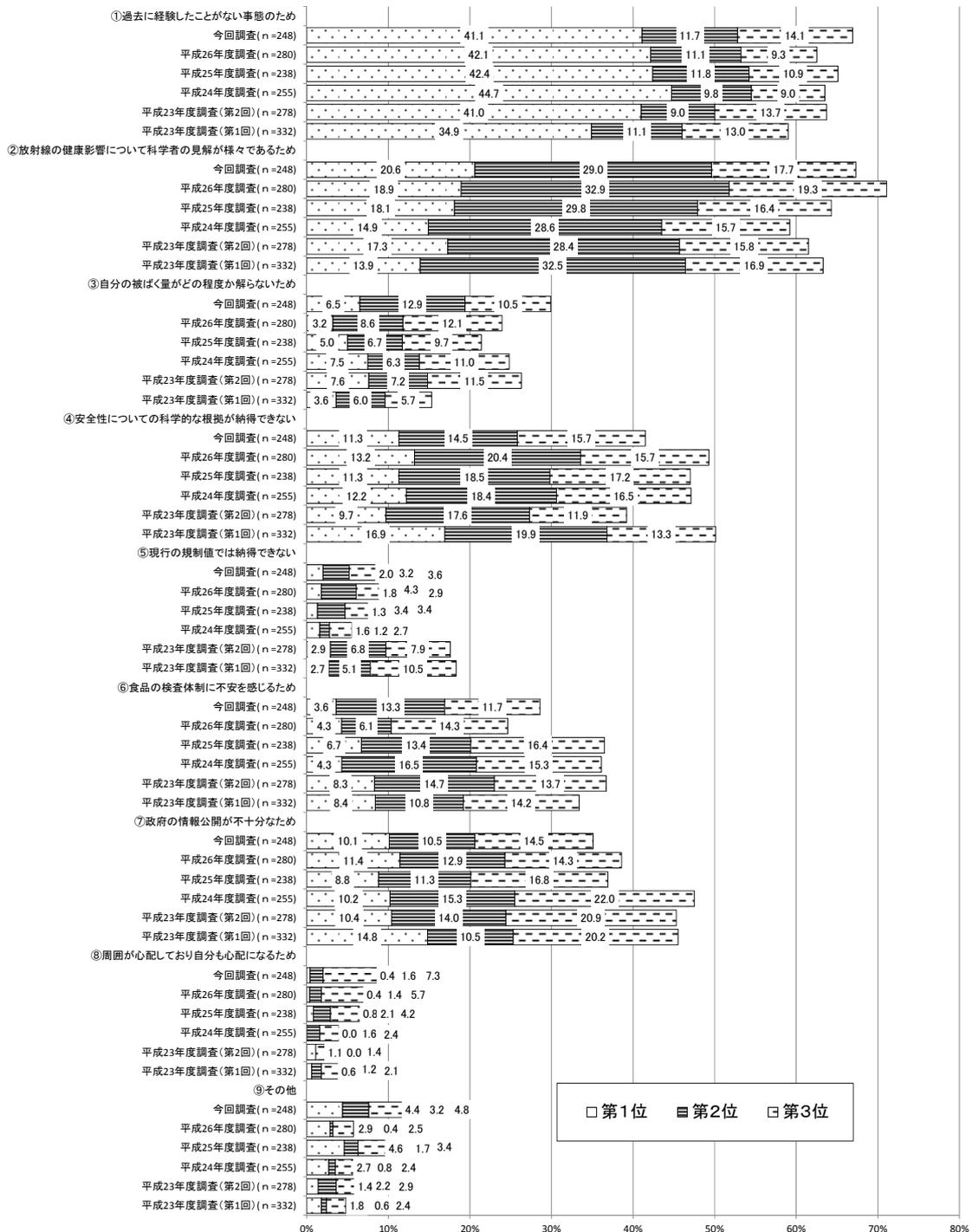
※回答者割合が多い順に並び替え

放射性物質について不安を感じる理由として「その他」に記入された回答

「ヒトへの健康影響の知見が乏しい」、「放射性廃棄物の処理方法が明確でない」、「これから生まれる世代や小さい子供への影響が心配」などの回答があった。

## 5-2 放射性物質について不安を感じる理由の年度別回答割合

図表 5-2 放射性物質について不安を感じる理由（年度別）



## II. 食品の安全性の確保について

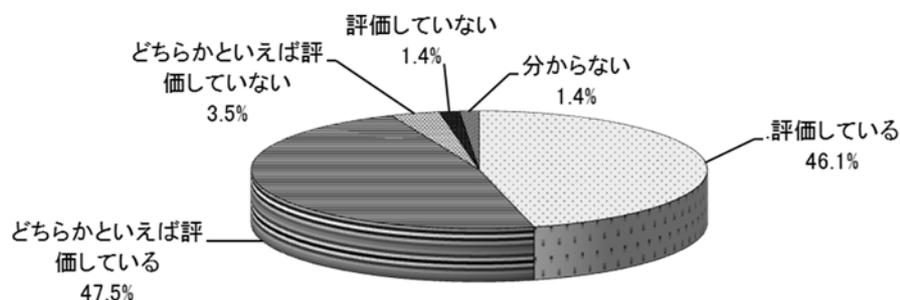
### < 食品安全行政全般について >

#### 6. 食品の安全性確保のための取組に対する評価（問 6）

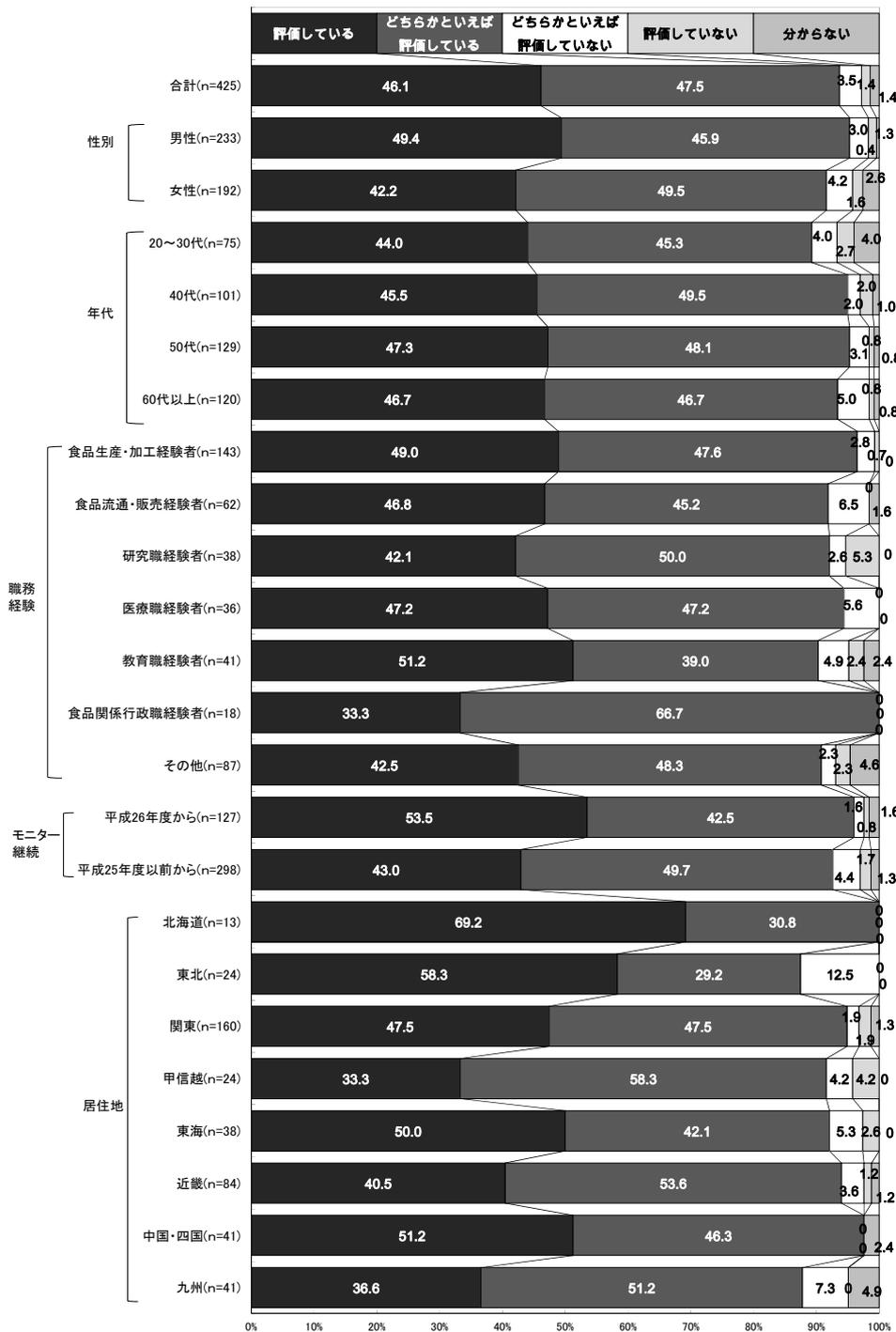
問 6 我が国の食生活が豊かになる一方、BSE の発生や残留農薬問題など食の安全を脅かす事件が相次いで発生しました。こうした情勢の中、平成 15 年 7 月 1 日に食品安全基本法が施行され、これに伴い内閣府に食品安全委員会が設置されるなど、食品の安全性の確保のための新たな取組がとられてきましたが、あなたはこれらの取組を評価していますか。当てはまるものを選択肢 1~5 の中から 1 つ選んでください。

- 食品の安全性の確保のための取組に対する評価を尋ねたところ、「評価している」と「どちらかといえば評価している」の合計は、93.6%であった。
- 平成 20 年度調査、平成 15 年度調査では「評価している」と「ある程度評価している」の合計は、それぞれ、90.6%、96.1%であった。

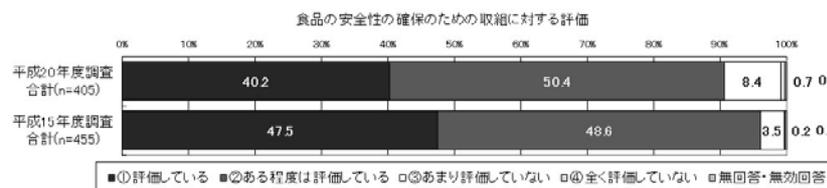
図表 6-1 食品の安全性確保の取組に対する評価（n=425）



図表 6-2 食品の安全性確保の取組に対する評価（属性別）



<参考>平成15年度及び平成20年度調査



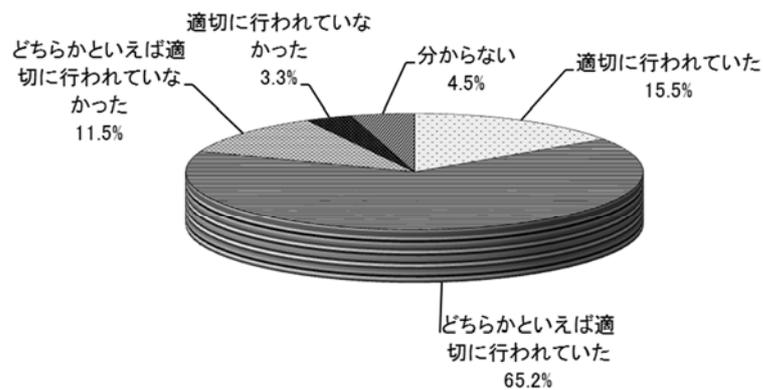
※今回調査と平成15・20年度調査における選択肢の文言が一部異なることに留意。

## 7. 食品の安全の分野における行政のリスクコミュニケーションの評価（問7）

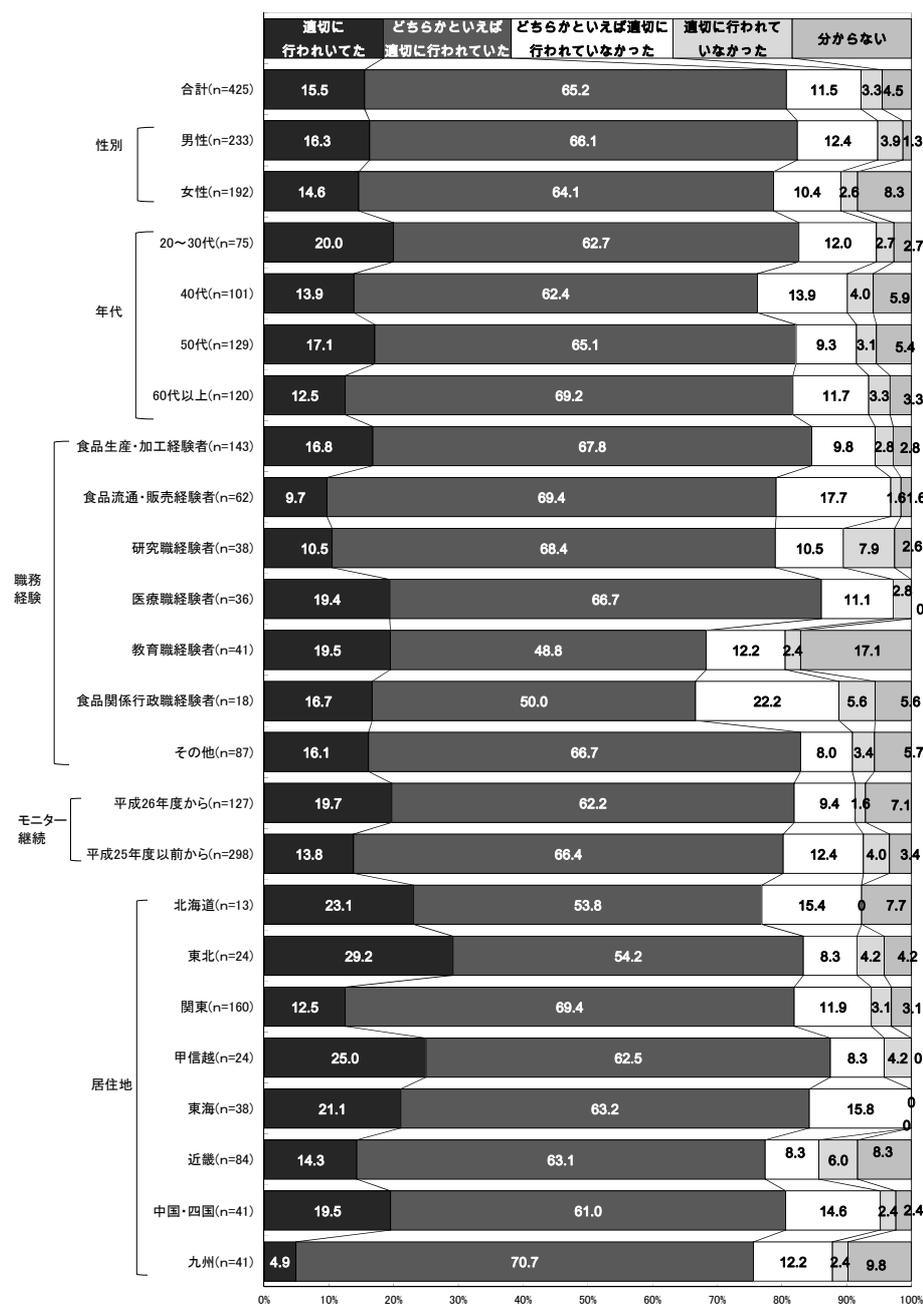
問7 食品の安全の分野において、これまでに行政機関が行ってきたリスクコミュニケーションについて、あなたの評価を選択肢1～5の中から1つ選んでください。

- 食品安全の分野におけるリスクコミュニケーションの評価について尋ねたところ、「適切に行われていた」と「どちらかといえば適切に行われていた」合計は、80.7%であった。
- 平成20年度調査では「適切に行われていた」と「十分ではないが行われていた」の合計は74.1%であり、リスクコミュニケーションが行われていたと評価する割合は増加している。

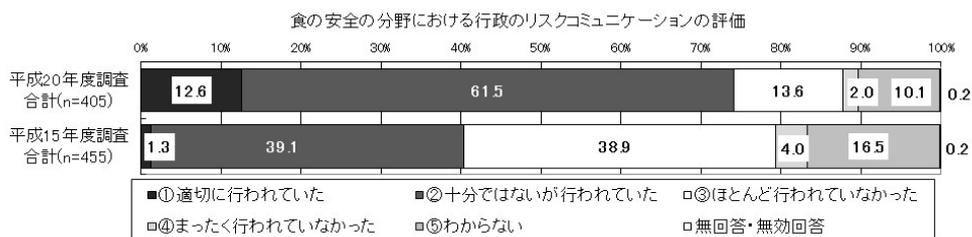
図表 7-1 食品の安全分野における行政のリスクコミュニケーションの評価（n=425）



図表 7-2 食品の安全分野における行政のリスクコミュニケーションの評価（属性別）



＜参考＞平成 15 年度及び平成 20 年度調査



※今回調査と平成 15・20 年度調査における選択肢の文言が一部異なることに留意。

## 8. リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由（問8）

**問8** 問7で、「3 どちらかといえば適切に行われていなかった」又は「4 適切に行われていなかった」を選んだ方にお聞きします。食品の安全の分野で、リスクコミュニケーションが適切に行われていなかった理由を選択肢1～4の中から1つ選び、その事例を1つ挙げてください。

- リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由を尋ねたところ、「行政機関から提供された情報が分かりにくかった」と回答した人が最も多く、次いで「行政機関から必要な情報が早く提供されていなかった」、「関係者の間の意見交換が十分にできていなかった」となった。
- 平成20年度調査では、「関係者相互の間でお互いのギャップを解消するような機会が十分でない」が最も多く、次いで、「消費者側からの情報や意見を汲み取るシステムが不十分」、「必要な情報は早く正確に提供されていない」の順であった。

図表 8-1 リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由（今年度）

今回調査選択肢	1.行政機関から必要な情報が早く提供されていなかった	2.行政機関から必要な情報が正確に提供されていなかった	3.行政機関から提供された情報が分かりにくかった	4.関係者の間の意見交換が十分にできていなかった	5.その他
今回調査(n=63)	9	12	15	12	15

図表 8-2 リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由（平成15、20年度）

平成20年度調査選択肢	1.必要な情報は早く正確に提供されていない	2.消費者側からの情報や意見を汲み取るシステムが不十分	3.関係者相互の間でお互いのギャップを解消するような機会が十分でない	4.その他	無回答・無効回答
平成20年度調査(n=63)	13	16	26	4	4
平成15年度調査(n=198)	104	17	68	8	1

図表 8-3 リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由  
事例別人数（今回調査）

事例	行政機関から必要な情報が早く提供されていなかった	行政機関から必要な情報が正確に提供されていなかった	行政機関から提供された情報が分かりにくかった	関係者間の意見交換が十分になされていなかった	その他	総計
放射性物質の問題	1人	—	5人	1人	1人	8人
廃棄食品の不正流通問題	—	2人	—	—	1人	3人
いわゆる「健康食品」	1人	—	—	—	1人	2人
中国産冷凍ギョーザ事件	2人	—	—	—	—	2人
肉の生食	—	1人	1人	—	—	2人
飽和脂肪酸の食品成分表示	—	1人	—	—	—	1人
原材料の虚偽	—	1人	—	—	—	1人
放射線照射食品	—	1人	—	—	—	1人
リステリアの検査基準	—	—	1人	—	—	1人
遺伝毒性物質など(専門用語の誤報道)	—	—	1人	—	—	1人
BSE	—	—	—	1人	—	1人
HACCP	—	—	—	1人	—	1人
農業	—	—	—	1人	—	1人
魚の水銀汚染	—	—	—	—	1人	1人
カフェイン中毒死亡事故	—	—	—	—	1人	1人
加工肉・レドミート	—	—	—	—	1人	1人
食品添加物の安全性	—	—	—	—	1人	1人

※事例回答のあったサンプルのみ集計。事例を複数挙げた回答、事例が具体的でない回答は表に含んでいない。

<参考> リスクコミュニケーションが適切に行われなかった理由  
事例別人数（平成20年度調査）

事例	行政機関から必要な情報が早く正確に提供されていなかった	消費者側からの情報や意見を汲み取るシステムが十分に整備されていなかった	消費者、行政機関、事業者などの関係者相互の間で互いの情報や意見を交換し、お互いのギャップを解消するような機会(例えば意見交換会の開催)が十分になかった	その他	総計
中国産ギョーザ事件	2人	7人	3人	—	12人
BSE問題	2人	—	6人	1人	9人
偽装問題	1人	—	2人	—	3人
輸入食品の安全性	—	1人	1人	—	2人
金沢異物混入事件	1人	—	—	—	1人
農業の使用	—	—	1人	—	1人

※事例回答のあったサンプルのみ集計

## <食品安全委員会について>

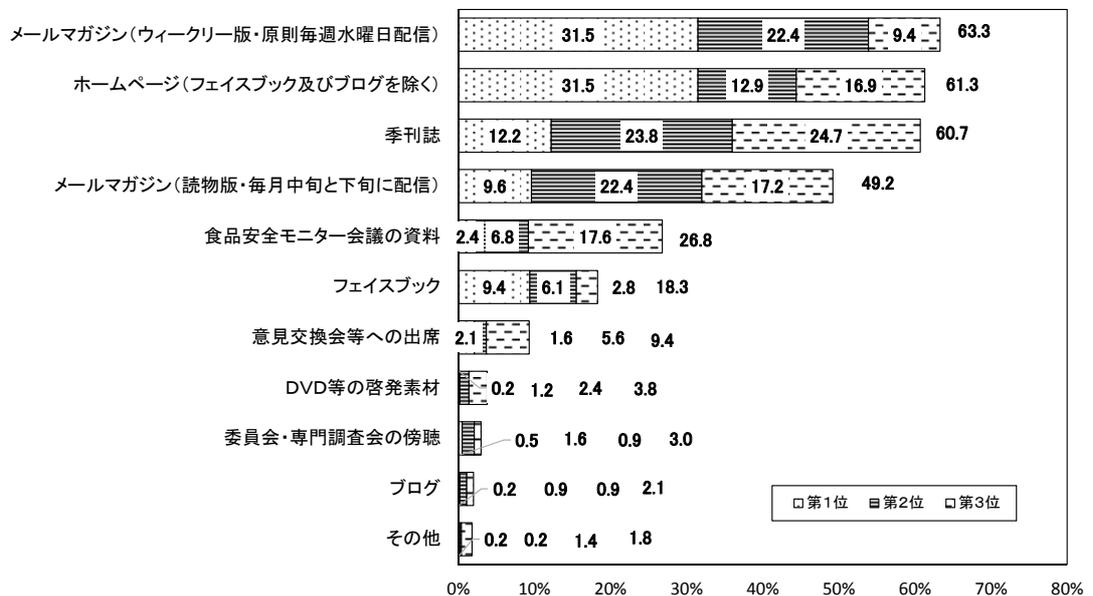
### 9. よく利用する食品安全委員会からの情報（問9）

問9 あなたがよく利用する食品安全委員会からの情報は何ですか。選択肢1～11の中からよく利用しているものから順に3つ選んでください。

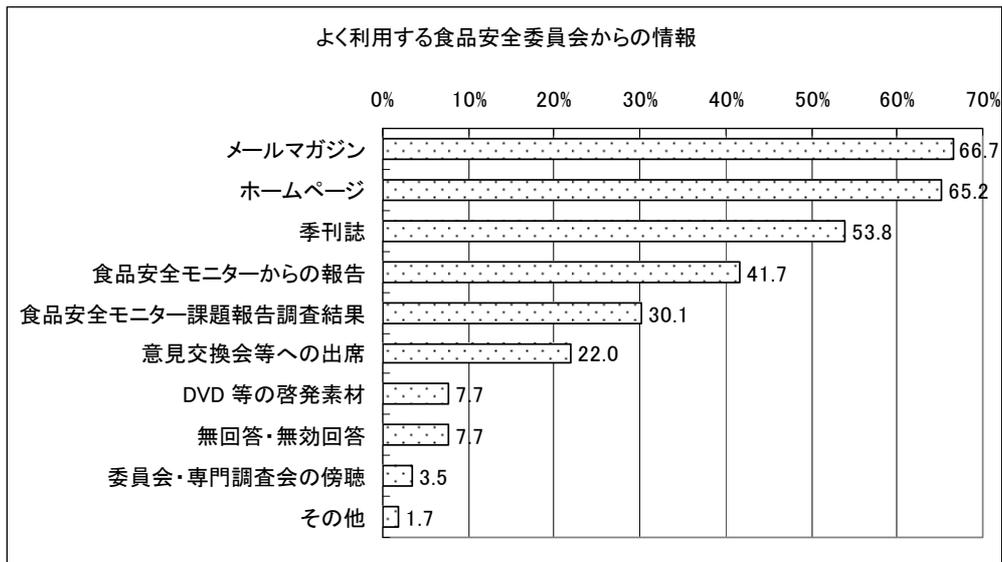
- 食品安全委員会からの情報源をよく利用する順に3つ尋ねたところ、第1位は「メールマガジン（ウィークリー版）」と「ホームページ（フェイスブック及びブログ除く）」が31.5%と最も多かった。第2位、第3位は「季刊誌」がそれぞれ23.8%、24.7%と多かった。
- 第1位～第3位までの合計は、「メールマガジン（ウィークリー版）」、「ホームページ（フェイスブック及びブログ除く）」及び「季刊誌」が60%以上になっている。
- 第1位～第3位までの合計は、平成20年度調査との比較では、メールマガジン（ウィークリー版）とホームページ、季刊誌の順位は変わらなかった。

注：週1回配信するメールマガジン（ウィークリー版）は、平成18年6月から開始し、月1～2回配信するメールマガジン（読み物版）は平成24年4月から開始している。

図表 9-1 よく利用する食品安全委員会からの情報源

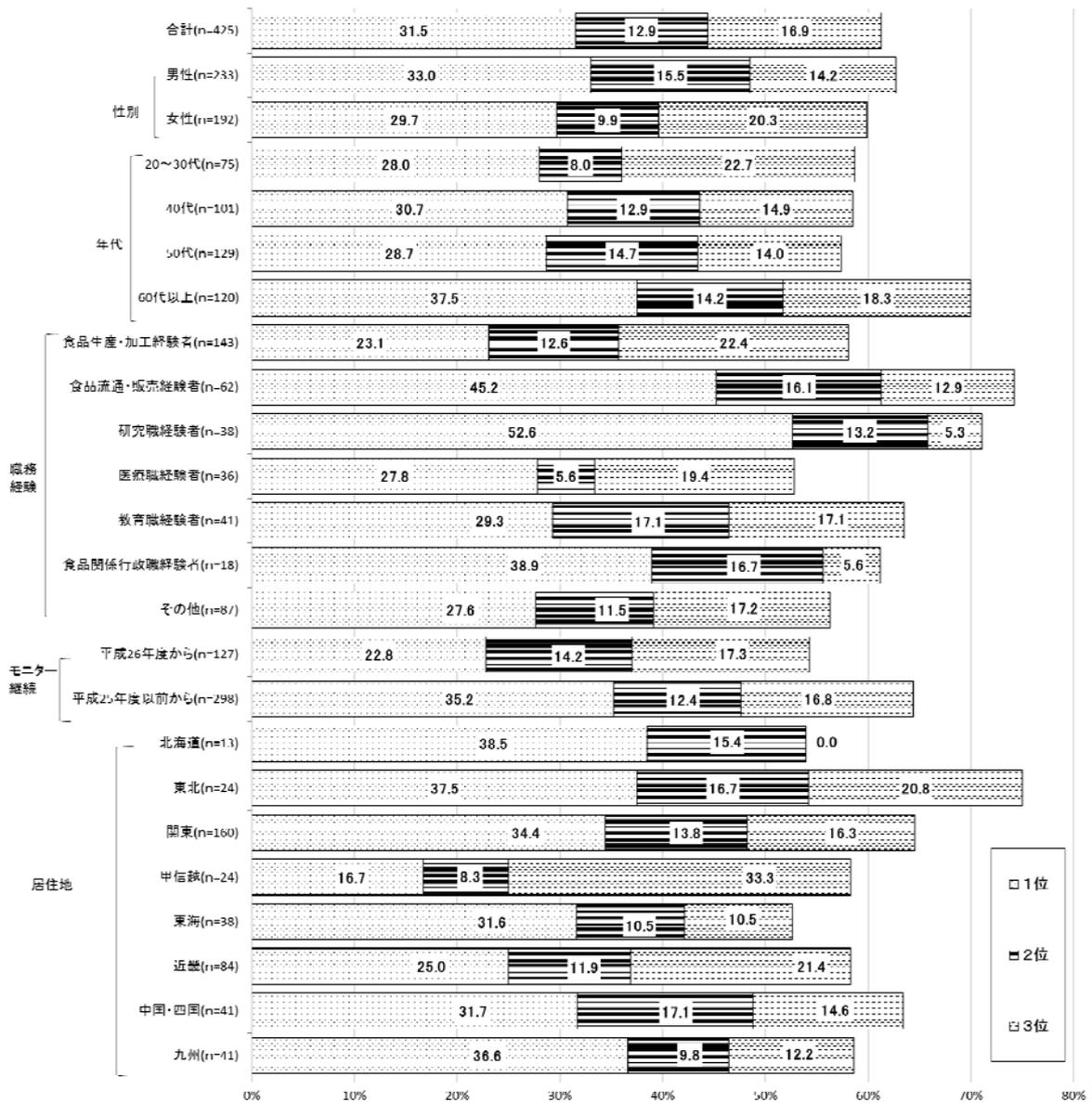


<参考>よく利用する食品安全委員会からの情報源（平成20年度調査結果）

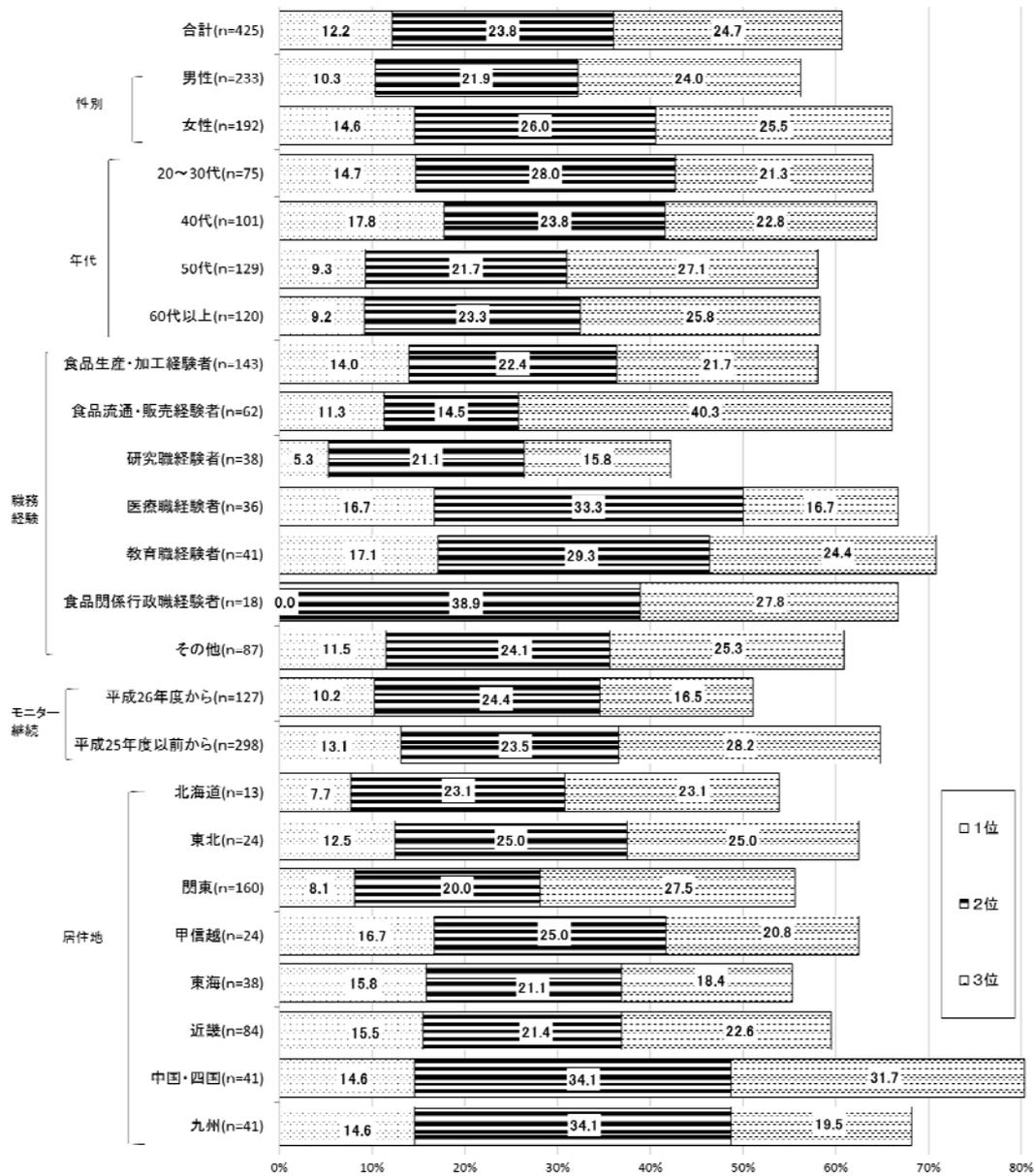


※よく利用しているものから順に3つ選択させた。

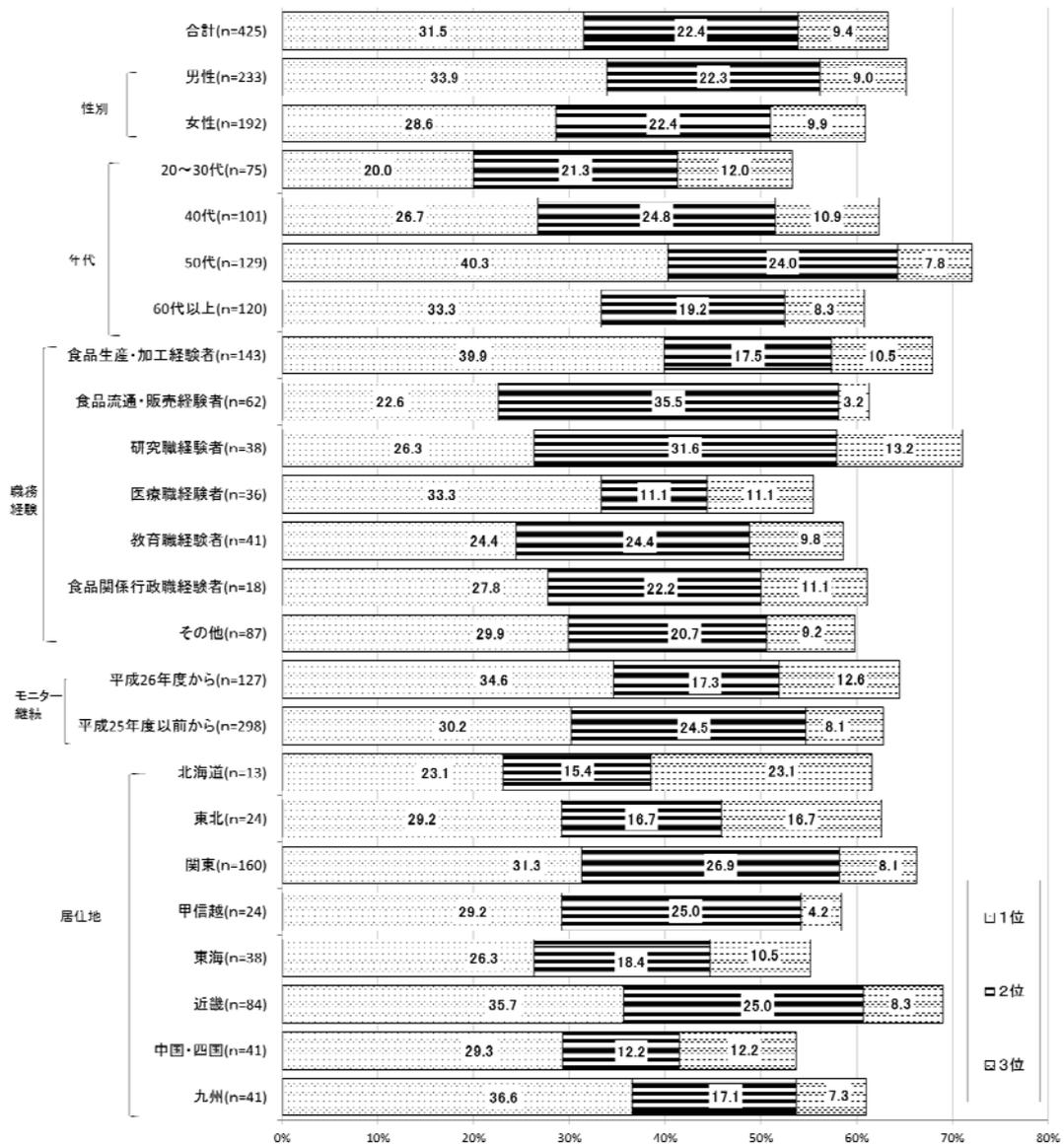
図表 9-2 よく利用する食品安全委員会からの情報源  
 (ホームページ(フェイスブック及びブログを除く)属性別)



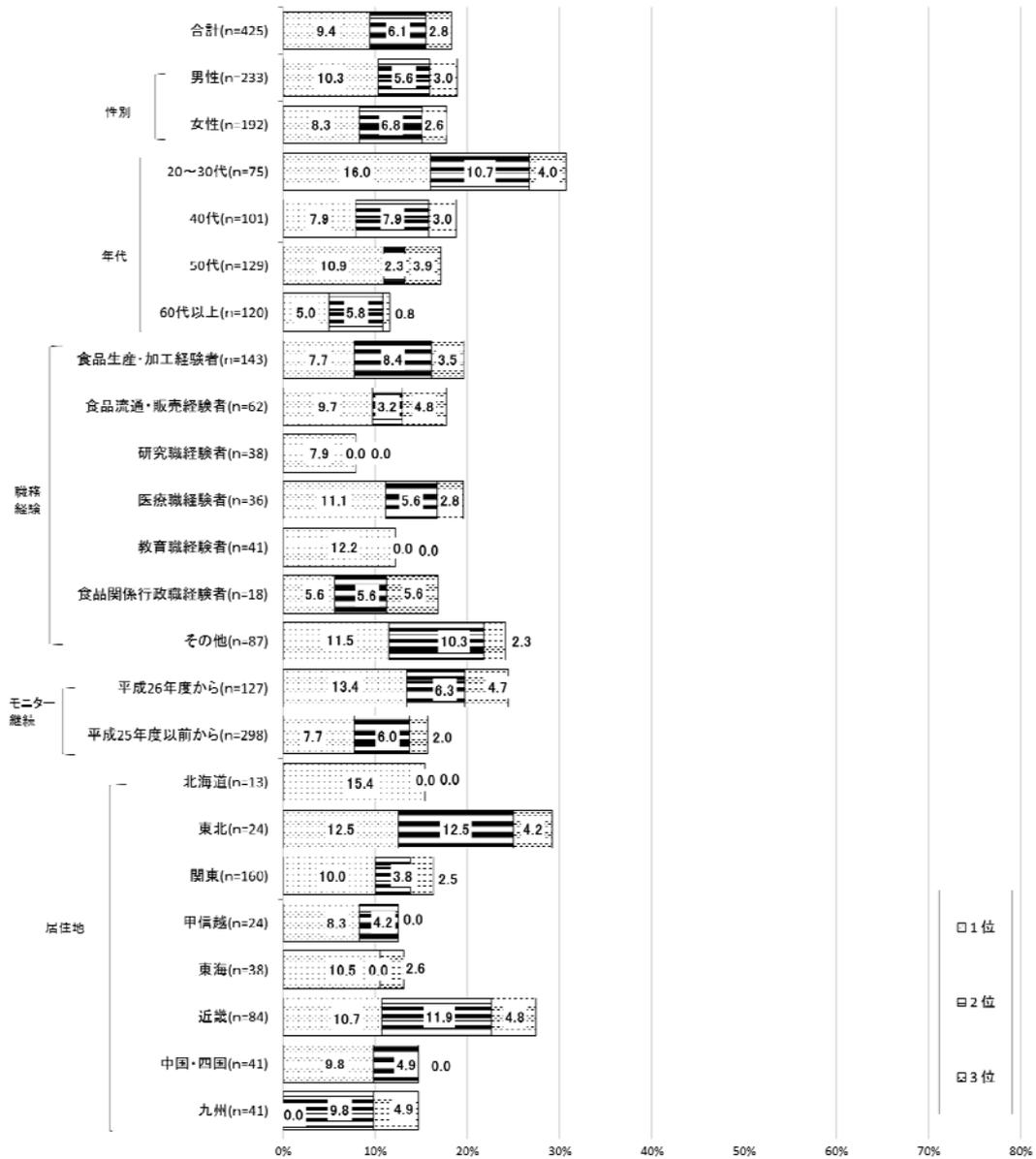
図表 9-3 よく利用する食品安全委員会からの情報源  
(季刊誌 属性別)



図表 9-4 よく利用する食品安全委員会からの情報源  
 (メールマガジン(ウィークリー版・原則毎週水曜日配信) 属性別)



図表 9-5 よく利用する食品安全委員会からの情報源  
(フェイスブック 属性別)

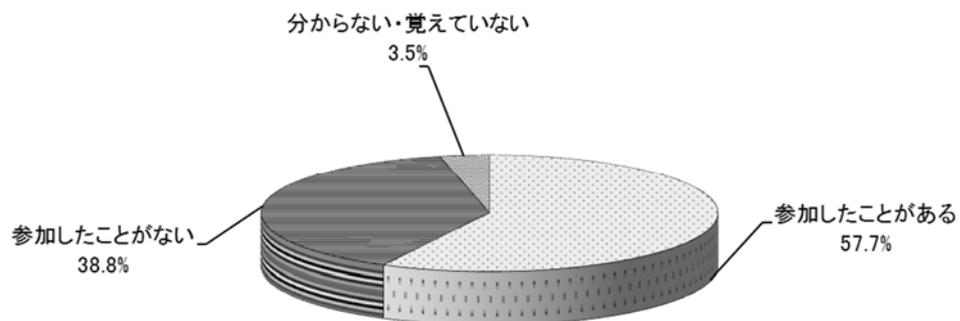


## 10.食品の安全についての意見交換会への参加（問 10）

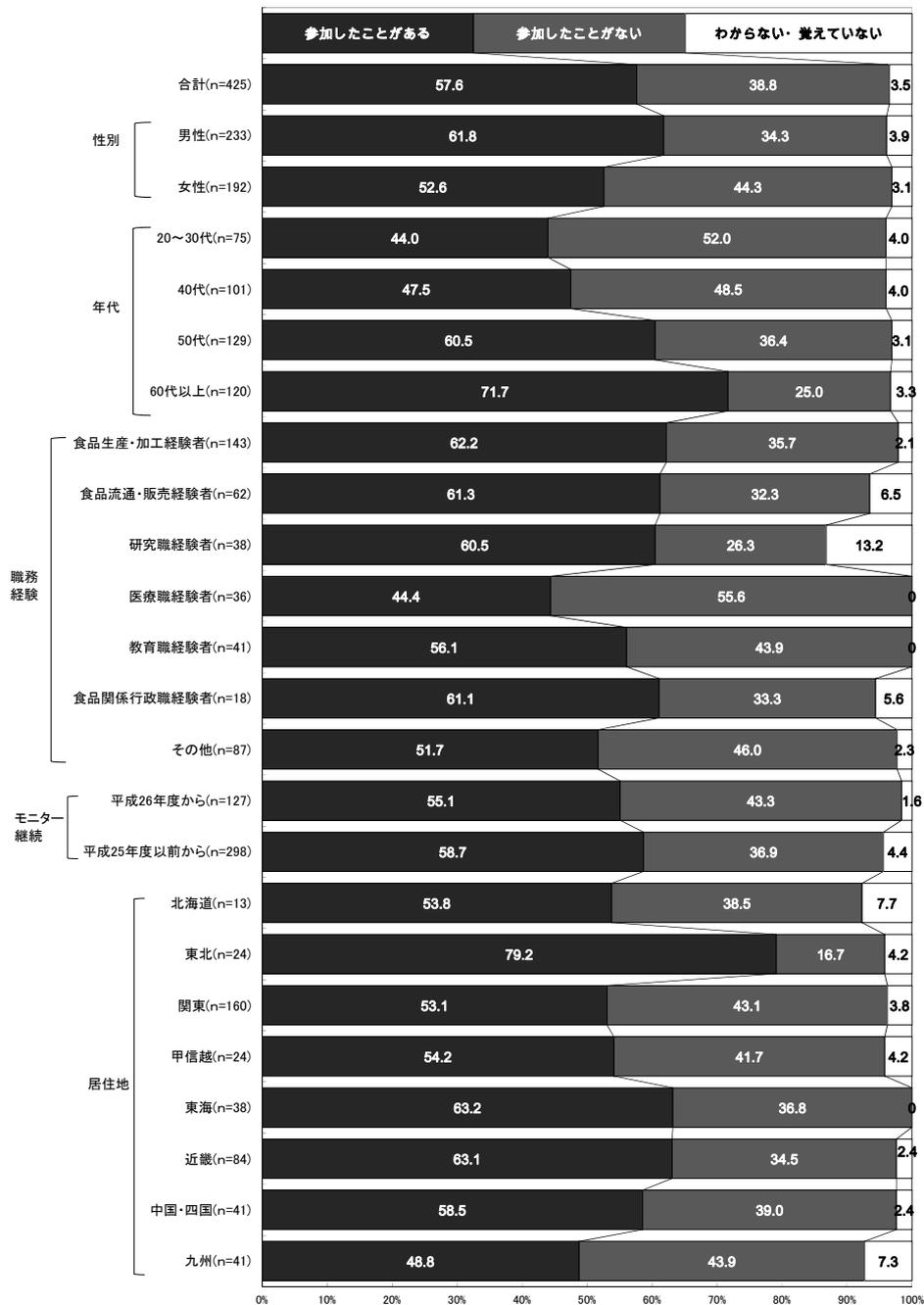
問 10 あなたは、食品安全委員会や地方自治体が主催した食品の安全についての意見交換会に参加したことがありますか。当てはまるものを選択肢 1～3 の中から 1 つ選んでください。

- 食品安全についての意見交換会への参加について尋ねたところ、「参加したことがある」が 57.7%で、「参加したことがない」が 38.8%であった。
- 「参加したことがある」とする割合は、年代別では、60 代以上のほうが他の年代に比べて有意に高い。
- 平成 20 年度調査では、「参加したことがある」が 50.1%であり、意見交換会への参加割合は増加している。

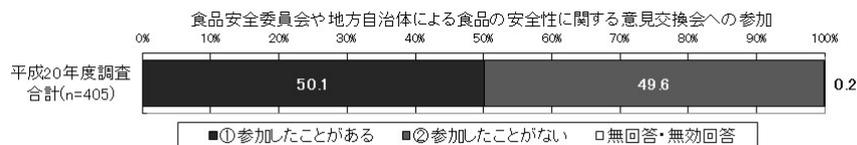
図表 10-1 食品の安全についての意見交換会への参加の有無（n=425）



図表 10-2 食品の安全についての意見交換会への参加の有無（属性別）



<参考>平成20年度調査



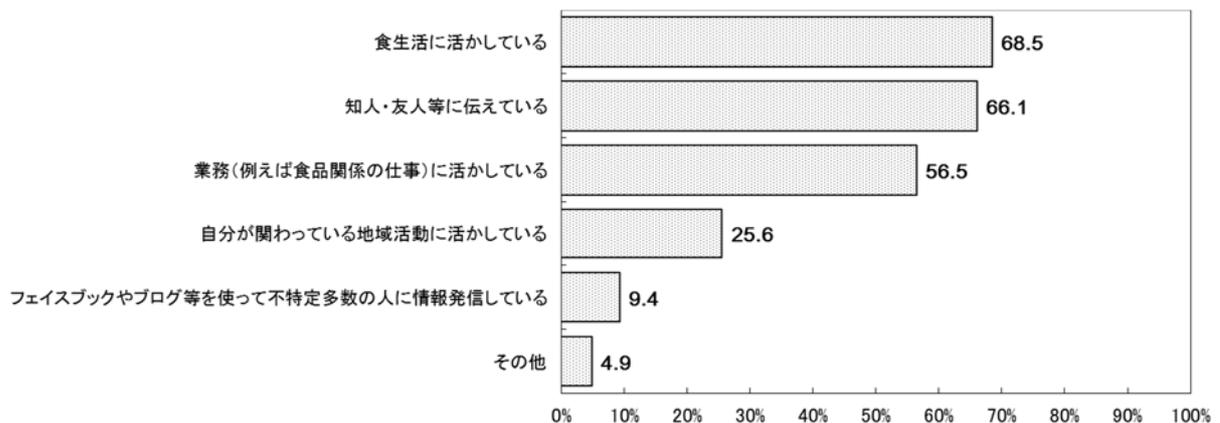
※今回調査と平成20年度調査における選択肢が一部異なることに留意。

## 11. 食品安全委員会から得た情報の活用方法（問 11）

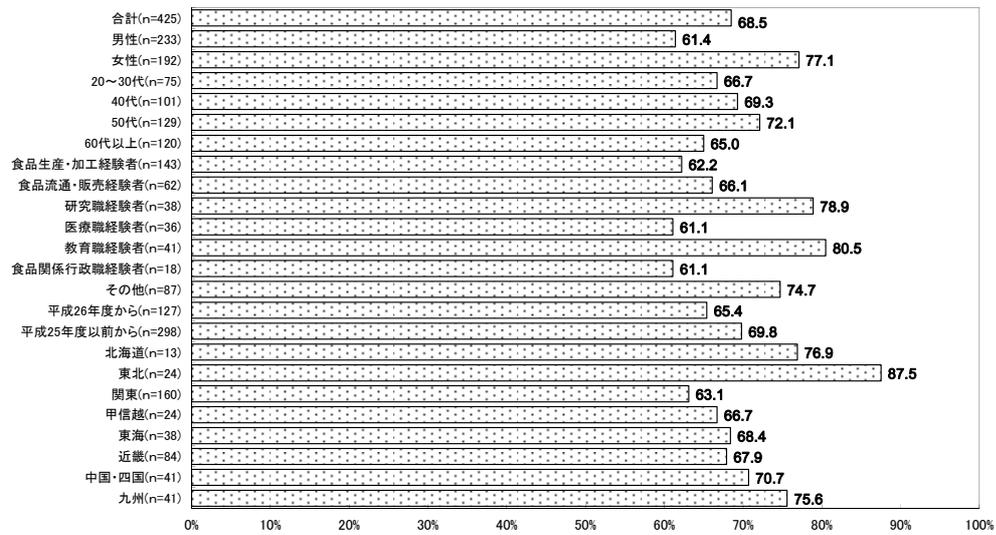
問 11 あなたは、食品安全委員会から得た情報について、どのように活用していますか。  
選択肢 1～6 の中から当てはまるものを全て選んでください。

- 食品安全委員会から得た情報の活用について尋ねたところ、「食生活に活かしている」が 68.5%で最も多く、次いで「知人・友人等に伝えている」が 66.1%、「業務（例えば食品関係の仕事等）に活かしている」が 56.5%であった。
- 「その他」の活用として「教育に活かしている」などがあつた。
- 平成 15、20 年度の同様の調査結果では、平成 15、20 年度ともに、1 位「積極的に知人・友人等に情報を伝える」、2 位「家庭における食生活を充実させる」、3 位「地域における様々な活動を通じて地域の人に情報を伝える」、4 位「現在の業務を通じて消費者に還元する」であった。今回調査と比較すると、地域活動で活かす（地域の人に情報を伝える）、との回答が減少している。

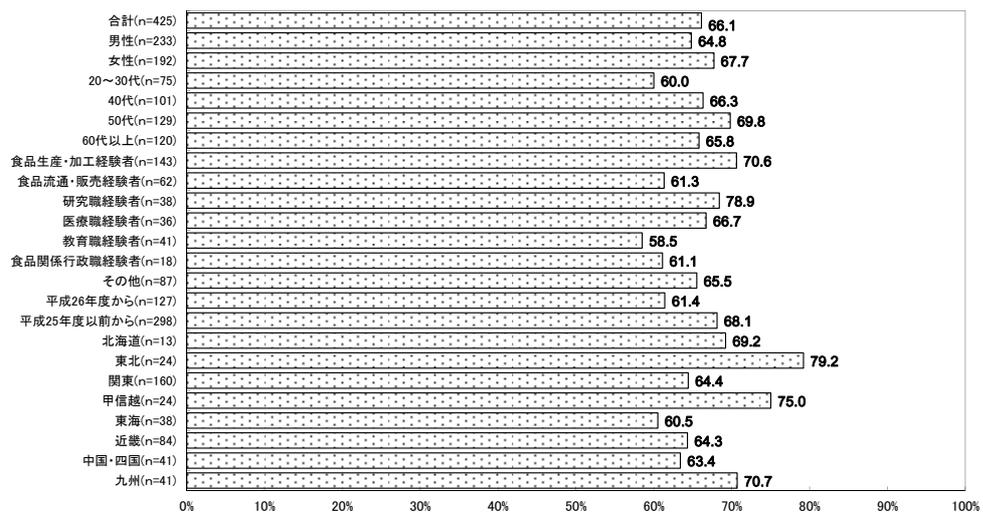
図表 11-1 食品安全委員会から得た情報の活用方法（n=425）



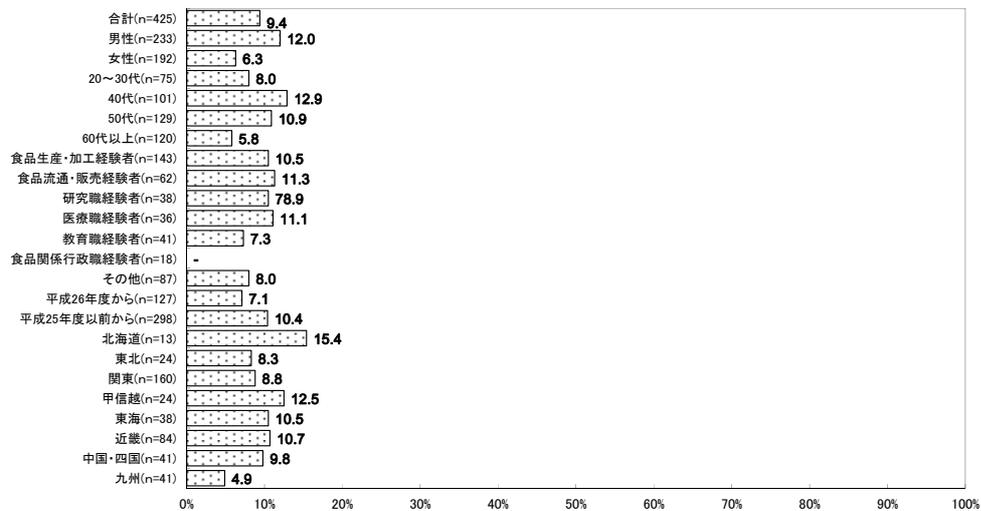
図表 11-2 食品安全委員会から得た情報の活用方法  
(食生活に活かしている)



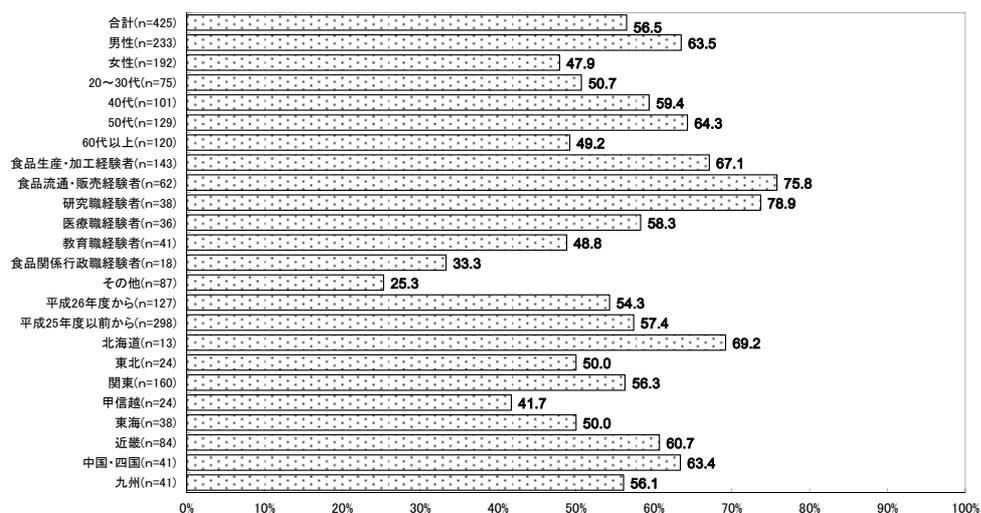
図表 11-3 食品安全委員会から得た情報の活用方法  
(知人・友人に伝えている)



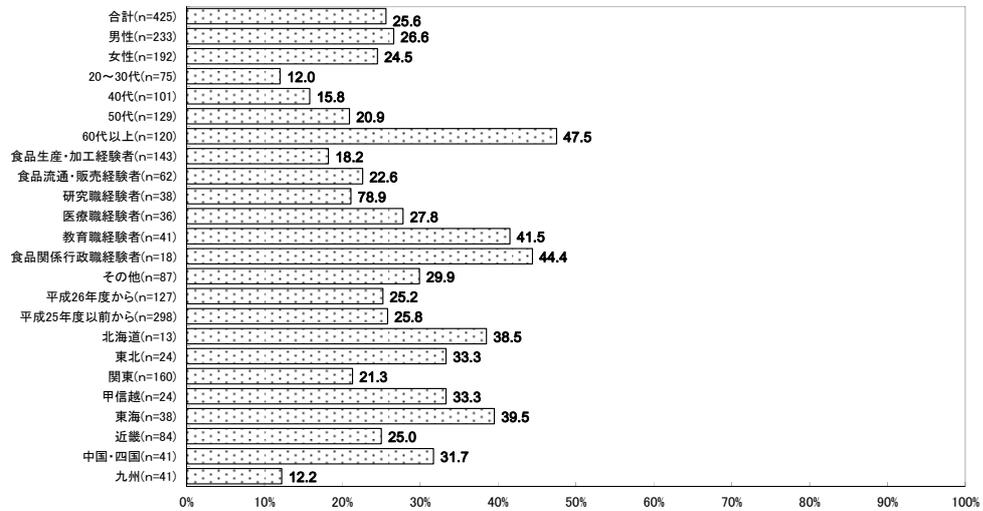
図表 11-4 食品安全委員会から得た情報の活用方法  
 (フェイスブックやブログ等を使って不特定多数の人に情報発信している)



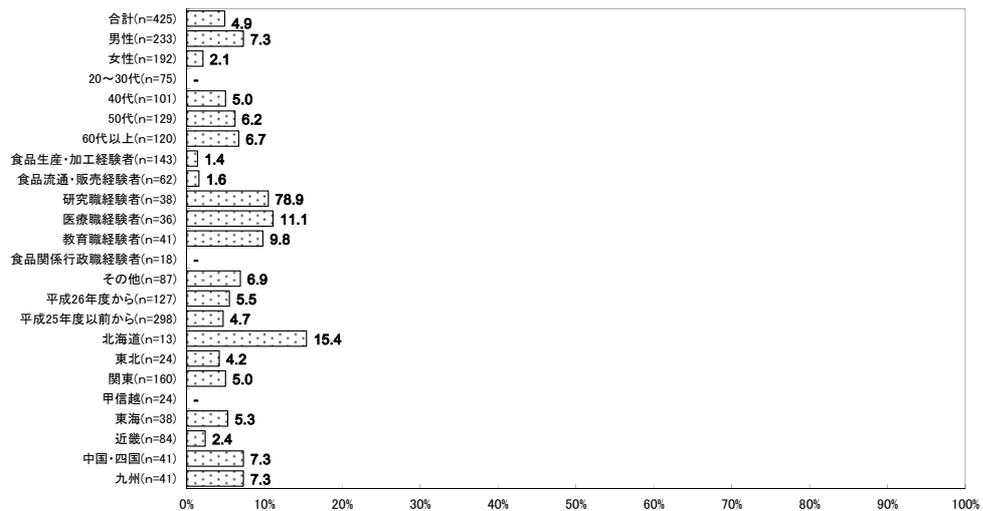
図表 11-5 食品安全委員会から情報の活用方法  
 (業務に活かしている)



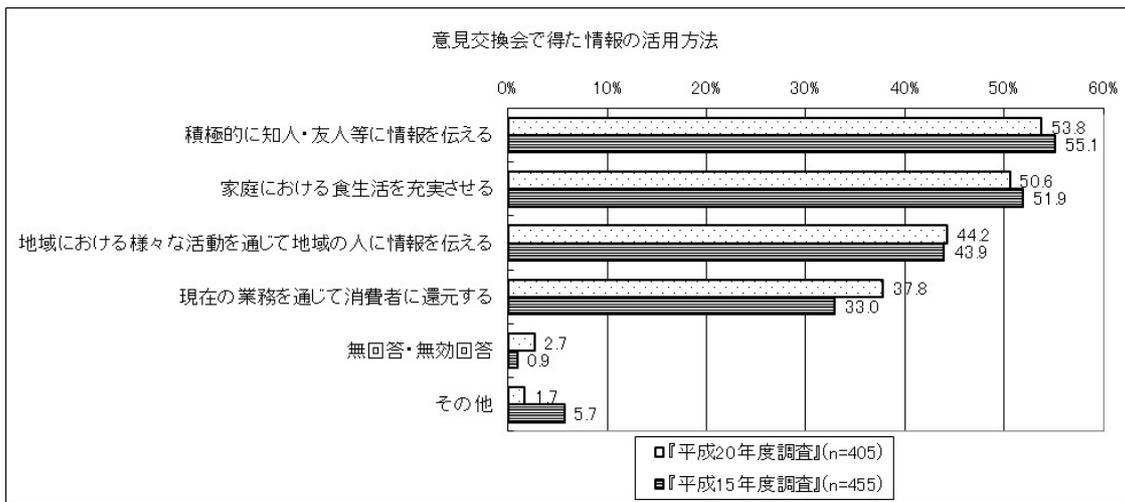
図表 11-6 食品安全委員会から得た情報の活用方法  
(地域活動に活かしている)



図表 11-7 食品安全委員会から得た情報の活用方法  
(その他)



＜参考＞意見交換会で得た情報の活用方法（平成15・20年度調査結果）



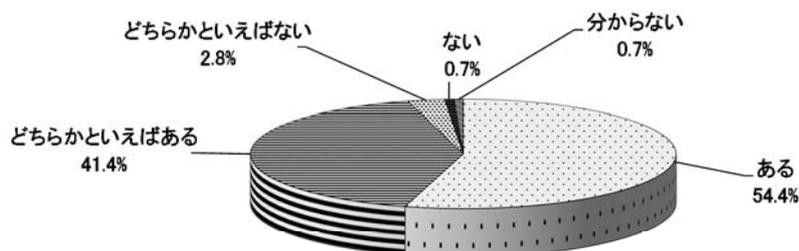
※平成15年度及び、20年度調査では、「意見交換会で得た情報などの活用」について、2つ以内で選択させた（今回調査では「食品安全委員会から得た情報の活用」について、当てはまるもの全てを選択させた）。

## 12.食品の安全性に関する認識のギャップ（問 12）

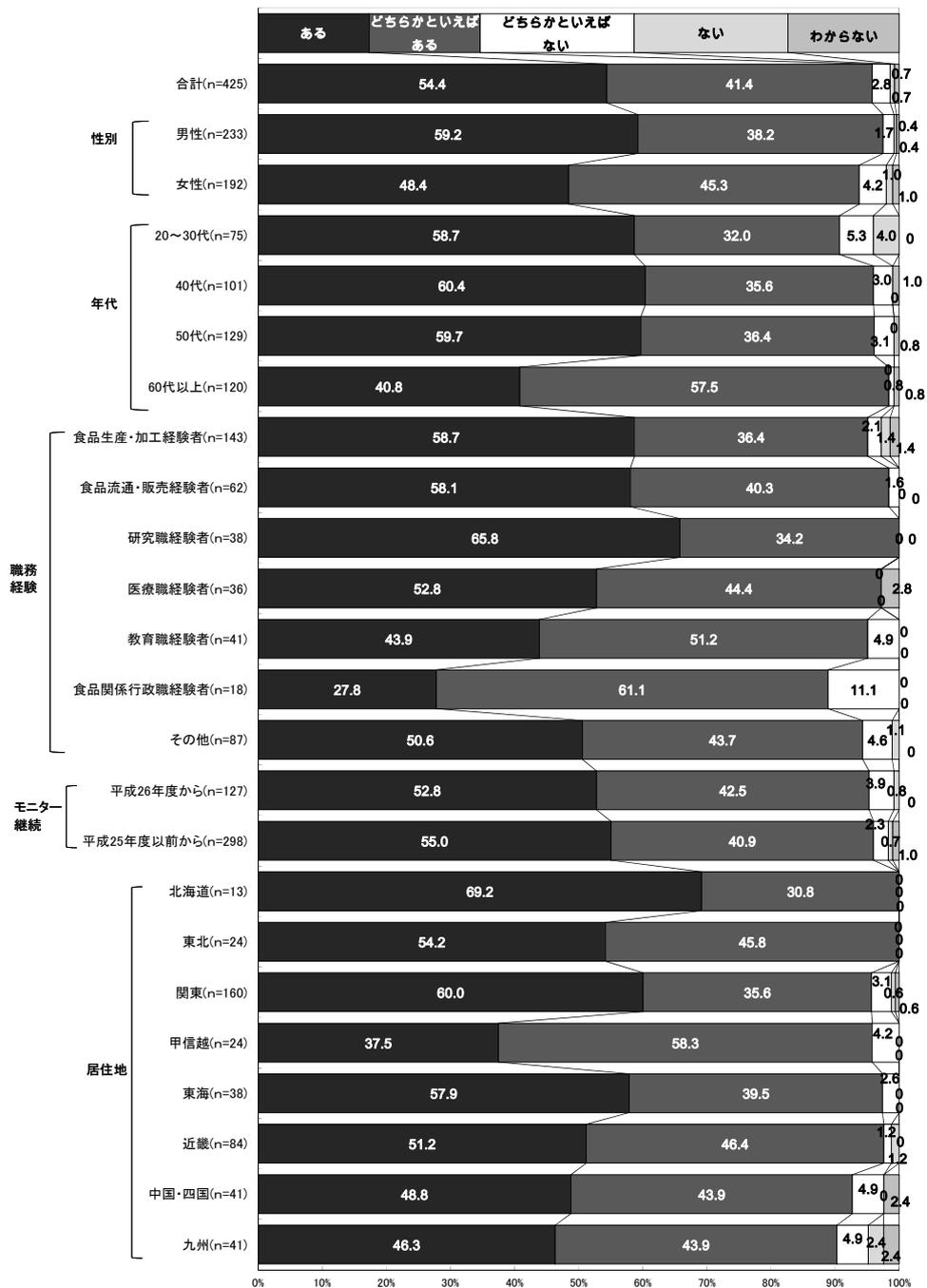
問 12 食品の安全性に関して、消費者等と科学者等の間で、認識のギャップがあるとされています。あなたは、こうしたギャップをどの程度感じたことがありますか。当てはまるものを選択肢 1～5 の中から 1 つ選んでください。

- 食品の安全性に関する、消費者等と科学者等の間での認識のギャップについて尋ねたところ、「ある」と「どちらかといえばある」の合計が 95.8%となった。
- ギャップが「ある」、「どちらかといえばある」を合わせた、ギャップがあるとする割合は、年代別では 20～30 代が 90.7%で、他の世代と比べて低い。
- 平成 20 年度調査では、「ある」と「若干ある」の合計が 92.3%であった。

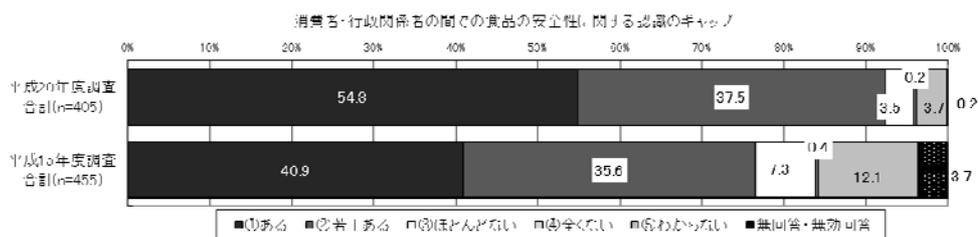
図表 12-1 消費者等と科学者等の間での食品の安全性に関する認識のギャップ（n=425）



図表 12-2 消費者等と科学者等の間での食品の安全性に関する認識のギャップ（属性別）



<参考>平成15年度及び平成20年度調査



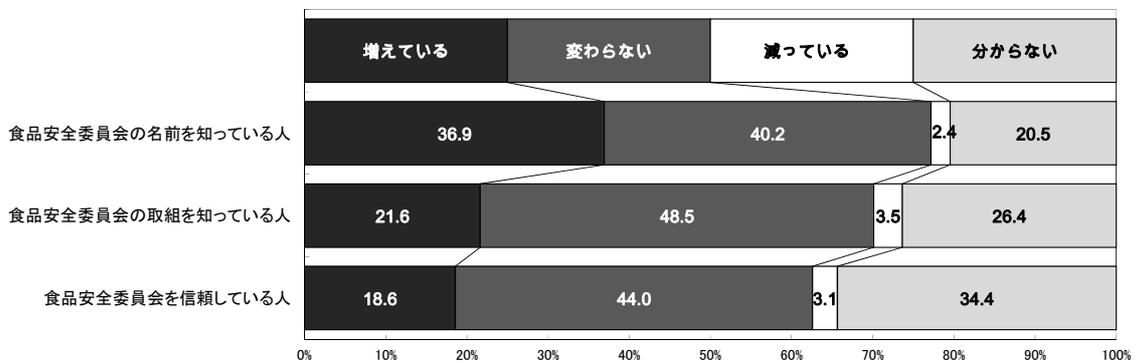
※今回調査と平成15・20年度調査における選択肢の文言が一部異なることに留意。

### 13.食品安全委員会に対する認識の変化（問13）

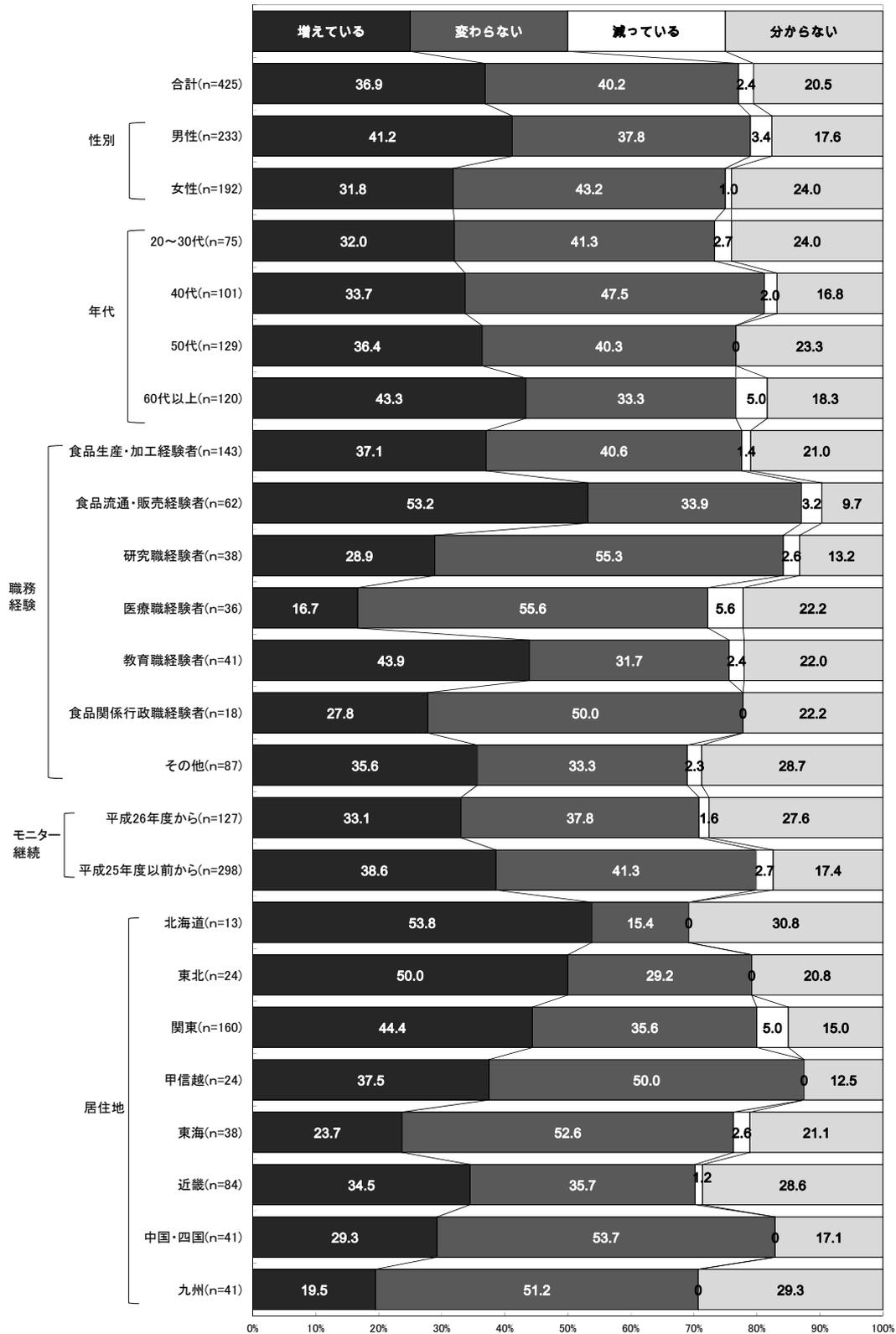
問13 食品安全委員会が発足して12年経ちましたが、あなたの周囲の方々の食品安全委員会についての認識に、変化があると思いますか。①～③のそれぞれについて、当てはまるものを選択肢1～4の中から1つずつ選んでください。

- 食品安全委員会に対する認識の変化について尋ねたところ、「食品安全委員会の名前を知っている人が増えている」が36.9%、「食品安全委員会の名前を知っている人は変わらない」が40.2%であった。
- 平成20年度調査では、「活動を含めて知っている人が増えている」(5.9%)、「名前を知っている人が増えている」(30.9%)であった。

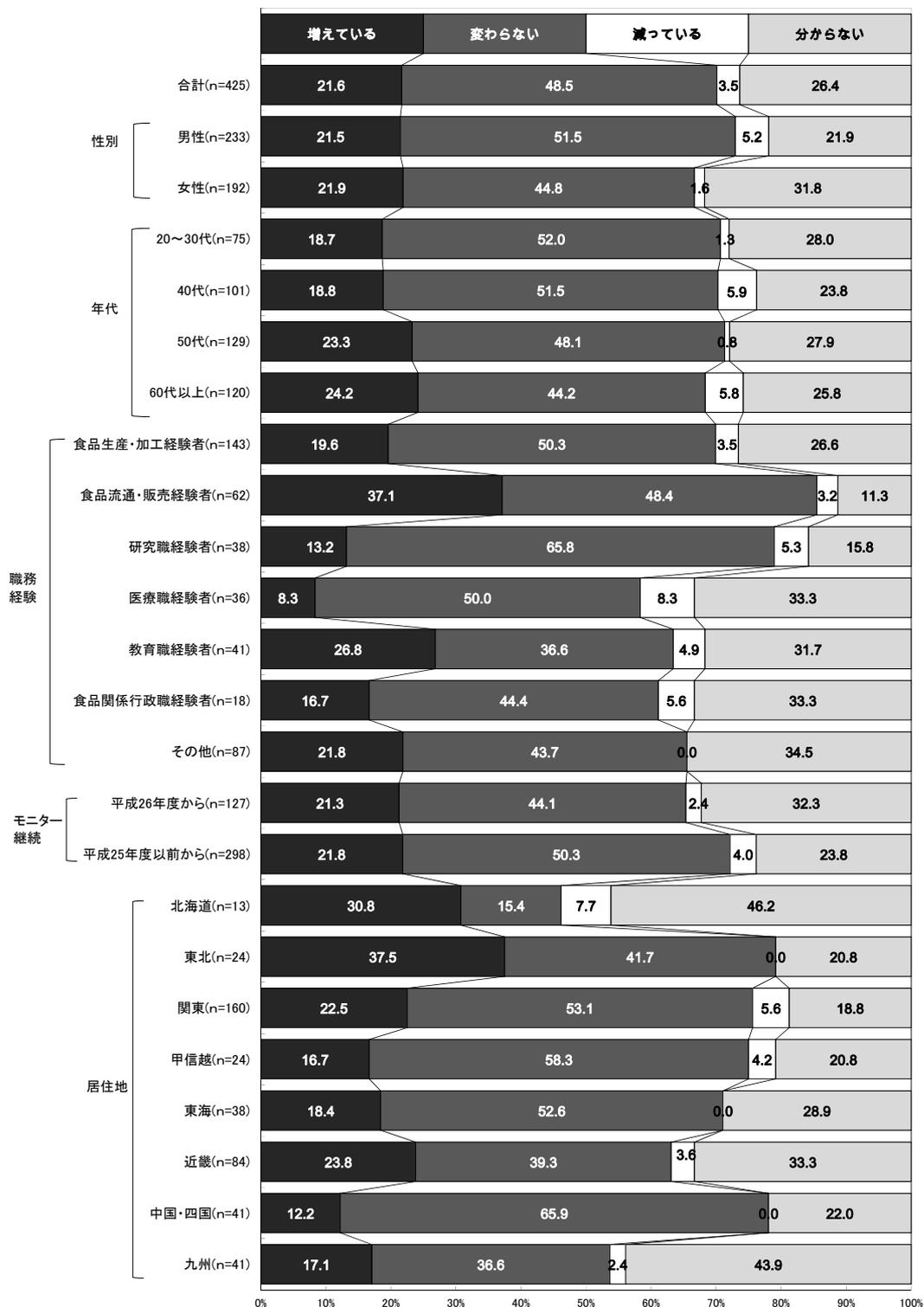
図表 13-1 周囲の食品安全委員会に対する認識の変化（n=425）



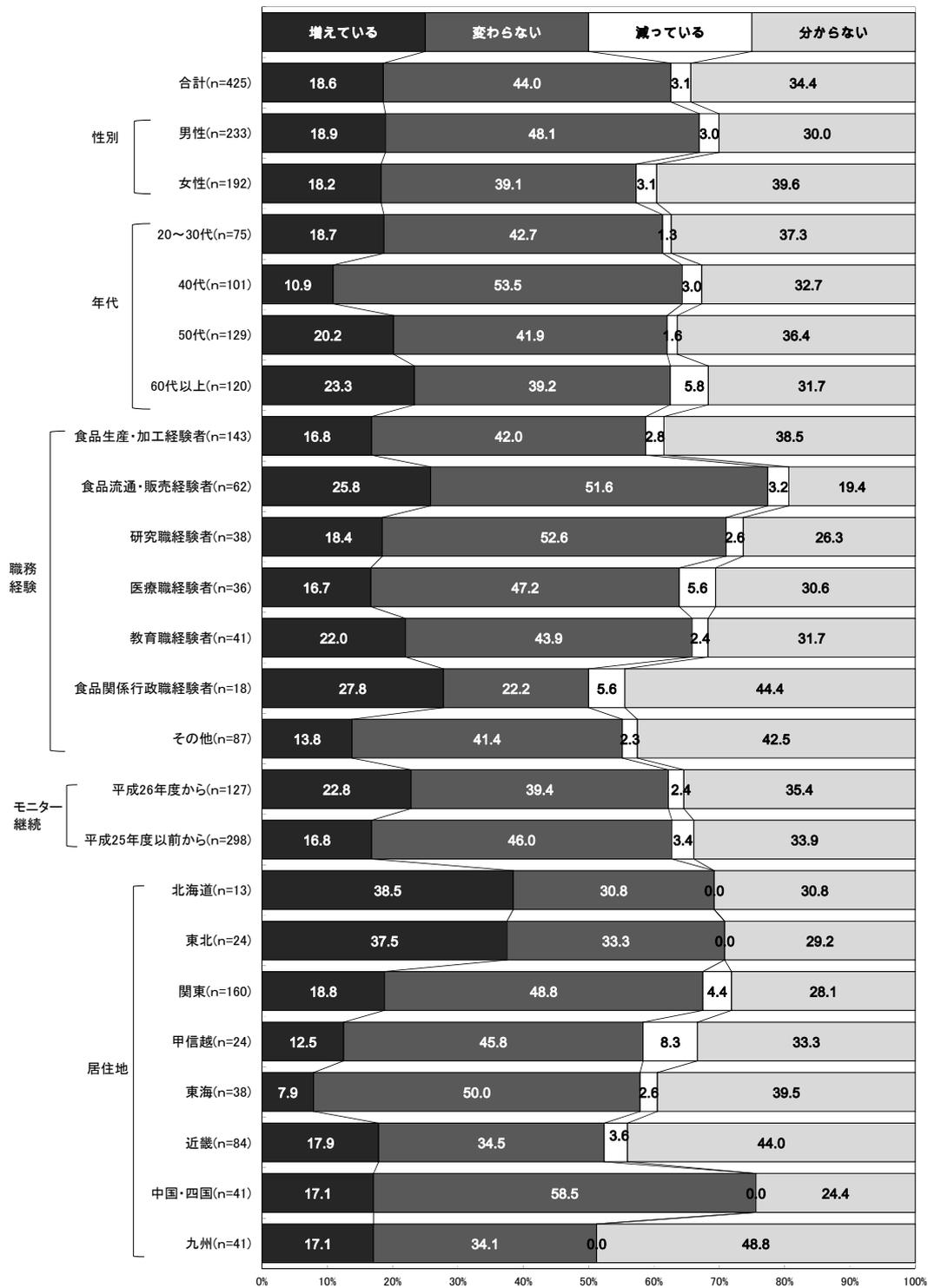
図表 13-2 周囲の食品安全委員会に対する認識の変化  
 (食品安全委員会の名前を知っている人の増減)



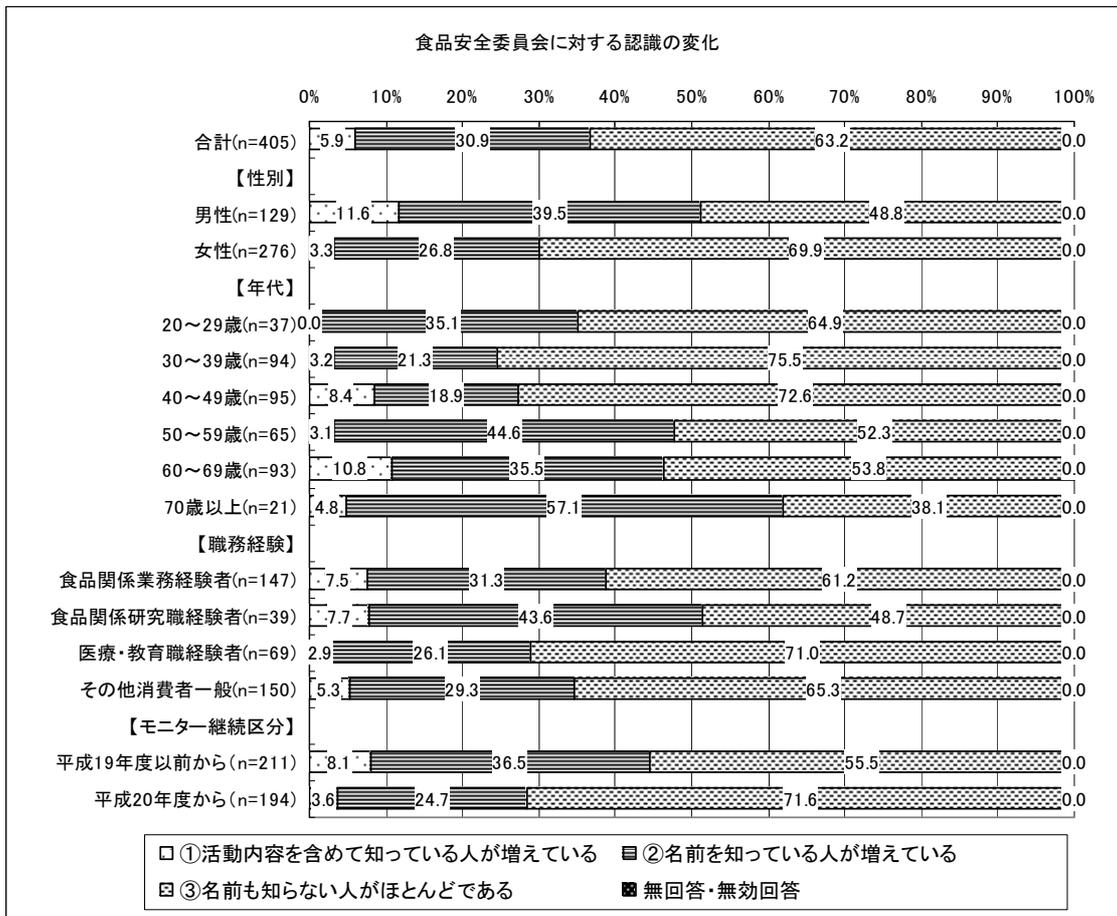
図表 13-3 周囲の食品安全委員会に対する認識の変化  
 (食品安全委員会の取組を知っている人の増減)



図表 13-4 周囲の食品安全委員会に対する認識の変化  
 (食品安全委員会を信頼している人の増減)



<参考> 周囲の食品安全委員会に対する認識の変化（平成20年度調査結果）



※今回調査と平成20年度調査においては質問方法が異なる。

### III. 最近の食品の安全性に関するトピックスについて

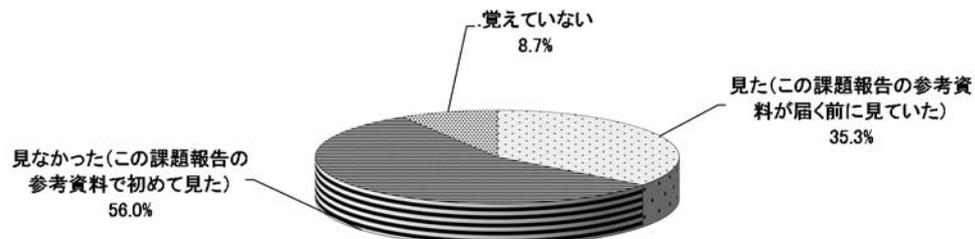
<加工肉・レッドミートに関する IARC（国際がん研究機関）の発表について>

#### 14. 食品安全委員会で発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の情報の閲覧状況（問 14）

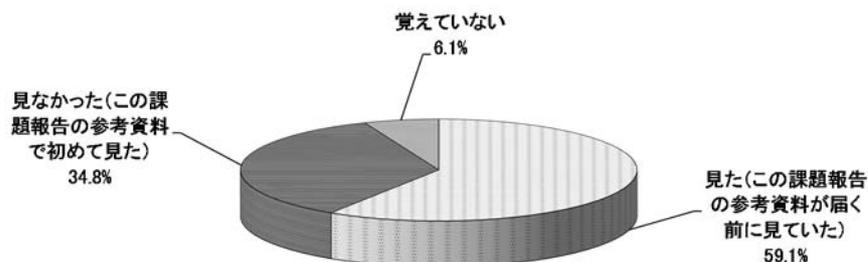
問 14 あなたは、食品安全委員会が発信した上記の情報（参考資料 1～2 を参照）を、この課題報告の参考資料としてお手元に届く前にご覧になりましたか。それぞれの媒体について、当てはまるものを選択肢 1～3 の中から 1 つずつ選んでください。

- 「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の情報の確認状況について尋ねたところ、フェイスブックを媒体とした場合は、「見た（この課題報告の参考資料が届く前に見ていた）」が 35.3%、「見なかった（この課題報告の参考資料で初めて見た）」が 56.0%であった。
- 一方、ホームページを媒体とした場合は、「見た（この課題報告の参考資料が届く前に見ていた）」が 59.1%、「見なかった（この課題報告の参考資料で初めて見た）」が 34.8%であった。
- 普段のフェイスブックの閲覧頻度が高い人（投稿の 8～10 割を見ている）では、フェイスブックを媒体とした情報を「見た」とする割合が 80%と、他の属性に比べて有意に高かった。

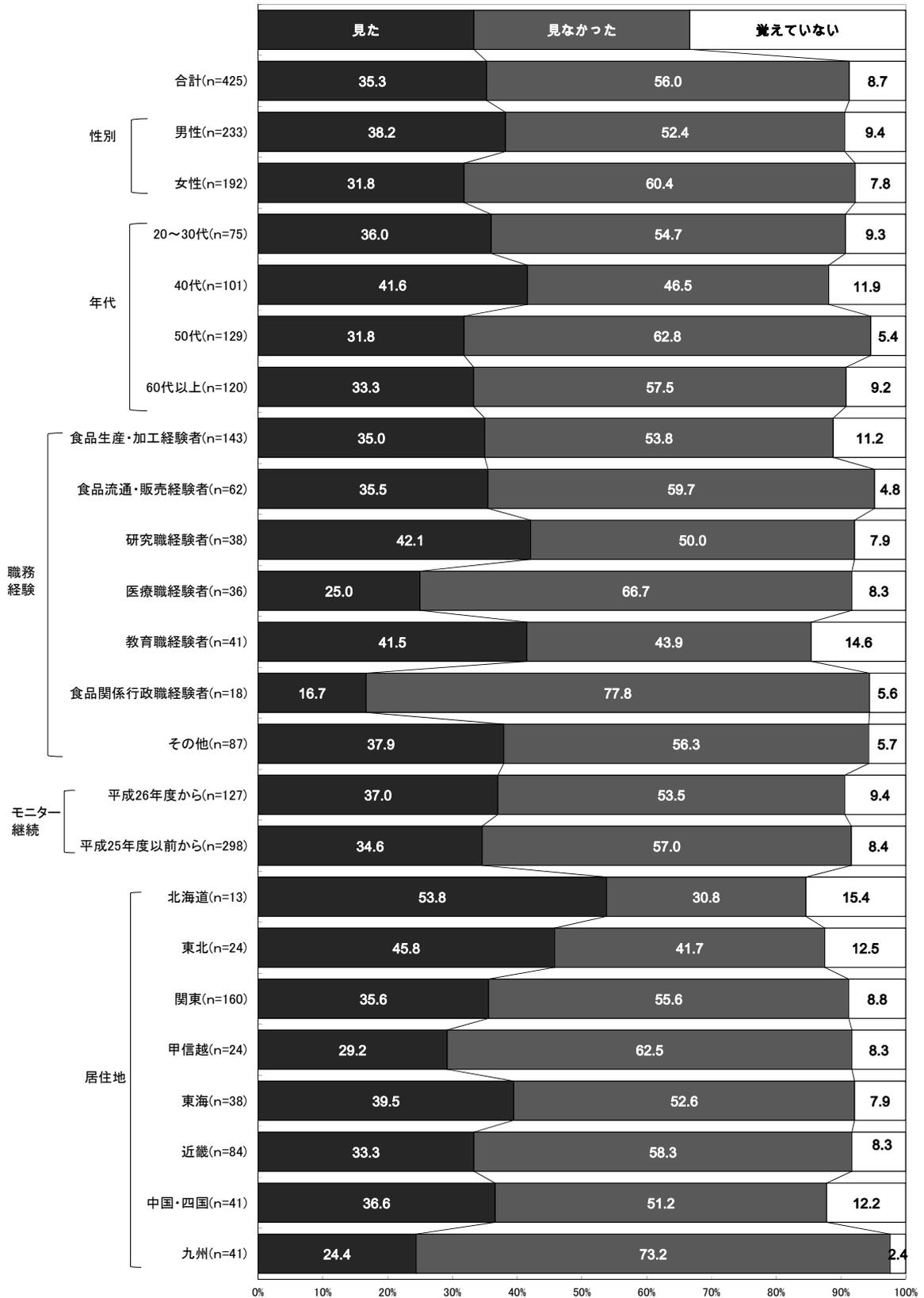
図表 14-1 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の情報の確認状況（媒体：フェイスブック）（n=425）



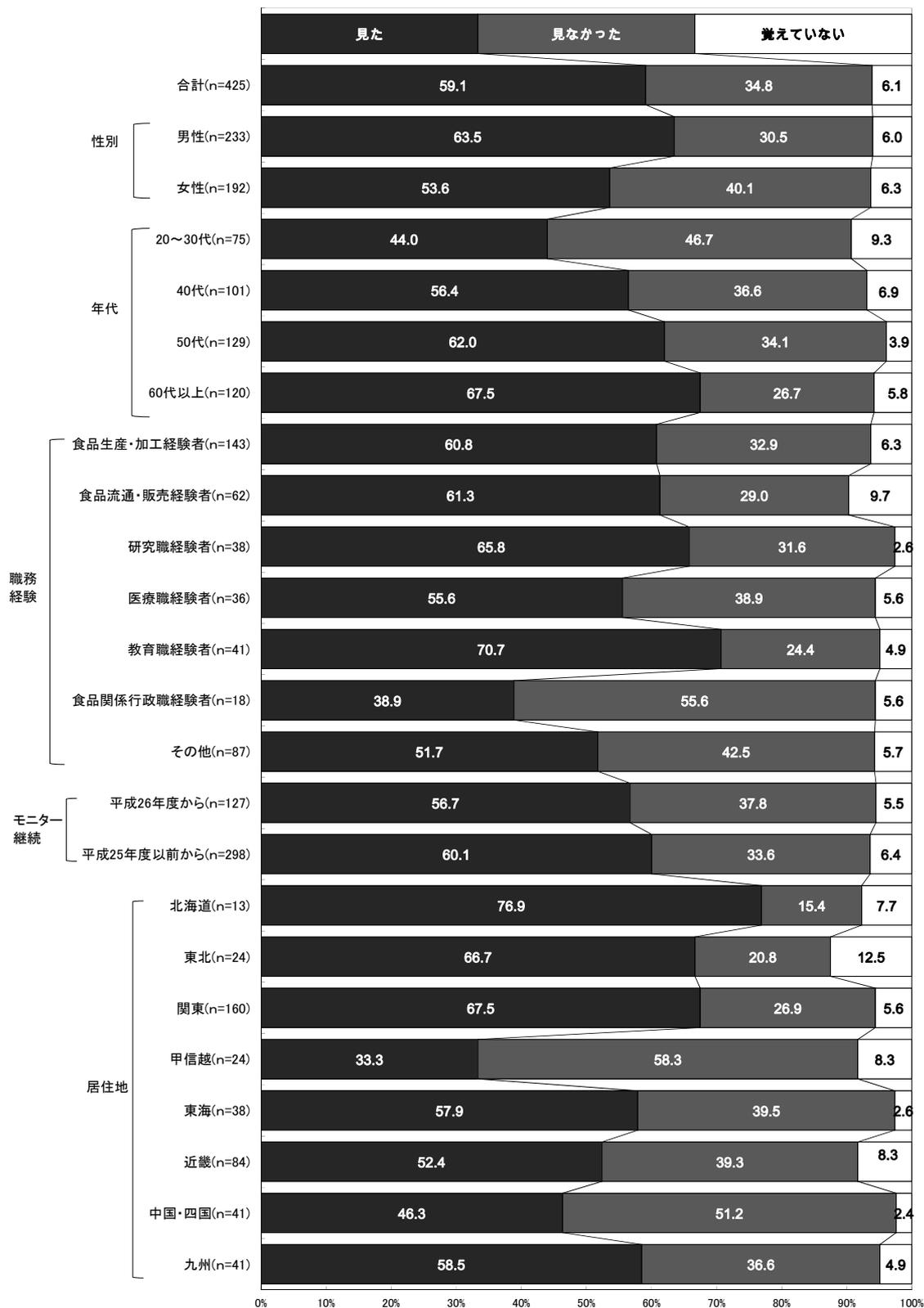
図表 14-2 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の情報の確認状況（媒体：ホームページ）（n=425）



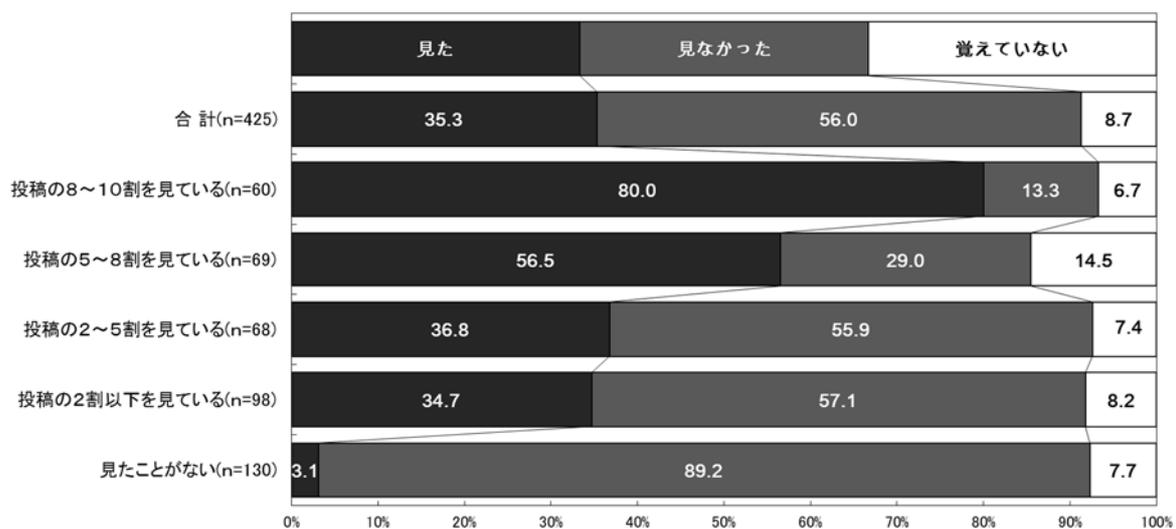
図表 14-3 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の情報の確認状況（媒体：フェイスブック 属性別）



図表 14-4 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の情報の確認状況（媒体：ホームページ 属性別）



図表 14-5 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の情報の確認状況（媒体：フェイスブックについて、普段のフェイスブックの閲覧状況 クロス集計）

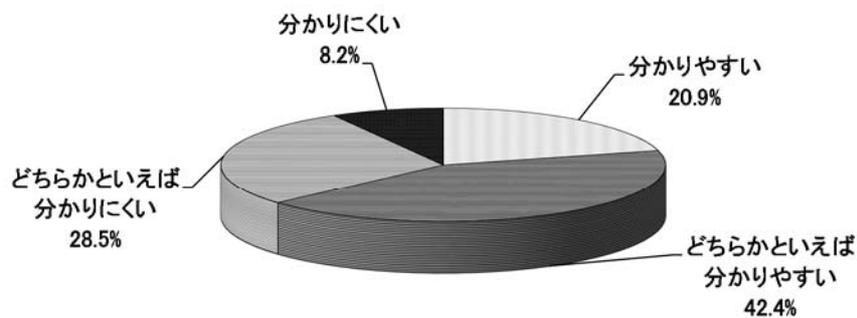


## 15.媒体別の「加工肉・レッドミートに関するIARCの発表について」の情報の評価(問15)

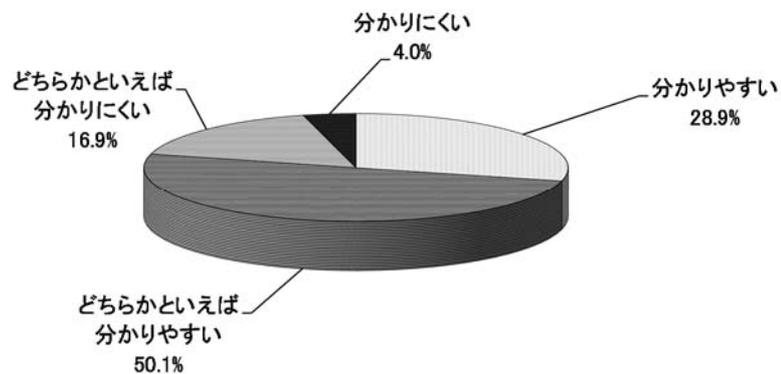
問15 上記の情報の評価について、媒体ごとに、当てはまるものを選択肢の1~4の中から1つずつ選んでください。問14で「2 見なかった」又は「3 覚えていない」を選んだ方は、参考資料1~2を読んでから回答してください。

- 媒体別の情報の評価について尋ねたところ、「分かりやすい」と「どちらかといえば分かりやすい」の合計は、フェイスブックでは63.3%、ホームページでは79.0%であった。

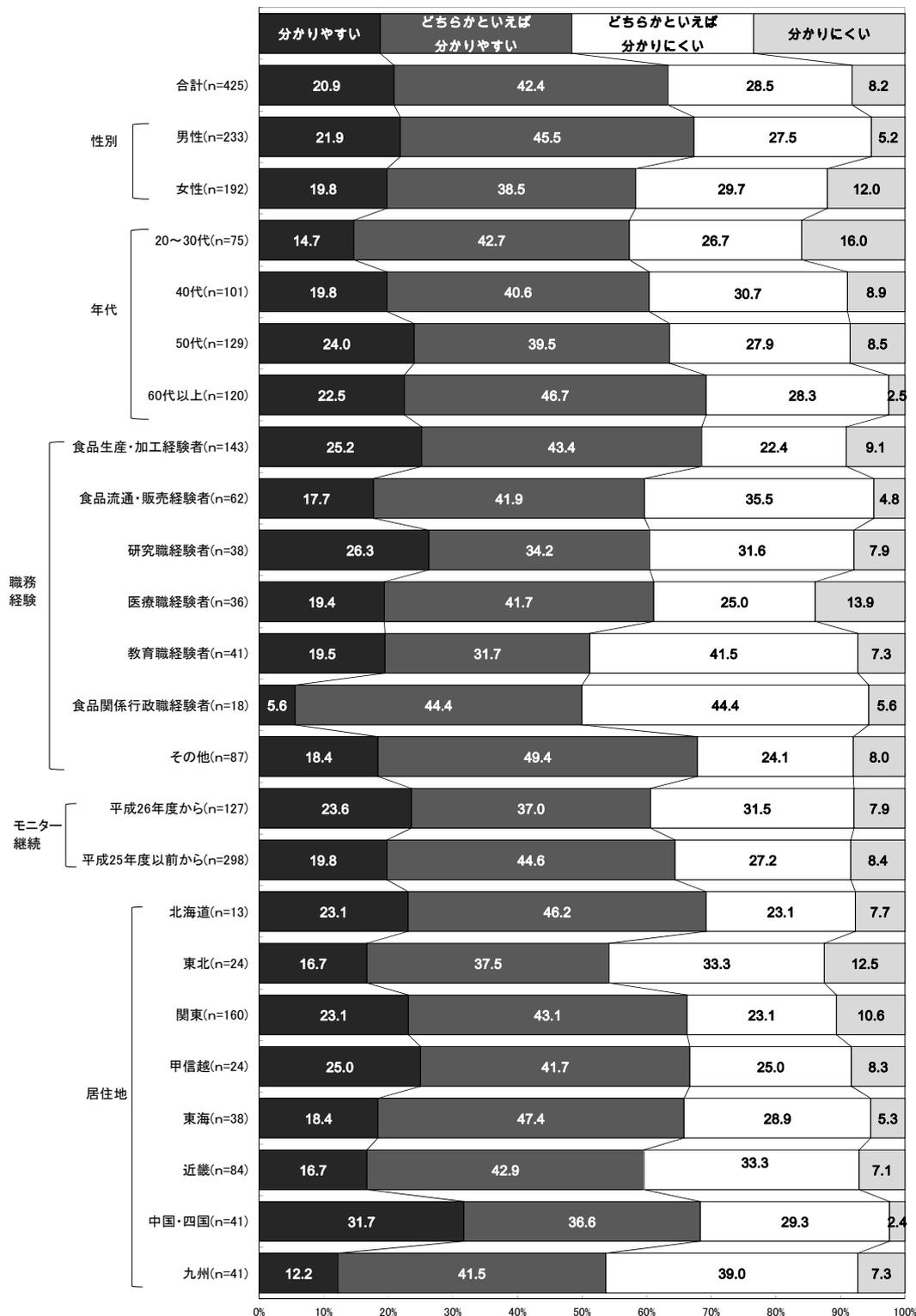
図表 15-1 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関するIARCの発表について」の情報の評価(媒体:フェイスブック)(n=425)



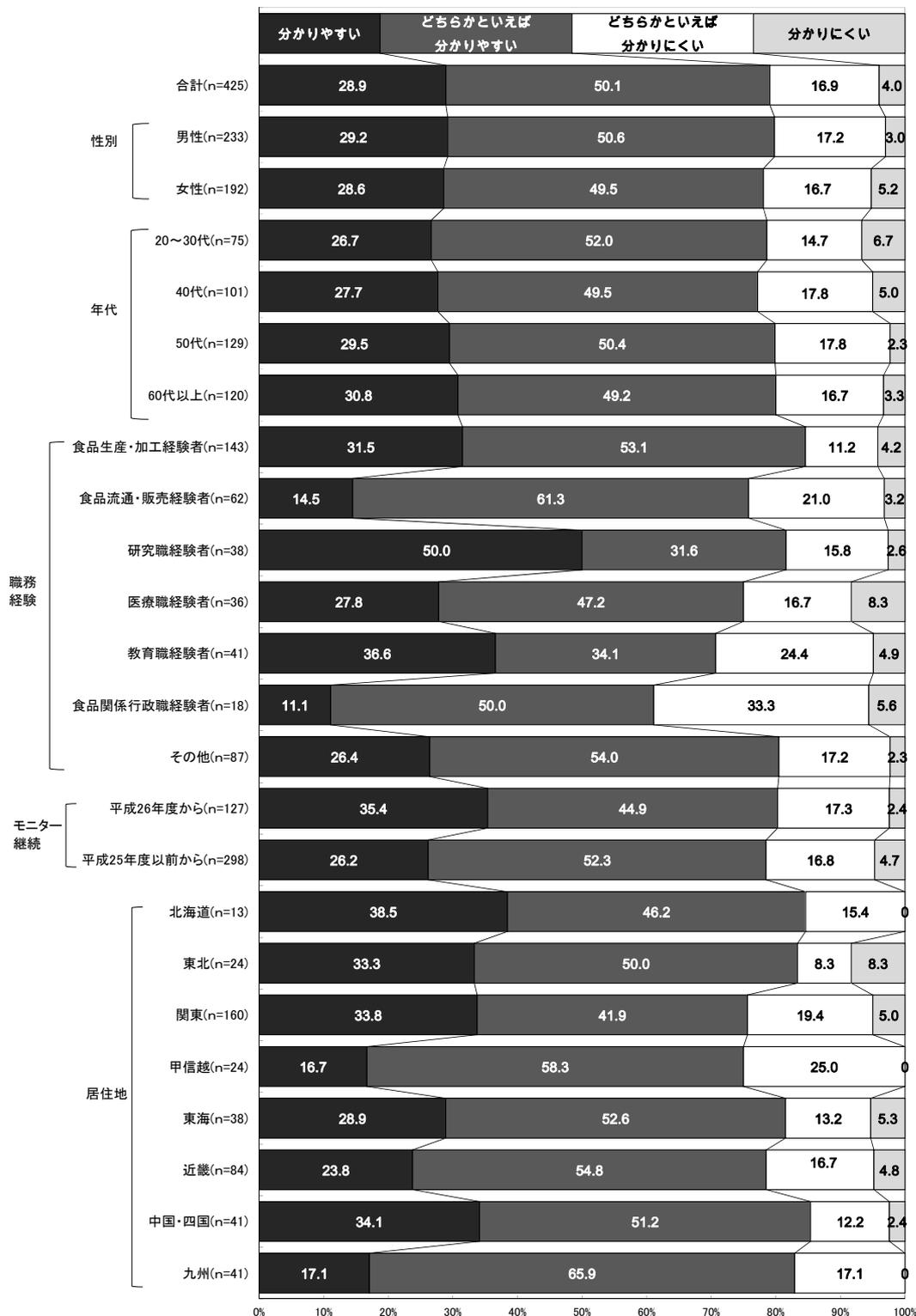
図表 15-2 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関するIARCの発表について」の情報の評価(媒体:ホームページ)(n=425)



図表 15-3 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の情報の評価（媒体：フェイスブック 属性別）



図表 15-4 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の情報の評価（媒体：ホームページ 属性別）

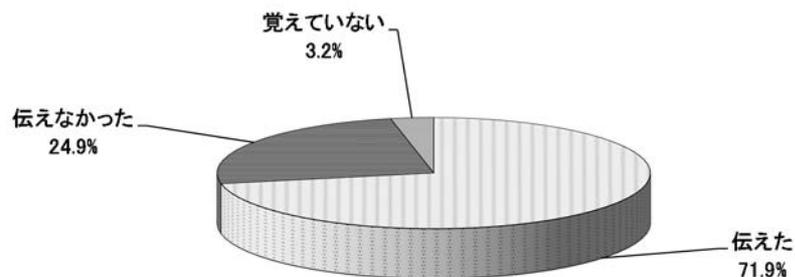


## 16. 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の、周囲への伝達状況(問 16)

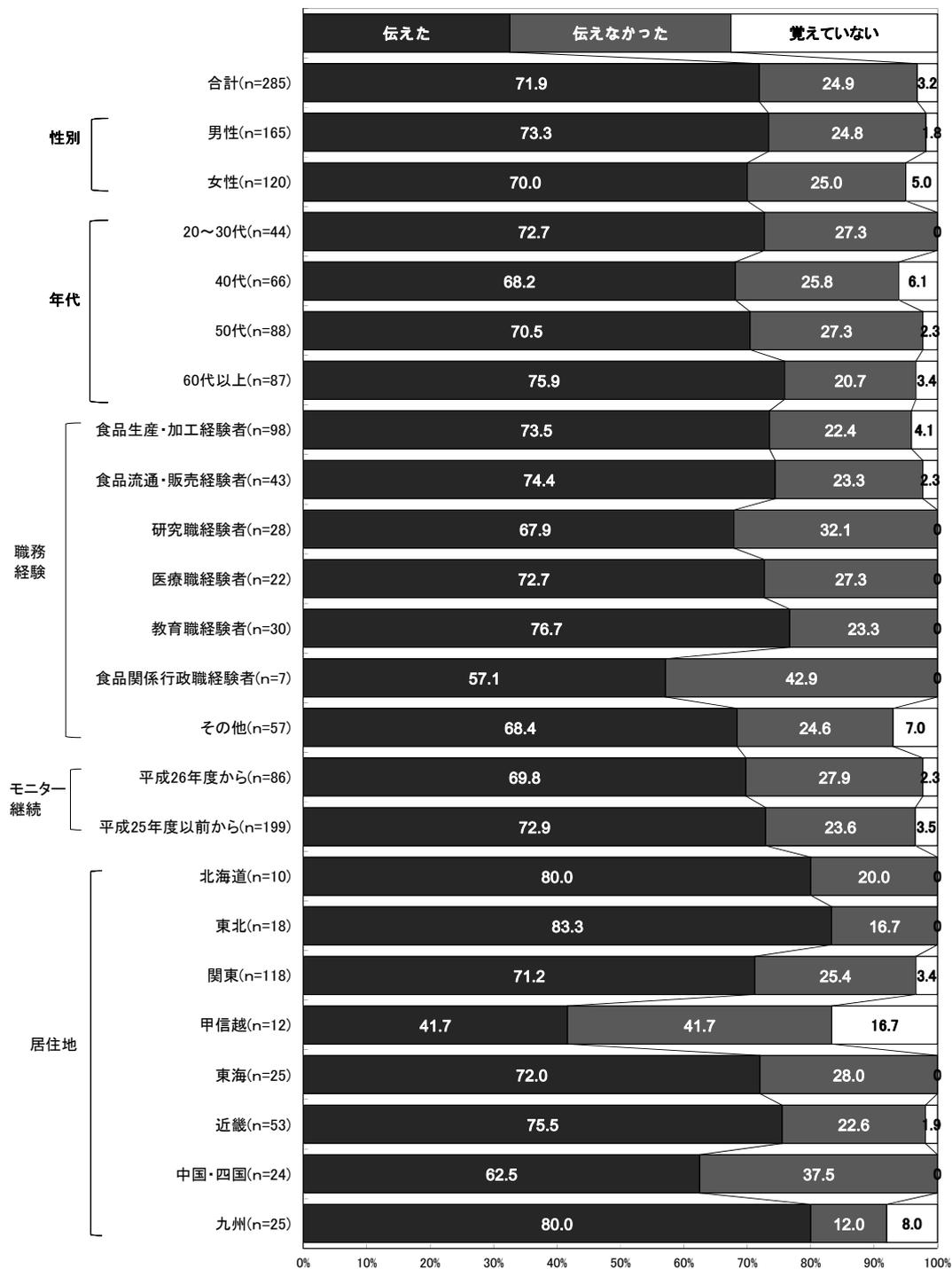
問 16 問 14 で、1 つでも「1 見た」を選んだ方にお聞きします。食品安全委員会が発信した上記の情報の内容について、あなたは周囲の人に伝えましたか（話すことのほか、メールやインターネット等を利用して伝えることも含みます）。当てはまるものを選択肢 1～3 の中から 1 つ選んでください。

- 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の、周囲への伝達状況について尋ねたところ、「伝えた」が 71.9%で、「伝えなかった」が 24.9%であった。
- フェイスブック、ホームページの両方を閲覧した人は「伝えた」の割合が 81.0%で、フェイスブックのみの閲覧(57.1%)やホームページのみの閲覧(66.4%)より高かった。

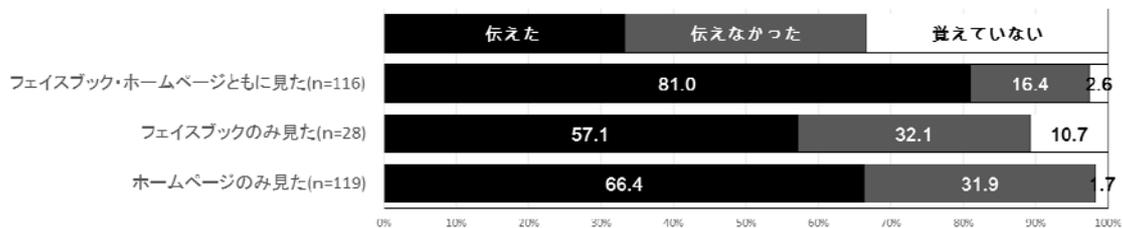
図表 16-1 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の、周囲への伝達状況 (n=285)



図表 16-2 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の、周囲への伝達状況（属性別）



図表 16-3 食品安全委員会が発信した「加工肉・レッドミートに関する IARC の発表について」の、周囲への伝達状況（媒体毎に「見た」人について、周囲への伝達状況のクロス集計）



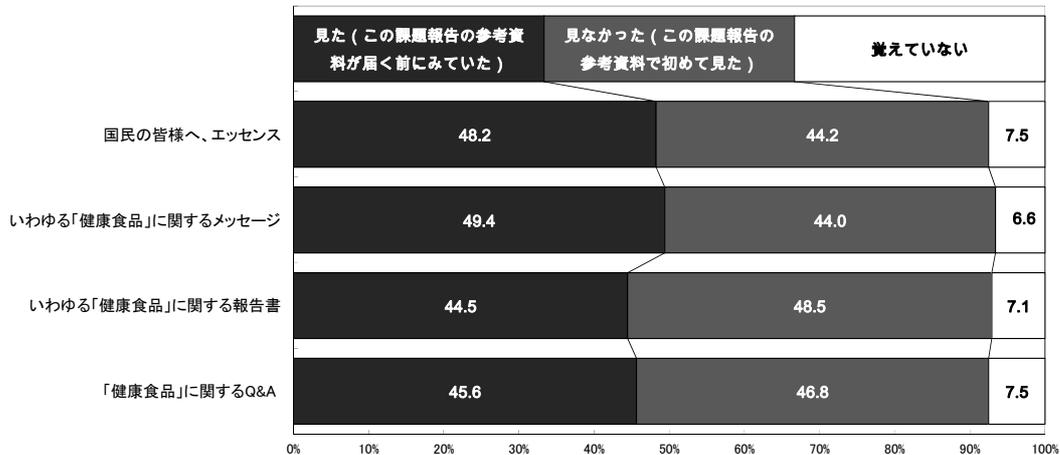
## <「健康食品」について>

### 17. 食品安全委員会が発信した「健康食品」についての閲覧状況(問 17)

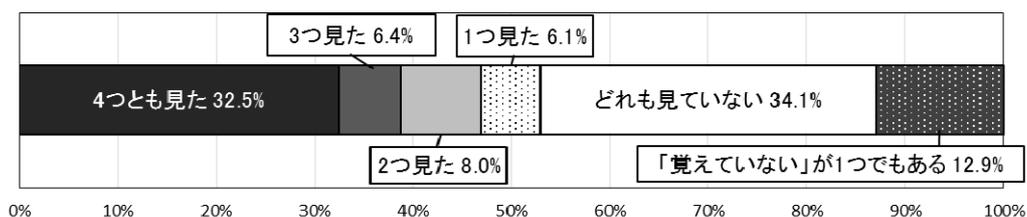
問 17 あなたは、「健康食品」についてこの度食品安全委員会がまとめた下記の資料を、この課題報告の資料としてお手元に届く前にご覧になりましたか。それぞれの資料について、当てはまるものを選択肢 1~3 の中から 1 つずつ選んでください。

- 食品安全委員会が発信した「健康食品」についての閲覧状況を尋ねたところ、【資料：国民の皆様へ、エッセンス】では、「見た（この課題報告の参考資料が届く前に見ていた）」が 48.2%、「見なかった（この課題報告の参考資料で初めて見た）」が 44.2%であった。
- 【資料：いわゆる「健康食品」に関するメッセージ】では、「見た（この課題報告の参考資料が届く前に見ていた）」が 49.4%、「見なかった（この課題報告の参考資料で初めて見た）」が 44.0%であった。
- 【資料：いわゆる「健康食品」に関する報告書】では、「見た（この課題報告の参考資料が届く前に見ていた）」が 44.5%、「見なかった（この課題報告の参考資料で初めて見た）」が 48.5%であった。
- 【資料：「健康食品」に関する Q&A】では、「見た（この課題報告の参考資料が届く前に見ていた）」が 45.6%、「見なかった（この課題報告の参考資料で初めて見た）」が 46.8%であった。

図表 17-1 食品安全委員会が発信した「健康食品」についての閲覧状況 (n=425)

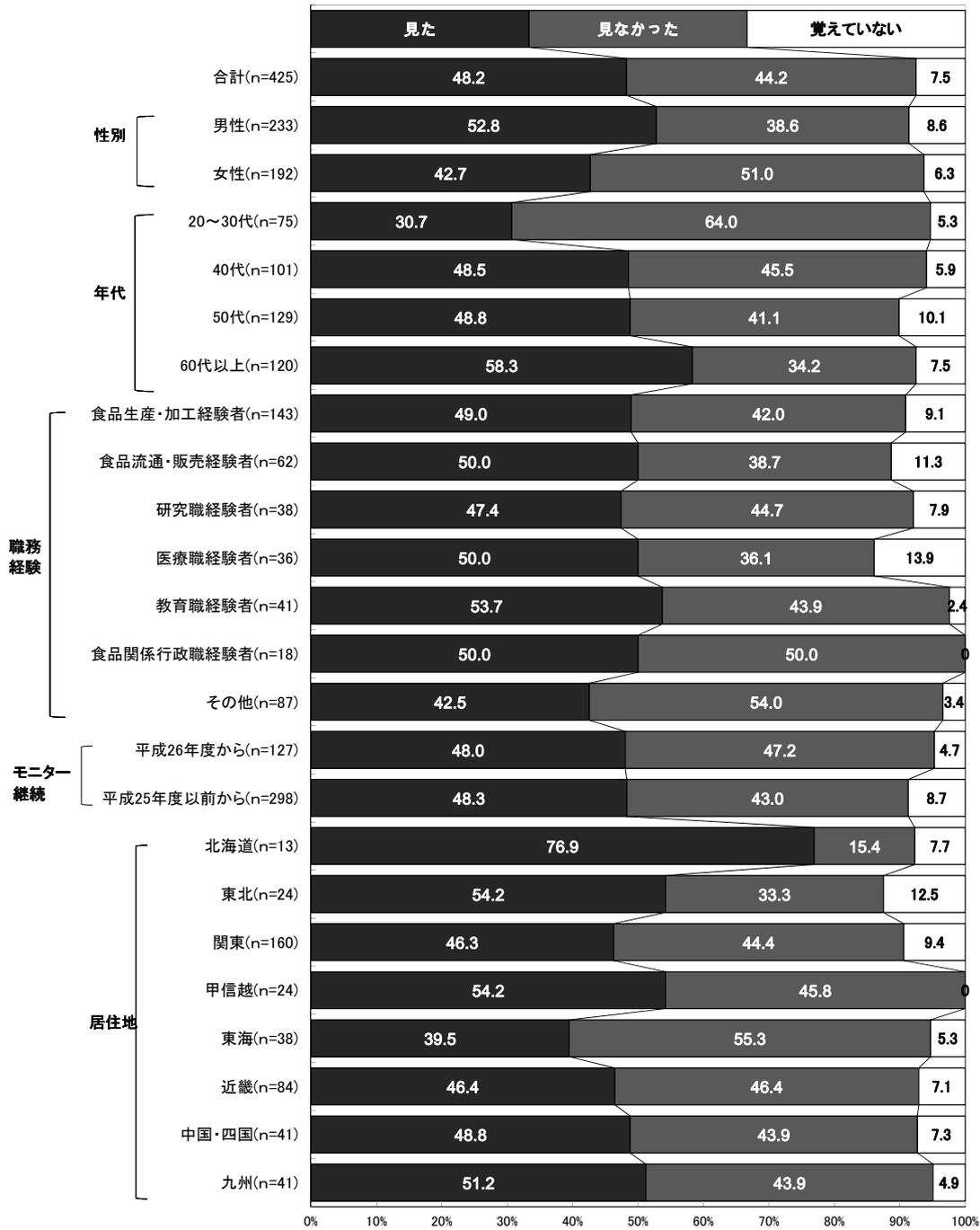


図表 17-2 「健康食品」についての資料を閲覧した数 (クロス集計) (n=425)



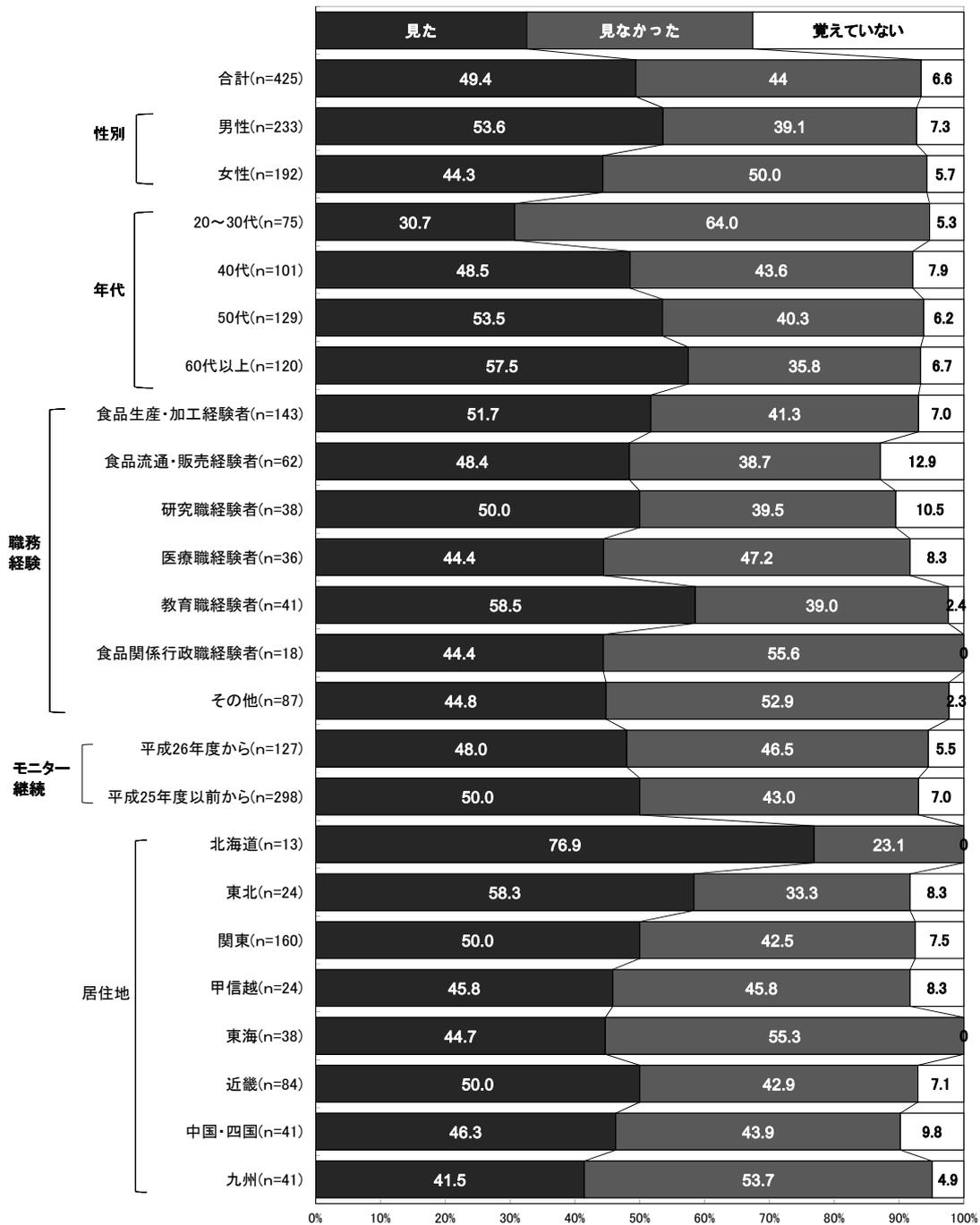
図表 17-3 食品安全委員会が発信した「健康食品」についての閲覧状況

【資料：国民の皆様へ、エッセンス 属性別】



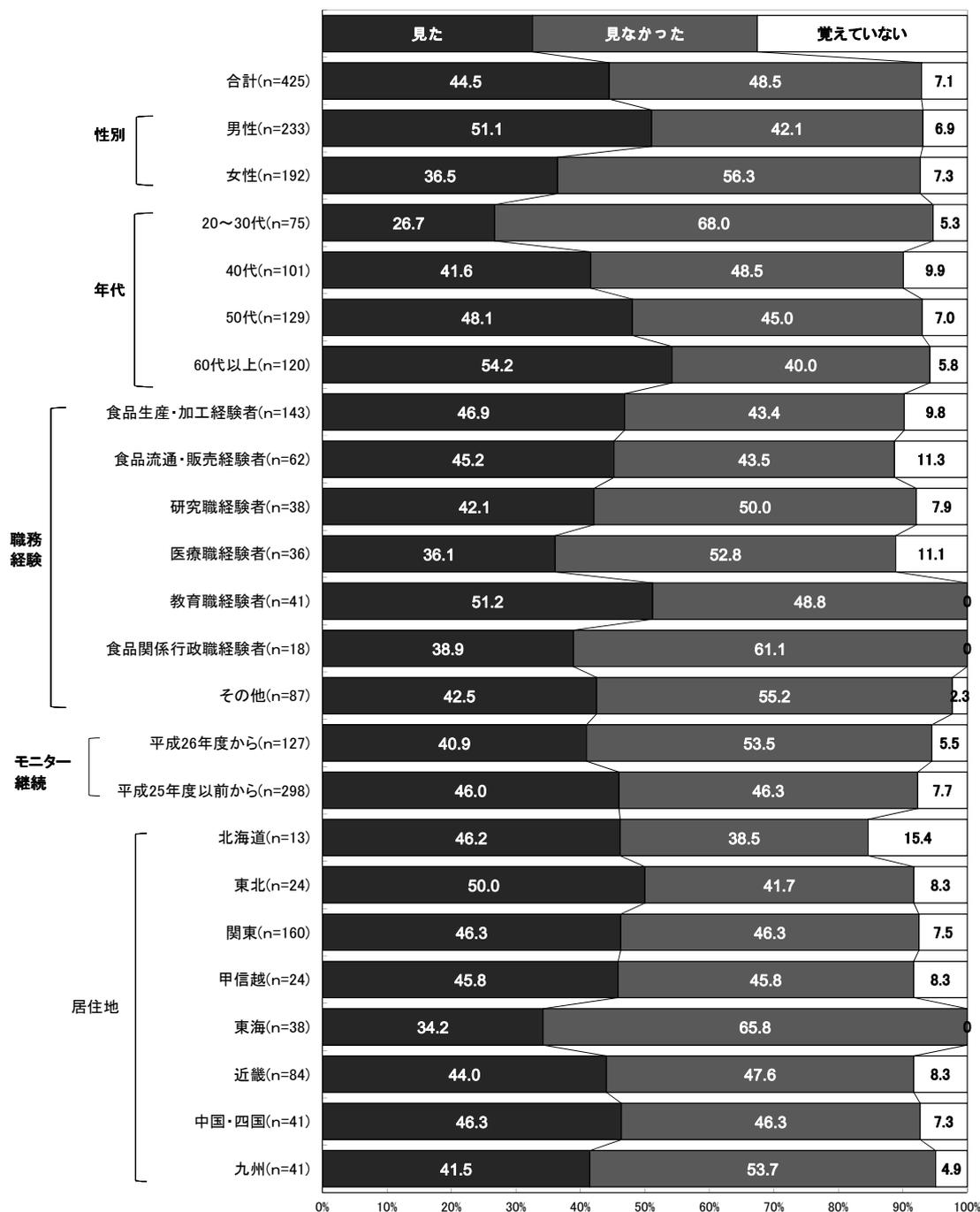
図表 17-4 食品安全委員会が発信した「健康食品」についての閲覧状況

【資料：いわゆる「健康食品」に関するメッセージ 属性別】



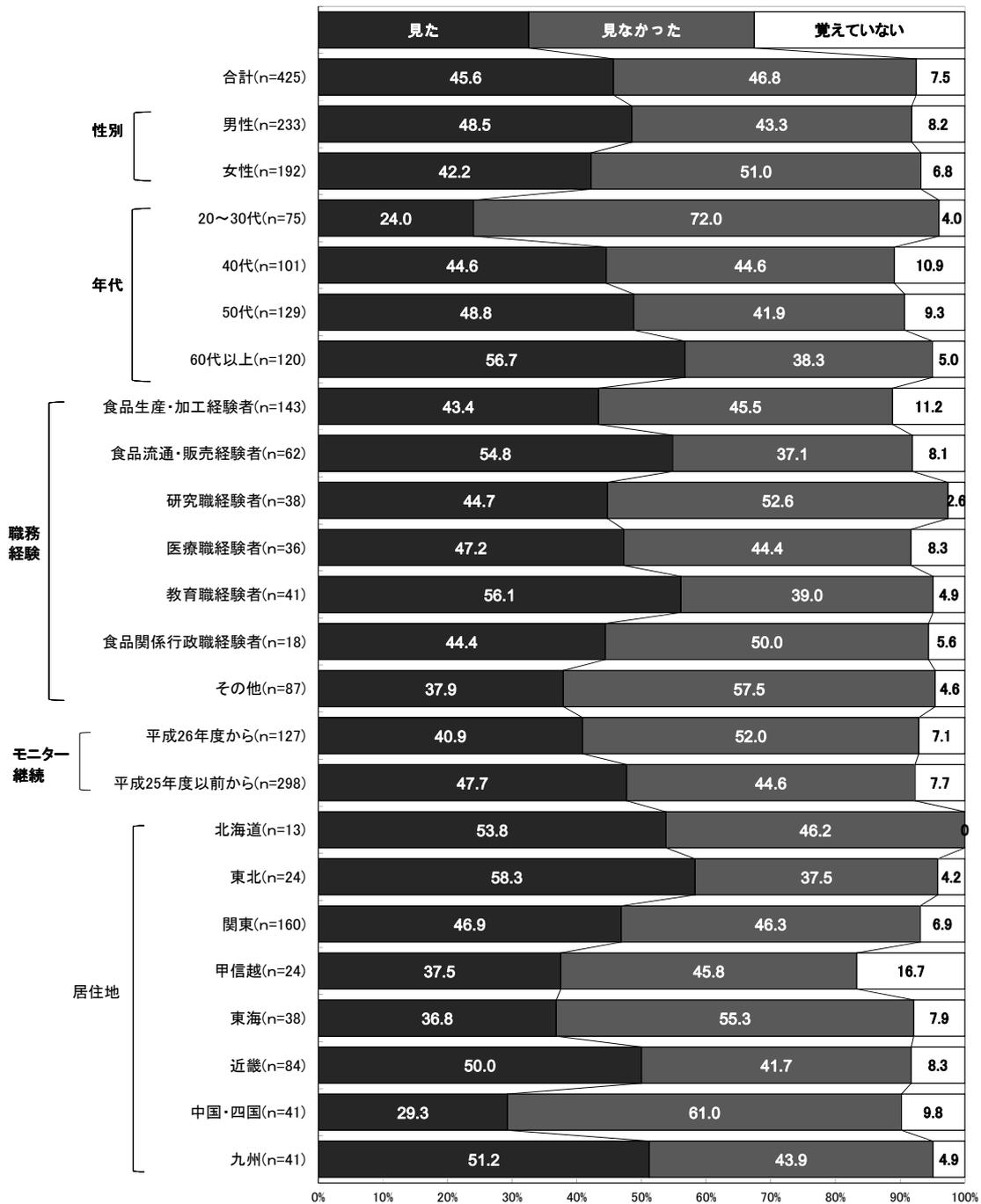
図表 17-5 食品安全委員会が発信した「健康食品」についての閲覧状況

【資料：いわゆる「健康食品」に関する報告書 属性別】



図表 17-6 食品安全委員会が発信した「健康食品」についての閲覧状況

【資料：「健康食品」に関する Q&A 属性別】



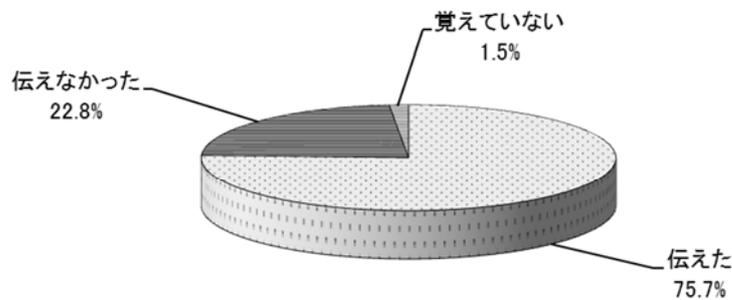
## 18.食品安全委員会で発信した「健康食品」についての、周囲への伝達状況(問18)

問18 問17で1つでも「1 見た」を選んだ方にお聞きします。

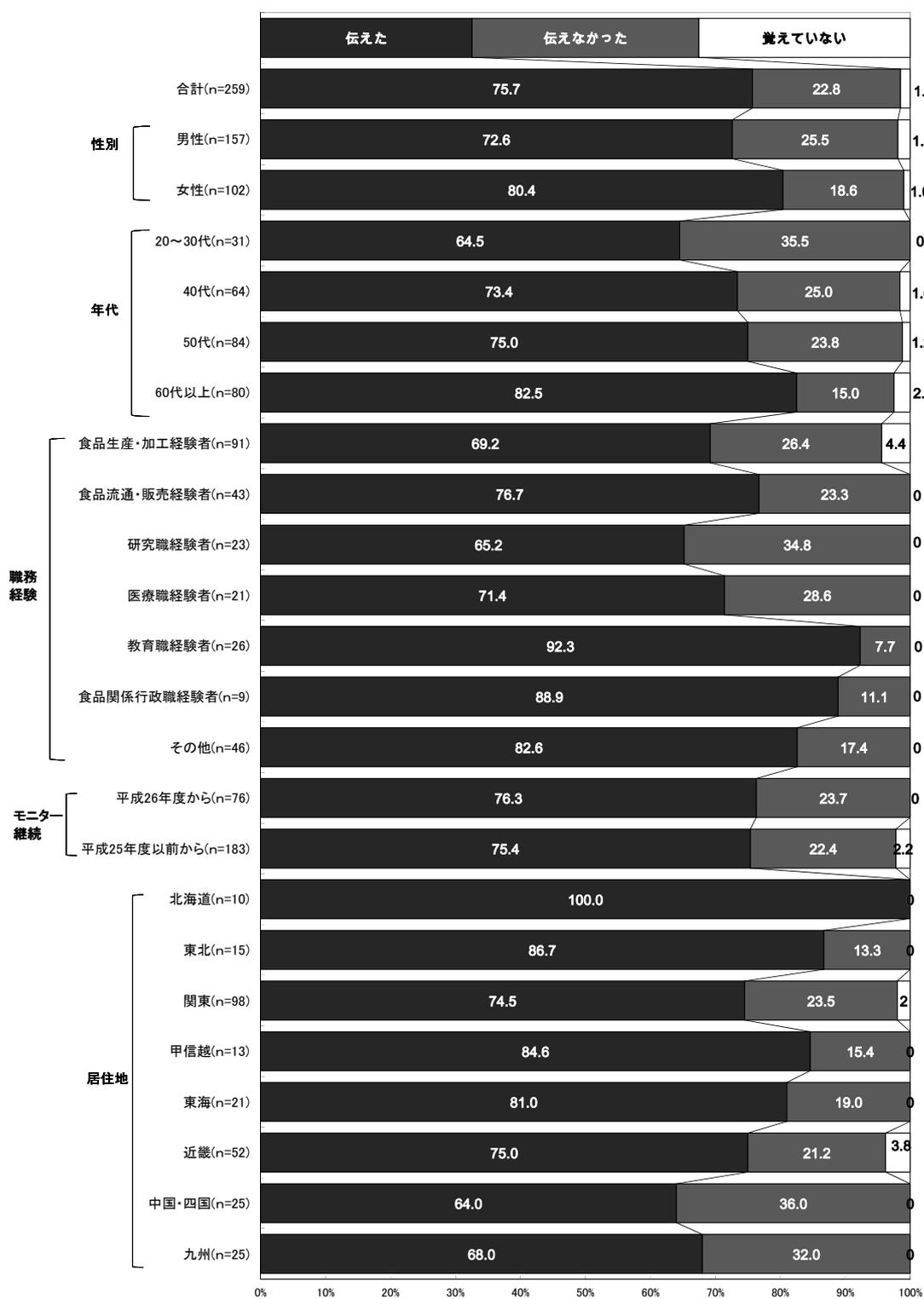
食品安全委員会がまとめた上記の資料の内容について、あなたは周囲の人に伝えましたか(話すことのほか、メールやインターネット等を利用して伝えることも含みます)。当てはまるものを選択肢1~3の中から1つ選んでください。

- 食品安全委員会で発信した「健康食品」についての、周囲への伝達状況を尋ねたところ、「伝えた」が75.7%、「伝えなかった」が22.8%であった。

図表 18-1 食品安全委員会で発信した「健康食品」についての、周囲への伝達状況 (n=259)



図表 18-2 食品安全委員会で発信した「健康食品」についての、周囲への伝達状況（属性別）

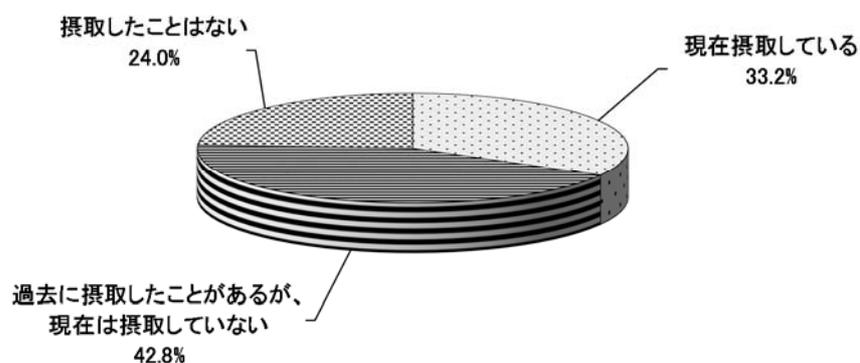


## 19. 「健康食品」の摂取の状況(問19)

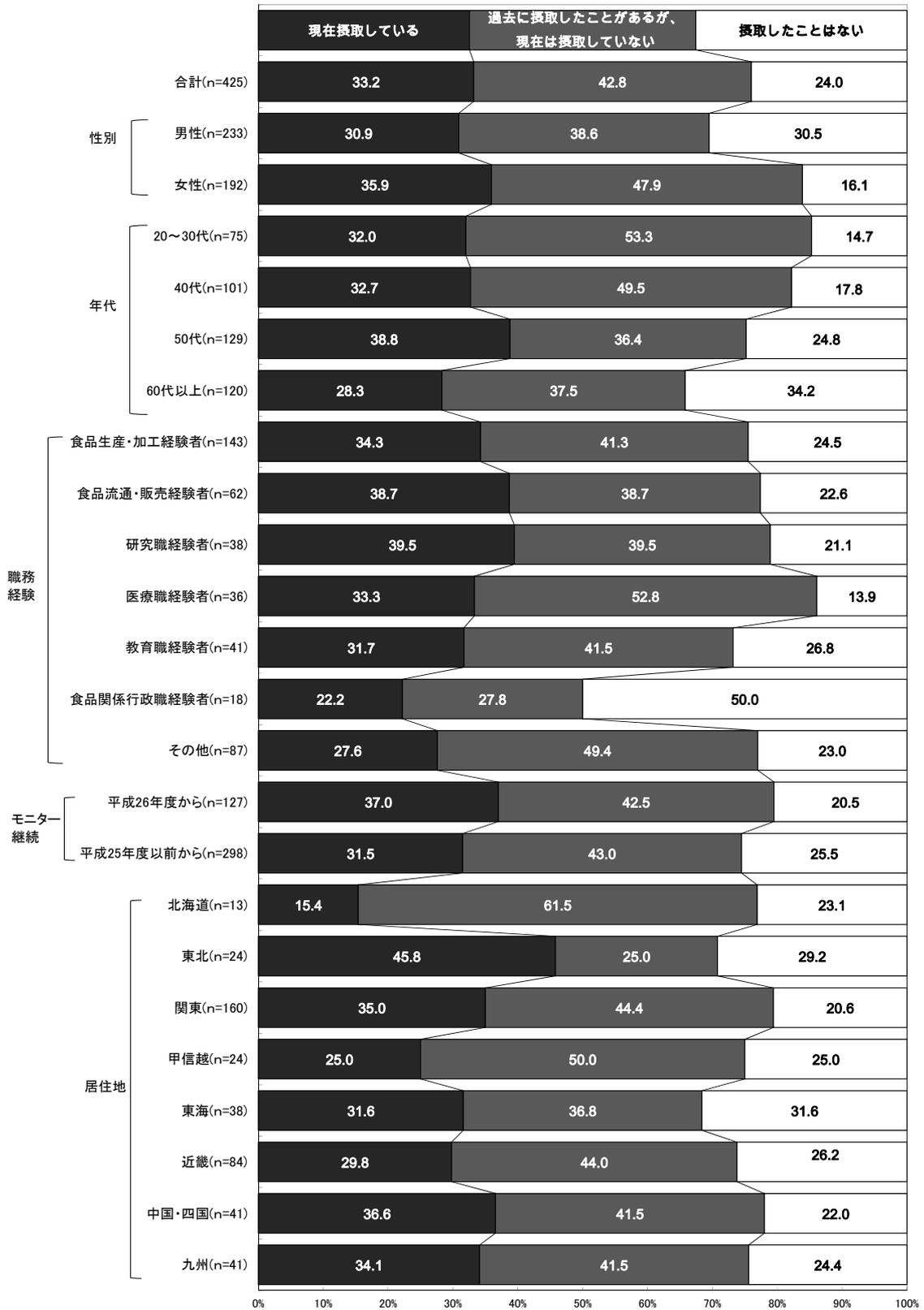
問19 あなたは、これまで「健康食品」を摂取したことがありますか。当てはまるものを選択肢1～3の中から1つ選んでください

- 健康食品の摂取の状況を尋ねたところ、「現在摂取している」が33.2%、「過去に摂取したことがあるが、現在は摂取していない」が42.8%、「摂取したことはない」が24.0%であった。
- 「摂取したことはない」とする割合は、性別では、女性(16.1%)よりも男性(30.5%)の方が有意に高く、年代別では、60代以上(34.2%)が他の年代と比べて有意に高い。

図表 19-1 「健康食品」の摂取の状況 (n=425)



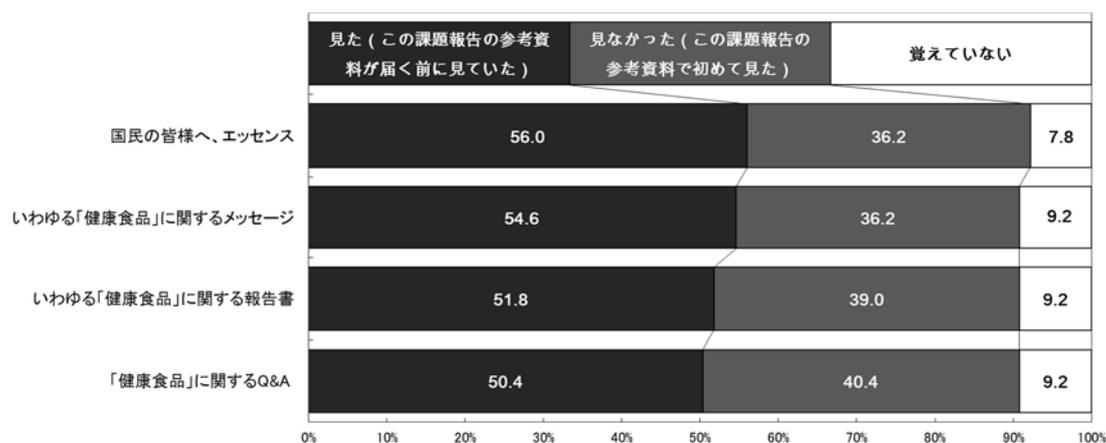
図表 19-2 「健康食品」の摂取の状況（属性別）



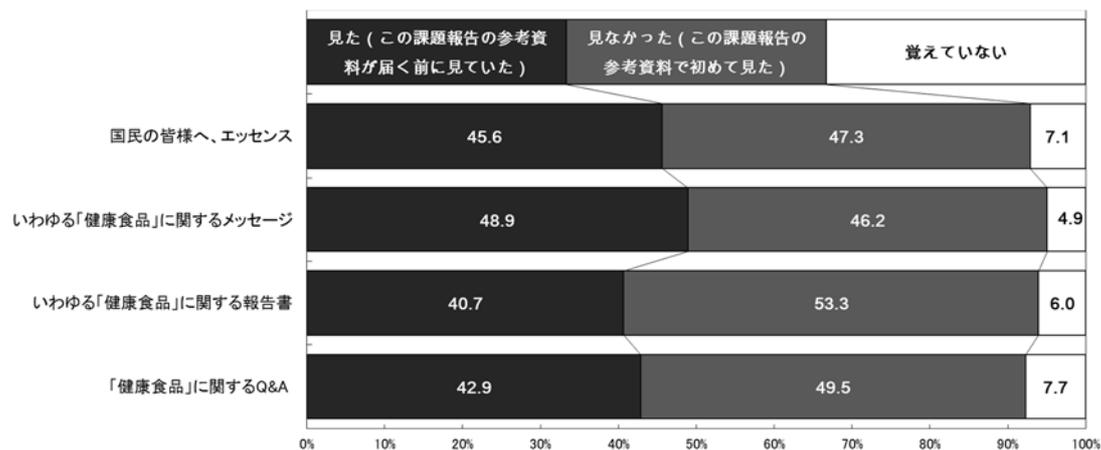
図表 19-3 健康食品摂取状況ごとの資料別の閲覧状況

(問 17 とのクロス集計)

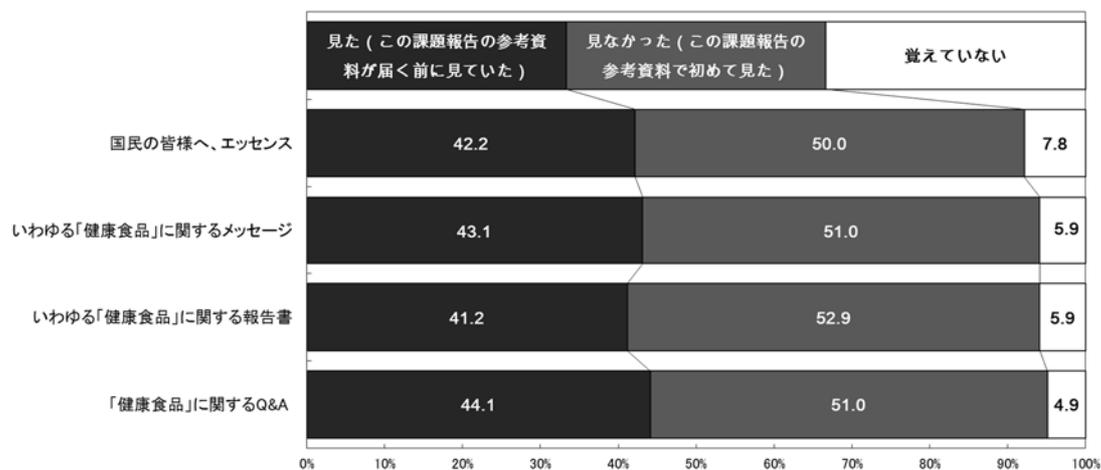
(現在摂取している n=141)



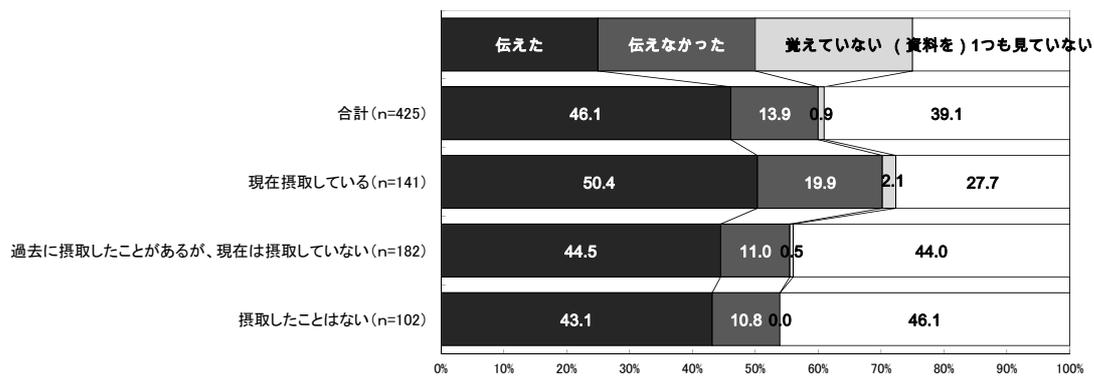
(過去に摂取したことがあるが、現在は摂取していない n=182)



(摂取したことはない n=102)



図表 19-4 「健康食品」の摂取の状況別の、周囲への伝達状況  
(問 18 とのクロス集計)

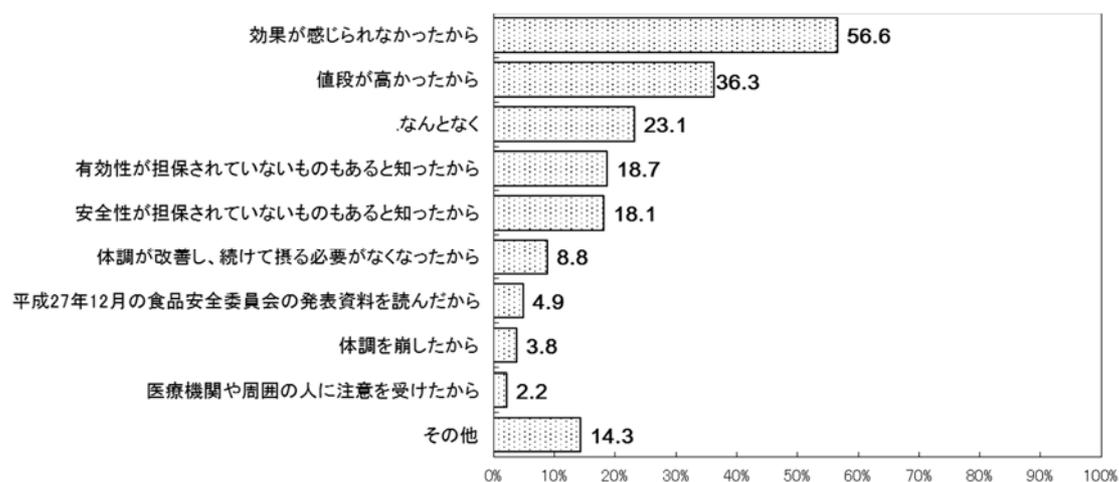


## 20. 「健康食品」の摂取をやめた理由(問 20)

問 20 問 19 で「2 過去に摂取したことがあるが、現在は摂取していない」を選んだ方にお聞きします。「健康食品」の摂取をやめた理由は何ですか。選択肢 1～11 の中から当てはまるものを全て選んでください。

- 「健康食品」の摂取をやめた理由を尋ねたところ、「効果が感じられなかったから」が 56.6%と最も多く、次いで、「値段が高かったから」が 36.3%、「なんとなく」が 23.1%であった。
- 「その他」の理由では、「試しに摂取してみただけだった」「時々摂取している程度だった」などがあった。

図表 20-1 「健康食品」の摂取をやめた理由 (n=182)

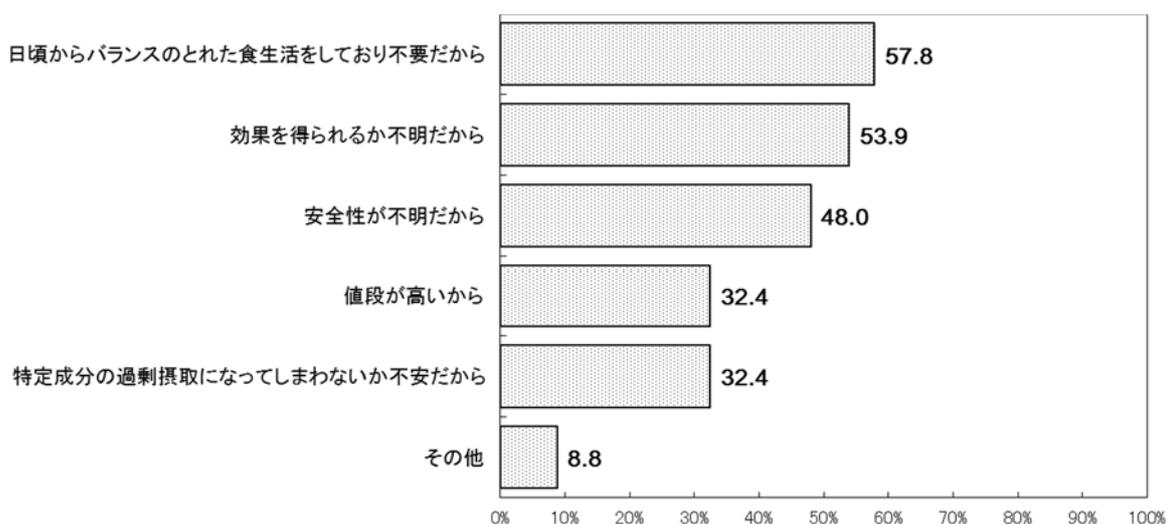


## 21. 「健康食品」を摂取したことがない理由(問 21)

問 21 問 19 で「3 摂取したことはない」を選んだ方にお聞きします。「健康食品」を摂取したことがない理由について、選択肢 1～6 の中から当てはまるものを全て選んでください。

- 「健康食品」を摂取しない理由を尋ねたところ、「日頃からバランスのとれた食生活をしており不要だから」が 57.8%と最も多く、次いで「効果を得られるか不明だから」が 53.9%、「安全性が不明だから」が 48.0%であった。
- 「その他」の理由では、「販売方法が強引で問題がある」「毎日摂取しなければならない」などがあつた。

図表 21-1 「健康食品」を摂取したことがない理由 (n=102)



## ○ 「その他」の記載分類整理表

問2・問3・問4 「N その他」のハザード等について、食品の安全性の観点から感じる不安の程度（問2）、食品の安全性の観点から不安を感じる理由（放射性物質以外）（問3）、食品の安全性の観点から不安を感じない理由（放射性物質以外）（問4）の整理  
（回答者数=75人）

ハザード	不安の程度	不安を感じる理由	不安を感じる理由（その他）	不安を感じない理由	不安を感じない理由（その他）	職務経験	性別	年代
アレルギー	②ある程度不安である	過去に問題になった事例があるため				食品生産・加工経験者	男性	60代以上
アレルギー	①とても不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				医療職経験者	女性	40代
アレルギー	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				食品生産・加工経験者	男性	50代
食品アレルギー	②ある程度不安である	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため				食品生産・加工経験者	男性	60代以上
食物アレルギー	②ある程度不安である	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため				医療職経験者	男性	50代
コンタミネーション	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				食品生産・加工経験者	男性	50代
コンビニ惣菜	②ある程度不安である	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため				食品流通・販売経験者	男性	50代
サプリメント	②ある程度不安である	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため				医療職経験者	女性	50代
タバコ	②ある程度不安である	その他	明らかに有害			食品生産・加工経験者	男性	60代以上

ハザード	不安の程度	不安を感じる理由	不安を感じる理由(その他)	不安を感じない理由	不安を感じない理由(その他)	職務経験	性別	年代
タバコ、飛散微粒子	①とても不安である	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため				食品生産・加工経験者	女性	50代
トクホ・機能性表示食品	①とても不安である	その他	バランスが大事。機能がどうこう言っていること自体ナンセンス。			食品生産・加工経験者	男性	40代
トクホの基準	①とても不安である	行政による規制が不十分なため				教育職経験者	男性	60代以上
トランス脂肪	④全く不安を感じない			安全性についての科学的な根拠に納得しているため		食品生産・加工経験者	男性	50代
トランス脂肪酸	②ある程度不安である	行政による規制が不十分なため				食品流通・販売経験者	女性	50代
トランス脂肪酸	②ある程度不安である	行政による規制が不十分なため				食品生産・加工経験者	女性	30代前
飽和脂肪酸	①とても不安である	行政による規制が不十分なため				医療職経験者	男性	50代
メトキサレン、アフラトキシン	②ある程度不安である	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため				食品生産・加工経験者	女性	20～30代
フードチェーン(流通)	②ある程度不安である	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため				医療職経験者	男性	60代以上
レッドミート	②ある程度不安である	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため				その他	男性	60代以上
意図的な不良食材や偽装食材を使用した食品等	②ある程度不安である	過去に問題になった事例があるため				教育職経験者	男性	60代以上
食品偽装	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				医療職経験者	女性	50代

ハザード	不安の程度	不安を感じる理由	不安を感じる理由(その他)	不安を感じない理由	不安を感じない理由(その他)	職務経験	性別	年代
食品偽装に関する問題(例えば徳島県の鳴門ワカメの食品偽装が繰り返し行われている問題)	①とても不安である	過去に問題になった事例があるため				その他	女性	50代
表示偽装	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				研究職経験者	男性	40代
偽医薬品	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				食品生産・加工経験者	女性	50代
健康表示食品	②ある程度不安である	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため				研究職経験者	男性	60代以上
原材料等の表示偽造	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				食品生産・加工経験者	男性	40代
異物混入	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				食品流通・販売経験者	男性	60代以上
異物混入	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				その他	男性	60代以上
故意に行われる異物混入	②ある程度不安である	過去に問題になった事例があるため				食品生産・加工経験者	男性	60代以上
飲料水	③あまり不安を感じない			行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため		その他	男性	50代
飲料水	③あまり不安を感じない			その他	井戸水の実績により	食品生産・加工経験者	男性	60代以上
飲料水	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				食品関係行政職経験者	女性	60代以上
環境ホルモン	②ある程度不安である	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため				食品生産・加工経験者	男性	60代以上
異常気象	③あまり不安を感じない			過去に問題になった事例がないため		その他	男性	40代

ハザード	不安の程度	不安を感じる理由	不安を感じる理由(その他)	不安を感じない理由	不安を感じない理由(その他)	職務経験	性別	年代
空気汚染	②ある程度不安である	行政による規制が不十分なため				その他	女性	60代以上
大気汚染	②ある程度不安である	行政による規制が不十分なため				食品関係行政職経験者	男性	60代以上
口腔洗剤、歯磨き	②ある程度不安である	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため				研究職経験者	男性	40代
業界のモラルハザード	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				食品生産・加工経験者	男性	60代以上
国の安全基準	①とても不安である	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため				食品流通・販売経験者	男性	50代
国家間の基準	①とても不安である	過去に問題になった事例があるため				医療職経験者	男性	50代
有毒魚等の混獲・流通	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				研究職経験者	男性	40代
野生動物の肉	②ある程度不安である	漠然と不安				研究職経験者	男性	60代以上
自然毒（動植物を問わず）	①とても不安である	行政による規制が不十分なため				食品関係行政職経験者	男性	60代以上
自然毒キノコ、ジャガイモの芽	①とても不安である	過去に問題になった事例があるため				食品関係行政職経験者	女性	60代以上
毒きのこ	①とても不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				その他	男性	60代以上
薬剤耐性菌	①とても不安である	その他	汚染や被害の状況に関する情報が不十分			研究職経験者	男性	60代以上
バイ菌	⑤よく知らない					食品生産・加工経験者	男性	40代
寄生虫、カビ毒	①とても不安である	過去に問題になった事例があるため				研究職経験者	男性	60代以上
鳥インフルエンザ	②ある程度不安である	行政による規制が不十分なため				食品流通・販売経験者	男性	60代以上
花粉	①とても不安である	漠然と不安				食品流通・販売経験者	女性	40代

ハザード	不安の程度	不安を感じる理由	不安を感じる理由 (その他)	不安を感じない理由	不安を感じない理由 (その他)	職務経験	性別	年代
一般の人が意外と無関心	①とても不安である	行政による規制が不十分なため				食品流通・販売経験者	男性	60代以上
社会の維持に必要な教育水準	①とても不安である	行政による規制が不十分なため				教育職経験者	男性	50代
食べ合わせ・誤食	②ある程度不安である	その他	予め予測できず、起きてから原因究明などに進むため。			食品生産・加工経験者	男性	60代以上
栄養の過不足	②ある程度不安である	過去に問題になった事例があるため				食品生産・加工経験者	男性	50代
食品テロ	②ある程度不安である	過去に問題になった事例があるため				その他	男性	60代以上
食品にかかわる広告	①とても不安である	行政による規制が不十分なため				医療職経験者	男性	40代
食品の貿易自由化で日本に入ってくる食品	②ある程度不安である	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため				食品生産・加工経験者	女性	60代以上
中国からの輸入食品	②ある程度不安である	行政による規制が不十分なため				食品生産・加工経験者	男性	50代
中国産	①とても不安である	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため				食品流通・販売経験者	男性	50代
中国産食品	①とても不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				教育職経験者	女性	60代以上
廃棄食品の横流し	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				教育職経験者	男性	40代
廃棄食品の流通	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				食品流通・販売経験者	男性	50代
非意図的生成物	③あまり不安を感じない			過去に問題になった事例がないため		研究職経験者	男性	60代以上

ハザード	不安の程度	不安を感じる理由	不安を感じる理由(その他)	不安を感じない理由	不安を感じない理由(その他)	職務経験	性別	年代
放射線照射食品	③あまり不安を感じない			事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため		食品流通・販売経験者	男性	60代以上
輸入食品	②ある程度不安である	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため				教育職経験者	男性	60代以上
輸入食品	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				食品関係行政職経験者	女性	60代以上
輸入食品	②ある程度不安である	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため				その他	女性	40代
輸入食品の安全性	②ある程度不安である	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため				食品流通・販売経験者	男性	50代
屋台、夜店等	②ある程度不安である	漠然と不安				食品生産・加工経験者	男性	60代以上
TPP	②ある程度不安である	その他	輸入食品に対する安全性確保が不十分になってしまう危険性を感じる			食品生産・加工経験者	男性	50代
あまりに安価な食品	②ある程度不安である	安全性についての科学的な根拠に疑問があるため				研究職経験者	男性	60代以上
芳香剤、消臭剤	①とても不安である	行政による規制が不十分なため				教育職経験者	女性	60代以上

### 問3 食品の安全性の観点から不安を感じる理由（放射性物質以外）

#### A. 食品添加物

（回答者数=3人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
②ある程度不安である	海外（中国など）のものに不安を感じる	食品生産・加工経験者	男性	40代
②ある程度不安である	不安は有るが会議で学んだ結果、他の方がより危険性が高いと感じた。量が多いと味を損ねる。	その他	女性	50代
②ある程度不安である	食品添加物に関する本がいろいろあるため正しい情報が何かわからないため	その他	女性	50代

#### B. 残留農薬

（回答者数=2人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
②ある程度不安である	海外（中国など）のものに不安を感じる	食品生産・加工経験者	男性	40代
②ある程度不安である	中国産品のデタラメさと輸入監視状況	研究職経験者	男性	50代

#### C. 家畜用抗生物質

（回答者数=3人 うち「とても不安である」が1人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
①とても不安である	人が感染する感染症の原因菌の一部が家畜に使用される抗生物質により耐性を獲得しそれが温床となっている	医療職経験者	男性	40代
②ある程度不安である	耐性菌の懸念があるため	食品生産・加工経験者	男性	50代
②ある程度不安である	身近に情報が入ってくるものでないため	その他	女性	50代

#### D. 器具・容器包装からの溶出化学物質

（回答者数=4人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
①とても不安である	家庭での間違った使用方法（耐熱・耐酸など）に不安を感じる	教育職経験者	女性	60代以上
②ある程度不安である	海外（中国など）のものに不安を感じる	食品生産・加工経験者	男性	40代
②ある程度不安である	適正でない使用をした場合溶出する可能性がある	食品生産・加工経験者	男性	60代以上
②ある程度不安である	無回答	食品関係行政職経験者	男性	60代以上

#### E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）

（回答者数=1人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
②ある程度不安である	信頼できるデータがどれかわからない	食品流通・販売経験者	女性	50代

## F. 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等

（回答者数=19人 うち「とても不安である」が1人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
①とても不安である	最も身近かつ注意すべき点が家庭、事業者、流通等多岐にわたる	教育職経験者	男性	20～30代
②ある程度不安である	今後、食糧不足解消の一手段として食経験の少ない食材を使用することになった場合に、その食材に含まれる可能性のある微生物関連のハザードの情報蓄積が不十分なまま流通する可能性が捨てきれないため	研究職経験者	男性	50代
②ある程度不安である	いくら衛生面で気を付けていても、食中毒は発生しているから。	医療職経験者	女性	40代
②ある程度不安である	消費者の衛生知識不足による取り扱い不備	食品生産・加工経験者	男性	50代
②ある程度不安である	一般の人達の知識が不足している	食品流通・販売経験者	女性	50代
②ある程度不安である	食中毒事例が過去含め頻繁にあるため	食品流通・販売経験者	女性	40代
②ある程度不安である	リスクの大きさが現場担当者の作業管理に依存するため	研究職経験者	女性	50代
②ある程度不安である	規制しきれないため	食品流通・販売経験者	女性	50代
②ある程度不安である	細菌やウイルスは五感ではわからない。ウイルス食中毒の治療薬がない。	食品生産・加工経験者	男性	60代以上
②ある程度不安である	人間が完全に制御できると思えないため	食品生産・加工経験者	男性	40代
②ある程度不安である	ウイルス等は変異していくので対策がおいついていけないのが不安	その他	女性	40代
②ある程度不安である	微生物汚染は、見た目だけでは判断が付かないことも多いので。	研究職経験者	男性	60代以上
②ある程度不安である	消費者による再汚染のリスクがあるため	その他	女性	50代
②ある程度不安である	完全に防ぐことは難しいから	食品生産・加工経験者	男性	40代
②ある程度不安である	未知のものなど解明されていない部分があると思うので	食品流通・販売経験者	女性	50代
②ある程度不安である	野菜魚等、生鮮品は自然のもので、数万数十万に幾つかは細菌汚染の可能性があり、生食の食文化から絶対安全とは言い切れないため	食品流通・販売経験者	女性	20～30代
②ある程度不安である	新たなウイルスの出現	食品関係行政職経験者	男性	60代以上
②ある程度不安である	自分の衛生管理が不十分だから	食品流通・販売経験者	男性	60代以上
②ある程度不安である	目に見えないため	食品生産・加工経験者	女性	50代

## G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）

（回答者数=1人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
②ある程度不安である	発生の防止策が未完了	食品関係行政職経験者	男性	60代以上

## H. 遺伝子組換え

（回答者数=2人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
②ある程度不安である	タンパク質に残っていないという理由で、表示されない油や醤油、食品添加物にたくさん入っていると思われるから。	その他	女性	50代
②ある程度不安である	安全性が検証されていない	食品生産・加工経験者	男性	50代

## I. 体細胞クローン

(回答者数=3人)

問2	回答	職務経験	性別	年代
②ある程度不安である	よくわからないから不安	食品生産・加工経験者	女性	40代
②ある程度不安である	倫理問題と安全性	食品流通・販売経験者	男性	20～30代
②ある程度不安である	安全性が検証されていない	食品生産・加工経験者	男性	50代

## J. いわゆる健康食品

(回答者数=2人 うち「とても不安である」が2人)

問2	回答	職務経験	性別	年代
①とても不安である	「健康食品」の名称が食品でありながら、効果のあるようなイメージを持たせてしまうため、本来の成分をきちんと理解して購入しないのではないかと	食品生産・加工経験者	女性	50代
①とても不安である	バランスが大事。機能がどうこう言っている自体ナンセンス。	食品生産・加工経験者	男性	40代

## K. 肥料・飼料等

(回答者数=2人)

問2	回答	職務経験	性別	年代
②ある程度不安である	飼料等に用いられる原材料に「遺伝子組み換え」が使われているかもしれないから。もし使われていないとしてもそのような情報を消費者が知る機会がないから	食品生産・加工経験者	女性	50代
②ある程度不安である	身近に情報が入ってくるものでないため	その他	女性	50代

## M. アクリルアミド

(回答者数=12人 うち「とても不安である」が1人)

問2	回答	職務経験	性別	年代
①とても不安である	家庭での調理方法などの変更の必要性	教育職経験者	女性	60代以上
②ある程度不安である	消費者間で共有がまだ少ないため	食品流通・販売経験者	男性	50代
②ある程度不安である	事業者含め国民皆が理解不足。パンやポテトだけでなくもっと様々な食品についてアクリルアミドの量、調理法による差、どれくらいなら食べても問題ないか等わかりやすく伝えるべき。テレビで評判のラーメン屋が出てきてキノコを揚げて焦がしたものをたっぷり載せており皆美味しいとおぼれていた。あれを見て、量的に問題ないのか、あの量を食べるとADI的になんか全部分からなかった。中途半端な知識は逆に不安を誘う。きちんと分かれば安心なのと思った。	食品生産・加工経験者	女性	40代
②ある程度不安である	わかったのが最近でありこれから解明されるものだから	食品生産・加工経験者	女性	60代以上
②ある程度不安である	各家庭で日常的に摂取する可能性が高く基準を知っている人が多くないと思われる為	食品生産・加工経験者	女性	40代
②ある程度不安である	食生活の変化によりアクリルアミドを摂取する機会が増えているため	食品流通・販売経験者	女性	40代
②ある程度不安である	日本の場合、野菜類の調理（煮物の前に野菜を一度炒めるなど）による摂取量が多いとの調査結果から、具体的な摂取量軽減策が必要と考える。また、長期的な健康への影響については不明な点も多いため、今後の情報に注意していきたいと考えているため。	その他	女性	20～30代
②ある程度不安である	日常の食事で気を付けているつもりだがなかなか難しいから	教育職経験者	女性	50代
②ある程度不安である	この物質についての知識がない。	その他	女性	50代
②ある程度不安である	生成過程は新聞等メディアの情報で理解しているつもりであるが、調理方法により生成量が大きく変わるため、毎日の食事でどれくらい発生するのか把握できないため。	その他	女性	20～30代
②ある程度不安である	安全性が保障されていないので分	食品流通・販売経験者	女性	60代以上
②ある程度不安である	十分な検証がされていない（データ収集の過程）だと思うので	食品流通・販売経験者	女性	50代

## N. その他

(回答者数=5人 うち「とても不安である」が2人)

問2	ハザード	回答	職務経験	性別	年代
①とても不安である	薬物耐性菌	汚染や被害の状況に関する情報が不十分	研究職経験者	男性	60代以上
①とても不安である	トクホ・機能性表示食品	バランスが大事。機能がどうこう言っていること自体ナンセンス。	食品生産・加工経験者	男性	40代
②ある程度不安である	TPP	輸入食品に対する安全性確保が不十分になってしまう危険性を感じる	食品生産・加工経験者	男性	50代
②ある程度不安である	食べ合わせ・誤食	予め予測できず、起きてから原因究明などに進むため。	食品生産・加工経験者	男性	60代以上
②ある程度不安である	タバコ	明らかに有害	食品生産・加工経験者	男性	60代以上

#### 問 4 食品の安全性の観点から不安を感じない理由（放射性物質以外）

##### A. 食品添加物

（回答者数=1人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
③あまり不安を感じない	事業者が虚偽の申告をしていないか不安	教育職経験者	男性	50代

##### B. 残留農薬

（回答者数=2人）うち「全く不安を感じない」が1人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
③あまり不安を感じない	安全性試験の結果を信じているため	その他	男性	20～30代
④全く不安を感じない	事業者が虚偽の申告をしていないか不安	教育職経験者	男性	50代

##### C. 家畜用抗生物質

（回答者数=3人）うち「全く不安を感じない」が1人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
③あまり不安を感じない	出荷制限があるため	その他	男性	20～30代
③あまり不安を感じない	食肉の摂取は少ないほうだと思う。	食品生産・加工経験者	女性	50代
④全く不安を感じない	多少なら混入していても健康に影響がないと考える	教育職経験者	男性	50代

#### D. 器具・容器包装からの溶出化学物質

該当なし

#### E. 汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）

（回答者数＝3人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
③あまり不安を感じない	同じものばかり食べない、くらいしか気にしようがないと思うので。	食品生産・加工経験者	男性	40代
③あまり不安を感じない	自身は食生活に細心の注意を払っているから	教育職経験者	女性	60代以上
③あまり不安を感じない	危険性が周知され取引管理が厳格	食品流通・販売経験者	男性	50代

#### F. 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等

（回答者数＝8人　うち「全く不安を感じない」が1人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
③あまり不安を感じない	よく加熱して食べる等、自衛できる	食品生産・加工経験者	男性	50代
③あまり不安を感じない	事業者の管理がある程度進んでおり、不十分だったとしても対処可能なことが多いため	その他	女性	20～30代
③あまり不安を感じない	現在、自分には集団給食や外食などに接する機会がほとんどないため。食中毒発生率はおそらくゼロにすることは困難であろうと思われることもある。	医療職経験者	女性	50代
③あまり不安を感じない	自己防衛	食品生産・加工経験者	男性	50代
③あまり不安を感じない	経験した事がない	教育職経験者	女性	60代以上
③あまり不安を感じない	自衛している	食品流通・販売経験者	男性	50代
③あまり不安を感じない	ある程度免疫をつけることも必要だと思うため	その他	女性	40代
④全く不安を感じない	消費期限を守り必要に応じて洗浄、加熱処理をする。製造業者の信頼。	医療職経験者	女性	50代

#### G. BSE（伝達性牛海綿状脳症）

（回答者数＝5人　うち「全く不安を感じない」が2人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
③あまり不安を感じない	牛肉を食べないため	教育職経験者	女性	40代
③あまり不安を感じない	牛肉を好まない	教育職経験者	女性	60代以上
③あまり不安を感じない	特に牛肉は食さないようにしている。	食品生産・加工経験者	女性	50代
④全く不安を感じない	発生が収束しているので	食品関係行政職経験者	女性	20～30代
④全く不安を感じない	具体例が少ない。	医療職経験者	女性	50代

#### H. 遺伝子組換え

（回答者数＝2人　うち「全く不安を感じない」が2人）

問2	回答	職務経験	性別	年代
④全く不安を感じない	天然のものが安全であるとは言えない	その他	男性	20～30代
④全く不安を感じない	科学者を信じている。少なくとも自身の寿命中には何も発生しないはず	教育職経験者	女性	60代以上

## I. 体細胞クローン

(回答者数=4人 うち「全く不安を感じない」が2人)

問2	回答	職務経験	性別	年代
③あまり不安を感じない	身近でないため	教育職経験者	女性	40代
③あまり不安を感じない	科学者を信じている。少なくとも自身の寿命中には何も発生しないはず	教育職経験者	女性	60代以上
④全く不安を感じない	クローン=天然のものであると思っている	その他	男性	20~30代
④全く不安を感じない	多少なら混入していても健康に影響がないと考える	教育職経験者	男性	50代

## J. いわゆる健康食品

(回答者数=24人 うち「全く不安を感じない」が3人)

問2	回答	職務経験	性別	年代
③あまり不安を感じない	栄養は食品より取るべきだから	研究職経験者	男性	60代以上
③あまり不安を感じない	自分で納得したものしか摂取しないから	食品生産・加工経験者	女性	20~30代
③あまり不安を感じない	使用する予定がないため	研究職経験者	男性	50代
③あまり不安を感じない	効能を強く謳う商品を選ばない	食品生産・加工経験者	男性	50代
③あまり不安を感じない	多くの商品の中から安全なものを選ぶ知識があるから	食品流通・販売経験者	男性	40代
③あまり不安を感じない	利用しないため	食品流通・販売経験者	男性	40代
③あまり不安を感じない	購入する機会が殆ど無いため不安を感じない	食品生産・加工経験者	女性	20~30代
③あまり不安を感じない	選択しないため	教育職経験者	女性	40代
③あまり不安を感じない	摂取による効能・機能はさほどないかもしれないが、食品として許可されたものであれば、他のハザードと比較して実害はさほど多大ではないと思われるため	医療職経験者	女性	50代
③あまり不安を感じない	自分自身が使っていないため	その他	女性	50代
③あまり不安を感じない	自分でよく理解している	食品流通・販売経験者	女性	50代
③あまり不安を感じない	食さない	その他	女性	40代
③あまり不安を感じない	個人としては利用しないため	その他	女性	40代
③あまり不安を感じない	自分が近づかなければ問題にならないため	食品生産・加工経験者	男性	40代
③あまり不安を感じない	一般的にたくさん出回っているので	その他	女性	40代
③あまり不安を感じない	個人的に使用しないため。	その他	男性	20~30代
③あまり不安を感じない	自分が飲んでいないので	食品生産・加工経験者	女性	20~30代
③あまり不安を感じない	自分は摂取しないので	食品関係行政職経験者	女性	20~30代
③あまり不安を感じない	利用しないようにしている	食品流通・販売経験者	男性	50代
③あまり不安を感じない	自分で適切に判断できる	食品生産・加工経験者	男性	50代
③あまり不安を感じない	健康食品自体にあまり興味が無いので、不安も安心も考えたことが無い	その他	女性	50代
④全く不安を感じない	過剰摂取を避ければ安全であろうと考えている	その他	男性	20~30代
④全く不安を感じない	効果も害も何も無いと思っている(砂糖を舐めている感覚)	食品流通・販売経験者	男性	50代
④全く不安を感じない	自身は絶対服用しないから	教育職経験者	女性	60代以上

## K. 肥料・飼料等

(回答者数=3人 うち「全く不安を感じない」が1人)

問2	回答	職務経験	性別	年代
③あまり不安を感じない	多少なら混入していても健康に影響がないと考える	教育職経験者	男性	50代
③あまり不安を感じない	畜農産物は吟味して購入している	教育職経験者	女性	60代以上
④全く不安を感じない	危険な肥料・飼料を用いない限りは安全だと思う	その他	男性	20～30代

## M. アクリルアミド

(回答者数=6人)

問2	回答	職務経験	性別	年代
③あまり不安を感じない	市販の調理品や外食を利用しないから	食品生産・加工経験者	男性	40代
③あまり不安を感じない	危険性の高い食事に偏らないようにする	食品生産・加工経験者	男性	50代
③あまり不安を感じない	家庭でもできる、昔からあるものであり、いまさら気にしてもしょうがないと思うため。	食品生産・加工経験者	男性	40代
③あまり不安を感じない	知識と興味がないだけかもしれません	教育職経験者	女性	60代以上
③あまり不安を感じない	遺伝毒性+であるも、発がん性があることが証明されているわけではない	医療職経験者	男性	50代
③あまり不安を感じない	自分で適切に判断できる	食品生産・加工経験者	男性	50代

## N. その他

(回答者数=6人)

問2	ハザード	回答	職務経験	性別	年代
③あまり不安を感じない	飲料水	井戸水の実績により	食品生産・加工経験者	男性	60代以上

## 問5 放射性物質について不安を感じる理由

回答	居住地エリア	職務経験	性別	年代
原発事故炉から依然として放射性物質が外に漏れているため	北海道	教育職経験者	男性	60代以上
一関市がホットスポットだったため	岩手県	食品生産・加工経験者	男性	40代
原子力発電所からの放射性廃棄物などの処理方法が明確になっていないため	栃木県	食品流通・販売経験者	男性	50代
環境大臣の不適切な発言	埼玉県	食品生産・加工経験者	男性	60代以上
原発事故以前の放射性物質の被爆量が不明で比較できないため規制値設定の評価ができない（納得していいのか判断できない）	埼玉県	その他	女性	20～30代
ハザードの全体像が見えないこと。報道に取り上げられることや研究されていることは、ハザードの一部にすぎないと考えるから。	東京都	医療職経験者	女性	50代
東電の隠蔽体質で何が出てくるかわからない	東京都	食品生産・加工経験者	男性	60代以上
個体差があるので、自分にあてはまる保障はない	滋賀県	食品生産・加工経験者	女性	20～30代
汚染水漏れによる海水の状態と基準値	兵庫県	その他	女性	50代
放射性物質そのものが危険であるものが多いため	徳島県	医療職経験者	男性	50代
これから生まれる世代や小さい子供への影響が心配	岩手県	食品生産・加工経験者	男性	40代
一部の放射性物質の半減期が長いので予想できないため	秋田県	医療職経験者	女性	60代以上
半減期が非常に長いために、被ばくの対象と被ばく量の大きさの見積もりが困難であるため。たとえば、地下水の汚染など。	東京都	医療職経験者	女性	50代
除染後の保管場所からの環境汚染	兵庫県	その他	女性	50代
ヒトへの健康影響が分からない（知見に乏しい）ため	徳島県	医療職経験者	男性	50代
今後、どのような形で健康被害が出現するのか想像がつかず、有効な予防策がないため	東京都	医療職経験者	女性	50代
甲状腺がんと放射性物質の震災後の子供への影響および科学的根拠	兵庫県	その他	女性	50代

## 問9 よく利用する食品安全委員会からの情報

回答	職務経験	性別	年代
メール	その他	男性	20～30代
たまに新聞に出てくる食品関係の記事	食品生産・加工経験者	男性	40代
テレビやネットのニュース	食品生産・加工経験者	女性	40代
新聞などでの記事	食品生産・加工経験者	男性	50代
新聞	食品生産・加工経験者	男性	60代以上
新聞、食品情報誌	食品生産・加工経験者	男性	60代以上

## 問11 食品安全委員会から得た情報の活用方法

回答	職務経験	性別	年代
消費生活相談を受ける中で食品に関する相談があったときに情報提供として活用している	その他	女性	50代
生徒への食育	研究職経験者	男性	60代以上
大学での講義で学生に紹介・解説	研究職経験者	男性	40代
NPO活動に利用している。	医療職経験者	男性	50代
食安監査に活用	その他	男性	60代以上
先日自分の講演の中にも盛り込みました	研究職経験者	男性	60代以上
講義で実施	研究職経験者	男性	60代以上
生かされていない	食品流通・販売経験者	男性	40代
FMラジオパーソナリティとして自分の番組でコーナーを作り人々へ伝えている	教育職経験者	女性	40代
知識として知っている	食品生産・加工経験者	男性	40代
家族に伝えている	その他	女性	40代
教育	医療職経験者	男性	50代
自分が主宰する専門家への情報提供	その他	男性	50代
診療に使っている	医療職経験者	男性	50代
ホームページで情報発信しています。	食品生産・加工経験者	男性	50代
教育に活かしている	教育職経験者	男性	50代
小学生の食育教育	教育職経験者	男性	60代以上
冊子「食品安全」を自治会掲示板掲出	その他	男性	60代以上
授業に生かしている。	教育職経験者	男性	60代以上
高齢者集会においてハーモニカ演奏と共に委員会から得た情報を伝えている	医療職経験者	男性	60代以上

## 問 20 「健康食品」の摂取をやめた理由

回答	職務経験	性別	年代
バランスが大事	食品生産・加工経験者	男性	40代
友人からもらったから摂取してみた	医療職経験者	男性	40代
勧められて摂取したがやはり食品から摂取できるものは摂取したほうが良いと考えたため	その他	女性	50代
生徒に表示を示すため	研究職経験者	男性	60代以上
試してみたかっただけ	食品関係行政職経験者	女性	60代以上
当該健康食品の在庫がなくなった後、健康食品についてのリスク等を知ったから	食品生産・加工経験者	男性	50代
効果は期待していないが話の種にするために時々、いろいろ摂取してみている	研究職経験者	男性	60代以上
医薬品を服用したから	医療職経験者	女性	60代以上
妊娠中のため	その他	女性	20～30代
食生活が乱れていると感じた時にビタミンのサプリメント等を摂取する事があった	食品生産・加工経験者	女性	20～30代
サンプル品をもらったため摂取した	食品流通・販売経験者	女性	20～30代
トクホではなくなった。花王のジアチルグリセロール	研究職経験者	女性	20～30代
効果を期待して摂取していなかった	食品生産・加工経験者	女性	20～30代
継続して摂取するのが面倒になって	食品流通・販売経験者	男性	40代
有効性に疑問を感じたから	研究職経験者	男性	40代
そもそも効果を期待して摂取しておらず、人から分けってもらったものを摂取した程度だから	その他	女性	40代
「フランス産海岸松」といった、通常人が食べるものとは思えない原料が含まれていたため違和感があった。	教育職経験者	女性	40代
どんな味がするか試したかった	その他	女性	40代
会合で出された飲料の単回摂取だったため。自ら購入し摂取したいとは思わない。	医療職経験者	女性	50代
職業上の一定時期の試食	医療職経験者	女性	50代
試食・試飲が目的だったため	食品生産・加工経験者	女性	50代
それらしい効果効能があるのか試してみただけ	研究職経験者	男性	50代
金がかかる	その他	男性	60代以上
定期的な接種対象ではなかった	食品生産・加工経験者	男性	60代以上
医学論文にて効果が不明との報告を見たので中止した	医療職経験者	男性	60代以上
色々調べたら、効果がなさそうだし、実際効果が感じられなかった。	食品生産・加工経験者	男性	60代以上

## 問 21 「健康食品」を摂取したことがない理由

回答	職務経験	性別	年代
定義のない健康食品を信じていない	食品関係行政職経験者	男性	60代以上
毎月定期的に送付してくるなど販売方法が強引で問題がある	食品関係行政職経験者	女性	60代以上
毎日摂取し続けなければならない物が多い	教育職経験者	女性	60代以上
信用性と疑わしい	その他	男性	40代
摂取に抵抗を感じるから	食品生産・加工経験者	男性	40代
理由は当時自身の抗がん剤治療時に治療を進める為に抗がん剤の効果が得られているのを知り得る目的のために、あえて健康食品を摂取しなかった。	その他	女性	50代
健康食品に関心がない	食品生産・加工経験者	男性	60代以上
効果があると思っていない	医療職経験者	男性	60代以上
必要性を感じない	食品生産・加工経験者	男性	60代以上

○ 統計表（上段：実数、下段：割合）

問1. リスクの観点からどう思うか A 環境問題

		合計	1.とても不安を感じる	2.ある程度不安を感じる	3.どちらともいえない	4.あまり不安を感じない	5.全く不安を感じない	6.よく分からない
全体		425	86	259	35	41	2	2
		100.0	20.2	60.9	8.2	9.6	0.5	0.5
性別	男性	233	37	150	22	23	1	-
		100.0	15.9	64.4	9.4	9.9	0.4	-
	女性	192	49	109	13	18	1	2
		100.0	25.5	56.8	6.8	9.4	0.5	1.0
年代	20～30代	75	16	42	6	9	-	2
		100.0	21.3	56.0	8.0	12.0	-	2.7
	40代	101	22	60	9	10	-	-
		100.0	21.8	59.4	8.9	9.9	-	-
	50代	129	28	76	13	11	1	-
		100.0	21.7	58.9	10.1	8.5	0.8	-
	60代以上	120	20	81	7	11	1	-
		100.0	16.7	67.5	5.8	9.2	0.8	-
職務経験	食品生産・加工経験者	143	23	85	16	19	-	-
		100.0	16.1	59.4	11.2	13.3	-	-
	食品流通・販売経験者	62	8	38	9	4	1	2
		100.0	12.9	61.3	14.5	6.5	1.6	3.2
	研究職経験者	38	8	21	3	6	-	-
		100.0	21.1	55.3	7.9	15.8	-	-
	医療職経験者	36	7	23	2	4	-	-
		100.0	19.4	63.9	5.6	11.1	-	-
	教育職経験者	41	9	27	2	3	-	-
		100.0	22.0	65.9	4.9	7.3	-	-
	食品関係行政職経験者	18	3	11	1	2	1	-
		100.0	16.7	61.1	5.6	11.1	5.6	-
	その他	87	28	54	2	3	-	-
		100.0	32.2	62.1	2.3	3.4	-	-
モニター継続	2年目以下（H27, 26）	127	27	75	14	10	1	-
		100.0	21.3	59.1	11.0	7.9	0.8	-
	3年目以上（H25 以前）	298	59	184	21	31	1	2
		100.0	19.8	61.7	7.0	10.4	0.3	0.7
居住地	北海道	13	3	7	3	-	-	-
		100.0	23.1	53.8	23.1	-	-	-
	東北	24	5	12	4	3	-	-
		100.0	20.8	50.0	16.7	12.5	-	-
	関東	160	32	94	14	19	-	1
		100.0	20.0	58.8	8.8	11.9	-	0.6
	甲信越	24	5	18	-	-	1	-
		100.0	20.8	75.0	-	-	4.2	-
	東海	38	5	27	2	4	-	-
		100.0	13.2	71.1	5.3	10.5	-	-
	近畿	84	18	51	5	9	-	1
		100.0	21.4	60.7	6.0	10.7	-	1.2
	中国・四国	41	7	24	5	5	-	-
		100.0	17.1	58.5	12.2	12.2	-	-
	九州	41	11	26	2	1	1	-
		100.0	26.8	63.4	4.9	2.4	2.4	-

問1. リスクの観点からどう思うか B 自然災害

		合計	1.とても不安を感じる	2.ある程度不安を感じる	3.どちらともいえない	4.あまり不安を感じない	5.全く不安を感じない	6.よく分からない
全体		425 100.0	122 28.7	242 56.9	40 9.4	21 4.9	-	-
性別	男性	233 100.0	59 25.3	137 58.8	22 9.4	15 6.4	-	-
	女性	192 100.0	63 32.8	105 54.7	18 9.4	6 3.1	-	-
年代	20～30代	75 100.0	24 32.0	40 53.3	7 9.3	4 5.3	-	-
	40代	101 100.0	30 29.7	55 54.5	11 10.9	5 5.0	-	-
	50代	129 100.0	36 27.9	76 58.9	11 8.5	6 4.7	-	-
	60代以上	120 100.0	32 26.7	71 59.2	11 9.2	6 5.0	-	-
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	35 24.5	88 61.5	13 9.1	7 4.9	-	-
	食品流通・販売経験者	62 100.0	21 33.9	31 50.0	7 11.3	3 4.8	-	-
	研究職経験者	38 100.0	9 23.7	25 65.8	2 5.3	2 5.3	-	-
	医療職経験者	36 100.0	9 25.0	20 55.6	4 11.1	3 8.3	-	-
	教育職経験者	41 100.0	15 36.6	21 51.2	3 7.3	2 4.9	-	-
	食品関係行政職経験者	18 100.0	1 5.6	12 66.7	3 16.7	2 11.1	-	-
	その他	87 100.0	32 36.8	45 51.7	8 9.2	2 2.3	-	-
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	34 26.8	78 61.4	12 9.4	3 2.4	-	-
	3年目以上 (H25 以前)	298 100.0	88 29.5	164 55.0	28 9.4	18 6.0	-	-
居住地	北海道	13 100.0	2 15.4	11 84.6	-	-	-	-
	東北	24 100.0	4 16.7	15 62.5	3 12.5	2 8.3	-	-
	関東	160 100.0	44 27.5	92 57.5	12 7.5	12 7.5	-	-
	甲信越	24 100.0	5 20.8	14 58.3	3 12.5	2 8.3	-	-
	東海	38 100.0	13 34.2	21 55.3	2 5.3	2 5.3	-	-
	近畿	84 100.0	29 34.5	47 56.0	7 8.3	1 1.2	-	-
	中国・四国	41 100.0	12 29.3	23 56.1	5 12.2	1 2.4	-	-
	九州	41 100.0	13 31.7	19 46.3	8 19.5	1 2.4	-	-

問1. リスクの観点からどう思うか C 食品安全

		合計	1.とても不安を感じる	2.ある程度不安を感じる	3.どちらともいえない	4.あまり不安を感じない	5.全く不安を感じない	6.よく分からない
全体		425 100.0	53 12.5	200 47.1	68 16.0	97 22.8	6 1.4	1 0.2
性別	男性	233 100.0	23 9.9	90 38.6	46 19.7	68 29.2	5 2.1	1 0.4
	女性	192 100.0	30 15.6	110 57.3	22 11.5	29 15.1	1 0.5	-
年代	20～30代	75 100.0	12 16.0	36 48.0	14 18.7	13 17.3	-	-
	40代	101 100.0	14 13.9	51 50.5	15 14.9	19 18.8	2 2.0	-
	50代	129 100.0	11 8.5	63 48.8	17 13.2	33 25.6	4 3.1	1 0.8
	60代以上	120 100.0	16 13.3	50 41.7	22 18.3	32 26.7	-	-
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	10 7.0	66 46.2	22 15.4	42 29.4	2 1.4	1 0.7
	食品流通・販売経験者	62 100.0	5 8.1	30 48.4	7 11.3	18 29.0	2 3.2	-
	研究職経験者	38 100.0	5 13.2	11 28.9	10 26.3	11 28.9	1 2.6	-
	医療職経験者	36 100.0	6 16.7	14 38.9	9 25.0	6 16.7	1 2.8	-
	教育職経験者	41 100.0	11 26.8	20 48.8	6 14.6	4 9.8	-	-
	食品関係行政職経験者	18 100.0	1 5.6	9 50.0	3 16.7	5 27.8	-	-
	その他	87 100.0	15 17.2	50 57.5	11 12.6	11 12.6	-	-
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	19 15.0	58 45.7	22 17.3	25 19.7	2 1.6
3年目以上 (H25 以前)		298 100.0	34 11.4	142 47.7	46 15.4	72 24.2	4 1.3	-
居住地	北海道	13 100.0	2 15.4	7 53.8	3 23.1	1 7.7	-	-
	東北	24 100.0	1 4.2	10 41.7	5 20.8	7 29.2	1 4.2	-
	関東	160 100.0	22 13.8	60 37.5	26 16.3	48 30.0	3 1.9	1 0.6
	甲信越	24 100.0	-	18 75.0	3 12.5	3 12.5	-	-
	東海	38 100.0	2 5.3	18 47.4	11 28.9	7 18.4	-	-
	近畿	84 100.0	14 16.7	41 48.8	10 11.9	19 22.6	-	-
	中国・四国	41 100.0	5 12.2	24 58.5	4 9.8	7 17.1	1 2.4	-
	九州	41 100.0	7 17.1	22 53.7	6 14.6	5 12.2	1 2.4	-

問1. リスクの観点からどう思うか D 重症感染症(新型インフルエンザなど)

		合計	1.とても不安を感じる	2.ある程度不安を感じる	3.どちらともいえない	4.あまり不安を感じない	5.全く不安を感じない	6.よく分からない	
全体		425 100.0	66 15.5	235 55.3	72 16.9	47 11.1	3 0.7	2 0.5	
性別	男性	233 100.0	33 14.2	120 51.5	47 20.2	29 12.4	3 1.3	1 0.4	
	女性	192 100.0	33 17.2	115 59.9	25 13.0	18 9.4	-	1 0.5	
年代	20~30代	75 100.0	15 20.0	38 50.7	16 21.3	4 5.3	2 2.7	-	
	40代	101 100.0	15 14.9	51 50.5	15 14.9	19 18.8	-	1 1.0	
	50代	129 100.0	15 11.6	78 60.5	21 16.3	13 10.1	1 0.8	1 0.8	
	60代以上	120 100.0	21 17.5	68 56.7	20 16.7	11 9.2	-	-	
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	18 12.6	79 55.2	28 19.6	18 12.6	-	-	
	食品流通・販売経験者	62 100.0	8 12.9	31 50.0	14 22.6	8 12.9	-	1 1.6	
	研究職経験者	38 100.0	5 13.2	22 57.9	7 18.4	4 10.5	-	-	
	医療職経験者	36 100.0	8 22.2	17 47.2	5 13.9	4 11.1	2 5.6	-	
	教育職経験者	41 100.0	6 14.6	28 68.3	5 12.2	1 2.4	-	1 2.4	
	食品関係行政職経験者	18 100.0	3 16.7	9 50.0	3 16.7	3 16.7	-	-	
	その他	87 100.0	18 20.7	49 56.3	10 11.5	9 10.3	1 1.1	-	
	モニター継続	2年目以下(H27,26)	127 100.0	20 15.7	71 55.9	22 17.3	12 9.4	1 0.8	1 0.8
		3年目以上(H25以前)	298 100.0	46 15.4	164 55.0	50 16.8	35 11.7	2 0.7	1 0.3
居住地	北海道	13 100.0	1 7.7	7 53.8	4 30.8	1 7.7	-	-	
	東北	24 100.0	3 12.5	11 45.8	6 25.0	4 16.7	-	-	
	関東	160 100.0	25 15.6	90 56.3	27 16.9	17 10.6	1 0.6	-	
	甲信越	24 100.0	3 12.5	14 58.3	6 25.0	1 4.2	-	-	
	東海	38 100.0	6 15.8	26 68.4	3 7.9	3 7.9	-	-	
	近畿	84 100.0	16 19.0	42 50.0	12 14.3	14 16.7	-	-	
	中国・四国	41 100.0	8 19.5	26 63.4	3 7.3	3 7.3	1 2.4	-	
	九州	41 100.0	4 9.8	19 46.3	11 26.8	4 9.8	1 2.4	2 4.9	

問1. リスクの観点からどう思うか E 犯罪

		合計	1.とても不安を感じる	2.ある程度不安を感じる	3.どちらともいえない	4.あまり不安を感じない	5.全く不安を感じない	6.よく分からない
全体		425 100.0	67 15.8	225 52.9	98 23.1	30 7.1	3 0.7	2 0.5
性別	男性	233 100.0	32 13.7	117 50.2	60 25.8	21 9.0	2 0.9	1 0.4
	女性	192 100.0	35 18.2	108 56.3	38 19.8	9 4.7	1 0.5	1 0.5
年代	20～30代	75 100.0	18 24.0	36 48.0	16 21.3	4 5.3	1 1.3	- -
	40代	101 100.0	13 12.9	54 53.5	27 26.7	6 5.9	- -	1 1.0
	50代	129 100.0	23 17.8	69 53.5	26 20.2	11 8.5	- -	- -
	60代以上	120 100.0	13 10.8	66 55.0	29 24.2	9 7.5	2 1.7	1 0.8
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	17 11.9	82 57.3	30 21.0	12 8.4	2 1.4	- -
	食品流通・販売経験者	62 100.0	9 14.5	32 51.6	19 30.6	2 3.2	- -	- -
	研究職経験者	38 100.0	6 15.8	17 44.7	13 34.2	1 2.6	1 2.6	- -
	医療職経験者	36 100.0	5 13.9	19 52.8	8 22.2	4 11.1	- -	- -
	教育職経験者	41 100.0	7 17.1	17 41.5	15 36.6	1 2.4	- -	1 2.4
	食品関係行政職経験者	18 100.0	- -	14 77.8	1 5.6	2 11.1	- -	1 5.6
	その他	87 100.0	23 26.4	44 50.6	12 13.8	8 9.2	- -	- -
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	21 16.5	60 47.2	33 26.0	11 8.7	1 0.8
3年目以上 (H25 以前)		298 100.0	46 15.4	165 55.4	65 21.8	19 6.4	2 0.7	1 0.3
居住地	北海道	13 100.0	2 15.4	7 53.8	3 23.1	1 7.7	- -	- -
	東北	24 100.0	2 8.3	12 50.0	6 25.0	3 12.5	1 4.2	- -
	関東	160 100.0	30 18.8	76 47.5	41 25.6	11 6.9	2 1.3	- -
	甲信越	24 100.0	5 20.8	11 45.8	5 20.8	3 12.5	- -	- -
	東海	38 100.0	4 10.5	25 65.8	7 18.4	2 5.3	- -	- -
	近畿	84 100.0	13 15.5	49 58.3	18 21.4	4 4.8	- -	- -
	中国・四国	41 100.0	6 14.6	25 61.0	8 19.5	2 4.9	- -	- -
	九州	41 100.0	5 12.2	20 48.8	10 24.4	4 9.8	- -	2 4.9

問1. リスクの観点からどう思うか F 戦争・テロ

		合計	1.とても不安を感じる	2.ある程度不安を感じる	3.どちらともいえない	4.あまり不安を感じない	5.全く不安を感じない	6.よく分からない
全体		425 100.0	90 21.2	210 49.4	79 18.6	36 8.5	5 1.2	5 1.2
性別	男性	233 100.0	50 21.5	107 45.9	46 19.7	24 10.3	4 1.7	2 0.9
	女性	192 100.0	40 20.8	103 53.6	33 17.2	12 6.3	1 0.5	3 1.6
年代	20～30代	75 100.0	17 22.7	33 44.0	15 20.0	6 8.0	1 1.3	3 4.0
	40代	101 100.0	18 17.8	50 49.5	21 20.8	11 10.9	1 1.0	-
	50代	129 100.0	32 24.8	69 53.5	17 13.2	9 7.0	2 1.6	-
	60代以上	120 100.0	23 19.2	58 48.3	26 21.7	10 8.3	1 0.8	2 1.7
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	35 24.5	63 44.1	28 19.6	13 9.1	3 2.1	1 0.7
	食品流通・販売経験者	62 100.0	12 19.4	32 51.6	13 21.0	4 6.5	-	1 1.6
	研究職経験者	38 100.0	6 15.8	22 57.9	5 13.2	5 13.2	-	-
	医療職経験者	36 100.0	3 8.3	21 58.3	6 16.7	4 11.1	1 2.8	1 2.8
	教育職経験者	41 100.0	9 22.0	19 46.3	12 29.3	1 2.4	-	-
	食品関係行政職経験者	18 100.0	2 11.1	9 50.0	4 22.2	2 11.1	-	1 5.6
	その他	87 100.0	23 26.4	44 50.6	11 12.6	7 8.0	1 1.1	1 1.1
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	22 17.3	68 53.5	20 15.7	15 11.8	1 0.8
3年目以上 (H25 以前)		298 100.0	68 22.8	142 47.7	59 19.8	21 7.0	4 1.3	4 1.3
居住地	北海道	13 100.0	3 23.1	8 61.5	1 7.7	1 7.7	-	-
	東北	24 100.0	3 12.5	11 45.8	5 20.8	4 16.7	-	1 4.2
	関東	160 100.0	37 23.1	85 53.1	24 15.0	13 8.1	1 0.6	-
	甲信越	24 100.0	6 25.0	7 29.2	9 37.5	2 8.3	-	-
	東海	38 100.0	7 18.4	19 50.0	7 18.4	4 10.5	1 2.6	-
	近畿	84 100.0	19 22.6	40 47.6	19 22.6	5 6.0	-	1 1.2
	中国・四国	41 100.0	7 17.1	18 43.9	9 22.0	4 9.8	3 7.3	-
	九州	41 100.0	8 19.5	22 53.7	5 12.2	3 7.3	-	3 7.3

問1. リスクの観点からどう思うか G 交通事故

		合計	1.とても不安を感じる	2.ある程度不安を感じる	3.どちらともいえない	4.あまり不安を感じない	5.全く不安を感じない	6.よく分からない
全体		425 100.0	66 15.5	207 48.7	97 22.8	50 11.8	2 0.5	3 0.7
性別	男性	233 100.0	32 13.7	102 43.8	63 27.0	33 14.2	2 0.9	1 0.4
	女性	192 100.0	34 17.7	105 54.7	34 17.7	17 8.9	-	2 1.0
年代	20～30代	75 100.0	14 18.7	36 48.0	17 22.7	6 8.0	1 1.3	1 1.3
	40代	101 100.0	16 15.8	46 45.5	26 25.7	12 11.9	-	1 1.0
	50代	129 100.0	19 14.7	65 50.4	28 21.7	17 13.2	-	-
	60代以上	120 100.0	17 14.2	60 50.0	26 21.7	15 12.5	1 0.8	1 0.8
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	24 16.8	69 48.3	34 23.8	16 11.2	-	-
	食品流通・販売経験者	62 100.0	9 14.5	30 48.4	11 17.7	11 17.7	1 1.6	-
	研究職経験者	38 100.0	4 10.5	18 47.4	11 28.9	5 13.2	-	-
	医療職経験者	36 100.0	7 19.4	14 38.9	8 22.2	6 16.7	1 2.8	-
	教育職経験者	41 100.0	7 17.1	22 53.7	11 26.8	-	-	1 2.4
	食品関係行政職経験者	18 100.0	3 16.7	6 33.3	6 33.3	3 16.7	-	-
	その他	87 100.0	12 13.8	48 55.2	16 18.4	9 10.3	-	2 2.3
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	17 13.4	64 50.4	29 22.8	16 12.6	-
	3年目以上 (H25 以前)	298 100.0	49 16.4	143 48.0	68 22.8	34 11.4	2 0.7	2 0.7
居住地	北海道	13 100.0	-	9 69.2	4 30.8	-	-	-
	東北	24 100.0	4 16.7	10 41.7	6 25.0	4 16.7	-	-
	関東	160 100.0	23 14.4	76 47.5	42 26.3	18 11.3	1 0.6	-
	甲信越	24 100.0	3 12.5	13 54.2	7 29.2	1 4.2	-	-
	東海	38 100.0	7 18.4	23 60.5	5 13.2	3 7.9	-	-
	近畿	84 100.0	15 17.9	40 47.6	14 16.7	15 17.9	-	-
	中国・四国	41 100.0	9 22.0	18 43.9	8 19.5	5 12.2	-	1 2.4
	九州	41 100.0	5 12.2	18 43.9	11 26.8	4 9.8	1 2.4	2 4.9

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか A 食品添加物

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない	
全 体		425	21	183	163	58		-
		100.0	4.9	43.1	38.4	13.6		-
性別	男性	233	8	73	105	47		-
		100.0	3.4	31.3	45.1	20.2		-
	女性	192	13	110	58	11		-
		100.0	6.8	57.3	30.2	5.7		-
年代	20～30代	75	8	37	25	5		-
		100.0	10.7	49.3	33.3	6.7		-
	40代	101	3	47	42	9		-
		100.0	3.0	46.5	41.6	8.9		-
	50代	129	7	47	52	23		-
		100.0	5.4	36.4	40.3	17.8		-
	60代以上	120	3	52	44	21		-
		100.0	2.5	43.3	36.7	17.5		-
職務経験	食品生産・加工経験者	143	4	49	63	27		-
		100.0	2.8	34.3	44.1	18.9		-
	食品流通・販売経験者	62	3	25	23	11		-
		100.0	4.8	40.3	37.1	17.7		-
	研究職経験者	38	2	7	18	11		-
		100.0	5.3	18.4	47.4	28.9		-
	医療職経験者	36	2	19	12	3		-
		100.0	5.6	52.8	33.3	8.3		-
	教育職経験者	41	2	26	13	-		-
		100.0	4.9	63.4	31.7	-		-
	食品関係行政職経験者	18	1	8	7	2		-
		100.0	5.6	44.4	38.9	11.1		-
	その他	87	7	49	27	4		-
		100.0	8.0	56.3	31.0	4.6		-
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	8	59	42	18		-
		100.0	6.3	46.5	33.1	14.2		-
	3年目以上 (H25 以前)	298	13	124	121	40		-
		100.0	4.4	41.6	40.6	13.4		-
居住地	北海道	13	-	7	5	1		-
		100.0	-	53.8	38.5	7.7		-
	東北	24	2	9	10	3		-
		100.0	8.3	37.5	41.7	12.5		-
	関東	160	9	51	67	33		-
		100.0	5.6	31.9	41.9	20.6		-
	甲信越	24	-	17	6	1		-
		100.0	-	70.8	25.0	4.2		-
	東海	38	-	22	12	4		-
	100.0	-	57.9	31.6	10.5		-	
近畿	84	3	43	28	10		-	
	100.0	3.6	51.2	33.3	11.9		-	
中国・四国	41	4	12	21	4		-	
	100.0	9.8	29.3	51.2	9.8		-	
九州	41	3	22	14	2		-	
	100.0	7.3	53.7	34.1	4.9		-	

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか B 残留農薬

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない		
全 体		425	32	186	168	39	-	-	
		100.0	7.5	43.8	39.5	9.2	-	-	
性別	男性	233	13	87	103	30	-	-	
		100.0	5.6	37.3	44.2	12.9	-	-	
	女性	192	19	99	65	9	-	-	
		100.0	9.9	51.6	33.9	4.7	-	-	
年代	20～30代	75	8	40	22	5	-	-	
		100.0	10.7	53.3	29.3	6.7	-	-	
	40代	101	2	50	41	8	-	-	
		100.0	2.0	49.5	40.6	7.9	-	-	
	50代	129	12	45	58	14	-	-	
		100.0	9.3	34.9	45.0	10.9	-	-	
	60代以上	120	10	51	47	12	-	-	
		100.0	8.3	42.5	39.2	10.0	-	-	
職務経験	食品生産・加工経験者	143	7	52	66	18	-	-	
		100.0	4.9	36.4	46.2	12.6	-	-	
	食品流通・販売経験者	62	3	29	23	7	-	-	
		100.0	4.8	46.8	37.1	11.3	-	-	
	研究職経験者	38	2	10	20	6	-	-	
		100.0	5.3	26.3	52.6	15.8	-	-	
	医療職経験者	36	4	15	16	1	-	-	
		100.0	11.1	41.7	44.4	2.8	-	-	
	教育職経験者	41	3	23	14	1	-	-	
	100.0	7.3	56.1	34.1	2.4	-	-		
	食品関係行政職経験者	18	2	8	5	3	-	-	
		100.0	11.1	44.4	27.8	16.7	-	-	
	その他	87	11	49	24	3	-	-	
		100.0	12.6	56.3	27.6	3.4	-	-	
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	10	58	45	14	-	-
		100.0	7.9	45.7	35.4	11.0	-	-	
	3年目以上 (H25 以前)	298	22	128	123	25	-	-	
		100.0	7.4	43.0	41.3	8.4	-	-	
居住地	北海道	13	1	8	3	1	-	-	
		100.0	7.7	61.5	23.1	7.7	-	-	
	東北	24	2	9	10	3	-	-	
		100.0	8.3	37.5	41.7	12.5	-	-	
	関東	160	11	57	71	21	-	-	
		100.0	6.9	35.6	44.4	13.1	-	-	
	甲信越	24	2	15	5	2	-	-	
		100.0	8.3	62.5	20.8	8.3	-	-	
	東海	38	2	17	17	2	-	-	
		100.0	5.3	44.7	44.7	5.3	-	-	
近畿	84	4	39	33	8	-	-		
	100.0	4.8	46.4	39.3	9.5	-	-		
	中国・四国	41	7	15	18	1	-	-	
		100.0	17.1	36.6	43.9	2.4	-	-	
	九州	41	3	26	11	1	-	-	
		100.0	7.3	63.4	26.8	2.4	-	-	

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか C 家畜用抗生物質

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない
全 体		425	31	189	165	33	7
		100.0	7.3	44.5	38.8	7.8	1.6
性別	男性	233	13	91	102	27	-
		100.0	5.6	39.1	43.8	11.6	-
	女性	192	18	98	63	6	7
		100.0	9.4	51.0	32.8	3.1	3.6
年代	20～30代	75	6	34	27	5	3
		100.0	8.0	45.3	36.0	6.7	4.0
	40代	101	5	52	36	7	1
		100.0	5.0	51.5	35.6	6.9	1.0
	50代	129	11	51	54	11	2
		100.0	8.5	39.5	41.9	8.5	1.6
	60代以上	120	9	52	48	10	1
		100.0	7.5	43.3	40.0	8.3	0.8
職務経験	食品生産・加工経験者	143	6	59	63	15	-
		100.0	4.2	41.3	44.1	10.5	-
	食品流通・販売経験者	62	4	26	27	4	1
		100.0	6.5	41.9	43.5	6.5	1.6
	研究職経験者	38	2	9	19	8	-
		100.0	5.3	23.7	50.0	21.1	-
	医療職経験者	36	3	20	12	1	-
		100.0	8.3	55.6	33.3	2.8	-
	教育職経験者	41	6	17	14	1	3
		100.0	14.6	41.5	34.1	2.4	7.3
	食品関係行政職経験者	18	2	7	6	2	1
		100.0	11.1	38.9	33.3	11.1	5.6
	その他	87	8	51	24	2	2
		100.0	9.2	58.6	27.6	2.3	2.3
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	12	54	47	12	2
		100.0	9.4	42.5	37.0	9.4	1.6
	3年目以上 (H25 以前)	298	19	135	118	21	5
		100.0	6.4	45.3	39.6	7.0	1.7
居住地	北海道	13	1	7	4	1	-
		100.0	7.7	53.8	30.8	7.7	-
	東北	24	3	8	11	2	-
		100.0	12.5	33.3	45.8	8.3	-
	関東	160	10	62	69	17	2
		100.0	6.3	38.8	43.1	10.6	1.3
	甲信越	24	1	13	8	2	-
		100.0	4.2	54.2	33.3	8.3	-
	東海	38	2	20	14	2	-
		100.0	5.3	52.6	36.8	5.3	-
近畿	84	7	38	30	5	4	
	100.0	8.3	45.2	35.7	6.0	4.8	
	中国・四国	41	6	16	16	3	-
		100.0	14.6	39.0	39.0	7.3	-
	九州	41	1	25	13	1	1
		100.0	2.4	61.0	31.7	2.4	2.4

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか D 器具・容器包装からの溶出化学物質

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない
全 体		425	29	167	196	31	2
		100.0	6.8	39.3	46.1	7.3	0.5
性別	男性	233	12	62	133	25	1
		100.0	5.2	26.6	57.1	10.7	0.4
	女性	192	17	105	63	6	1
		100.0	8.9	54.7	32.8	3.1	0.5
年代	20～30代	75	10	39	23	3	-
		100.0	13.3	52.0	30.7	4.0	-
	40代	101	1	47	49	3	1
		100.0	1.0	46.5	48.5	3.0	1.0
	50代	129	12	42	60	15	-
		100.0	9.3	32.6	46.5	11.6	-
	60代以上	120	6	39	64	10	1
		100.0	5.0	32.5	53.3	8.3	0.8
職務経験	食品生産・加工経験者	143	6	50	70	17	-
		100.0	4.2	35.0	49.0	11.9	-
	食品流通・販売経験者	62	2	23	33	3	1
		100.0	3.2	37.1	53.2	4.8	1.6
	研究職経験者	38	2	13	18	5	-
		100.0	5.3	34.2	47.4	13.2	-
	医療職経験者	36	2	13	20	1	-
		100.0	5.6	36.1	55.6	2.8	-
	教育職経験者	41	4	18	18	-	1
		100.0	9.8	43.9	43.9	-	2.4
	食品関係行政職経験者	18	1	7	9	1	-
		100.0	5.6	38.9	50.0	5.6	-
	その他	87	12	43	28	4	-
		100.0	13.8	49.4	32.2	4.6	-
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	12	43	64	8	-
		100.0	9.4	33.9	50.4	6.3	-
	3年目以上 (H25 以前)	298	17	124	132	23	2
		100.0	5.7	41.6	44.3	7.7	0.7
居住地	北海道	13	-	6	7	-	-
		100.0	-	46.2	53.8	-	-
	東北	24	2	9	11	2	-
		100.0	8.3	37.5	45.8	8.3	-
	関東	160	8	61	77	14	-
		100.0	5.0	38.1	48.1	8.8	-
	甲信越	24	3	10	9	2	-
		100.0	12.5	41.7	37.5	8.3	-
	東海	38	3	15	18	2	-
		100.0	7.9	39.5	47.4	5.3	-
近畿	84	8	34	34	7	1	
	100.0	9.5	40.5	40.5	8.3	1.2	
中国・四国	41	3	13	21	3	1	
	100.0	7.3	31.7	51.2	7.3	2.4	
九州	41	2	19	19	1	-	
	100.0	4.9	46.3	46.3	2.4	-	

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか E 汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない
全体		425	44	182	164	31	4
		100.0	10.4	42.8	38.6	7.3	0.9
性別	男性	233	19	91	99	22	2
		100.0	8.2	39.1	42.5	9.4	0.9
	女性	192	25	91	65	9	2
		100.0	13.0	47.4	33.9	4.7	1.0
年代	20～30代	75	12	36	20	6	1
		100.0	16.0	48.0	26.7	8.0	1.3
	40代	101	8	48	40	5	-
		100.0	7.9	47.5	39.6	5.0	-
	50代	129	12	48	60	8	1
		100.0	9.3	37.2	46.5	6.2	0.8
	60代以上	120	12	50	44	12	2
		100.0	10.0	41.7	36.7	10.0	1.7
職務経験	食品生産・加工経験者	143	8	54	69	12	-
		100.0	5.6	37.8	48.3	8.4	-
	食品流通・販売経験者	62	4	28	24	5	1
		100.0	6.5	45.2	38.7	8.1	1.6
	研究職経験者	38	5	16	13	4	-
		100.0	13.2	42.1	34.2	10.5	-
	医療職経験者	36	3	15	15	3	-
		100.0	8.3	41.7	41.7	8.3	-
	教育職経験者	41	5	21	14	1	-
		100.0	12.2	51.2	34.1	2.4	-
	食品関係行政職経験者	18	3	4	8	3	-
		100.0	16.7	22.2	44.4	16.7	-
	その他	87	16	44	21	3	3
		100.0	18.4	50.6	24.1	3.4	3.4
モニター継続	2年目以下(H27,26)	127	14	50	50	12	1
		100.0	11.0	39.4	39.4	9.4	0.8
	3年目以上(H25以前)	298	30	132	114	19	3
		100.0	10.1	44.3	38.3	6.4	1.0
居住地	北海道	13	-	7	5	1	-
		100.0	-	53.8	38.5	7.7	-
	東北	24	1	12	9	2	-
		100.0	4.2	50.0	37.5	8.3	-
	関東	160	18	69	61	12	-
		100.0	11.3	43.1	38.1	7.5	-
	甲信越	24	2	12	8	2	-
		100.0	8.3	50.0	33.3	8.3	-
	東海	38	4	22	10	2	-
		100.0	10.5	57.9	26.3	5.3	-
	近畿	84	7	29	39	8	1
		100.0	8.3	34.5	46.4	9.5	1.2
	中国・四国	41	6	16	16	3	-
		100.0	14.6	39.0	39.0	7.3	-
	九州	41	6	15	16	1	3
		100.0	14.6	36.6	39.0	2.4	7.3

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか F 有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない	
全 体		425	69	253	94	9		-
		100.0	16.2	59.5	22.1	2.1		-
性別	男性	233	33	137	55	8		-
		100.0	14.2	58.8	23.6	3.4		-
	女性	192	36	116	39	1		-
		100.0	18.8	60.4	20.3	0.5		-
年代	20～30代	75	19	41	14	1		-
		100.0	25.3	54.7	18.7	1.3		-
	40代	101	15	56	29	1		-
		100.0	14.9	55.4	28.7	1.0		-
	50代	129	17	78	31	3		-
		100.0	13.2	60.5	24.0	2.3		-
	60代以上	120	18	78	20	4		-
		100.0	15.0	65.0	16.7	3.3		-
職務経験	食品生産・加工経験者	143	20	85	35	3		-
		100.0	14.0	59.4	24.5	2.1		-
	食品流通・販売経験者	62	6	37	17	2		-
		100.0	9.7	59.7	27.4	3.2		-
	研究職経験者	38	5	28	4	1		-
		100.0	13.2	73.7	10.5	2.6		-
	医療職経験者	36	5	19	9	3		-
		100.0	13.9	52.8	25.0	8.3		-
	教育職経験者	41	9	26	6	-		-
		100.0	22.0	63.4	14.6	-		-
	食品関係行政職経験者	18	4	8	6	-		-
		100.0	22.2	44.4	33.3	-		-
	その他	87	20	50	17	-		-
		100.0	23.0	57.5	19.5	-		-
モニター継続	2年目以下(H27,26)	127	21	71	33	2		-
		100.0	16.5	55.9	26.0	1.6		-
	3年目以上(H25以前)	298	48	182	61	7		-
		100.0	16.1	61.1	20.5	2.3		-
居住地	北海道	13	2	10	1	-		-
		100.0	15.4	76.9	7.7	-		-
	東北	24	4	14	5	1		-
		100.0	16.7	58.3	20.8	4.2		-
	関東	160	28	89	41	2		-
		100.0	17.5	55.6	25.6	1.3		-
	甲信越	24	5	15	4	-		-
		100.0	20.8	62.5	16.7	-		-
	東海	38	3	30	4	1		-
	100.0	7.9	78.9	10.5	2.6		-	
近畿	84	9	55	18	2		-	
	100.0	10.7	65.5	21.4	2.4		-	
中国・四国		41	13	16	10	2		-
		100.0	31.7	39.0	24.4	4.9		-
九州	41	5	24	11	1		-	
	100.0	12.2	58.5	26.8	2.4		-	

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか G BSE(伝達性牛海綿状脳症)

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない
全 体		425	20	108	205	86	6
		100.0	4.7	25.4	48.2	20.2	1.4
性別	男性	233	7	49	110	63	4
		100.0	3.0	21.0	47.2	27.0	1.7
	女性	192	13	59	95	23	2
		100.0	6.8	30.7	49.5	12.0	1.0
年代	20～30代	75	7	22	37	6	3
		100.0	9.3	29.3	49.3	8.0	4.0
	40代	101	2	29	51	18	1
		100.0	2.0	28.7	50.5	17.8	1.0
	50代	129	5	30	59	34	1
		100.0	3.9	23.3	45.7	26.4	0.8
	60代以上	120	6	27	58	28	1
		100.0	5.0	22.5	48.3	23.3	0.8
職務経験	食品生産・加工経験者	143	3	33	68	37	2
		100.0	2.1	23.1	47.6	25.9	1.4
	食品流通・販売経験者	62	1	11	35	14	1
		100.0	1.6	17.7	56.5	22.6	1.6
	研究職経験者	38	-	8	15	15	-
		100.0	-	21.1	39.5	39.5	-
	医療職経験者	36	2	8	18	7	1
		100.0	5.6	22.2	50.0	19.4	2.8
	教育職経験者	41	5	11	23	2	-
		100.0	12.2	26.8	56.1	4.9	-
	食品関係行政職経験者	18	2	4	8	4	-
		100.0	11.1	22.2	44.4	22.2	-
	その他	87	7	33	38	7	2
		100.0	8.0	37.9	43.7	8.0	2.3
モニター継続	2年目以下(H27,26)	127	7	31	62	25	2
		100.0	5.5	24.4	48.8	19.7	1.6
	3年目以上(H25以前)	298	13	77	143	61	4
		100.0	4.4	25.8	48.0	20.5	1.3
居住地	北海道	13	-	5	5	3	-
		100.0	-	38.5	38.5	23.1	-
	東北	24	2	6	7	9	-
		100.0	8.3	25.0	29.2	37.5	-
	関東	160	4	29	85	39	3
		100.0	2.5	18.1	53.1	24.4	1.9
	甲信越	24	2	5	14	3	-
		100.0	8.3	20.8	58.3	12.5	-
	東海	38	1	13	14	10	-
	100.0	2.6	34.2	36.8	26.3	-	
近畿	84	6	23	40	14	1	
	100.0	7.1	27.4	47.6	16.7	1.2	
中国・四国	41	4	13	18	6	-	
	100.0	9.8	31.7	43.9	14.6	-	
九州	41	1	14	22	2	2	
	100.0	2.4	34.1	53.7	4.9	4.9	

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか H 遺伝子組換え

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない
全 体		425	26	140	167	89	3
		100.0	6.1	32.9	39.3	20.9	0.7
性別	男性	233	10	50	106	65	2
		100.0	4.3	21.5	45.5	27.9	0.9
	女性	192	16	90	61	24	1
		100.0	8.3	46.9	31.8	12.5	0.5
年代	20～30代	75	6	27	28	13	1
		100.0	8.0	36.0	37.3	17.3	1.3
	40代	101	4	34	46	17	-
		100.0	4.0	33.7	45.5	16.8	-
	50代	129	10	39	46	33	1
		100.0	7.8	30.2	35.7	25.6	0.8
	60代以上	120	6	40	47	26	1
		100.0	5.0	33.3	39.2	21.7	0.8
職務経験	食品生産・加工経験者	143	3	41	60	38	1
		100.0	2.1	28.7	42.0	26.6	0.7
	食品流通・販売経験者	62	2	20	23	16	1
		100.0	3.2	32.3	37.1	25.8	1.6
	研究職経験者	38	3	4	16	15	-
		100.0	7.9	10.5	42.1	39.5	-
	医療職経験者	36	2	10	18	6	-
		100.0	5.6	27.8	50.0	16.7	-
	教育職経験者	41	6	14	19	2	-
		100.0	14.6	34.1	46.3	4.9	-
	食品関係行政職経験者	18	-	9	3	6	-
		100.0	-	50.0	16.7	33.3	-
	その他	87	10	42	28	6	1
		100.0	11.5	48.3	32.2	6.9	1.1
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	8	35	52	30	2
		100.0	6.3	27.6	40.9	23.6	1.6
	3年目以上 (H25 以前)	298	18	105	115	59	1
		100.0	6.0	35.2	38.6	19.8	0.3
居住地	北海道	13	-	6	6	1	-
		100.0	-	46.2	46.2	7.7	-
	東北	24	1	8	9	6	-
		100.0	4.2	33.3	37.5	25.0	-
	関東	160	8	44	65	42	1
		100.0	5.0	27.5	40.6	26.3	0.6
	甲信越	24	1	12	8	3	-
		100.0	4.2	50.0	33.3	12.5	-
	東海	38	1	16	13	8	-
		100.0	2.6	42.1	34.2	21.1	-
近畿	84	7	24	34	18	1	
	100.0	8.3	28.6	40.5	21.4	1.2	
中国・四国	41	4	12	19	6	-	
	100.0	9.8	29.3	46.3	14.6	-	
九州	41	4	18	13	5	1	
	100.0	9.8	43.9	31.7	12.2	2.4	

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか 1 体細胞クローン

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない
全 体		425	29	131	181	53	31
		100.0	6.8	30.8	42.6	12.5	7.3
性別	男性	233	9	54	116	41	13
		100.0	3.9	23.2	49.8	17.6	5.6
	女性	192	20	77	65	12	18
		100.0	10.4	40.1	33.9	6.3	9.4
年代	20～30代	75	7	24	26	7	11
		100.0	9.3	32.0	34.7	9.3	14.7
	40代	101	5	31	47	10	8
		100.0	5.0	30.7	46.5	9.9	7.9
	50代	129	9	37	57	17	9
		100.0	7.0	28.7	44.2	13.2	7.0
	60代以上	120	8	39	51	19	3
		100.0	6.7	32.5	42.5	15.8	2.5
職務経験	食品生産・加工経験者	143	4	45	64	21	9
		100.0	2.8	31.5	44.8	14.7	6.3
	食品流通・販売経験者	62	3	17	26	11	5
		100.0	4.8	27.4	41.9	17.7	8.1
	研究職経験者	38	3	3	19	11	2
		100.0	7.9	7.9	50.0	28.9	5.3
	医療職経験者	36	2	8	22	2	2
		100.0	5.6	22.2	61.1	5.6	5.6
	教育職経験者	41	6	11	19	2	3
		100.0	14.6	26.8	46.3	4.9	7.3
	食品関係行政職経験者	18	1	8	6	2	1
		100.0	5.6	44.4	33.3	11.1	5.6
	その他	87	10	39	25	4	9
		100.0	11.5	44.8	28.7	4.6	10.3
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	10	38	53	18	8
		100.0	7.9	29.9	41.7	14.2	6.3
	3年目以上 (H25 以前)	298	19	93	128	35	23
		100.0	6.4	31.2	43.0	11.7	7.7
居住地	北海道	13	1	5	5	2	-
		100.0	7.7	38.5	38.5	15.4	-
	東北	24	-	8	11	4	1
		100.0	-	33.3	45.8	16.7	4.2
	関東	160	11	40	68	25	16
		100.0	6.9	25.0	42.5	15.6	10.0
	甲信越	24	1	12	8	2	1
		100.0	4.2	50.0	33.3	8.3	4.2
	東海	38	1	16	14	5	2
	100.0	2.6	42.1	36.8	13.2	5.3	
近畿	84	7	25	40	9	3	
	100.0	8.3	29.8	47.6	10.7	3.6	
中国・四国	41	4	13	18	5	1	
	100.0	9.8	31.7	43.9	12.2	2.4	
九州	41	4	12	17	1	7	
	100.0	9.8	29.3	41.5	2.4	17.1	

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか J いわゆる健康食品

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない
全体		425	58	216	120	27	4
		100.0	13.6	50.8	28.2	6.4	0.9
性別	男性	233	33	108	70	20	2
		100.0	14.2	46.4	30.0	8.6	0.9
	女性	192	25	108	50	7	2
		100.0	13.0	56.3	26.0	3.6	1.0
年代	20～30代	75	10	32	24	8	1
		100.0	13.3	42.7	32.0	10.7	1.3
	40代	101	15	45	36	5	-
		100.0	14.9	44.6	35.6	5.0	-
	50代	129	19	71	27	9	3
		100.0	14.7	55.0	20.9	7.0	2.3
	60代以上	120	14	68	33	5	-
		100.0	11.7	56.7	27.5	4.2	-
職務経験	食品生産・加工経験者	143	21	72	39	10	1
		100.0	14.7	50.3	27.3	7.0	0.7
	食品流通・販売経験者	62	3	33	20	5	1
		100.0	4.8	53.2	32.3	8.1	1.6
	研究職経験者	38	6	17	10	5	-
		100.0	15.8	44.7	26.3	13.2	-
	医療職経験者	36	7	16	12	1	-
		100.0	19.4	44.4	33.3	2.8	-
	教育職経験者	41	9	19	12	1	-
		100.0	22.0	46.3	29.3	2.4	-
	食品関係行政職経験者	18	3	10	4	1	-
		100.0	16.7	55.6	22.2	5.6	-
	その他	87	9	49	23	4	2
		100.0	10.3	56.3	26.4	4.6	2.3
モニター継続	2年目以下(H27,26)	127	17	61	38	10	1
		100.0	13.4	48.0	29.9	7.9	0.8
	3年目以上(H25以前)	298	41	155	82	17	3
		100.0	13.8	52.0	27.5	5.7	1.0
居住地	北海道	13	3	8	1	1	-
		100.0	23.1	61.5	7.7	7.7	-
	東北	24	3	14	5	2	-
		100.0	12.5	58.3	20.8	8.3	-
	関東	160	22	74	49	13	2
		100.0	13.8	46.3	30.6	8.1	1.3
	甲信越	24	5	8	11	-	-
		100.0	20.8	33.3	45.8	-	-
	東海	38	5	20	12	1	-
		100.0	13.2	52.6	31.6	2.6	-
	近畿	84	8	47	22	6	1
		100.0	9.5	56.0	26.2	7.1	1.2
	中国・四国	41	7	20	13	1	-
		100.0	17.1	48.8	31.7	2.4	-
	九州	41	5	25	7	3	1
		100.0	12.2	61.0	17.1	7.3	2.4

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか K 肥料・飼料等

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない
全 体		425	16	132	212	59	6
		100.0	3.8	31.1	49.9	13.9	1.4
性別	男性	233	8	47	129	47	2
		100.0	3.4	20.2	55.4	20.2	0.9
	女性	192	8	85	83	12	4
		100.0	4.2	44.3	43.2	6.3	2.1
年代	20～30代	75	7	31	28	7	2
		100.0	9.3	41.3	37.3	9.3	2.7
	40代	101	2	28	55	15	1
		100.0	2.0	27.7	54.5	14.9	1.0
	50代	129	2	36	72	18	1
		100.0	1.6	27.9	55.8	14.0	0.8
	60代以上	120	5	37	57	19	2
		100.0	4.2	30.8	47.5	15.8	1.7
職務経験	食品生産・加工経験者	143	3	34	78	26	2
		100.0	2.1	23.8	54.5	18.2	1.4
	食品流通・販売経験者	62	1	19	32	9	1
		100.0	1.6	30.6	51.6	14.5	1.6
	研究職経験者	38	3	4	19	12	-
		100.0	7.9	10.5	50.0	31.6	-
	医療職経験者	36	2	12	19	3	-
		100.0	5.6	33.3	52.8	8.3	-
	教育職経験者	41	2	19	19	-	1
		100.0	4.9	46.3	46.3	-	2.4
	食品関係行政職経験者	18	-	8	8	2	-
		100.0	-	44.4	44.4	11.1	-
	その他	87	5	36	37	7	2
		100.0	5.7	41.4	42.5	8.0	2.3
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	2	44	60	18	3
		100.0	1.6	34.6	47.2	14.2	2.4
	3年目以上 (H25 以前)	298	14	88	152	41	3
		100.0	4.7	29.5	51.0	13.8	1.0
居住地	北海道	13	1	5	6	1	-
		100.0	7.7	38.5	46.2	7.7	-
	東北	24	1	8	11	4	-
		100.0	4.2	33.3	45.8	16.7	-
	関東	160	7	34	85	32	2
		100.0	4.4	21.3	53.1	20.0	1.3
	甲信越	24	1	7	13	3	-
		100.0	4.2	29.2	54.2	12.5	-
	東海	38	1	11	25	1	-
		100.0	2.6	28.9	65.8	2.6	-
	近畿	84	2	34	37	10	1
		100.0	2.4	40.5	44.0	11.9	1.2
	中国・四国	41	2	17	16	5	1
		100.0	4.9	41.5	39.0	12.2	2.4
	九州	41	1	16	19	3	2
		100.0	2.4	39.0	46.3	7.3	4.9

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか L 放射性物質

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない
全 体		425	82	166	127	48	2
		100.0	19.3	39.1	29.9	11.3	0.5
性別	男性	233	36	76	81	38	2
		100.0	15.5	32.6	34.8	16.3	0.9
	女性	192	46	90	46	10	-
		100.0	24.0	46.9	24.0	5.2	-
年代	20～30代	75	18	32	21	4	-
		100.0	24.0	42.7	28.0	5.3	-
	40代	101	19	44	27	11	-
		100.0	18.8	43.6	26.7	10.9	-
	50代	129	25	45	36	22	1
		100.0	19.4	34.9	27.9	17.1	0.8
	60代以上	120	20	45	43	11	1
		100.0	16.7	37.5	35.8	9.2	0.8
職務経験	食品生産・加工経験者	143	20	52	50	21	-
		100.0	14.0	36.4	35.0	14.7	-
	食品流通・販売経験者	62	7	24	21	8	2
		100.0	11.3	38.7	33.9	12.9	3.2
	研究職経験者	38	9	10	9	10	-
		100.0	23.7	26.3	23.7	26.3	-
	医療職経験者	36	5	15	15	1	-
		100.0	13.9	41.7	41.7	2.8	-
	教育職経験者	41	9	18	11	3	-
		100.0	22.0	43.9	26.8	7.3	-
	食品関係行政職経験者	18	4	7	6	1	-
		100.0	22.2	38.9	33.3	5.6	-
	その他	87	28	40	15	4	-
		100.0	32.2	46.0	17.2	4.6	-
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	27	48	39	13	-
		100.0	21.3	37.8	30.7	10.2	-
	3年目以上 (H25 以前)	298	55	118	88	35	2
		100.0	18.5	39.6	29.5	11.7	0.7
居住地	北海道	13	1	5	5	2	-
		100.0	7.7	38.5	38.5	15.4	-
	東北	24	5	9	8	2	-
		100.0	20.8	37.5	33.3	8.3	-
	関東	160	18	71	40	31	-
		100.0	11.3	44.4	25.0	19.4	-
	甲信越	24	11	5	6	2	-
		100.0	45.8	20.8	25.0	8.3	-
	東海	38	6	14	16	2	-
	100.0	15.8	36.8	42.1	5.3	-	
近畿	84	19	28	31	6	-	
	100.0	22.6	33.3	36.9	7.1	-	
中国・四国	41	7	17	14	2	1	
	100.0	17.1	41.5	34.1	4.9	2.4	
九州	41	15	17	7	1	1	
	100.0	36.6	41.5	17.1	2.4	2.4	

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか M アクリルアミド

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない
全 体		425	27	161	180	36	21
		100.0	6.4	37.9	42.4	8.5	4.9
性別	男性	233	10	70	116	30	7
		100.0	4.3	30.0	49.8	12.9	3.0
	女性	192	17	91	64	6	14
		100.0	8.9	47.4	33.3	3.1	7.3
年代	20～30代	75	8	34	22	4	7
		100.0	10.7	45.3	29.3	5.3	9.3
	40代	101	3	36	49	10	3
		100.0	3.0	35.6	48.5	9.9	3.0
	50代	129	9	44	58	11	7
		100.0	7.0	34.1	45.0	8.5	5.4
	60代以上	120	7	47	51	11	4
		100.0	5.8	39.2	42.5	9.2	3.3
職務経験	食品生産・加工経験者	143	4	46	71	17	5
		100.0	2.8	32.2	49.7	11.9	3.5
	食品流通・販売経験者	62	2	25	26	7	2
		100.0	3.2	40.3	41.9	11.3	3.2
	研究職経験者	38	5	8	16	9	-
		100.0	13.2	21.1	42.1	23.7	-
	医療職経験者	36	1	14	18	2	1
		100.0	2.8	38.9	50.0	5.6	2.8
	教育職経験者	41	4	16	16	-	5
		100.0	9.8	39.0	39.0	-	12.2
	食品関係行政職経験者	18	1	9	7	1	-
		100.0	5.6	50.0	38.9	5.6	-
	その他	87	10	43	26	-	8
		100.0	11.5	49.4	29.9	-	9.2
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	10	42	57	10	8
		100.0	7.9	33.1	44.9	7.9	6.3
	3年目以上 (H25 以前)	298	17	119	123	26	13
		100.0	5.7	39.9	41.3	8.7	4.4
居住地	北海道	13	-	6	5	2	-
		100.0	-	46.2	38.5	15.4	-
	東北	24	4	9	8	-	3
		100.0	16.7	37.5	33.3	-	12.5
	関東	160	6	57	70	20	7
		100.0	3.8	35.6	43.8	12.5	4.4
	甲信越	24	4	5	14	1	-
		100.0	16.7	20.8	58.3	4.2	-
	東海	38	3	16	16	2	1
		100.0	7.9	42.1	42.1	5.3	2.6
近畿	84	5	34	36	6	3	
	100.0	6.0	40.5	42.9	7.1	3.6	
	中国・四国	41	3	17	19	2	-
		100.0	7.3	41.5	46.3	4.9	-
	九州	41	2	17	12	3	7
		100.0	4.9	41.5	29.3	7.3	17.1

問2. ハザード等について、食品の安全性の観点からどう思うか N その他

		合計	1.とても不安である	2.ある程度不安である	3.あまり不安を感じない	4.全く不安を感じない	5.よく知らない	無回答
全 体		425 100.0	20 4.7	45 10.6	6 1.4	2 0.5	4 0.9	348 81.9
性別	男性	233 100.0	13 5.6	34 14.6	6 2.6	1 0.4	2 0.9	177 76.0
	女性	192 100.0	7 3.6	11 5.7	-	1 0.5	2 1.0	171 89.1
年代	20～30代	75 100.0	-	2 2.7	-	-	-	73 97.3
	40代	101 100.0	4 4.0	6 5.9	2 2.0	-	2 2.0	87 86.1
	50代	129 100.0	7 5.4	13 10.1	1 0.8	2 1.6	2 1.6	104 80.6
	60代以上	120 100.0	9 7.5	24 20.0	3 2.5	-	-	84 70.0
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	2 1.4	18 12.6	2 1.4	1 0.7	3 2.1	117 81.8
	食品流通・販売経験者	62 100.0	4 6.5	6 9.7	1 1.6	-	-	51 82.3
	研究職経験者	38 100.0	2 5.3	6 15.8	1 2.6	-	-	29 76.3
	医療職経験者	36 100.0	4 11.1	4 11.1	-	1 2.8	-	27 75.0
	教育職経験者	41 100.0	4 9.8	3 7.3	-	-	-	34 82.9
	食品関係行政職経験者	18 100.0	2 11.1	3 16.7	-	-	-	13 72.2
	その他	87 100.0	2 2.3	5 5.7	2 2.3	-	1 1.1	77 88.5
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	9 7.1	21 16.5	1 0.8	-	1 0.8
	3年目以上 (H25 以前)	298 100.0	11 3.7	24 8.1	5 1.7	2 0.7	3 1.0	253 84.9
居住地	北海道	13 100.0	1 7.7	1 7.7	1 7.7	-	-	10 76.9
	東北	24 100.0	-	2 8.3	1 4.2	-	-	21 87.5
	関東	160 100.0	9 5.6	15 9.4	2 1.3	-	2 1.3	132 82.5
	甲信越	24 100.0	1 4.2	3 12.5	2 8.3	-	-	18 75.0
	東海	38 100.0	-	7 18.4	-	1 2.6	-	30 78.9
	近畿	84 100.0	8 9.5	9 10.7	-	1 1.2	2 2.4	64 76.2
	中国・四国	41 100.0	1 2.4	2 4.9	-	-	-	38 92.7
	九州	41 100.0	-	6 14.6	-	-	-	35 85.4

問3. 問2のハザード等について、不安を感じる理由 A 食品添加物

	合計	1.安全性についての科学的な根拠に疑問があるため	2.行政による規制が不十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	6.過去に問題になった事例があるため	7.漠然と不安	8.その他
全体	204 100.0	54 26.5	19 9.3	59 28.9	13 6.4	31 15.2	13 6.4	12 5.9	3 1.5
性別									
男性	81 100.0	12 14.8	9 11.1	28 34.6	6 7.4	17 21.0	3 3.7	5 6.2	1 1.2
女性	123 100.0	42 34.1	10 8.1	31 25.2	7 5.7	14 11.4	10 8.1	7 5.7	2 1.6
年代									
20～30代	45 100.0	11 24.4	7 15.6	7 15.6	4 8.9	5 11.1	6 13.3	5 11.1	-
40代	50 100.0	17 34.0	2 4.0	11 22.0	1 2.0	9 18.0	6 12.0	3 6.0	1 2.0
50代	54 100.0	16 29.6	5 9.3	15 27.8	3 5.6	10 18.5	1 1.9	2 3.7	2 3.7
60代以上	55 100.0	10 18.2	5 9.1	26 47.3	5 9.1	7 12.7	-	2 3.6	-
職務経験									
食品生産・加工経験者	53 100.0	7 13.2	4 7.5	22 41.5	4 7.5	8 15.1	5 9.4	2 3.8	1 1.9
食品流通・販売経験者	28 100.0	10 35.7	2 7.1	7 25.0	1 3.6	6 21.4	1 3.6	1 3.6	-
研究職経験者	9 100.0	3 33.3	1 11.1	3 33.3	-	2 22.2	-	-	-
医療職経験者	21 100.0	7 33.3	2 9.5	8 38.1	-	1 4.8	-	3 14.3	-
教育職経験者	28 100.0	8 28.6	5 17.9	6 21.4	1 3.6	4 14.3	2 7.1	2 7.1	-
食品関係行政職経験者	9 100.0	3 33.3	1 11.1	3 33.3	1 11.1	1 11.1	-	-	-
その他	56 100.0	16 28.6	4 7.1	10 17.9	6 10.7	9 16.1	5 8.9	4 7.1	2 3.6
モニター継続									
2年目以下 (H27, 26)	67 100.0	21 31.3	6 9.0	16 23.9	6 9.0	10 14.9	5 7.5	2 3.0	1 1.5
3年目以上 (H25 以前)	137 100.0	33 24.1	13 9.5	43 31.4	7 5.1	21 15.3	8 5.8	10 7.3	2 1.5
居住地									
北海道	7 100.0	1 14.3	-	2 28.6	-	2 28.6	-	1 14.3	1 14.3
東北	11 100.0	3 27.3	1 9.1	4 36.4	1 9.1	1 9.1	-	1 9.1	-
関東	60 100.0	13 21.7	10 16.7	16 26.7	3 5.0	9 15.0	5 8.3	4 6.7	-
甲信越	17 100.0	4 23.5	-	3 17.6	3 17.6	4 23.5	2 11.8	1 5.9	-
東海	22 100.0	3 13.6	2 9.1	8 36.4	-	5 22.7	2 9.1	1 4.5	1 4.5
近畿	46 100.0	14 30.4	5 10.9	14 30.4	3 6.5	6 13.0	2 4.3	2 4.3	-
中国・四国	16 100.0	6 37.5	-	4 25.0	2 12.5	2 12.5	1 6.3	1 6.3	-
九州	25 100.0	10 40.0	1 4.0	8 32.0	1 4.0	2 8.0	1 4.0	1 4.0	1 4.0

問3. 問2のハザード等について、不安を感じる理由 B 残留農薬

	合計	1.安全性についての科学的な根拠に疑問があるため	2.行政による規制が不十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	6.過去に問題になった事例があるため	7.漠然と不安	8.その他
全体	218 100.0	35 16.1	24 11.0	76 34.9	7 3.2	30 13.8	31 14.2	13 6.0	2 0.9
性別									
男性	100 100.0	9 9.0	12 12.0	37 37.0	4 4.0	19 19.0	12 12.0	5 5.0	2 2.0
女性	118 100.0	26 22.0	12 10.2	39 33.1	3 2.5	11 9.3	19 16.1	8 6.8	-
年代									
20～30代	48 100.0	6 12.5	5 10.4	10 20.8	1 2.1	9 18.8	9 18.8	8 16.7	-
40代	52 100.0	11 21.2	2 3.8	18 34.6	2 3.8	6 11.5	11 21.2	1 1.9	1 1.9
50代	57 100.0	10 17.5	7 12.3	22 38.6	1 1.8	7 12.3	7 12.3	2 3.5	1 1.8
60代以上	61 100.0	8 13.1	10 16.4	26 42.6	3 4.9	8 13.1	4 6.6	2 3.3	-
職務経験									
食品生産・加工経験者	59 100.0	7 11.9	3 5.1	26 44.1	3 5.1	10 16.9	6 10.2	3 5.1	1 1.7
食品流通・販売経験者	32 100.0	2 6.3	5 15.6	11 34.4	-	3 9.4	10 31.3	1 3.1	-
研究職経験者	12 100.0	1 8.3	2 16.7	4 33.3	-	2 16.7	1 8.3	1 8.3	1 8.3
医療職経験者	19 100.0	6 31.6	3 15.8	6 31.6	1 5.3	1 5.3	-	2 10.5	-
教育職経験者	26 100.0	7 26.9	1 3.8	9 34.6	-	3 11.5	4 15.4	2 7.7	-
食品関係行政職経験者	10 100.0	1 10.0	2 20.0	6 60.0	1 10.0	-	-	-	-
その他	60 100.0	11 18.3	8 13.3	14 23.3	2 3.3	11 18.3	10 16.7	4 6.7	-
モニター継続									
2年目以下 (H27, 26)	68 100.0	11 16.2	4 5.9	26 38.2	2 2.9	13 19.1	6 8.8	6 8.8	-
3年目以上 (H25 以前)	150 100.0	24 16.0	20 13.3	50 33.3	5 3.3	17 11.3	25 16.7	7 4.7	2 1.3
居住地									
北海道	9 100.0	-	1 11.1	4 44.4	-	1 11.1	2 22.2	-	1 11.1
東北	11 100.0	1 9.1	3 27.3	3 27.3	-	1 9.1	2 18.2	1 9.1	-
関東	68 100.0	9 13.2	8 11.8	21 30.9	4 5.9	13 19.1	10 14.7	3 4.4	-
甲信越	17 100.0	4 23.5	2 11.8	4 23.5	-	3 17.6	2 11.8	2 11.8	-
東海	19 100.0	3 15.8	1 5.3	9 47.4	-	2 10.5	3 15.8	1 5.3	-
近畿	43 100.0	6 14.0	5 11.6	19 44.2	2 4.7	2 4.7	7 16.3	1 2.3	1 2.3
中国・四国	22 100.0	6 27.3	1 4.5	7 31.8	-	4 18.2	2 9.1	2 9.1	-
九州	29 100.0	6 20.7	3 10.3	9 31.0	1 3.4	4 13.8	3 10.3	3 10.3	-

問3. 問2のハザード等について、不安を感じる理由 C 家畜用抗生物質

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に疑問があるため	2.行政による規制が不十分のため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が不十分のため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分のため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分のため	6.過去に問題になった事例があるため	7.漠然と不安	8.その他
全体		220	36	23	70	19	33	14	22	3
		100.0	16.4	10.5	31.8	8.6	15.0	6.4	10.0	1.4
性別	男性	104	11	13	35	11	17	8	7	2
		100.0	10.6	12.5	33.7	10.6	16.3	7.7	6.7	1.9
	女性	116	25	10	35	8	16	6	15	1
		100.0	21.6	8.6	30.2	6.9	13.8	5.2	12.9	0.9
年代	20～30代	40	7	7	8	3	7	2	6	-
		100.0	17.5	17.5	20.0	7.5	17.5	5.0	15.0	-
	40代	57	11	4	15	5	8	5	8	1
		100.0	19.3	7.0	26.3	8.8	14.0	8.8	14.0	1.8
	50代	62	10	7	21	4	8	4	6	2
		100.0	16.1	11.3	33.9	6.5	12.9	6.5	9.7	3.2
	60代以上	61	8	5	26	7	10	3	2	-
		100.0	13.1	8.2	42.6	11.5	16.4	4.9	3.3	-
職務経験	食品生産・加工経験者	65	6	6	21	11	10	4	6	1
		100.0	9.2	9.2	32.3	16.9	15.4	6.2	9.2	1.5
	食品流通・販売経験者	30	4	3	12	1	6	2	2	-
		100.0	13.3	10.0	40.0	3.3	20.0	6.7	6.7	-
	研究職経験者	11	-	3	2	2	1	2	1	-
		100.0	-	27.3	18.2	18.2	9.1	18.2	9.1	-
	医療職経験者	23	6	1	8	1	3	2	1	1
		100.0	26.1	4.3	34.8	4.3	13.0	8.7	4.3	4.3
	教育職経験者	23	6	2	9	-	4	1	1	-
		100.0	26.1	8.7	39.1	-	17.4	4.3	4.3	-
	食品関係行政職経験者	9	1	1	6	-	-	-	1	-
		100.0	11.1	11.1	66.7	-	-	-	11.1	-
	その他	59	13	7	12	4	9	3	10	1
		100.0	22.0	11.9	20.3	6.8	15.3	5.1	16.9	1.7
モニター継続	2年目以下(H27,26)	66	8	7	22	5	10	4	7	3
		100.0	12.1	10.6	33.3	7.6	15.2	6.1	10.6	4.5
	3年目以上(H25以前)	154	28	16	48	14	23	10	15	-
		100.0	18.2	10.4	31.2	9.1	14.9	6.5	9.7	-
居住地	北海道	8	-	-	3	1	3	-	-	1
		100.0	-	-	37.5	12.5	37.5	-	-	12.5
	東北	11	1	4	3	2	1	-	-	-
		100.0	9.1	36.4	27.3	18.2	9.1	-	-	-
	関東	72	10	9	21	8	13	5	5	1
		100.0	13.9	12.5	29.2	11.1	18.1	6.9	6.9	1.4
	甲信越	14	4	2	2	-	2	-	4	-
		100.0	28.6	14.3	14.3	-	14.3	-	28.6	-
	東海	22	2	2	8	1	3	2	4	-
		100.0	9.1	9.1	36.4	4.5	13.6	9.1	18.2	-
	近畿	45	9	5	15	5	6	2	3	-
		100.0	20.0	11.1	33.3	11.1	13.3	4.4	6.7	-
	中国・四国	22	6	1	9	1	2	3	-	-
		100.0	27.3	4.5	40.9	4.5	9.1	13.6	-	-
	九州	26	4	-	9	1	3	2	6	1
		100.0	15.4	-	34.6	3.8	11.5	7.7	23.1	3.8

問3. 問2のハザード等について、不安を感じる理由 D 器具・容器包装からの溶出化学物質

		合計	1.安全性についての科学的根拠に疑問があるため	2.行政による規制が不十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	6.過去に問題になった事例があるため	7.漠然と不安	8.その他
全体		196 100.0	40 20.4	24 12.2	34 17.3	13 6.6	30 15.3	25 12.8	26 13.3	4 2.0
性別	男性	74 100.0	9 12.2	10 13.5	15 20.3	4 5.4	14 18.9	11 14.9	8 10.8	3 4.1
	女性	122 100.0	31 25.4	14 11.5	19 15.6	9 7.4	16 13.1	14 11.5	18 14.8	1 0.8
年代	20～30代	49 100.0	7 14.3	4 8.2	9 18.4	2 4.1	10 20.4	6 12.2	11 22.4	-
	40代	48 100.0	12 25.0	5 10.4	5 10.4	5 10.4	5 10.4	7 14.6	8 16.7	1 2.1
	50代	54 100.0	12 22.2	8 14.8	13 24.1	3 5.6	9 16.7	6 11.1	3 5.6	-
	60代以上	45 100.0	9 20.0	7 15.6	7 15.6	3 6.7	6 13.3	6 13.3	4 8.9	3 6.7
職務経験	食品生産・加工経験者	56 100.0	7 12.5	8 14.3	11 19.6	3 5.4	12 21.4	9 16.1	4 7.1	2 3.6
	食品流通・販売経験者	25 100.0	4 16.0	4 16.0	3 12.0	2 8.0	4 16.0	3 12.0	5 20.0	-
	研究職経験者	15 100.0	2 13.3	2 13.3	2 13.3	3 20.0	-	2 13.3	4 26.7	-
	医療職経験者	15 100.0	8 53.3	1 6.7	3 20.0	-	1 6.7	2 13.3	-	-
	教育職経験者	22 100.0	7 31.8	1 4.5	4 18.2	1 4.5	5 22.7	2 9.1	1 4.5	1 4.5
	食品関係行政職経験者	8 100.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	-	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5
	その他	55 100.0	10 18.2	7 12.7	10 18.2	4 7.3	7 12.7	6 10.9	11 20.0	-
	モニター継続	55 100.0	10 18.2	5 9.1	10 18.2	5 9.1	9 16.4	7 12.7	8 14.5	1 1.8
	141 100.0	30 21.3	19 13.5	24 17.0	8 5.7	21 14.9	18 12.8	18 12.8	3 2.1	
居住地	北海道	6 100.0	-	1 16.7	1 16.7	1 16.7	2 33.3	-	-	1 16.7
	東北	11 100.0	1 9.1	2 18.2	4 36.4	-	1 9.1	2 18.2	1 9.1	-
	関東	69 100.0	11 15.9	8 11.6	8 11.6	7 10.1	10 14.5	13 18.8	11 15.9	1 1.4
	甲信越	13 100.0	2 15.4	2 15.4	1 7.7	-	2 15.4	1 7.7	5 38.5	-
	東海	18 100.0	6 33.3	1 5.6	3 16.7	3 5.6	1 22.2	4 11.1	2 5.6	-
	近畿	42 100.0	6 14.3	3 7.1	14 33.3	1 2.4	6 14.3	5 11.9	6 14.3	1 2.4
	中国・四国	16 100.0	8 50.0	2 12.5	2 12.5	1 6.3	2 12.5	1 6.3	-	-
	九州	21 100.0	6 28.6	5 23.8	1 4.8	2 9.5	3 14.3	1 4.8	2 9.5	1 4.8

問3. 問2のハザード等について、不安を感じる理由 E 汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に疑問があるため	2.行政による規制が不十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	6.過去に問題になった事例があるため	7.漠然と不安	8.その他
全体		226 100.0	27 11.9	23 10.2	39 17.3	17 7.5	14 6.2	82 36.3	21 9.3	3 1.3
性別	男性	110 100.0	5 4.5	13 11.8	22 20.0	9 8.2	9 8.2	38 34.5	13 11.8	1 0.9
	女性	116 100.0	22 19.0	10 8.6	17 14.7	8 6.9	5 4.3	44 37.9	8 6.9	2 1.7
年代	20～30代	48 100.0	8 16.7	5 10.4	4 8.3	1 2.1	3 6.3	21 43.8	6 12.5	-
	40代	56 100.0	5 8.9	1 1.8	12 21.4	3 5.4	3 5.4	24 42.9	7 12.5	1 1.8
	50代	60 100.0	11 18.3	7 11.7	9 15.0	6 10.0	3 5.0	20 33.3	3 5.0	1 1.7
	60代以上	62 100.0	3 4.8	10 16.1	14 22.6	7 11.3	5 8.1	17 27.4	5 8.1	1 1.6
職務経験	食品生産・加工経験者	62 100.0	3 4.8	8 12.9	14 22.6	5 8.1	3 4.8	23 37.1	5 8.1	1 1.6
	食品流通・販売経験者	32 100.0	1 3.1	5 15.6	4 12.5	3 9.4	4 12.5	11 34.4	3 9.4	1 3.1
	研究職経験者	21 100.0	2 9.5	-	2 9.5	2 9.5	3 14.3	9 42.9	3 14.3	-
	医療職経験者	18 100.0	5 27.8	1 5.6	4 22.2	1 5.6	-	7 38.9	-	-
	教育職経験者	26 100.0	5 19.2	2 7.7	5 19.2	4 15.4	2 7.7	5 19.2	3 11.5	-
	食品関係行政職経験者	7 100.0	2 28.6	2 28.6	-	-	-	2 28.6	-	1 14.3
	その他	60 100.0	9 15.0	5 8.3	10 16.7	2 3.3	2 3.3	25 41.7	7 11.7	-
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	64 100.0	10 15.6	4 6.3	11 17.2	3 4.7	5 7.8	23 35.9	8 12.5
3年目以上 (H25 以前)	162 100.0	17 10.5	19 11.7	28 17.3	14 8.6	9 5.6	59 36.4	13 8.0	3 1.9	
居住地	北海道	7 100.0	-	-	1 14.3	1 14.3	1 14.3	4 57.1	-	-
	東北	13 100.0	2 15.4	1 7.7	3 23.1	2 15.4	-	3 23.1	2 15.4	-
	関東	87 100.0	5 5.7	12 13.8	15 17.2	7 8.0	5 5.7	33 37.9	9 10.3	1 1.1
	甲信越	14 100.0	3 21.4	1 7.1	3 21.4	1 7.1	1 7.1	4 28.6	1 7.1	-
	東海	26 100.0	2 7.7	1 3.8	7 26.9	2 7.7	4 15.4	9 34.6	1 3.8	-
	近畿	36 100.0	4 11.1	4 11.1	6 16.7	3 8.3	2 5.6	12 33.3	4 11.1	1 2.8
	中国・四国	22 100.0	6 27.3	2 9.1	1 4.5	1 4.5	-	10 45.5	2 9.1	-
	九州	21 100.0	5 23.8	2 9.5	3 14.3	3 -	1 4.8	7 33.3	2 9.5	1 4.8

問3. 問2のハザード等について、不安を感じる理由 F 有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に疑問があるため	2.行政による規制が不十分のため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が不十分のため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分のため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分のため	6.過去に問題になった事例があるため	7.漠然と不安	8.その他
全体		322 100.0	26 8.1	10 3.1	127 39.4	15 4.7	12 3.7	85 26.4	26 8.1	21 6.5
性別	男性	170 100.0	9 5.3	7 4.1	70 41.2	9 5.3	7 4.1	46 27.1	12 7.1	10 5.9
	女性	152 100.0	17 11.2	3 2.0	57 37.5	6 3.9	5 3.3	39 25.7	14 9.2	11 7.2
年代	20～30代	60 100.0	7 11.7	3 5.0	16 26.7	2 3.3	2 3.3	21 35.0	7 11.7	2 3.3
	40代	71 100.0	5 7.0	-	32 45.1	4 5.6	1 1.4	17 23.9	6 8.5	6 8.5
	50代	95 100.0	8 8.4	3 3.2	33 34.7	4 4.2	4 4.2	29 30.5	6 6.3	8 8.4
	60代以上	96 100.0	6 6.3	4 4.2	46 47.9	5 5.2	5 5.2	18 18.8	7 7.3	5 5.2
職務経験	食品生産・加工経験者	105 100.0	5 4.8	4 3.8	48 45.7	4 3.8	4 3.8	26 24.8	8 7.6	6 5.7
	食品流通・販売経験者	43 100.0	3 7.0	1 2.3	17 39.5	1 2.3	1 2.3	9 20.9	5 11.6	6 14.0
	研究職経験者	33 100.0	1 3.0	-	12 36.4	1 3.0	1 3.0	12 36.4	3 9.1	3 9.1
	医療職経験者	24 100.0	4 16.7	1 4.2	10 41.7	1 4.2	-	5 20.8	2 8.3	1 4.2
	教育職経験者	35 100.0	4 11.4	1 2.9	13 37.1	4 11.4	3 8.6	7 20.0	2 5.7	1 2.9
	食品関係行政職経験者	12 100.0	1 8.3	1 8.3	6 50.0	1 8.3	-	1 8.3	-	2 16.7
	その他	70 100.0	8 11.4	2 2.9	21 30.0	3 4.3	3 4.3	25 35.7	6 8.6	2 2.9
	モニター継続	92 100.0	8 8.7	-	41 44.6	6 6.5	3 3.3	23 25.0	6 6.5	5 5.4
	2年目以下 (H27, 26)	230 100.0	18 7.8	10 4.3	86 37.4	9 3.9	9 3.9	62 27.0	20 8.7	16 7.0
居住地	北海道	12 100.0	-	-	7 58.3	-	1 8.3	4 33.3	-	-
	東北	18 100.0	2 11.1	1 5.6	10 55.6	-	1 5.6	2 11.1	1 5.6	1 5.6
	関東	117 100.0	3 2.6	2 1.7	46 39.3	6 5.1	5 4.3	36 30.8	9 7.7	10 8.5
	甲信越	20 100.0	4 20.0	-	9 45.0	2 10.0	-	3 15.0	2 10.0	-
	東海	33 100.0	2 6.1	-	16 48.5	3 9.1	-	10 30.3	1 3.0	1 3.0
	近畿	64 100.0	7 10.9	6 9.4	22 34.4	2 3.1	2 3.1	14 21.9	6 9.4	5 7.8
	中国・四国	29 100.0	4 13.8	1 3.4	10 34.5	1 3.4	2 6.9	9 31.0	1 3.4	1 3.4
	九州	29 100.0	4 13.8	-	7 24.1	1 3.4	1 3.4	7 24.1	6 20.7	3 10.3

問3. 問2のハザード等について、不安を感じる理由 G BSE(伝達性牛海綿状脳症)

	合計	1.安全性についての科学的根拠に疑問があるため	2.行政による規制が不十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	6.過去に問題になった事例があるため	7.漠然と不安	8.その他
全体	128 100.0	20 15.6	12 9.4	22 17.2	4 3.1	5 3.9	49 38.3	15 11.7	1 0.8
性別									
男性	56 100.0	9 16.1	7 12.5	9 16.1	3 5.4	3 5.4	19 33.9	5 8.9	1 1.8
女性	72 100.0	11 15.3	5 6.9	13 18.1	1 1.4	2 2.8	30 41.7	10 13.9	-
年代									
20～30代	29 100.0	3 10.3	3 10.3	2 6.9	-	-	14 48.3	6 20.7	-
40代	31 100.0	6 19.4	-	7 22.6	-	1 3.2	12 38.7	5 16.1	-
50代	35 100.0	5 14.3	2 5.7	8 22.9	1 2.9	2 5.7	14 40.0	3 8.6	-
60代以上	33 100.0	6 18.2	7 21.2	5 15.2	3 9.1	1 3.0	9 27.3	1 3.0	1 3.0
職務経験									
食品生産・加工経験者	36 100.0	6 16.7	3 8.3	8 22.2	1 2.8	2 5.6	10 27.8	6 16.7	-
食品流通・販売経験者	12 100.0	1 8.3	2 16.7	2 16.7	1 8.3	-	5 41.7	1 8.3	-
研究職経験者	8 100.0	2 25.0	-	3 37.5	-	-	2 25.0	1 12.5	-
医療職経験者	10 100.0	4 40.0	-	2 20.0	-	1 10.0	3 30.0	-	-
教育職経験者	16 100.0	2 12.5	2 12.5	3 18.8	-	1 6.3	6 37.5	2 12.5	-
食品関係行政職経験者	6 100.0	1 16.7	2 33.3	-	1 16.7	-	1 16.7	-	1 16.7
その他	40 100.0	4 10.0	3 7.5	4 10.0	1 2.5	1 2.5	22 55.0	5 12.5	-
モニター継続									
2年目以下(H27,26)	38 100.0	5 13.2	1 2.6	8 21.1	-	1 2.6	16 42.1	6 15.8	1 2.6
3年目以上(H25以前)	90 100.0	15 16.7	11 12.2	14 15.6	4 4.4	4 4.4	33 36.7	9 10.0	-
居住地									
北海道	5 100.0	1 20.0	-	-	-	1 20.0	3 60.0	-	-
東北	8 100.0	2 25.0	1 12.5	3 37.5	-	-	1 12.5	1 12.5	-
関東	33 100.0	3 9.1	4 12.1	4 12.1	-	2 6.1	15 45.5	5 15.2	-
甲信越	7 100.0	-	1 14.3	1 14.3	-	-	5 71.4	-	-
東海	14 100.0	1 7.1	-	6 42.9	1 7.1	-	4 28.6	2 14.3	-
近畿	29 100.0	6 20.7	3 10.3	5 17.2	2 6.9	1 3.4	8 27.6	4 13.8	-
中国・四国	17 100.0	4 23.5	3 17.6	1 5.9	-	-	6 35.3	2 11.8	1 5.9
九州	15 100.0	3 20.0	-	2 13.3	1 6.7	1 6.7	7 46.7	1 6.7	-

問3. 問2のハザード等について、不安を感じる理由 H 遺伝子組換え

	合計	1.安全性についての科学的な根拠に疑問があるため	2.行政による規制が不十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	6.過去に問題になった事例があるため	7.漠然と不安	8.その他
全体	166 100.0	74 44.6	16 9.6	16 9.6	14 8.4	15 9.0	4 2.4	25 15.1	2 1.2
性別									
男性	60 100.0	23 38.3	9 15.0	4 6.7	4 6.7	10 16.7	1 1.7	8 13.3	1 1.7
女性	106 100.0	51 48.1	7 6.6	12 11.3	10 9.4	5 4.7	3 2.8	17 16.0	1 0.9
年代									
20～30代	33 100.0	14 42.4	1 3.0	3 9.1	3 9.1	5 15.2	1 3.0	6 18.2	-
40代	38 100.0	21 55.3	2 5.3	3 7.9	3 7.9	3 7.9	2 5.3	4 10.5	-
50代	49 100.0	21 42.9	5 10.2	5 10.2	4 8.2	4 8.2	1 2.0	7 14.3	2 4.1
60代以上	46 100.0	18 39.1	8 17.4	5 10.9	4 8.7	3 6.5	-	8 17.4	-
職務経験									
食品生産・加工経験者	44 100.0	18 40.9	4 9.1	5 11.4	2 4.5	7 15.9	1 2.3	6 13.6	1 2.3
食品流通・販売経験者	22 100.0	7 31.8	3 13.6	1 4.5	1 4.5	5 22.7	-	5 22.7	-
研究職経験者	7 100.0	4 57.1	-	2 28.6	-	-	-	1 14.3	-
医療職経験者	12 100.0	9 75.0	2 16.7	1 8.3	-	-	-	-	-
教育職経験者	20 100.0	10 50.0	4 20.0	2 10.0	3 15.0	-	-	1 5.0	-
食品関係行政職経験者	9 100.0	4 44.4	1 11.1	1 11.1	1 11.1	-	-	2 22.2	-
その他	52 100.0	22 42.3	2 3.8	4 7.7	7 13.5	3 5.8	3 5.8	10 19.2	1 1.9
モニター継続									
2年目以下 (H27, 26)	43 100.0	19 44.2	1 2.3	6 14.0	6 14.0	3 7.0	1 2.3	7 16.3	-
3年目以上 (H25 以前)	123 100.0	55 44.7	15 12.2	10 8.1	8 6.5	12 9.8	3 2.4	18 14.6	2 1.6
居住地									
北海道	6 100.0	3 50.0	-	1 16.7	-	2 33.3	-	-	-
東北	9 100.0	1 11.1	2 22.2	3 33.3	-	1 11.1	-	1 11.1	1 11.1
関東	52 100.0	25 48.1	7 13.5	3 5.8	4 7.7	6 11.5	-	7 13.5	-
甲信越	13 100.0	5 38.5	3 23.1	-	-	2 15.4	1 7.7	2 15.4	-
東海	17 100.0	9 52.9	-	3 17.6	1 5.9	-	1 5.9	3 17.6	-
近畿	31 100.0	13 41.9	3 9.7	2 6.5	4 12.9	3 9.7	1 3.2	5 16.1	-
中国・四国	16 100.0	6 37.5	1 6.3	4 25.0	-	1 6.3	1 6.3	3 18.8	-
九州	22 100.0	12 54.5	-	-	5 22.7	-	-	4 18.2	1 4.5

問3. 問2のハザード等について、不安を感じる理由 I 体細胞クローン

		合計	1.安全性についての科学的根拠に疑問があるため	2.行政による規制が不十分のため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が不十分のため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分のため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分のため	6.過去に問題になった事例があるため	7.漠然と不安	8.その他
全体		160 100.0	61 38.1	10 6.3	12 7.5	16 10.0	8 5.0	5 3.1	45 28.1	3 1.9
性別	男性	63 100.0	24 38.1	6 9.5	5 7.9	7 11.1	4 6.3	-	15 23.8	2 3.2
	女性	97 100.0	37 38.1	4 4.1	7 7.2	9 9.3	4 4.1	5 5.2	30 30.9	1 1.0
年代	20～30代	31 100.0	11 35.5	3 9.7	2 6.5	1 3.2	3 9.7	-	10 32.3	1 3.2
	40代	36 100.0	14 38.9	3 8.3	4 11.1	3 8.3	2 5.6	1 2.8	8 22.2	1 2.8
	50代	46 100.0	17 37.0	2 4.3	4 8.7	4 8.7	-	3 6.5	15 32.6	1 2.2
	60代以上	47 100.0	19 40.4	2 4.3	2 4.3	8 17.0	3 6.4	1 2.1	12 25.5	-
職務経験	食品生産・加工経験者	49 100.0	21 42.9	2 4.1	4 8.2	4 8.2	2 4.1	2 4.1	12 24.5	2 4.1
	食品流通・販売経験者	20 100.0	3 15.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0	4 20.0	-	8 40.0	1 5.0
	研究職経験者	6 100.0	2 33.3	1 16.7	1 16.7	2 33.3	-	-	-	-
	医療職経験者	10 100.0	7 70.0	-	-	-	-	-	3 30.0	-
	教育職経験者	17 100.0	6 35.3	4 23.5	1 5.9	3 17.6	-	-	3 17.6	-
	食品関係行政職経験者	9 100.0	5 55.6	-	-	2 22.2	-	-	2 22.2	-
	その他	49 100.0	17 34.7	1 2.0	5 10.2	4 8.2	2 4.1	3 6.1	17 34.7	-
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	48 100.0	18 37.5	4 8.3	4 8.3	4 8.3	2 4.2	1 2.1	14 29.2
	3年目以上 (H25 以前)	112 100.0	43 38.4	6 5.4	8 7.1	12 10.7	6 5.4	4 3.6	31 27.7	2 1.8
居住地	北海道	6 100.0	3 50.0	-	-	1 16.7	2 33.3	-	-	-
	東北	8 100.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	-	-	1 12.5	1 12.5	-
	関東	51 100.0	22 43.1	3 5.9	4 7.8	7 13.7	2 3.9	-	11 21.6	2 3.9
	甲信越	13 100.0	6 46.2	-	-	1 7.7	-	1 7.7	5 38.5	-
	東海	17 100.0	5 29.4	1 5.9	3 17.6	-	1 5.9	-	7 41.2	-
	近畿	32 100.0	11 34.4	2 6.3	2 6.3	5 15.6	1 3.1	3 9.4	8 25.0	-
	中国・四国	17 100.0	6 35.3	2 11.8	1 5.9	-	2 11.8	-	6 35.3	-
	九州	16 100.0	6 37.5	-	-	2 12.5	-	-	7 43.8	1 6.3

問3. 問2のハザード等について、不安を感じる理由 J いわゆる健康食品

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に疑問があるため	2.行政による規制が不十分のため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が不十分のため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分のため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分のため	6.過去に問題になった事例があるため	7.漠然と不安	8.その他	
全体		274 100.0	93 33.9	43 15.7	54 19.7	11 4.0	37 13.5	23 8.4	11 4.0	2 0.7	
性別	男性	141 100.0	41 29.1	24 17.0	33 23.4	5 3.5	24 17.0	7 5.0	6 4.3	1 0.7	
	女性	133 100.0	52 39.1	19 14.3	21 15.8	6 4.5	13 9.8	16 12.0	5 3.8	1 0.8	
年代	20～30代	42 100.0	9 21.4	5 11.9	10 23.8	2 4.8	7 16.7	6 14.3	3 7.1	-	
	40代	60 100.0	26 43.3	7 11.7	8 13.3	3 5.0	8 13.3	4 6.7	3 5.0	1 1.7	
	50代	90 100.0	29 32.2	15 16.7	19 21.1	3 3.3	10 11.1	9 10.0	4 4.4	1 1.1	
	60代以上	82 100.0	29 35.4	16 19.5	17 20.7	3 3.7	12 14.6	4 4.9	1 1.2	-	
職務経験	食品生産・加工経験者	93 100.0	33 35.5	12 12.9	23 24.7	1 1.1	14 15.1	7 7.5	1 1.1	2 2.2	
	食品流通・販売経験者	36 100.0	10 27.8	9 25.0	10 27.8	-	1 2.8	4 11.1	2 5.6	-	
	研究職経験者	23 100.0	10 43.5	4 17.4	4 17.4	2 8.7	2 8.7	1 4.3	-	-	
	医療職経験者	23 100.0	10 43.5	4 17.4	4 17.4	-	4 17.4	-	1 4.3	-	
	教育職経験者	28 100.0	9 32.1	8 28.6	4 14.3	1 3.6	4 14.3	1 3.6	1 3.6	-	
	食品関係行政職経験者	13 100.0	5 38.5	1 7.7	2 15.4	2 15.4	1 7.7	2 15.4	-	-	
	その他	58 100.0	16 27.6	5 8.6	7 12.1	7 8.6	5 8.6	11 19.0	8 13.8	6 10.3	-
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	78 100.0	26 33.3	9 11.5	12 15.4	4 5.1	19 24.4	4 5.1	3 3.8	1 1.3
3年目以上 (H25 以前)		196 100.0	67 34.2	34 17.3	42 21.4	7 3.6	18 9.2	19 9.7	8 4.1	1 0.5	
居住地	北海道	11 100.0	2 18.2	5 45.5	-	-	3 27.3	1 9.1	-	-	
	東北	17 100.0	7 41.2	3 17.6	3 17.6	-	1 5.9	1 5.9	1 5.9	1 5.9	
	関東	96 100.0	31 32.3	15 15.6	22 22.9	7 7.3	11 11.5	9 9.4	1 1.0	-	
	甲信越	13 100.0	4 30.8	2 15.4	2 15.4	-	2 15.4	2 15.4	1 7.7	-	
	東海	25 100.0	9 36.0	2 8.0	5 20.0	2 8.0	4 16.0	1 4.0	2 8.0	-	
	近畿	55 100.0	18 32.7	10 18.2	11 20.0	-	7 12.7	6 10.9	2 3.6	1 1.8	
	中国・四国	27 100.0	9 33.3	4 14.8	8 29.6	-	3 11.1	1 3.7	2 7.4	-	
	九州	30 100.0	13 43.3	2 6.7	3 10.0	3 6.7	2 20.0	6 6.7	2 6.7	-	

問3. 問2のハザード等について、不安を感じる理由 K 肥料・飼料等

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に疑問があるため	2.行政による規制が不十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	6.過去に問題になった事例があるため	7.漠然と不安	8.その他
全体		148 100.0	27 18.2	16 10.8	41 27.7	6 4.1	22 14.9	10 6.8	24 16.2	2 1.4
性別	男性	55 100.0	6 10.9	6 10.9	21 38.2	2 3.6	8 14.5	6 10.9	6 10.9	- -
	女性	93 100.0	21 22.6	10 10.8	20 21.5	4 4.3	14 15.1	4 4.3	18 19.4	2 2.2
年代	20～30代	38 100.0	4 10.5	3 7.9	9 23.7	2 5.3	9 23.7	2 5.3	9 23.7	- -
	40代	30 100.0	9 30.0	1 3.3	6 20.0	1 3.3	6 20.0	2 6.7	5 16.7	- -
	50代	38 100.0	8 21.1	6 15.8	11 28.9	1 2.6	2 5.3	-	8 21.1	2 5.3
	60代以上	42 100.0	6 14.3	6 14.3	15 35.7	2 4.8	5 11.9	6 14.3	2 4.8	- -
職務経験	食品生産・加工経験者	37 100.0	6 16.2	1 2.7	14 37.8	2 5.4	7 18.9	4 10.8	2 5.4	1 2.7
	食品流通・販売経験者	20 100.0	2 10.0	2 10.0	9 45.0	-	2 10.0	2 10.0	3 15.0	- -
	研究職経験者	7 100.0	1 14.3	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3	-	1 14.3	- -
	医療職経験者	14 100.0	5 35.7	2 14.3	3 21.4	1 7.1	1 7.1	-	2 14.3	- -
	教育職経験者	21 100.0	5 23.8	1 4.8	5 23.8	-	4 19.0	1 4.8	5 23.8	- -
	食品関係行政職経験者	8 100.0	1 12.5	3 37.5	2 25.0	-	1 12.5	-	1 12.5	- -
	その他	41 100.0	7 17.1	6 14.6	6 14.6	2 4.9	6 14.6	3 7.3	10 24.4	1 2.4
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	46 100.0	6 13.0	6 13.0	14 30.4	3 6.5	7 15.2	3 6.5	6 13.0
3年目以上 (H25 以前)		102 100.0	21 20.6	10 9.8	27 26.5	3 2.9	15 14.7	7 6.9	18 17.6	1 1.0
居住地	北海道	6 100.0	1 16.7	-	-	1 16.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7	- -
	東北	9 100.0	-	4 44.4	2 22.2	-	2 22.2	-	-	1 11.1
	関東	41 100.0	6 14.6	3 7.3	12 29.3	3 7.3	7 17.1	1 2.4	9 22.0	- -
	甲信越	8 100.0	1 12.5	-	2 25.0	-	1 12.5	-	4 50.0	- -
	東海	12 100.0	1 8.3	2 16.7	3 25.0	1 8.3	3 25.0	-	2 16.7	- -
	近畿	36 100.0	8 22.2	3 8.3	11 30.6	1 2.8	5 13.9	4 11.1	4 11.1	- -
	中国・四国	19 100.0	7 36.8	2 10.5	6 31.6	-	-	3 15.8	1 5.3	- -
	九州	17 100.0	3 17.6	2 11.8	5 29.4	-	2 11.8	1 5.9	3 17.6	1 5.9

問3. 問2のハザード等について、不安を感じる理由 M アクリルアミド

	合計	1.安全性についての科学的な根拠に疑問があるため	2.行政による規制が不十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	6.過去に問題になった事例があるため	7.漠然と不安	8.その他
全 体	188 100.0	37 19.7	18 9.6	18 9.6	25 13.3	17 9.0	15 8.0	45 23.9	13 6.9
性別									
男性	80 100.0	13 16.3	9 11.3	7 8.8	10 12.5	11 13.8	9 11.3	19 23.8	2 2.5
女性	108 100.0	24 22.2	9 8.3	11 10.2	15 13.9	6 5.6	6 5.6	26 24.1	11 10.2
年代									
20～30代	42 100.0	7 16.7	4 9.5	3 7.1	3 7.1	6 14.3	7 16.7	10 23.8	2 4.8
40代	39 100.0	12 30.8	2 5.1	3 7.7	4 10.3	3 7.7	2 5.1	10 25.6	3 7.7
50代	53 100.0	9 17.0	7 13.2	6 11.3	8 15.1	3 5.7	3 5.7	13 24.5	4 7.5
60代以上	54 100.0	9 16.7	5 9.3	6 11.1	10 18.5	5 9.3	3 5.6	12 22.2	4 7.4
職務経験									
食品生産・加工経験者	50 100.0	7 14.0	5 10.0	6 12.0	8 16.0	6 12.0	4 8.0	11 22.0	3 6.0
食品流通・販売経験者	27 100.0	5 18.5	2 7.4	1 3.7	4 14.8	1 3.7	2 7.4	8 29.6	4 14.8
研究職経験者	13 100.0	4 30.8	1 7.7	1 7.7	1 7.7	-	1 7.7	5 38.5	-
医療職経験者	15 100.0	4 26.7	1 6.7	2 13.3	2 13.3	-	1 6.7	5 33.3	-
教育職経験者	20 100.0	3 15.0	2 10.0	3 15.0	3 15.0	4 20.0	-	3 15.0	2 10.0
食品関係行政職経験者	10 100.0	2 20.0	1 10.0	-	1 10.0	3 30.0	-	2 20.0	1 10.0
その他	53 100.0	12 22.6	6 11.3	5 9.4	6 11.3	3 5.7	7 13.2	11 20.8	3 5.7
モニター継続									
2年目以下 (H27, 26)	52 100.0	9 17.3	4 7.7	5 9.6	10 19.2	5 9.6	5 9.6	12 23.1	2 3.8
3年目以上 (H25 以前)	136 100.0	28 20.6	14 10.3	13 9.6	15 11.0	12 8.8	10 7.4	33 24.3	11 8.1
居住地									
北海道	6 100.0	-	-	1 16.7	-	3 50.0	-	2 33.3	-
東北	13 100.0	2 15.4	1 7.7	2 15.4	-	1 7.7	1 7.7	4 30.8	2 15.4
関東	63 100.0	16 25.4	5 7.9	2 3.2	10 15.9	5 7.9	6 9.5	14 22.2	5 7.9
甲信越	9 100.0	2 22.2	-	1 11.1	3 33.3	-	1 11.1	2 22.2	-
東海	19 100.0	2 10.5	4 21.1	5 26.3	2 10.5	1 5.3	2 10.5	1 5.3	2 10.5
近畿	39 100.0	5 12.8	3 7.7	3 7.7	7 17.9	4 10.3	4 10.3	10 25.6	3 7.7
中国・四国	20 100.0	6 30.0	2 10.0	2 10.0	2 10.0	2 10.0	1 5.0	5 25.0	-
九州	19 100.0	4 21.1	3 15.8	2 10.5	1 5.3	1 5.3	-	7 36.8	1 5.3

問3. 問2のハザード等について、不安を感じる理由 N その他

	合計	1.安全性についての科学的な根拠に疑問があるため	2.行政による規制が不十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が不十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分なため	6.過去に問題になった事例があるため	7.漠然と不安	8.その他	無回答
全体	65 100.0	9 13.8	13 20.0	18 27.7	4 6.2	4 6.2	9 13.8	3 4.6	5 7.7	-
性別										
男性	47 100.0	7 14.9	9 19.1	11 23.4	3 6.4	3 6.4	7 14.9	2 4.3	5 10.6	-
女性	18 100.0	2 11.1	4 22.2	7 38.9	1 5.6	1 5.6	2 11.1	1 5.6	-	-
年代										
20～30代	2 100.0	-	1 50.0	-	-	1 50.0	-	-	-	-
40代	10 100.0	1 10.0	1 10.0	6 60.0	-	-	-	1 10.0	1 10.0	-
50代	20 100.0	5 25.0	4 20.0	5 25.0	1 5.0	1 5.0	3 15.0	-	1 5.0	-
60代以上	33 100.0	3 9.1	7 21.2	7 21.2	3 9.1	2 6.1	6 18.2	2 6.1	3 9.1	-
職務経験										
食品生産・加工経験者	20 100.0	2 10.0	2 10.0	5 25.0	2 10.0	1 5.0	3 15.0	1 5.0	4 20.0	-
食品流通・販売経験者	10 100.0	3 30.0	3 30.0	2 20.0	-	1 10.0	-	1 10.0	-	-
研究職経験者	8 100.0	3 37.5	-	2 25.0	-	-	1 12.5	1 12.5	1 12.5	-
医療職経験者	8 100.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	-	-	-
教育職経験者	7 100.0	-	3 42.9	2 28.6	-	1 14.3	1 14.3	-	-	-
食品関係行政職経験者	5 100.0	-	2 40.0	2 40.0	-	-	1 20.0	-	-	-
その他	7 100.0	-	1 14.3	3 42.9	1 14.3	-	2 28.6	-	-	-
モニター継続										
2年目以下 (H27, 26)	30 100.0	6 20.0	2 6.7	8 26.7	2 6.7	3 10.0	4 13.3	2 6.7	3 10.0	-
3年目以上 (H25 以前)	35 100.0	3 8.6	11 31.4	10 28.6	2 5.7	1 2.9	5 14.3	1 2.9	2 5.7	-
居住地										
北海道	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-	-	-	-
東北	2 100.0	-	-	2 100.0	-	-	-	-	-	-
関東	24 100.0	2 8.3	8 33.3	5 20.8	1 4.2	2 8.3	3 12.5	1 4.2	2 8.3	-
甲信越	4 100.0	-	1 25.0	1 25.0	-	-	1 25.0	-	1 25.0	-
東海	7 100.0	2 28.6	-	3 42.9	-	-	1 14.3	-	1 14.3	-
近畿	17 100.0	3 17.6	-	5 29.4	1 5.9	1 5.9	4 23.5	2 11.8	1 5.9	-
中国・四国	3 100.0	-	1 33.3	-	1 33.3	1 33.3	-	-	-	-
九州	6 100.0	1 16.7	2 33.3	2 33.3	1 16.7	-	-	-	-	-

問4. 問2のハザード等について、不安を感じない理由 A 食品添加物

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に納得しているため	2.行政による規制が十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	6.過去に問題になった事例がないため	7.漠然と安心	8.その他
全 体		221 100.0	136 61.5	47 21.3	8 3.6	12 5.4	3 1.4	5 2.3	9 4.1	1 0.5
性別	男性	152 100.0	91 59.9	34 22.4	7 4.6	10 6.6	2 1.3	2 1.3	5 3.3	1 0.7
	女性	69 100.0	45 65.2	13 18.8	1 1.4	2 2.9	1 1.4	3 4.3	4 5.8	-
年代	20～30代	30 100.0	20 66.7	4 13.3	1 3.3	1 3.3	1 3.3	-	3 10.0	-
	40代	51 100.0	32 62.7	7 13.7	2 3.9	3 5.9	1 2.0	4 7.8	2 3.9	-
	50代	75 100.0	53 70.7	13 17.3	3 4.0	2 2.7	1 1.3	-	2 2.7	1 1.3
	60代以上	65 100.0	31 47.7	23 35.4	2 3.1	6 9.2	-	1 1.5	2 3.1	-
職務経験	食品生産・加工経験者	90 100.0	60 66.7	16 17.8	3 3.3	5 5.6	-	2 2.2	4 4.4	-
	食品流通・販売経験者	34 100.0	21 61.8	5 14.7	3 8.8	1 2.9	1 2.9	-	3 8.8	-
	研究職経験者	29 100.0	19 65.5	7 24.1	-	1 3.4	-	1 3.4	1 3.4	-
	医療職経験者	15 100.0	6 40.0	7 46.7	-	-	1 6.7	1 6.7	-	-
	教育職経験者	13 100.0	6 46.2	2 15.4	-	3 23.1	-	1 7.7	-	1 7.7
	食品関係行政職経験者	9 100.0	5 55.6	4 44.4	-	-	-	-	-	-
	その他	31 100.0	19 61.3	6 19.4	2 6.5	2 6.5	1 3.2	-	1 3.2	-
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	60 100.0	47 78.3	5 8.3	2 3.3	3 5.0	1 1.7	1 1.7	1 1.7	-
	3年目以上 (H25 以前)	161 100.0	89 55.3	42 26.1	6 3.7	9 5.6	2 1.2	4 2.5	8 5.0	1 0.6
居住地	北海道	6 100.0	5 83.3	1 16.7	-	-	-	-	-	-
	東北	13 100.0	6 46.2	4 30.8	1 7.7	2 15.4	-	-	-	-
	関東	100 100.0	65 65.0	19 19.0	2 2.0	7 7.0	1 1.0	3 3.0	2 2.0	1 1.0
	甲信越	7 100.0	6 85.7	1 14.3	-	-	-	-	-	-
	東海	16 100.0	9 56.3	4 25.0	1 6.3	-	-	1 6.3	1 6.3	-
	近畿	38 100.0	23 60.5	8 21.1	2 5.3	2 5.3	-	-	3 7.9	-
	中国・四国	25 100.0	15 60.0	7 28.0	2 8.0	1 4.0	-	-	-	-
	九州	16 100.0	7 43.8	3 18.8	-	-	2 12.5	1 6.3	3 18.8	-

問4. 問2のハザード等について、不安を感じない理由 B 残留農薬

	合計	1.安全性についての科学的根拠に納得しているため	2.行政による規制が十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	6.過去に問題になった事例がないため	7.漠然と安心	8.その他
全 体	207 100.0	84 40.6	71 34.3	17 8.2	15 7.2	2 1.0	6 2.9	10 4.8	2 1.0
性別									
男性	133 100.0	60 45.1	41 30.8	13 9.8	10 7.5	1 0.8	2 1.5	4 3.0	2 1.5
女性	74 100.0	24 32.4	30 40.5	4 5.4	5 6.8	1 1.4	4 5.4	6 8.1	-
年代									
20～30代	27 100.0	10 37.0	8 29.6	2 7.4	2 7.4	1 3.7	-	3 11.1	1 3.7
40代	49 100.0	15 30.6	17 34.7	6 12.2	4 8.2	-	5 10.2	2 4.1	-
50代	72 100.0	35 48.6	23 31.9	5 6.9	4 5.6	1 1.4	-	3 4.2	1 1.4
60代以上	59 100.0	24 40.7	23 39.0	4 6.8	5 8.5	-	1 1.7	2 3.4	-
職務経験									
食品生産・加工経験者	84 100.0	33 39.3	34 40.5	5 6.0	5 6.0	-	3 3.6	4 4.8	-
食品流通・販売経験者	30 100.0	12 40.0	7 23.3	5 16.7	3 10.0	-	-	3 10.0	-
研究職経験者	26 100.0	14 53.8	8 30.8	1 3.8	2 7.7	-	1 3.8	-	-
医療職経験者	17 100.0	3 17.6	9 52.9	1 5.9	2 11.8	-	1 5.9	1 5.9	-
教育職経験者	15 100.0	4 26.7	4 26.7	1 6.7	3 20.0	-	1 6.7	1 6.7	1 6.7
食品関係行政職経験者	8 100.0	4 50.0	2 25.0	2 25.0	-	-	-	-	-
その他	27 100.0	14 51.9	7 25.9	2 7.4	-	2 7.4	-	1 3.7	1 3.7
モニター継続									
2年目以下 (H27, 26)	59 100.0	29 49.2	15 25.4	5 8.5	5 8.5	1 1.7	1 1.7	2 3.4	1 1.7
3年目以上 (H25 以前)	148 100.0	55 37.2	56 37.8	12 8.1	10 6.8	1 0.7	5 3.4	8 5.4	1 0.7
居住地									
北海道	4 100.0	1 25.0	2 50.0	-	1 25.0	-	-	-	-
東北	13 100.0	3 23.1	6 46.2	-	3 23.1	-	1 7.7	-	-
関東	92 100.0	42 45.7	32 34.8	6 6.5	4 4.3	-	3 3.3	3 3.3	2 2.2
甲信越	7 100.0	2 28.6	2 28.6	2 28.6	-	1 14.3	-	-	-
東海	19 100.0	9 47.4	6 31.6	1 5.3	-	1 5.3	1 5.3	1 5.3	-
近畿	41 100.0	14 34.1	13 31.7	6 14.6	5 12.2	-	-	3 7.3	-
中国・四国	19 100.0	9 47.4	7 36.8	1 5.3	2 10.5	-	-	-	-
九州	12 100.0	4 33.3	3 25.0	1 8.3	-	-	1 8.3	3 25.0	-

問4. 問2のハザード等について、不安を感じない理由 C 家畜用抗生物質

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に納得しているため	2.行政による規制が十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	6.過去に問題になった事例がないため	7.漠然と安心	8.その他
全 体		198	58	66	20	11	4	17	19	3
		100.0	29.3	33.3	10.1	5.6	2.0	8.6	9.6	1.5
性別	男性	129	39	45	15	8	4	5	11	2
		100.0	30.2	34.9	11.6	6.2	3.1	3.9	8.5	1.6
	女性	69	19	21	5	3	-	12	8	1
		100.0	27.5	30.4	7.2	4.3	-	17.4	11.6	1.4
年代	20～30代	32	9	8	3	1	-	5	5	1
		100.0	28.1	25.0	9.4	3.1	-	15.6	15.6	3.1
	40代	43	12	12	4	4	-	5	6	-
		100.0	27.9	27.9	9.3	9.3	-	11.6	14.0	-
	50代	65	25	18	7	3	3	4	3	2
		100.0	38.5	27.7	10.8	4.6	4.6	6.2	4.6	3.1
	60代以上	58	12	28	6	3	1	3	5	-
		100.0	20.7	48.3	10.3	5.2	1.7	5.2	8.6	-
職務経験	食品生産・加工経験者	78	19	31	9	4	1	6	7	1
		100.0	24.4	39.7	11.5	5.1	1.3	7.7	9.0	1.3
	食品流通・販売経験者	31	10	9	5	1	1	2	3	-
		100.0	32.3	29.0	16.1	3.2	3.2	6.5	9.7	-
	研究職経験者	27	13	9	2	-	1	2	-	-
		100.0	48.1	33.3	7.4	-	3.7	7.4	-	-
	医療職経験者	13	1	6	-	2	-	2	2	-
		100.0	7.7	46.2	-	15.4	-	15.4	15.4	-
	教育職経験者	15	3	2	2	3	-	1	3	1
		100.0	20.0	13.3	13.3	20.0	-	6.7	20.0	6.7
	食品関係行政職経験者	8	3	2	1	1	-	-	1	-
		100.0	37.5	25.0	12.5	12.5	-	-	12.5	-
	その他	26	9	7	1	-	1	4	3	1
		100.0	34.6	26.9	3.8	-	3.8	15.4	11.5	3.8
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	59	20	14	6	5	1	6	6	1
		100.0	33.9	23.7	10.2	8.5	1.7	10.2	10.2	1.7
	3年目以上 (H25 以前)	139	38	52	14	6	3	11	13	2
		100.0	27.3	37.4	10.1	4.3	2.2	7.9	9.4	1.4
居住地	北海道	5	1	2	-	1	-	-	1	-
		100.0	20.0	40.0	-	20.0	-	-	20.0	-
	東北	13	2	8	-	1	-	1	1	-
		100.0	15.4	61.5	-	7.7	-	7.7	7.7	-
	関東	86	26	29	11	5	-	6	7	2
		100.0	30.2	33.7	12.8	5.8	-	7.0	8.1	2.3
	甲信越	10	2	3	2	-	2	1	-	-
		100.0	20.0	30.0	20.0	-	20.0	10.0	-	-
	東海	16	7	5	-	-	-	3	1	-
		100.0	43.8	31.3	-	-	-	18.8	6.3	-
	近畿	35	12	8	4	4	1	4	2	-
		100.0	34.3	22.9	11.4	11.4	2.9	11.4	5.7	-
	中国・四国	19	4	8	2	-	-	1	3	1
		100.0	21.1	42.1	10.5	-	-	5.3	15.8	5.3
	九州	14	4	3	1	-	1	1	4	-
		100.0	28.6	21.4	7.1	-	7.1	7.1	28.6	-

問4. 問2のハザード等について、不安を感じない理由 D 器具・容器包装からの溶出化学物質

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に納得しているため	2.行政による規制が十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	6.過去に問題になった事例がないため	7.漠然と安心	8.その他
全体		227 100.0	64 28.2	61 26.9	28 12.3	23 10.1	11 4.8	13 5.7	27 11.9	-
性別	男性	158 100.0	45 28.5	42 26.6	21 13.3	18 11.4	8 5.1	8 5.1	16 10.1	-
	女性	69 100.0	19 27.5	19 27.5	7 10.1	5 7.2	3 4.3	5 7.2	11 15.9	-
年代	20～30代	26 100.0	7 26.9	6 23.1	4 15.4	2 7.7	-	2 7.7	5 19.2	-
	40代	52 100.0	15 28.8	11 21.2	7 13.5	6 11.5	1 1.9	4 7.7	8 15.4	-
	50代	75 100.0	22 29.3	23 30.7	7 9.3	7 9.3	6 8.0	2 2.7	8 10.7	-
	60代以上	74 100.0	20 27.0	21 28.4	10 13.5	8 10.8	4 5.4	5 6.8	6 8.1	-
職務経験	食品生産・加工経験者	87 100.0	22 25.3	25 28.7	12 13.8	8 9.2	4 4.6	7 8.0	9 10.3	-
	食品流通・販売経験者	36 100.0	11 30.6	6 16.7	6 16.7	2 5.6	3 8.3	2 5.6	6 16.7	-
	研究職経験者	23 100.0	8 34.8	7 30.4	2 8.7	4 17.4	-	1 4.3	1 4.3	-
	医療職経験者	21 100.0	2 9.5	11 52.4	-	3 14.3	-	1 4.8	4 19.0	-
	教育職経験者	18 100.0	4 22.2	4 22.2	1 5.6	3 16.7	4 22.2	1 5.6	1 5.6	-
	食品関係行政職経験者	10 100.0	3 30.0	3 30.0	2 20.0	1 10.0	-	-	1 10.0	-
	その他	32 100.0	14 43.8	5 15.6	5 15.6	2 6.3	-	1 3.1	5 15.6	-
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	72 100.0	21 29.2	20 27.8	13 18.1	8 11.1	1 1.4	4 5.6	5 6.9	-
	3年目以上 (H25 以前)	155 100.0	43 27.7	41 26.5	15 9.7	15 9.7	10 6.5	9 5.8	22 14.2	-
居住地	北海道	7 100.0	4 57.1	1 14.3	-	1 14.3	1 14.3	-	-	-
	東北	13 100.0	1 7.7	7 53.8	1 7.7	1 7.7	1 7.7	2 15.4	-	-
	関東	91 100.0	21 23.1	26 28.6	14 15.4	10 11.0	3 3.3	5 5.5	12 13.2	-
	甲信越	11 100.0	4 36.4	1 9.1	4 36.4	1 9.1	1 9.1	-	-	-
	東海	20 100.0	6 30.0	6 30.0	4 20.0	1 5.0	2 10.0	1 5.0	-	-
	近畿	41 100.0	14 34.1	10 24.4	2 4.9	6 14.6	1 2.4	3 7.3	5 12.2	-
	中国・四国	24 100.0	6 25.0	8 33.3	2 8.3	2 8.3	-	1 4.2	5 20.8	-
	九州	20 100.0	8 40.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0	2 10.0	1 5.0	5 25.0	-

問4. 問2のハザード等について、不安を感じない理由 E 汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ヒ素等)

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に納得しているため	2.行政による規制が十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	6.過去に問題になった事例がないため	7.漠然と安心	8.その他
全体		195	35	85	20	20	-	8	24	3
		100.0	17.9	43.6	10.3	10.3	-	4.1	12.3	1.5
性別	男性	121	21	55	13	12	-	6	12	2
		100.0	17.4	45.5	10.7	9.9	-	5.0	9.9	1.7
	女性	74	14	30	7	8	-	2	12	1
		100.0	18.9	40.5	9.5	10.8	-	2.7	16.2	1.4
年代	20～30代	26	5	9	2	5	-	-	5	-
		100.0	19.2	34.6	7.7	19.2	-	-	19.2	-
	40代	45	8	14	7	5	-	2	8	1
		100.0	17.8	31.1	15.6	11.1	-	4.4	17.8	2.2
	50代	68	14	32	7	5	-	3	6	1
		100.0	20.6	47.1	10.3	7.4	-	4.4	8.8	1.5
	60代以上	56	8	30	4	5	-	3	5	1
		100.0	14.3	53.6	7.1	8.9	-	5.4	8.9	1.8
職務経験	食品生産・加工経験者	81	14	31	13	8	-	3	11	1
		100.0	17.3	38.3	16.0	9.9	-	3.7	13.6	1.2
	食品流通・販売経験者	29	6	11	2	4	-	1	4	1
		100.0	20.7	37.9	6.9	13.8	-	3.4	13.8	3.4
	研究職経験者	17	4	11	1	-	-	-	1	-
		100.0	23.5	64.7	5.9	-	-	-	5.9	-
	医療職経験者	18	-	9	-	4	-	1	4	-
		100.0	-	50.0	-	22.2	-	5.6	22.2	-
	教育職経験者	15	4	6	1	2	-	1	-	1
		100.0	26.7	40.0	6.7	13.3	-	6.7	-	6.7
	食品関係行政職経験者	11	2	8	-	-	-	1	-	-
		100.0	18.2	72.7	-	-	-	9.1	-	-
	その他	24	5	9	3	2	-	1	4	-
		100.0	20.8	37.5	12.5	8.3	-	4.2	16.7	-
モニター継続	2年目以下(H27,26)	62	8	32	8	4	-	4	4	2
		100.0	12.9	51.6	12.9	6.5	-	6.5	6.5	3.2
	3年目以上(H25以前)	133	27	53	12	16	-	4	20	1
		100.0	20.3	39.8	9.0	12.0	-	3.0	15.0	0.8
居住地	北海道	6	1	1	1	2	-	-	1	-
		100.0	16.7	16.7	16.7	33.3	-	-	16.7	-
	東北	11	2	5	2	1	-	1	-	-
		100.0	18.2	45.5	18.2	9.1	-	9.1	-	-
	関東	73	11	35	9	7	-	5	6	-
		100.0	15.1	47.9	12.3	9.6	-	6.8	8.2	-
	甲信越	10	2	5	-	-	-	1	2	-
		100.0	20.0	50.0	-	-	-	10.0	20.0	-
	東海	12	3	6	2	-	-	-	1	-
		100.0	25.0	50.0	16.7	-	-	-	8.3	-
	近畿	47	7	20	3	8	-	1	6	2
		100.0	14.9	42.6	6.4	17.0	-	2.1	12.8	4.3
	中国・四国	19	4	8	1	1	-	-	4	1
		100.0	21.1	42.1	5.3	5.3	-	-	21.1	5.3
	九州	17	5	5	2	1	-	-	4	-
		100.0	29.4	29.4	11.8	5.9	-	-	23.5	-

問4. 問2のハザード等について、不安を感じない理由 F 有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に納得しているため	2.行政による規制が十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報が十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報が十分なため	6.過去に問題になった事例がないため	7.漠然と安心	8.その他
全 体		103 100.0	14 13.6	22 21.4	23 22.3	16 15.5	2 1.9	4 3.9	14 13.6	8 7.8
性別	男性	63 100.0	5 7.9	11 17.5	20 31.7	11 17.5	1 1.6	2 3.2	10 15.9	3 4.8
	女性	40 100.0	9 22.5	11 27.5	3 7.5	5 12.5	1 2.5	2 5.0	4 10.0	5 12.5
年代	20～30代	15 100.0	3 20.0	1 6.7	1 6.7	3 20.0	-	1 6.7	5 33.3	1 6.7
	40代	30 100.0	6 20.0	5 16.7	7 23.3	6 20.0	-	2 6.7	3 10.0	1 3.3
	50代	34 100.0	1 2.9	8 23.5	11 32.4	5 14.7	1 2.9	-	3 8.8	5 14.7
	60代以上	24 100.0	4 16.7	8 33.3	4 16.7	2 8.3	1 4.2	1 4.2	3 12.5	1 4.2
職務経験	食品生産・加工経験者	38 100.0	5 13.2	6 15.8	11 28.9	4 10.5	-	3 7.9	7 18.4	2 5.3
	食品流通・販売経験者	19 100.0	2 10.5	2 10.5	6 31.6	4 21.1	1 5.3	-	3 15.8	1 5.3
	研究職経験者	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	-	-	-	-
	医療職経験者	12 100.0	2 16.7	5 41.7	1 8.3	1 8.3	-	-	1 8.3	2 16.7
	教育職経験者	6 100.0	1 16.7	1 16.7	-	2 33.3	-	1 16.7	-	1 16.7
	食品関係行政職経験者	6 100.0	1 16.7	1 16.7	2 33.3	1 16.7	-	-	1 16.7	-
	その他	17 100.0	2 11.8	6 35.3	2 11.8	2 11.8	1 5.9	-	2 11.8	2 11.8
	モニター継続	35 100.0	5 14.3	7 20.0	7 20.0	7 20.0	-	3 8.6	2 5.7	4 11.4
	68 100.0	9 13.2	15 22.1	16 23.5	9 13.2	2 2.9	1 1.5	12 17.6	4 5.9	
居住地	北海道	1 100.0	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-
	東北	6 100.0	-	1 16.7	3 50.0	1 16.7	-	1 16.7	-	-
	関東	43 100.0	7 16.3	11 25.6	11 25.6	7 16.3	-	2 4.7	2 4.7	3 7.0
	甲信越	4 100.0	1 25.0	-	1 25.0	1 25.0	-	-	1 25.0	-
	東海	5 100.0	-	2 40.0	2 40.0	-	-	-	-	1 20.0
	近畿	20 100.0	3 15.0	1 5.0	4 20.0	4 20.0	1 5.0	-	5 25.0	2 10.0
	中国・四国	12 100.0	1 8.3	6 50.0	1 8.3	1 8.3	-	-	2 16.7	1 8.3
	九州	12 100.0	2 16.7	1 8.3	1 8.3	2 16.7	1 8.3	1 8.3	3 25.0	1 8.3

問4. 問2のハザード等について、不安を感じない理由 G BSE(伝達性牛海綿状脳症)

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に納得しているため	2.行政による規制が十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	6.過去に問題になった事例がないため	7.漠然と安心	8.その他
全体		291 100.0	76 26.1	121 41.6	19 6.5	37 12.7	3 1.0	15 5.2	15 5.2	5 1.7
性別	男性	173 100.0	49 28.3	72 41.6	11 6.4	19 11.0	2 1.2	9 5.2	11 6.4	- -
	女性	118 100.0	27 22.9	49 41.5	8 6.8	18 15.3	1 0.8	6 5.1	4 3.4	5 4.2
年代	20～30代	43 100.0	9 20.9	19 44.2	5 11.6	5 11.6	- -	1 2.3	3 7.0	1 2.3
	40代	69 100.0	17 24.6	27 39.1	5 7.2	9 13.0	- -	6 8.7	4 5.8	1 1.4
	50代	93 100.0	29 31.2	36 38.7	6 6.5	10 10.8	1 1.1	4 4.3	5 5.4	2 2.2
	60代以上	86 100.0	21 24.4	39 45.3	3 3.5	13 15.1	2 2.3	4 4.7	3 3.5	1 1.2
職務経験	食品生産・加工経験者	105 100.0	27 25.7	41 39.0	9 8.6	15 14.3	- -	7 6.7	5 4.8	1 1.0
	食品流通・販売経験者	49 100.0	14 28.6	19 38.8	3 6.1	6 12.2	1 2.0	3 6.1	3 6.1	- -
	研究職経験者	30 100.0	12 40.0	14 46.7	2 6.7	- -	- -	2 6.7	- -	- -
	医療職経験者	25 100.0	5 20.0	10 40.0	- -	5 20.0	1 4.0	- -	3 12.0	1 4.0
	教育職経験者	25 100.0	7 28.0	10 40.0	1 4.0	4 16.0	- -	1 4.0	- -	2 8.0
	食品関係行政職経験者	12 100.0	3 25.0	5 41.7	- -	1 8.3	- -	1 8.3	1 8.3	1 8.3
	その他	45 100.0	8 17.8	22 48.9	4 8.9	6 13.3	1 2.2	1 2.2	3 6.7	- -
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	87 100.0	16 18.4	44 50.6	7 8.0	10 11.5	- -	4 4.6	5 5.7	1 1.1
	3年目以上 (H25 以前)	204 100.0	60 29.4	77 37.7	12 5.9	27 13.2	3 1.5	11 5.4	10 4.9	4 2.0
居住地	北海道	8 100.0	2 25.0	3 37.5	- -	1 12.5	1 12.5	- -	1 12.5	- -
	東北	16 100.0	2 12.5	10 62.5	1 6.3	1 6.3	- -	2 12.5	- -	- -
	関東	124 100.0	36 29.0	51 41.1	11 8.9	16 12.9	1 0.8	6 4.8	2 1.6	1 0.8
	甲信越	17 100.0	3 17.6	6 35.3	- -	3 17.6	- -	3 17.6	2 11.8	- -
	東海	24 100.0	6 25.0	10 41.7	3 12.5	3 12.5	- -	- -	1 4.2	1 4.2
	近畿	54 100.0	16 29.6	22 40.7	2 3.7	9 16.7	- -	1 1.9	2 3.7	2 3.7
	中国・四国	24 100.0	7 29.2	10 41.7	- -	2 8.3	- -	- -	4 16.7	1 4.2
	九州	24 100.0	4 16.7	9 37.5	2 8.3	2 8.3	1 4.2	3 12.5	3 12.5	- -

問4. 問2のハザード等について、不安を感じない理由 H 遺伝子組換え

	合計	1.安全性についての科学的な根拠に納得しているため	2.行政による規制が十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	6.過去に問題になった事例がないため	7.漠然と安心	8.その他
全 体	256 100.0	106 41.4	55 21.5	8 3.1	20 7.8	4 1.6	37 14.5	24 9.4	2 0.8
性別									
男性	171 100.0	72 42.1	39 22.8	7 4.1	13 7.6	2 1.2	22 12.9	15 8.8	1 0.6
女性	85 100.0	34 40.0	16 18.8	1 1.2	7 8.2	2 2.4	15 17.6	9 10.6	1 1.2
年代									
20～30代	41 100.0	18 43.9	6 14.6	1 2.4	4 9.8	-	4 9.8	7 17.1	1 2.4
40代	63 100.0	25 39.7	11 17.5	3 4.8	5 7.9	2 3.2	11 17.5	6 9.5	-
50代	79 100.0	36 45.6	21 26.6	1 1.3	6 7.6	1 1.3	9 11.4	5 6.3	-
60代以上	73 100.0	27 37.0	17 23.3	3 4.1	5 6.8	1 1.4	13 17.8	6 8.2	1 1.4
職務経験									
食品生産・加工経験者	98 100.0	45 45.9	16 16.3	4 4.1	9 9.2	1 1.0	14 14.3	9 9.2	-
食品流通・販売経験者	39 100.0	14 35.9	8 20.5	1 2.6	3 7.7	-	7 17.9	6 15.4	-
研究職経験者	31 100.0	20 64.5	6 19.4	-	-	-	5 16.1	-	-
医療職経験者	24 100.0	5 20.8	11 45.8	-	3 12.5	-	2 8.3	3 12.5	-
教育職経験者	21 100.0	5 23.8	5 23.8	2 9.5	2 9.5	3 14.3	2 9.5	1 4.8	1 4.8
食品関係行政職経験者	9 100.0	2 22.2	3 33.3	-	-	-	3 33.3	1 11.1	-
その他	34 100.0	15 44.1	6 17.6	1 2.9	3 8.8	-	4 11.8	4 11.8	1 2.9
モニター継続									
2年目以下 (H27, 26)	82 100.0	34 41.5	19 23.2	1 1.2	5 6.1	2 2.4	9 11.0	10 12.2	2 2.4
3年目以上 (H25 以前)	174 100.0	72 41.4	36 20.7	7 4.0	15 8.6	2 1.1	28 16.1	14 8.0	-
居住地									
北海道	7 100.0	2 28.6	1 14.3	-	-	1 14.3	1 14.3	2 28.6	-
東北	15 100.0	2 13.3	7 46.7	2 13.3	-	-	3 20.0	1 6.7	-
関東	107 100.0	50 46.7	23 21.5	2 1.9	10 9.3	1 0.9	16 15.0	4 3.7	1 0.9
甲信越	11 100.0	2 18.2	1 9.1	1 9.1	1 9.1	-	3 27.3	3 27.3	-
東海	21 100.0	9 42.9	6 28.6	1 4.8	1 4.8	1 4.8	2 9.5	1 4.8	-
近畿	52 100.0	24 46.2	9 17.3	1 1.9	5 9.6	-	8 15.4	4 7.7	1 1.9
中国・四国	25 100.0	12 48.0	5 20.0	1 4.0	1 4.0	-	1 4.0	5 20.0	-
九州	18 100.0	5 27.8	3 16.7	-	2 11.1	1 5.6	3 16.7	4 22.2	-

問4. 問2のハザード等について、不安を感じない理由 I 体細胞クローン

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に納得しているため	2.行政による規制が十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報が十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報が十分なため	6.過去に問題になった事例がないため	7.漠然と安心	8.その他
全 体		234 100.0	71 30.3	53 22.6	11 4.7	14 6.0	2 0.9	44 18.8	35 15.0	4 1.7
性別	男性	157 100.0	53 33.8	36 22.9	11 7.0	8 5.1	1 0.6	25 15.9	21 13.4	2 1.3
	女性	77 100.0	18 23.4	17 22.1	- -	6 7.8	1 1.3	19 24.7	14 18.2	2 2.6
年代	20～30代	33 100.0	6 18.2	5 15.2	2 6.1	2 6.1	1 3.0	6 18.2	10 30.3	1 3.0
	40代	57 100.0	17 29.8	10 17.5	3 5.3	3 5.3	1 1.8	13 22.8	9 15.8	1 1.8
	50代	74 100.0	27 36.5	15 20.3	3 4.1	5 6.8	- -	15 20.3	8 10.8	1 1.4
	60代以上	70 100.0	21 30.0	23 32.9	3 4.3	4 5.7	- -	10 14.3	8 11.4	1 1.4
職務経験	食品生産・加工経験者	85 100.0	30 35.3	16 18.8	6 7.1	6 7.1	1 1.2	14 16.5	12 14.1	- -
	食品流通・販売経験者	37 100.0	11 29.7	6 16.2	1 2.7	3 8.1	- -	9 24.3	7 18.9	- -
	研究職経験者	30 100.0	14 46.7	8 26.7	- -	- -	- -	6 20.0	2 6.7	- -
	医療職経験者	24 100.0	2 8.3	10 41.7	1 4.2	1 4.2	- -	6 25.0	4 16.7	- -
	教育職経験者	21 100.0	3 14.3	4 19.0	1 4.8	2 9.5	- -	5 23.8	3 14.3	3 14.3
	食品関係行政職経験者	8 100.0	2 25.0	4 50.0	- -	- -	- -	1 12.5	1 12.5	- -
	その他	29 100.0	9 31.0	5 17.2	2 6.9	2 6.9	1 3.4	3 10.3	6 20.7	1 3.4
	モニター継続	71 100.0	18 25.4	16 22.5	1 1.4	3 4.2	2 2.8	15 21.1	14 19.7	2 2.8
	3年目以上 (H25 以前)	163 100.0	53 32.5	37 22.7	10 6.1	11 6.7	- -	29 17.8	21 12.9	2 1.2
居住地	北海道	7 100.0	3 42.9	1 14.3	- -	- -	- -	1 14.3	2 28.6	- -
	東北	15 100.0	2 13.3	6 40.0	1 6.7	- -	1 6.7	4 26.7	1 6.7	- -
	関東	93 100.0	27 29.0	20 21.5	5 5.4	7 7.5	1 1.1	18 19.4	12 12.9	3 3.2
	甲信越	10 100.0	2 20.0	2 20.0	- -	1 10.0	- -	1 10.0	4 40.0	- -
	東海	19 100.0	8 42.1	3 15.8	1 5.3	- -	- -	6 31.6	1 5.3	- -
	近畿	49 100.0	18 36.7	12 24.5	2 4.1	4 8.2	- -	7 14.3	5 10.2	1 2.0
	中国・四国	23 100.0	6 26.1	7 30.4	1 4.3	- -	- -	3 13.0	6 26.1	- -
	九州	18 100.0	5 27.8	2 11.1	1 5.6	2 11.1	- -	4 22.2	4 22.2	- -

問4. 問2のハザード等について、不安を感じない理由 J いわゆる健康食品

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に納得しているため	2.行政による規制が十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	6.過去に問題になった事例がないため	7.漠然と安心	8.その他
全 体		147	20	19	17	17	2	11	37	24
		100.0	13.6	12.9	11.6	11.6	1.4	7.5	25.2	16.3
性別	男性	90	11	15	10	11	2	8	22	11
		100.0	12.2	16.7	11.1	12.2	2.2	8.9	24.4	12.2
	女性	57	9	4	7	6	-	3	15	13
		100.0	15.8	7.0	12.3	10.5	-	5.3	26.3	22.8
年代	20～30代	32	6	2	2	3	-	3	10	6
		100.0	18.8	6.3	6.3	9.4	-	9.4	31.3	18.8
	40代	41	6	4	4	5	1	3	11	7
		100.0	14.6	9.8	9.8	12.2	2.4	7.3	26.8	17.1
	50代	36	4	6	5	2	1	2	7	9
		100.0	11.1	16.7	13.9	5.6	2.8	5.6	19.4	25.0
	60代以上	38	4	7	6	7	-	3	9	2
		100.0	10.5	18.4	15.8	18.4	-	7.9	23.7	5.3
職務経験	食品生産・加工経験者	49	2	8	6	7	2	4	14	6
		100.0	4.1	16.3	12.2	14.3	4.1	8.2	28.6	12.2
	食品流通・販売経験者	25	2	2	2	6	-	2	6	5
		100.0	8.0	8.0	8.0	24.0	-	8.0	24.0	20.0
	研究職経験者	15	5	-	-	-	-	2	6	2
		100.0	33.3	-	-	-	-	13.3	40.0	13.3
	医療職経験者	13	2	3	2	1	-	1	3	1
		100.0	15.4	23.1	15.4	7.7	-	7.7	23.1	7.7
	教育職経験者	13	2	2	2	2	-	1	2	2
		100.0	15.4	15.4	15.4	15.4	-	7.7	15.4	15.4
	食品関係行政職経験者	5	1	1	1	-	-	-	1	1
		100.0	20.0	20.0	20.0	-	-	-	20.0	20.0
	その他	27	6	3	4	1	-	1	5	7
		100.0	22.2	11.1	14.8	3.7	-	3.7	18.5	25.9
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	48	11	5	5	4	-	4	7	12
		100.0	22.9	10.4	10.4	8.3	-	8.3	14.6	25.0
	3年目以上 (H25 以前)	99	9	14	12	13	2	7	30	12
		100.0	9.1	14.1	12.1	13.1	2.0	7.1	30.3	12.1
居住地	北海道	2	-	1	-	-	-	-	1	-
		100.0	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-
	東北	7	-	1	2	-	-	1	1	2
		100.0	-	14.3	28.6	-	-	14.3	14.3	28.6
	関東	62	9	5	8	8	1	5	12	14
		100.0	14.5	8.1	12.9	12.9	1.6	8.1	19.4	22.6
	甲信越	11	2	2	1	1	-	1	2	2
		100.0	18.2	18.2	9.1	9.1	-	9.1	18.2	18.2
	東海	13	4	2	1	1	-	-	4	1
		100.0	30.8	15.4	7.7	7.7	-	-	30.8	7.7
	近畿	28	3	3	3	4	-	3	10	2
		100.0	10.7	10.7	10.7	14.3	-	10.7	35.7	7.1
	中国・四国	14	2	3	2	2	-	1	3	1
		100.0	14.3	21.4	14.3	14.3	-	7.1	21.4	7.1
	九州	10	-	2	-	1	1	-	4	2
		100.0	-	20.0	-	10.0	10.0	-	40.0	20.0

問4. 問2のハザード等について、不安を感じない理由 K 肥料・飼料等

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に納得しているため	2.行政による規制が十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	6.過去に問題になった事例がないため	7.漠然と安心	8.その他
全 体		271 100.0	59 21.8	80 29.5	32 11.8	19 7.0	6 2.2	24 8.9	47 17.3	4 1.5
性別	男性	176 100.0	38 21.6	52 29.5	25 14.2	15 8.5	4 2.3	14 8.0	26 14.8	2 1.1
	女性	95 100.0	21 22.1	28 29.5	7 7.4	4 4.2	2 2.1	10 10.5	21 22.1	2 2.1
年代	20～30代	35 100.0	7 20.0	8 22.9	4 11.4	1 2.9	-	4 11.4	10 28.6	1 2.9
	40代	70 100.0	12 17.1	20 28.6	5 7.1	8 11.4	3 4.3	5 7.1	16 22.9	1 1.4
	50代	90 100.0	25 27.8	25 27.8	9 10.0	5 5.6	2 2.2	11 12.2	12 13.3	1 1.1
	60代以上	76 100.0	15 19.7	27 35.5	14 18.4	5 6.6	1 1.3	4 5.3	9 11.8	1 1.3
職務経験	食品生産・加工経験者	104 100.0	20 19.2	35 33.7	15 14.4	6 5.8	3 2.9	7 6.7	17 16.3	1 1.0
	食品流通・販売経験者	41 100.0	11 26.8	10 24.4	7 17.1	4 9.8	-	3 7.3	6 14.6	-
	研究職経験者	31 100.0	10 32.3	8 25.8	2 6.5	3 9.7	-	4 12.9	4 12.9	-
	医療職経験者	22 100.0	1 4.5	11 50.0	1 4.5	-	-	5 22.7	4 18.2	-
	教育職経験者	19 100.0	3 15.8	3 15.8	2 10.5	3 15.8	2 10.5	2 10.5	2 10.5	2 10.5
	食品関係行政職経験者	10 100.0	2 20.0	3 30.0	2 20.0	-	1 10.0	-	2 20.0	-
	その他	44 100.0	12 27.3	10 22.7	3 6.8	3 6.8	-	3 6.8	12 27.3	1 2.3
	モニター継続	78 100.0	17 21.8	21 26.9	13 16.7	6 7.7	2 2.6	5 6.4	12 15.4	2 2.6
	193 100.0	42 21.8	59 30.6	19 9.8	13 6.7	4 2.1	19 9.8	35 18.1	2 1.0	
居住地	北海道	7 100.0	3 42.9	2 28.6	-	-	-	-	2 28.6	-
	東北	15 100.0	1 6.7	7 46.7	1 6.7	1 6.7	-	3 20.0	2 13.3	-
	関東	117 100.0	25 21.4	34 29.1	17 14.5	7 6.0	3 2.6	13 11.1	16 13.7	2 1.7
	甲信越	16 100.0	2 12.5	3 18.8	2 12.5	1 6.3	1 6.3	1 6.3	6 37.5	-
	東海	26 100.0	5 19.2	9 34.6	2 7.7	1 3.8	1 3.8	3 11.5	5 19.2	-
	近畿	47 100.0	12 25.5	12 25.5	4 8.5	6 12.8	-	3 6.4	8 17.0	2 4.3
	中国・四国	21 100.0	5 23.8	5 23.8	4 19.0	2 9.5	-	-	5 23.8	-
	九州	22 100.0	6 27.3	8 36.4	2 9.1	1 4.5	1 4.5	1 4.5	3 13.6	-

問4. 問2のハザード等について、不安を感じない理由 M アクリルアミド

		合計	1.安全性についての科学的な根拠に納得しているため	2.行政による規制が十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報が十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報が十分なため	6.過去に問題になった事例がないため	7.漠然と安心	8.その他
全 体		216 100.0	63 29.2	23 10.6	9 4.2	37 17.1	4 1.9	37 17.1	36 16.7	7 3.2
性別	男性	146 100.0	45 30.8	15 10.3	7 4.8	26 17.8	3 2.1	27 18.5	18 12.3	5 3.4
	女性	70 100.0	18 25.7	8 11.4	2 2.9	11 15.7	1 1.4	10 14.3	18 25.7	2 2.9
年代	20～30代	26 100.0	10 38.5	2 7.7	1 3.8	3 11.5	-	3 11.5	7 26.9	-
	40代	59 100.0	11 18.6	5 8.5	2 3.4	14 23.7	2 3.4	8 13.6	14 23.7	3 5.1
	50代	69 100.0	22 31.9	7 10.1	4 5.8	10 14.5	1 1.4	11 15.9	11 15.9	3 4.3
	60代以上	62 100.0	20 32.3	9 14.5	2 3.2	10 16.1	1 1.6	15 24.2	4 6.5	1 1.6
職務経験	食品生産・加工経験者	88 100.0	29 33.0	9 10.2	2 2.3	11 12.5	1 1.1	19 21.6	12 13.6	5 5.7
	食品流通・販売経験者	33 100.0	11 33.3	1 3.0	2 6.1	10 30.3	1 3.0	3 9.1	5 15.2	-
	研究職経験者	25 100.0	10 40.0	2 8.0	1 4.0	5 20.0	1 4.0	4 16.0	2 8.0	-
	医療職経験者	20 100.0	1 5.0	3 15.0	1 5.0	2 10.0	-	7 35.0	5 25.0	1 5.0
	教育職経験者	16 100.0	3 18.8	2 12.5	-	3 18.8	1 6.3	2 12.5	4 25.0	1 6.3
	食品関係行政職経験者	8 100.0	3 37.5	2 25.0	-	1 12.5	-	1 12.5	1 12.5	-
	その他	26 100.0	6 23.1	4 15.4	3 11.5	5 19.2	-	1 3.8	7 26.9	-
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	67 100.0	13 19.4	9 13.4	6 9.0	15 22.4	1 1.5	11 16.4	9 13.4
	3年目以上 (H25 以前)	149 100.0	50 33.6	14 9.4	3 2.0	22 14.8	3 2.0	26 17.4	27 18.1	4 2.7
居住地	北海道	7 100.0	5 71.4	-	1 14.3	-	-	1 14.3	-	-
	東北	8 100.0	1 12.5	2 25.0	-	2 25.0	-	2 25.0	-	1 12.5
	関東	90 100.0	25 27.8	9 10.0	4 4.4	17 18.9	1 1.1	17 18.9	16 17.8	1 1.1
	甲信越	15 100.0	5 33.3	2 13.3	-	1 6.7	-	4 26.7	3 20.0	-
	東海	18 100.0	6 33.3	1 5.6	1 5.6	1 5.6	2 11.1	5 27.8	2 11.1	-
	近畿	42 100.0	13 31.0	7 16.7	-	9 21.4	-	5 11.9	5 11.9	3 7.1
	中国・四国	21 100.0	6 28.6	2 9.5	2 9.5	4 19.0	1 4.8	-	-	5 23.8
	九州	15 100.0	2 13.3	-	1 6.7	3 20.0	-	3 20.0	5 33.3	1 6.7

問4. 問2のハザード等について、不安を感じない理由 N その他

	合計	1.安全性についての科学的な根拠に納得しているため	2.行政による規制が十分なため	3.事業者の法令遵守や衛生管理が十分なため	4.行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	5.事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分なため	6.過去に問題になった事例がないため	7.漠然と安心	8.その他	無回答
全体	8 100.0	2 25.0	-	1 12.5	1 12.5	-	2 25.0	-	2 25.0	
性別										
男性	7 100.0	2 28.6	-	1 14.3	1 14.3	-	2 28.6	-	1 14.3	
女性	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	
年代										
20～30代	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
40代	2 100.0	1 50.0	-	-	-	-	1 50.0	-	-	
50代	3 100.0	1 33.3	-	-	1 33.3	-	-	-	1 33.3	
60代以上	3 100.0	-	-	1 33.3	-	-	1 33.3	-	1 33.3	
職務経験										
食品生産・加工経験者	3 100.0	2 66.7	-	-	-	-	-	-	1 33.3	
食品流通・販売経験者	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-	
研究職経験者	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-	
医療職経験者	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	
教育職経験者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
食品関係行政職経験者	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	2 100.0	-	-	-	1 50.0	-	1 50.0	-	-	
モニター継続										
2年目以下 (H27,26)	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-	
3年目以上 (H25 以前)	7 100.0	2 28.6	-	1 14.3	1 14.3	-	1 14.3	-	2 28.6	
居住地										
北海道	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-	
東北	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-	
関東	2 100.0	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-	-	-	
甲信越	2 100.0	-	-	-	1 50.0	-	-	-	1 50.0	
東海	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	
近畿	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	
中国・四国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
九州	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

問5. 問2のL(放射性物質)で不安を感じる理由 1位

	合計	1.過去に経験したことがない事象のため	2.放射線の健康影響について科学者の見解が様々なため	3.自分の被ばく量がどの程度か解らないため	4.安全性についての科学的根拠が納得できないため	5.現行の規制値では納得できないため	6.食品の検査体制に不安を感じるため	7.政府の情報公開が不十分のため	8.周囲が心配しており自分も心配になるため	9.その他1	9.その他2	9.その他3
全体	248 100.0	102 41.1	51 20.6	16 6.5	28 11.3	5 2.0	9 3.6	25 10.1	1 0.4	10 4.0	-	1 0.4
性別 男性	112 100.0	42 37.5	23 20.5	8 7.1	16 14.3	2 1.8	4 3.6	10 8.9	1 0.9	6 5.4	-	-
性別 女性	136 100.0	60 44.1	28 20.6	8 5.9	12 8.8	3 2.2	5 3.7	15 11.0	-	4 2.9	-	1 0.7
年代 20～30代	50 100.0	21 42.0	6 12.0	6 12.0	5 10.0	2 4.0	2 4.0	5 10.0	-	2 4.0	-	1 2.0
年代 40代	63 100.0	28 44.4	19 30.2	2 3.2	5 7.9	-	2 3.2	6 9.5	-	1 1.6	-	-
年代 50代	70 100.0	26 37.1	13 18.6	4 5.7	10 14.3	2 2.9	2 2.9	9 12.9	-	4 5.7	-	-
年代 60代以上	65 100.0	27 41.5	13 20.0	4 6.2	8 12.3	1 1.5	3 4.6	5 7.7	1 1.5	3 4.6	-	-
職務経験 食品生産・加工経験者	72 100.0	36 50.0	14 19.4	6 8.3	6 8.3	-	-	6 8.3	-	4 5.6	-	-
職務経験 食品流通・販売経験者	31 100.0	13 41.9	5 16.1	1 3.2	5 16.1	1 3.2	2 6.5	3 9.7	-	1 3.2	-	-
職務経験 研究職経験者	19 100.0	8 42.1	3 15.8	1 5.3	5 26.3	-	2 10.5	-	-	-	-	-
職務経験 医療職経験者	20 100.0	8 40.0	2 10.0	-	1 5.0	1 5.0	-	5 25.0	-	2 10.0	-	1 5.0
職務経験 教育職経験者	27 100.0	12 44.4	5 18.5	1 3.7	2 7.4	1 3.7	-	4 14.8	1 3.7	1 3.7	-	-
職務経験 食品関係行政職経験者	11 100.0	4 36.4	3 27.3	1 9.1	1 9.1	1 9.1	-	1 9.1	-	-	-	-
職務経験 その他	68 100.0	21 30.9	19 27.9	6 8.8	8 11.8	1 1.5	5 7.4	6 8.8	-	2 2.9	-	-
モニター継続 2 年目以下 (H27, 26)	75 100.0	34 45.3	18 24.0	2 2.7	8 10.7	2 2.7	1 1.3	7 9.3	-	2 2.7	-	1 1.3
モニター継続 3 年目以上 (H25 以前)	173 100.0	68 39.3	33 19.1	14 8.1	20 11.6	3 1.7	8 4.6	18 10.4	1 0.6	8 4.6	-	-
居住地 北海道	6 100.0	4 66.7	1 16.7	-	-	-	-	-	-	1 16.7	-	-
居住地 東北	14 100.0	7 50.0	1 7.1	-	4 28.6	-	-	1 7.1	-	1 7.1	-	-
居住地 関東	89 100.0	41 46.1	14 15.7	8 9.0	6 6.7	2 2.2	4 4.5	8 9.0	1 1.1	5 5.6	-	-
居住地 甲信越	16 100.0	7 43.8	1 6.3	1 6.3	3 18.8	-	1 6.3	3 18.8	-	-	-	-
居住地 東海	20 100.0	6 30.0	7 35.0	2 10.0	3 15.0	-	1 5.0	1 5.0	-	-	-	-
居住地 近畿	47 100.0	18 38.3	11 23.4	3 6.4	3 6.4	3 6.4	2 4.3	5 10.6	-	2 4.3	-	-
居住地 中国・四国	24 100.0	8 33.3	7 29.2	-	2 8.3	-	-	6 25.0	-	1 4.2	-	-
居住地 九州	32 100.0	11 34.4	9 28.1	2 6.3	7 21.9	-	1 3.1	1 3.1	-	-	-	1 3.1

問5. 問2のL(放射性物質)で不安を感じる理由 2位

	合計	1.過去に経験したことがない事象のため	2.放射線の健康影響について科学者の見解が様々であるため	3.自分の被ばく量がどの程度か解らないため	4.安全性についての科学的根拠が納得できないため	5.現行の規制値では納得できないため	6.食品の検査体制に不安を感じるため	7.政府の情報公開が不十分なため	8.周囲が心配しており自分も心配になるため	9.その他1	9.その他2	9.その他3
全体	248 100.0	29 11.7	72 29.0	32 12.9	36 14.5	8 3.2	33 13.3	26 10.5	4 1.6	3 1.2	5 2.0	-
性別 男性	112 100.0	14 12.5	31 27.7	13 11.6	16 14.3	5 4.5	14 12.5	14 12.5	2 1.8	1 0.9	2 1.8	-
性別 女性	136 100.0	15 11.0	41 30.1	19 14.0	20 14.7	3 2.2	19 14.0	12 8.8	2 1.5	2 1.5	3 2.2	-
年代 20～30代	50 100.0	4 8.0	15 30.0	9 18.0	4 8.0	1 2.0	9 18.0	5 10.0	2 4.0	-	1 2.0	-
年代 40代	63 100.0	9 14.3	11 17.5	11 17.5	10 15.9	4 6.3	8 12.7	6 9.5	1 1.6	2 3.2	1 1.6	-
年代 50代	70 100.0	8 11.4	25 35.7	9 12.9	11 15.7	-	6 8.6	8 11.4	-	-	3 4.3	-
年代 60代以上	65 100.0	8 12.3	21 32.3	3 4.6	11 16.9	3 4.6	10 15.4	7 10.8	1 1.5	1 1.5	-	-
職務経験 食品生産・加工経験者	72 100.0	7 9.7	23 31.9	9 12.5	4 5.6	5 6.9	14 19.4	7 9.7	1 1.4	1 1.4	1 1.4	-
職務経験 食品流通・販売経験者	31 100.0	4 12.9	8 25.8	1 3.2	6 19.4	1 3.2	5 16.1	6 19.4	-	-	-	-
職務経験 研究職経験者	19 100.0	1 5.3	8 42.1	3 15.8	3 15.8	1 5.3	2 10.5	4 21.1	-	-	-	-
職務経験 医療職経験者	20 100.0	2 10.0	7 35.0	-	3 15.0	-	2 10.0	3 15.0	-	1 5.0	2 10.0	-
職務経験 教育職経験者	27 100.0	3 11.1	6 22.2	6 22.2	7 25.9	1 3.7	3 11.1	1 3.7	-	-	-	-
職務経験 食品関係行政職経験者	11 100.0	1 9.1	5 45.5	1 9.1	3 27.3	-	-	1 9.1	-	-	-	-
職務経験 その他	68 100.0	11 16.2	15 22.1	12 17.6	12 17.6	1 1.5	7 10.3	4 5.9	3 4.4	1 1.5	2 2.9	-
モニター継続 2年目以下 (H27, 26)	75 100.0	5 6.7	20 26.7	13 17.3	9 12.0	2 2.7	13 17.3	8 10.7	3 4.0	1 1.3	1 1.3	-
モニター継続 3年目以上 (H25 以前)	173 100.0	24 13.9	52 30.1	19 11.0	27 15.6	6 3.5	20 11.6	18 10.4	1 0.6	2 1.2	4 2.3	-
居住地 北海道	6 100.0	1 16.7	1 16.7	-	1 16.7	-	2 33.3	1 16.7	-	-	-	-
居住地 東北	14 100.0	3 21.4	3 21.4	2 14.3	-	-	2 14.3	2 14.3	-	1 7.1	1 7.1	-
居住地 関東	89 100.0	11 12.4	27 30.3	10 11.2	13 14.6	4 4.5	9 10.1	9 10.1	2 2.2	2 2.2	2 2.2	-
居住地 甲信越	16 100.0	1 6.3	7 43.8	5 31.3	2 12.5	-	-	1 6.3	-	-	-	-
居住地 東海	20 100.0	4 20.0	6 30.0	4 20.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0	2 10.0	-	-	-	-
居住地 近畿	47 100.0	4 8.5	11 23.4	3 6.4	11 23.4	3 6.4	12 25.5	2 4.3	-	-	1 2.1	-
居住地 中国・四国	24 100.0	2 8.3	9 37.5	4 16.7	3 12.5	-	2 8.3	2 8.3	1 4.2	-	1 4.2	-
居住地 九州	32 100.0	3 9.4	8 25.0	4 12.5	4 12.5	-	5 15.6	7 21.9	1 3.1	-	-	-

問5. 問2のL(放射性物質)で不安を感じる理由 3位

	合計	1.過去に経験したことがない事象のため	2.放射線の健康影響について科学者の見解が様々であるため	3.自分の被ばく量がどの程度か解らないため	4.安全性についての科学的根拠が納得できないため	5.現行の規制値では納得できないため	6.食品の検査体制に不安を感じるため	7.政府の情報公開が不十分のため	8.周囲が心配しており自分も心配になるため	9.その他1	9.その他2	9.その他3
全体	248 100.0	35 14.1	44 17.7	26 10.5	39 15.7	9 3.6	29 11.7	36 14.5	18 7.3	8 3.2	1 0.4	3 1.2
性別												
男性	112 100.0	21 18.8	19 17.0	11 9.8	15 13.4	3 2.7	13 11.6	19 17.0	5 4.5	6 5.4	-	-
女性	136 100.0	14 10.3	25 18.4	15 11.0	24 17.6	6 4.4	16 11.8	17 12.5	13 9.6	2 1.5	1 0.7	3 2.2
年代												
20～30代	50 100.0	8 16.0	10 20.0	10 20.0	8 16.0	1 2.0	2 4.0	5 10.0	4 8.0	1 2.0	-	1 2.0
40代	63 100.0	6 9.5	14 22.2	7 11.1	11 17.5	4 6.3	7 11.1	7 11.1	4 6.3	3 4.8	-	-
50代	70 100.0	13 18.6	12 17.1	4 5.7	9 12.9	2 2.9	9 12.9	11 15.7	7 10.0	1 1.4	-	2 2.9
60代以上	65 100.0	8 12.3	8 12.3	5 7.7	11 16.9	2 3.1	11 16.9	13 20.0	3 4.6	3 4.6	1 1.5	-
職務経験												
食品生産・加工経験者	72 100.0	12 16.7	10 13.9	3 4.2	8 11.1	5 6.9	9 12.5	12 16.7	7 9.7	6 8.3	-	-
食品流通・販売経験者	31 100.0	4 12.9	7 22.6	4 12.9	6 19.4	1 3.2	3 9.7	5 16.1	1 3.2	-	-	-
研究職経験者	19 100.0	3 15.8	3 15.8	2 10.5	2 31.6	1 5.3	1 5.3	3 15.8	-	-	-	-
医療職経験者	20 100.0	3 15.0	2 10.0	3 15.0	3 25.0	-	2 10.0	1 5.0	2 10.0	-	1 5.0	1 5.0
教育職経験者	27 100.0	2 7.4	7 25.9	3 11.1	6 22.2	-	4 14.8	3 11.1	2 7.4	-	-	-
食品関係行政職経験者	11 100.0	2 18.2	-	1 9.1	2 18.2	-	3 27.3	-	1 9.1	2 18.2	-	-
その他	68 100.0	9 13.2	15 22.1	10 14.7	6 8.8	2 2.9	7 10.3	12 17.6	5 7.4	-	-	2 2.9
モニター継続												
2年目以下 (H27, 26)	75 100.0	9 12.0	11 14.7	10 13.3	16 21.3	2 2.7	7 9.3	10 13.3	7 9.3	2 2.7	1 1.3	-
3年目以上 (H25 以前)	173 100.0	26 15.0	33 19.1	16 9.2	23 13.3	7 4.0	22 12.7	26 15.0	11 6.4	6 3.5	-	3 1.7
居住地												
北海道	6 100.0	-	2 33.3	2 33.3	-	1 16.7	-	1 16.7	-	-	-	-
東北	14 100.0	1 7.1	3 21.4	3 21.4	3 21.4	1 7.1	-	2 14.3	2 14.3	1 7.1	1 7.1	-
関東	89 100.0	10 11.2	16 18.0	10 11.2	16 18.0	3 3.4	12 13.5	13 14.6	6 6.7	1 1.1	-	2 2.2
甲信越	16 100.0	4 25.0	2 12.5	-	3 18.8	1 6.3	1 6.3	4 25.0	1 6.3	-	-	-
東海	20 100.0	4 20.0	4 20.0	3 15.0	3 15.0	1 5.0	4 20.0	1 5.0	-	-	-	-
近畿	47 100.0	4 8.5	10 21.3	4 8.5	7 14.9	1 2.1	5 10.6	9 19.1	4 8.5	2 4.3	-	1 2.1
中国・四国	24 100.0	9 37.5	2 8.3	2 8.3	5 20.8	-	2 8.3	2 8.3	1 4.2	1 4.2	-	-
九州	32 100.0	3 9.4	5 15.6	2 6.3	2 12.5	4 6.3	2 15.6	5 12.5	4 12.5	3 9.4	-	-

問6. 食品の安全性の確保のための新たな取組への評価

		合計	1.評価している	2.どちらかといえば評価している	3.どちらかといえば評価していない	4.評価していない	5.分からない
全体		425 100.0	196 46.1	202 47.5	15 3.5	6 1.4	6 1.4
性別	男性	233 100.0	115 49.4	107 45.9	7 3.0	3 1.3	1 0.4
	女性	192 100.0	81 42.2	95 49.5	8 4.2	3 1.6	5 2.6
年代	20～30代	75 100.0	33 44.0	34 45.3	3 4.0	2 2.7	3 4.0
	40代	101 100.0	46 45.5	50 49.5	2 2.0	2 2.0	1 1.0
	50代	129 100.0	61 47.3	62 48.1	4 3.1	1 0.8	1 0.8
	60代以上	120 100.0	56 46.7	56 46.7	6 5.0	1 0.8	1 0.8
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	70 49.0	68 47.6	4 2.8	1 0.7	- -
	食品流通・販売経験者	62 100.0	29 46.8	28 45.2	4 6.5	- -	1 1.6
	研究職経験者	38 100.0	16 42.1	19 50.0	1 2.6	2 5.3	- -
	医療職経験者	36 100.0	17 47.2	17 47.2	2 5.6	- -	- -
	教育職経験者	41 100.0	21 51.2	16 39.0	2 4.9	1 2.4	1 2.4
	食品関係行政職経験者	18 100.0	6 33.3	12 66.7	- -	- -	- -
	その他	87 100.0	37 42.5	42 48.3	2 2.3	2 2.3	4 4.6
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	68 53.5	54 42.5	2 1.6	1 0.8	2 1.6
	3年目以上 (H25 以前)	298 100.0	128 43.0	148 49.7	13 4.4	5 1.7	4 1.3
居住地	北海道	13 100.0	9 69.2	4 30.8	- -	- -	- -
	東北	24 100.0	14 58.3	7 29.2	3 12.5	- -	- -
	関東	160 100.0	76 47.5	76 47.5	3 1.9	3 1.9	2 1.3
	甲信越	24 100.0	8 33.3	14 58.3	1 4.2	1 4.2	- -
	東海	38 100.0	19 50.0	16 42.1	2 5.3	1 2.6	- -
	近畿	84 100.0	34 40.5	45 53.6	3 3.6	1 1.2	1 1.2
	中国・四国	41 100.0	21 51.2	19 46.3	- -	- -	1 2.4
	九州	41 100.0	15 36.6	21 51.2	3 7.3	- -	2 4.9

問7. 食品の安全の分野で、行政機関が行ってきたリスクコミュニケーションへの評価

		合計	1.適切に行われていた	2.どちらかといえば適切に行われていた	3.どちらかといえば適切に行われていなかった	4.適切に行われていなかった	5.分からない
全体		425	66	277	49	14	19
		100.0	15.5	65.2	11.5	3.3	4.5
性別	男性	233	38	154	29	9	3
		100.0	16.3	66.1	12.4	3.9	1.3
	女性	192	28	123	20	5	16
		100.0	14.6	64.1	10.4	2.6	8.3
年代	20～30代	75	15	47	9	2	2
		100.0	20.0	62.7	12.0	2.7	2.7
	40代	101	14	63	14	4	6
		100.0	13.9	62.4	13.9	4.0	5.9
	50代	129	22	84	12	4	7
		100.0	17.1	65.1	9.3	3.1	5.4
	60代以上	120	15	83	14	4	4
		100.0	12.5	69.2	11.7	3.3	3.3
職務経験	食品生産・加工経験者	143	24	97	14	4	4
		100.0	16.8	67.8	9.8	2.8	2.8
	食品流通・販売経験者	62	6	43	11	1	1
		100.0	9.7	69.4	17.7	1.6	1.6
	研究職経験者	38	4	26	4	3	1
		100.0	10.5	68.4	10.5	7.9	2.6
	医療職経験者	36	7	24	4	1	-
		100.0	19.4	66.7	11.1	2.8	-
	教育職経験者	41	8	20	5	1	7
		100.0	19.5	48.8	12.2	2.4	17.1
	食品関係行政職経験者	18	3	9	4	1	1
		100.0	16.7	50.0	22.2	5.6	5.6
	その他	87	14	58	7	3	5
		100.0	16.1	66.7	8.0	3.4	5.7
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	25	79	12	2	9
		100.0	19.7	62.2	9.4	1.6	7.1
	3年目以上 (H25 以前)	298	41	198	37	12	10
		100.0	13.8	66.4	12.4	4.0	3.4
居住地	北海道	13	3	7	2	-	1
		100.0	23.1	53.8	15.4	-	7.7
	東北	24	7	13	2	1	1
		100.0	29.2	54.2	8.3	4.2	4.2
	関東	160	20	111	19	5	5
		100.0	12.5	69.4	11.9	3.1	3.1
	甲信越	24	6	15	2	1	-
		100.0	25.0	62.5	8.3	4.2	-
	東海	38	8	24	6	-	-
		100.0	21.1	63.2	15.8	-	-
	近畿	84	12	53	7	5	7
		100.0	14.3	63.1	8.3	6.0	8.3
	中国・四国	41	8	25	6	1	1
		100.0	19.5	61.0	14.6	2.4	2.4
	九州	41	2	29	5	1	4
		100.0	4.9	70.7	12.2	2.4	9.8

問8. 問7について、リスクコミュニケーションが適切に行われていなかった理由

		合計	1.行政機関から必要な情報が早く提供されていなかった	2.行政機関から必要な情報が正確に提供されていなかった	3.行政機関から提供された情報が分かりにくかった	4.関係者の間の意見交換が十分になされていなかった	5.その他
全 体		63 100.0	9 14.3	12 19.0	15 23.8	12 19.0	15 23.8
性別	男性	38 100.0	4 10.5	7 18.4	8 21.1	8 21.1	11 28.9
	女性	25 100.0	5 20.0	5 20.0	7 28.0	4 16.0	4 16.0
年代	20～30代	11 100.0	1 9.1	3 27.3	3 27.3	2 18.2	2 18.2
	40代	18 100.0	4 22.2	3 16.7	5 27.8	2 11.1	4 22.2
	50代	16 100.0	2 12.5	2 12.5	4 25.0	3 18.8	5 31.3
	60代以上	18 100.0	2 11.1	4 22.2	3 16.7	5 27.8	4 22.2
職務経験	食品生産・加工経験者	18 100.0	2 11.1	2 11.1	2 11.1	5 27.8	7 38.9
	食品流通・販売経験者	12 100.0	1 8.3	2 16.7	4 33.3	2 16.7	3 25.0
	研究職経験者	7 100.0	2 28.6	1 14.3	3 42.9	1 14.3	-
	医療職経験者	5 100.0	-	2 40.0	1 20.0	-	2 40.0
	教育職経験者	6 100.0	1 16.7	2 33.3	2 33.3	1 16.7	-
	食品関係行政職経験者	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0
	その他	10 100.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	14 100.0	4 28.6	3 21.4	2 14.3	2 14.3	3 21.4
	3年目以上 (H25 以前)	49 100.0	5 10.2	9 18.4	13 26.5	10 20.4	12 24.5
居住地	北海道	2 100.0	-	-	1 50.0	-	1 50.0
	東北	3 100.0	-	1 33.3	-	1 33.3	1 33.3
	関東	24 100.0	4 16.7	6 25.0	7 29.2	3 12.5	4 16.7
	甲信越	3 100.0	1 33.3	-	2 66.7	-	-
	東海	6 100.0	1 16.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7
	近畿	12 100.0	3 25.0	1 8.3	1 8.3	4 33.3	3 25.0
	中国・四国	7 100.0	-	1 14.3	2 28.6	1 14.3	3 42.9
	九州	6 100.0	-	1 16.7	1 16.7	2 33.3	2 33.3

問9. よく利用する食品安全委員会からの情報 1位

	合計	1.ホーム ページ(フ ェイスブ ック及 びブログ を除く)	2.フェ イスブ ック	3.プロ グ	4.季刊 誌	5.メー ルマガ ジン (ワー クリー ン版・ 原稿 毎週水 曜日配 信)	6.メー ルマガ ジン(誌 物版・ 毎月 中旬と 下旬 に配信)	7.DVD 等の 啓発素 材	8.委員 会・調 査会 の傍 聴	9.意見 交換 会等 への 出席	10.食 品安 全モ ニタ ー 会 議 の 資 料	11.そ 他 1	11.そ 他 2	11.そ 他 3
全 体	425 100.0	134 31.5	40 9.4	1 0.2	52 12.2	134 31.5	41 9.6	1 0.2	2 0.5	9 2.1	10 2.4	1 0.2	-	-
性別														
男性	233 100.0	77 33.0	24 10.3	1 0.4	24 10.3	79 33.9	20 8.6	1 0.4	1 0.4	3 1.3	2 0.9	1 0.4	-	-
女性	192 100.0	57 29.7	16 8.3	-	28 14.6	55 28.6	21 10.9	-	0.5	6 3.1	8 4.2	-	-	-
年代														
20～30代	75 100.0	21 28.0	12 16.0	-	11 14.7	15 20.0	8 10.7	-	1.3	1 1.3	6 8.0	-	-	-
40代	101 100.0	31 30.7	8 7.9	-	18 17.8	27 26.7	11 10.9	-	1.0	3 3.0	2 2.0	-	-	-
50代	129 100.0	37 28.7	14 10.9	-	12 9.3	52 40.3	10 7.8	-	-	3 2.3	1 0.8	-	-	-
60代以上	120 100.0	45 37.5	6 5.0	1 0.8	11 9.2	40 33.3	12 10.0	1 0.8	-	2 1.7	1 0.8	1 0.8	-	-
職務経験														
食品生産・加工経験者	143 100.0	33 23.1	11 7.7	1 0.7	20 14.0	57 39.9	14 9.8	-	0.7	3 2.1	2 1.4	1 0.7	-	-
食品流通・販売経験者	62 100.0	28 45.2	6 9.7	-	7 11.3	14 22.6	6 9.7	-	-	1 1.6	-	-	-	-
研究職経験者	38 100.0	20 52.6	3 7.9	-	2 5.3	10 26.3	2 5.3	1 2.6	-	-	-	-	-	-
医療職経験者	36 100.0	10 27.8	4 11.1	-	6 16.7	12 33.3	3 8.3	-	-	1 2.8	-	-	-	-
教育職経験者	41 100.0	12 29.3	5 12.2	-	7 17.1	10 24.4	5 12.2	-	-	-	2 4.9	-	-	-
食品関係行政職経験者	18 100.0	7 38.9	1 5.6	-	-	5 27.8	2 11.1	-	-	1 5.6	2 11.1	-	-	-
その他	87 100.0	24 27.6	10 11.5	-	10 11.5	26 29.9	9 10.3	-	1.1	3 3.4	4 4.6	-	-	-
モニター継続														
2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	29 22.8	17 13.4	-	13 10.2	44 34.6	11 8.7	1 0.8	1 0.8	3 2.4	8 6.3	-	-	-
3年目以上 (H25 以前)	298 100.0	105 35.2	23 7.7	1 0.3	39 13.1	90 30.2	30 10.1	-	0.3	6 2.0	2 0.7	1 0.3	-	-
居住地														
北海道	13 100.0	5 38.5	2 15.4	-	1 7.7	3 23.1	1 7.7	-	-	1 7.7	-	-	-	-
東北	24 100.0	9 37.5	3 12.5	-	3 12.5	7 29.2	-	-	-	-	1 4.2	4 16.7	-	-
関東	160 100.0	55 34.4	16 10.0	-	13 8.1	50 31.3	21 13.1	-	2 1.3	1 0.6	2 1.3	-	-	-
甲信越	24 100.0	4 16.7	2 8.3	-	4 16.7	7 29.2	3 12.5	-	-	3 12.5	1 4.2	-	-	-
東海	38 100.0	12 31.6	4 10.5	-	6 15.8	10 26.3	1 2.6	-	-	2 5.3	3 7.9	-	-	-
近畿	84 100.0	21 25.0	9 10.7	1 1.2	13 15.5	30 35.7	8 9.5	1 1.2	-	-	1 1.2	-	-	-
中国・四国	41 100.0	13 31.7	4 9.8	-	6 14.6	12 29.3	4 9.8	-	-	-	2 4.9	-	-	-
九州	41 100.0	15 36.6	-	-	6 14.6	15 36.6	3 7.3	-	-	2 4.9	-	-	-	-

問9. よく利用する食品安全委員会からの情報 2位

	合計	1.ホーム ページ(フ ェイスブ ック及 びブログ を除く)	2.フェ イスブ ック	3.プロ グ	4.季刊 誌	5.メー ルマガ ジン (ウイ ークリ ー毎・隔 週毎通 水曜 日配信)	6.メー ルマガ ジン(誌 物版・毎 月の中 旬と下 旬に配 信)	7.DVD 等の 啓発素 材	8.委員 会・専 門調査 会の傍 聴	9.意見 交換 会等へ の出席	10.食 品安 全モ ニタ ー 会 議 の 資 料	11.そ の 他 1	11.そ の 他 2	11.そ の 他 3
全 体	425 100.0	55 12.9	26 6.1	4 0.9	101 23.8	95 22.4	95 22.4	5 1.2	7 1.6	7 1.6	29 6.8	1 0.2	-	-
性別														
男性	233 100.0	36 15.5	13 5.6	4 1.7	51 21.9	52 22.3	51 21.9	1 0.4	6 2.6	2 0.9	16 6.9	1 0.4	-	-
女性	192 100.0	19 9.9	13 6.8	-	50 26.0	43 22.4	44 22.9	4 2.1	1 0.5	5 2.6	13 6.8	-	-	-
年代														
20～30代	75 100.0	6 8.0	8 10.7	1 1.3	21 28.0	16 21.3	15 20.0	1 1.3	-	3 4.0	4 5.3	-	-	-
40代	101 100.0	13 12.9	8 7.9	1 1.0	24 23.8	25 24.8	17 16.8	1 1.0	-	3 3.0	8 7.9	1 1.0	-	-
50代	129 100.0	19 14.7	3 2.3	2 1.6	28 21.7	31 24.0	37 28.7	1 0.8	2 1.6	-	6 4.7	-	-	-
60代以上	120 100.0	17 14.2	7 5.8	-	28 23.3	23 19.2	26 21.7	2 1.7	5 4.2	1 0.8	11 9.2	-	-	-
職務経験														
食品生産・加工経験者	143 100.0	18 12.6	12 8.4	2 1.4	32 22.4	25 17.5	37 25.9	2 1.4	4 2.8	1 0.7	10 7.0	-	-	-
食品流通・販売経験者	62 100.0	10 16.1	2 3.2	1 1.6	9 14.5	22 35.5	12 19.4	2 3.2	-	-	3 4.8	1 1.6	-	-
研究職経験者	38 100.0	5 13.2	-	-	8 21.1	12 31.6	6 15.8	1 2.6	2 5.3	-	4 10.5	-	-	-
医療職経験者	36 100.0	2 5.6	2 5.6	-	12 33.3	4 11.1	11 30.6	-	-	-	5 13.9	-	-	-
教育職経験者	41 100.0	7 17.1	-	-	12 29.3	10 24.4	8 19.5	-	1 2.4	2 4.9	1 2.4	-	-	-
食品関係行政職経験者	18 100.0	3 16.7	1 5.6	-	7 38.9	4 22.2	3 16.7	-	-	-	-	-	-	-
その他	87 100.0	10 11.5	9 10.3	1 1.1	21 24.1	18 20.7	18 20.7	-	-	4 4.6	6 6.9	-	-	-
モニター継続														
2年目以下 (H27,26)	127 100.0	18 14.2	8 6.3	-	31 24.4	22 17.3	30 23.6	2 1.6	3 2.4	4 3.1	9 7.1	-	-	-
3年目以上 (H25 以前)	298 100.0	37 12.4	18 6.0	4 1.3	70 23.5	73 24.5	65 21.8	3 1.0	4 1.3	3 1.0	20 6.7	1 0.3	-	-
居住地														
北海道	13 100.0	2 15.4	-	-	3 23.1	2 15.4	4 30.8	-	-	-	2 15.4	-	-	-
東北	24 100.0	4 16.7	3 12.5	-	6 25.0	4 16.7	3 12.5	1 4.2	-	-	3 12.5	-	-	-
関東	160 100.0	22 13.8	6 3.8	1 0.6	32 20.0	43 26.9	41 25.6	1 0.6	5 3.1	2 1.3	6 3.8	1 0.6	-	-
甲信越	24 100.0	2 8.3	1 4.2	1 4.2	1 25.0	6 25.0	5 20.8	-	-	-	3 12.5	-	-	-
東海	38 100.0	4 10.5	-	2 2.6	8 21.1	7 18.4	8 21.1	-	1 2.6	3 7.9	6 15.8	-	-	-
近畿	84 100.0	10 11.9	10 11.9	-	18 21.4	21 25.0	16 19.0	2 2.4	1 1.2	1 1.2	5 6.0	-	-	-
中国・四国	41 100.0	7 17.1	2 4.9	-	14 34.1	5 12.2	11 26.8	-	-	2 4.9	1 2.4	-	-	-
九州	41 100.0	4 9.8	4 9.8	1 2.4	14 34.1	7 17.1	7 17.1	1 2.4	-	-	3 7.3	-	-	-

問9. よく利用する食品安全委員会からの情報 3位

	合計	1.ホーム ページ(フェ イスブック 及びブログ を除く)	2.フェイス ブック	3.ブログ	4.季刊誌	5.メールマ ガジン (ウイーク リー版・原 則海運水 曜日配属)	6.メールマ ガジン(誌 物版・毎月 中旬と下旬 に配属)	7.DVD等の 啓発素材	8.委員会・ 専門調査 会の傍聴	9.意見交換 会等への 出席	10.食品安 全モニター 会議の資 料	11.その他 1	11.その他 2	11.その他 3	
全 体	425 100.0	72 16.9	12 2.8	4 0.9	105 24.7	40 9.4	73 17.2	10 2.4	4 0.9	24 5.6	75 17.6	5 1.2	1 0.2	-	
性別															
男性	233 100.0	33 14.2	7 3.0	2 0.9	56 24.0	21 9.0	38 16.3	6 2.6	4 1.7	16 6.9	45 19.3	4 1.7	1 0.4	-	
女性	192 100.0	39 20.3	5 2.6	2 1.0	49 25.5	19 9.9	35 18.2	4 2.1	-	8 4.2	30 15.6	1 0.5	-	-	
年代															
20～30代	75 100.0	17 22.7	3 4.0	2 2.7	16 21.3	9 12.0	12 16.0	-	1 1.3	3 4.0	11 14.7	1 1.3	-	-	
40代	101 100.0	15 14.9	3 3.0	-	23 22.8	11 10.9	18 17.8	2 2.0	-	5 5.0	21 20.8	2 2.0	1 1.0	-	
50代	129 100.0	18 14.0	5 3.9	1 0.8	35 27.1	10 7.8	21 16.3	5 3.9	1 0.8	7 5.4	25 19.4	1 0.8	-	-	
60代以上	120 100.0	22 18.3	1 0.8	1 0.8	31 25.8	10 8.3	22 18.3	3 2.5	2 1.7	9 7.5	18 15.0	1 0.8	-	-	
職務経験															
食品生産・加工経験者	143 100.0	32 22.4	5 3.5	1 0.7	31 21.7	15 10.5	18 12.6	4 2.8	1 0.7	9 6.3	23 16.1	4 2.8	-	-	
食品流通・販売経験者	62 100.0	8 12.9	3 4.8	1 1.6	25 40.3	2 3.2	9 14.5	1 1.6	-	2 3.2	10 16.1	-	1 1.6	-	
研究職経験者	38 100.0	2 5.3	-	1 2.6	6 15.8	5 13.2	9 23.7	1 2.6	-	3 7.9	11 28.9	-	-	-	
医療職経験者	36 100.0	7 19.4	1 2.8	-	6 16.7	4 11.1	11 30.6	2 5.6	-	2 5.6	3 8.3	-	-	-	
教育職経験者	41 100.0	7 17.1	-	1 2.4	10 24.4	4 9.8	7 17.1	1 2.4	2 4.9	3 7.3	6 14.6	-	-	-	
食品関係行政職経験者	16 100.0	1 5.6	1 6.3	-	5 27.8	2 11.1	3 16.7	1 5.6	1 5.6	-	4 22.2	-	-	-	
その他	87 100.0	15 17.2	2 2.3	-	22 25.3	8 9.2	16 18.4	-	-	5 5.7	18 20.7	1 1.1	-	-	
モニター継続															
2年目以下 (H27,26)	127 100.0	22 17.3	6 4.7	-	21 16.5	16 12.6	23 18.1	2 1.6	3 2.4	8 6.3	25 19.7	1 0.8	-	-	
3年目以上 (H25 以前)	298 100.0	50 16.8	6 2.0	4 1.3	84 28.2	24 8.1	50 16.8	8 2.7	1 0.3	16 5.4	50 16.8	4 1.3	1 0.3	-	
居住地															
北海道	13 100.0	-	-	-	3 23.1	3 23.1	4 30.8	1 7.7	-	-	2 15.4	-	-	-	
東北	24 100.0	5 20.8	1 4.2	1 4.2	6 25.0	4 16.7	3 12.5	-	1 4.2	2 8.3	1 4.2	-	-	-	
関東	160 100.0	26 16.3	4 2.5	1 0.6	44 27.5	13 8.1	27 16.9	4 2.5	2 1.3	10 6.3	26 16.3	2 1.3	1 0.6	-	
甲信越	24 100.0	8 33.3	-	-	5 20.8	1 4.2	4 16.7	-	-	2 8.3	3 12.5	1 4.2	-	-	
東海	38 100.0	4 10.5	1 2.6	1 2.6	7 18.4	4 10.5	10 26.3	2 5.3	-	2 5.3	7 18.4	-	-	-	
近畿	84 100.0	18 21.4	4 4.8	1 1.2	19 22.6	7 8.3	12 14.3	-	1 1.2	4 4.8	18 21.4	-	-	-	
中国・四国	41 100.0	6 14.6	-	-	13 31.7	5 12.2	9 22.0	1 2.4	-	-	5 12.2	2 4.9	-	-	
九州	41 100.0	5 12.2	2 4.9	-	8 19.5	3 7.3	4 9.8	2 4.9	-	4 9.8	13 31.7	-	-	-	

問10. 食品安全委員会や地方自治体主催の食品の安全についての意見交換会への参加

		合計	1.参加した ことがある	2.参加した ことがない	3.分からない・覚えて いない
全 体		425 100.0	245 57.6	165 38.8	15 3.5
性別	男性	233 100.0	144 61.8	80 34.3	9 3.9
	女性	192 100.0	101 52.6	85 44.3	6 3.1
年代	20～30代	75 100.0	33 44.0	39 52.0	3 4.0
	40代	101 100.0	48 47.5	49 48.5	4 4.0
	50代	129 100.0	78 60.5	47 36.4	4 3.1
	60代以上	120 100.0	86 71.7	30 25.0	4 3.3
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	89 62.2	51 35.7	3 2.1
	食品流通・販売経験者	62 100.0	38 61.3	20 32.3	4 6.5
	研究職経験者	38 100.0	23 60.5	10 26.3	5 13.2
	医療職経験者	36 100.0	16 44.4	20 55.6	— —
	教育職経験者	41 100.0	23 56.1	18 43.9	— —
	食品関係行政職経験者	18 100.0	11 61.1	6 33.3	1 5.6
	その他	87 100.0	45 51.7	40 46.0	2 2.3
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	70 55.1	55 43.3
3年目以上 (H25 以前)		298 100.0	175 58.7	110 36.9	13 4.4
居住地	北海道	13 100.0	7 53.8	5 38.5	1 7.7
	東北	24 100.0	19 79.2	4 16.7	1 4.2
	関東	160 100.0	85 53.1	69 43.1	6 3.8
	甲信越	24 100.0	13 54.2	10 41.7	1 4.2
	東海	38 100.0	24 63.2	14 36.8	— —
	近畿	84 100.0	53 63.1	29 34.5	2 2.4
	中国・四国	41 100.0	24 58.5	16 39.0	1 2.4
	九州	41 100.0	20 48.8	18 43.9	3 7.3

問11. 食品安全委員会から得た情報の活用方法

		合計	1.食生活に 活かしている	2.知人・友 人等に伝え ている	3.フェイス ブックやブ ログ等を 使って不特 定多数の 人に情報	4.業務(例 えば食品 関係の仕 事)に活か している	5.自分が関 わっている 地域活動 に活かして いる	6.その他
全体		425 100.0	291 68.5	281 66.1	40 9.4	240 56.5	109 25.6	21 4.9
性別	男性	233 100.0	143 61.4	151 64.8	28 12.0	148 63.5	62 26.6	17 7.3
	女性	192 100.0	148 77.1	130 67.7	12 6.3	92 47.9	47 24.5	4 2.1
年代	20～30代	75 100.0	50 66.7	45 60.0	6 8.0	38 50.7	9 12.0	- -
	40代	101 100.0	70 69.3	67 66.3	13 12.9	60 59.4	16 15.8	5 5.0
	50代	129 100.0	93 72.1	90 69.8	14 10.9	83 64.3	27 20.9	8 6.2
	60代以上	120 100.0	78 65.0	79 65.8	7 5.8	59 49.2	57 47.5	8 6.7
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	89 62.2	101 70.6	15 10.5	96 67.1	26 18.2	2 1.4
	食品流通・販売経験者	62 100.0	41 66.1	38 61.3	7 11.3	47 75.8	14 22.6	1 1.6
	研究職経験者	38 100.0	30 78.9	26 68.4	4 10.5	28 73.7	8 21.1	4 10.5
	医療職経験者	36 100.0	22 61.1	24 66.7	4 11.1	21 58.3	10 27.8	4 11.1
	教育職経験者	41 100.0	33 80.5	24 58.5	3 7.3	20 48.8	17 41.5	4 9.8
	食品関係行政職経験者	18 100.0	11 61.1	11 61.1	- -	6 33.3	8 44.4	- -
	その他	87 100.0	65 74.7	57 65.5	7 8.0	22 25.3	26 29.9	6 6.9
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	83 65.4	78 61.4	9 7.1	69 54.3	32 25.2
	3年目以上 (H25 以前)	298 100.0	208 69.8	203 68.1	31 10.4	171 57.4	77 25.8	14 4.7
居住地	北海道	13 100.0	10 76.9	9 69.2	2 15.4	9 69.2	5 38.5	2 15.4
	東北	24 100.0	21 87.5	19 79.2	2 8.3	12 50.0	8 33.3	1 4.2
	関東	160 100.0	101 63.1	103 64.4	14 8.8	90 56.3	34 21.3	8 5.0
	甲信越	24 100.0	16 66.7	18 75.0	3 12.5	10 41.7	8 33.3	- -
	東海	38 100.0	26 68.4	23 60.5	4 10.5	19 50.0	15 39.5	2 5.3
	近畿	84 100.0	57 67.9	54 64.3	9 10.7	51 60.7	21 25.0	2 2.4
	中国・四国	41 100.0	29 70.7	26 63.4	4 9.8	26 63.4	13 31.7	3 7.3
	九州	41 100.0	31 75.6	29 70.7	2 4.9	23 56.1	5 12.2	3 7.3

問12. 食品の安全性に関する、消費者等と科学者等間との認識のギャップ感

		合計	1.ある	2.どちらかといえはある	3.どちらかといえはない	4.ない	5.分からない
全 体		425 100.0	231 54.4	176 41.4	12 2.8	3 0.7	3 0.7
性別	男性	233 100.0	138 59.2	89 38.2	4 1.7	1 0.4	1 0.4
	女性	192 100.0	93 48.4	87 45.3	8 4.2	2 1.0	2 1.0
年代	20～30代	75 100.0	44 58.7	24 32.0	4 5.3	3 4.0	-
	40代	101 100.0	61 60.4	36 35.6	3 3.0	-	1 1.0
	50代	129 100.0	77 59.7	47 36.4	4 3.1	-	1 0.8
	60代以上	120 100.0	49 40.8	69 57.5	1 0.8	-	1 0.8
	職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	84 58.7	52 36.4	3 2.1	2 1.4
	食品流通・販売経験者	62 100.0	36 58.1	25 40.3	1 1.6	-	-
	研究職経験者	38 100.0	25 65.8	13 34.2	-	-	-
	医療職経験者	36 100.0	19 52.8	16 44.4	-	-	1 2.8
	教育職経験者	41 100.0	18 43.9	21 51.2	2 4.9	-	-
	食品関係行政職経験者	18 100.0	5 27.8	11 61.1	2 11.1	-	-
	その他	87 100.0	44 50.6	38 43.7	4 4.6	1 1.1	-
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	67 52.8	54 42.5	5 3.9	1 0.8	-
	3年目以上 (H25 以前)	298 100.0	164 55.0	122 40.9	7 2.3	2 0.7	3 1.0
居住地	北海道	13 100.0	9 69.2	4 30.8	-	-	-
	東北	24 100.0	13 54.2	11 45.8	-	-	-
	関東	160 100.0	96 60.0	57 35.6	5 3.1	1 0.6	1 0.6
	甲信越	24 100.0	9 37.5	14 58.3	1 4.2	-	-
	東海	38 100.0	22 57.9	15 39.5	1 2.6	-	-
	近畿	84 100.0	43 51.2	39 46.4	1 1.2	1 1.2	-
	中国・四国	41 100.0	20 48.8	18 43.9	2 4.9	-	1 2.4
	九州	41 100.0	19 46.3	18 43.9	2 4.9	1 2.4	1 2.4

問13. 周囲の食品安全委員会への認識の変化 ① 食品安全委員会の名前を知っている人の増減

		合計	1.増えている	2.変わらない	3.減っている	4.分からない
全 体		425	157	171	10	87
		100.0	36.9	40.2	2.4	20.5
性別	男性	233	96	88	8	41
		100.0	41.2	37.8	3.4	17.6
	女性	192	61	83	2	46
		100.0	31.8	43.2	1.0	24.0
年代	20～30代	75	24	31	2	18
		100.0	32.0	41.3	2.7	24.0
	40代	101	34	48	2	17
		100.0	33.7	47.5	2.0	16.8
	50代	129	47	52	-	30
		100.0	36.4	40.3	-	23.3
	60代以上	120	52	40	6	22
		100.0	43.3	33.3	5.0	18.3
職務経験	食品生産・加工経験者	143	53	58	2	30
		100.0	37.1	40.6	1.4	21.0
	食品流通・販売経験者	62	33	21	2	6
		100.0	53.2	33.9	3.2	9.7
	研究職経験者	38	11	21	1	5
		100.0	28.9	55.3	2.6	13.2
	医療職経験者	36	6	20	2	8
		100.0	16.7	55.6	5.6	22.2
	教育職経験者	41	18	13	1	9
		100.0	43.9	31.7	2.4	22.0
	食品関係行政職経験者	18	5	9	-	4
		100.0	27.8	50.0	-	22.2
	その他	87	31	29	2	25
		100.0	35.6	33.3	2.3	28.7
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	42	48	2	35
		100.0	33.1	37.8	1.6	27.6
	3年目以上 (H25 以前)	298	115	123	8	52
		100.0	38.6	41.3	2.7	17.4
居住地	北海道	13	7	2	-	4
		100.0	53.8	15.4	-	30.8
	東北	24	12	7	-	5
		100.0	50.0	29.2	-	20.8
	関東	160	71	57	8	24
		100.0	44.4	35.6	5.0	15.0
	甲信越	24	9	12	-	3
		100.0	37.5	50.0	-	12.5
	東海	38	9	20	1	8
		100.0	23.7	52.6	2.6	21.1
	近畿	84	29	30	1	24
		100.0	34.5	35.7	1.2	28.6
	中国・四国	41	12	22	-	7
		100.0	29.3	53.7	-	17.1
	九州	41	8	21	-	12
		100.0	19.5	51.2	-	29.3

問13. 周囲の食品安全委員会への認識の変化 ② 食品安全委員会の取組を知っている人の増減

		合計	1.増えている	2.変わらない	3.減っている	4.分からない
全 体		425	92	206	15	112
		100.0	21.6	48.5	3.5	26.4
性別	男性	233	50	120	12	51
		100.0	21.5	51.5	5.2	21.9
	女性	192	42	86	3	61
		100.0	21.9	44.8	1.6	31.8
年代	20～30代	75	14	39	1	21
		100.0	18.7	52.0	1.3	28.0
	40代	101	19	52	6	24
		100.0	18.8	51.5	5.9	23.8
	50代	129	30	62	1	36
		100.0	23.3	48.1	0.8	27.9
	60代以上	120	29	53	7	31
		100.0	24.2	44.2	5.8	25.8
職務経験	食品生産・加工経験者	143	28	72	5	38
		100.0	19.6	50.3	3.5	26.6
	食品流通・販売経験者	62	23	30	2	7
		100.0	37.1	48.4	3.2	11.3
	研究職経験者	38	5	25	2	6
		100.0	13.2	65.8	5.3	15.8
	医療職経験者	36	3	18	3	12
		100.0	8.3	50.0	8.3	33.3
	教育職経験者	41	11	15	2	13
		100.0	26.8	36.6	4.9	31.7
	食品関係行政職経験者	18	3	8	1	6
		100.0	16.7	44.4	5.6	33.3
	その他	87	19	38	-	30
		100.0	21.8	43.7	-	34.5
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	27	56	3	41
		100.0	21.3	44.1	2.4	32.3
	3年目以上 (H25 以前)	298	65	150	12	71
		100.0	21.8	50.3	4.0	23.8
居住地	北海道	13	4	2	1	6
		100.0	30.8	15.4	7.7	46.2
	東北	24	9	10	-	5
		100.0	37.5	41.7	-	20.8
	関東	160	36	85	9	30
		100.0	22.5	53.1	5.6	18.8
	甲信越	24	4	14	1	5
		100.0	16.7	58.3	4.2	20.8
	東海	38	7	20	-	11
		100.0	18.4	52.6	-	28.9
	近畿	84	20	33	3	28
		100.0	23.8	39.3	3.6	33.3
	中国・四国	41	5	27	-	9
		100.0	12.2	65.9	-	22.0
	九州	41	7	15	1	18
		100.0	17.1	36.6	2.4	43.9

問13. 周囲の食品安全委員会への認識の変化 ③ 食品安全委員会を信頼している人の増減

		合計	1.増えている	2.変わらない	3.減っている	4.分からない
全 体		425	79	187	13	146
		100.0	18.6	44.0	3.1	34.4
性別	男性	233	44	112	7	70
		100.0	18.9	48.1	3.0	30.0
	女性	192	35	75	6	76
		100.0	18.2	39.1	3.1	39.6
年代	20～30代	75	14	32	1	28
		100.0	18.7	42.7	1.3	37.3
	40代	101	11	54	3	33
		100.0	10.9	53.5	3.0	32.7
	50代	129	26	54	2	47
		100.0	20.2	41.9	1.6	36.4
	60代以上	120	28	47	7	38
		100.0	23.3	39.2	5.8	31.7
職務経験	食品生産・加工経験者	143	24	60	4	55
		100.0	16.8	42.0	2.8	38.5
	食品流通・販売経験者	62	16	32	2	12
		100.0	25.8	51.6	3.2	19.4
	研究職経験者	38	7	20	1	10
		100.0	18.4	52.6	2.6	26.3
	医療職経験者	36	6	17	2	11
		100.0	16.7	47.2	5.6	30.6
	教育職経験者	41	9	18	1	13
		100.0	22.0	43.9	2.4	31.7
	食品関係行政職経験者	18	5	4	1	8
		100.0	27.8	22.2	5.6	44.4
	その他	87	12	36	2	37
		100.0	13.8	41.4	2.3	42.5
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	29	50	3	45
		100.0	22.8	39.4	2.4	35.4
	3年目以上 (H25 以前)	298	50	137	10	101
		100.0	16.8	46.0	3.4	33.9
居住地	北海道	13	5	4	-	4
		100.0	38.5	30.8	-	30.8
	東北	24	9	8	-	7
		100.0	37.5	33.3	-	29.2
	関東	160	30	78	7	45
		100.0	18.8	48.8	4.4	28.1
	甲信越	24	3	11	2	8
		100.0	12.5	45.8	8.3	33.3
	東海	38	3	19	1	15
		100.0	7.9	50.0	2.6	39.5
	近畿	84	15	29	3	37
		100.0	17.9	34.5	3.6	44.0
	中国・四国	41	7	24	-	10
		100.0	17.1	58.5	-	24.4
	九州	41	7	14	-	20
		100.0	17.1	34.1	-	48.8

問14. 食品安全委員会が発信した「加工肉・レドミートに関するIARCの発表について」の情報の閲覧状況

1 フェイスブック

		合計	1.見た(この 課題報告の 参考資料が 届く前に見て いた)	2.見なかった (この課題報 告の参考資 料で初めて 見た)	3.覚えていな い
全 体		425	150	238	37
		100.0	35.3	56.0	8.7
性別	男性	233	89	122	22
		100.0	38.2	52.4	9.4
	女性	192	61	116	15
		100.0	31.8	60.4	7.8
年代	20～30代	75	27	41	7
		100.0	36.0	54.7	9.3
	40代	101	42	47	12
		100.0	41.6	46.5	11.9
	50代	129	41	81	7
		100.0	31.8	62.8	5.4
	60代以上	120	40	69	11
		100.0	33.3	57.5	9.2
職務経験	食品生産・加工経験者	143	50	77	16
		100.0	35.0	53.8	11.2
	食品流通・販売経験者	62	22	37	3
		100.0	35.5	59.7	4.8
	研究職経験者	38	16	19	3
		100.0	42.1	50.0	7.9
	医療職経験者	36	9	24	3
		100.0	25.0	66.7	8.3
	教育職経験者	41	17	18	6
		100.0	41.5	43.9	14.6
	食品関係行政職経験者	18	3	14	1
		100.0	16.7	77.8	5.6
	その他	87	33	49	5
		100.0	37.9	56.3	5.7
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	47	68	12
		100.0	37.0	53.5	9.4
	3年目以上 (H25 以前)	298	103	170	25
		100.0	34.6	57.0	8.4
居住地	北海道	13	7	4	2
		100.0	53.8	30.8	15.4
	東北	24	11	10	3
		100.0	45.8	41.7	12.5
	関東	160	57	89	14
		100.0	35.6	55.6	8.8
	甲信越	24	7	15	2
		100.0	29.2	62.5	8.3
	東海	38	15	20	3
		100.0	39.5	52.6	7.9
	近畿	84	28	49	7
		100.0	33.3	58.3	8.3
	中国・四国	41	15	21	5
		100.0	36.6	51.2	12.2
	九州	41	10	30	1
		100.0	24.4	73.2	2.4

問14. 食品安全委員会が発信した「加工肉・レドミートに関するIARCの発表について」の情報の閲覧状況  
2 ホームページ

		合計	1.見た(この 課題報告の 参考資料が 届く前に見て いた)	2.見なかった (この課題報 告の参考資 料で初めて 見た)	3.覚えていな い
全 体		425 100.0	251 59.1	148 34.8	26 6.1
性別	男性	233 100.0	148 63.5	71 30.5	14 6.0
	女性	192 100.0	103 53.6	77 40.1	12 6.3
年代	20～30代	75 100.0	33 44.0	35 46.7	7 9.3
	40代	101 100.0	57 56.4	37 36.6	7 6.9
	50代	129 100.0	80 62.0	44 34.1	5 3.9
	60代以上	120 100.0	81 67.5	32 26.7	7 5.8
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	87 60.8	47 32.9	9 6.3
	食品流通・販売経験者	62 100.0	38 61.3	18 29.0	6 9.7
	研究職経験者	38 100.0	25 65.8	12 31.6	1 2.6
	医療職経験者	36 100.0	20 55.6	14 38.9	2 5.6
	教育職経験者	41 100.0	29 70.7	10 24.4	2 4.9
	食品関係行政職経験者	18 100.0	7 38.9	10 55.6	1 5.6
	その他	87 100.0	45 51.7	37 42.5	5 5.7
モニター継続	2 年目以下 (H27, 26)	127 100.0	72 56.7	48 37.8	7 5.5
	3 年目以上 (H25 以前)	298 100.0	179 60.1	100 33.6	19 6.4
居住地	北海道	13 100.0	10 76.9	2 15.4	1 7.7
	東北	24 100.0	16 66.7	5 20.8	3 12.5
	関東	160 100.0	108 67.5	43 26.9	9 5.6
	甲信越	24 100.0	8 33.3	14 58.3	2 8.3
	東海	38 100.0	22 57.9	15 39.5	1 2.6
	近畿	84 100.0	44 52.4	33 39.3	7 8.3
	中国・四国	41 100.0	19 46.3	21 51.2	1 2.4
	九州	41 100.0	24 58.5	15 36.6	2 4.9

問15. 食品安全委員会が発信した「加工肉・レドミートに関するIARCの発表について」の情報の評価

1 フェイスブック

		合計	1.分かりやすい	2.どちらかといえば分かりやすい	3.どちらかといえば分かりにくい	4.分かりにくい
全 体		425	89	180	121	35
		100.0	20.9	42.4	28.5	8.2
性別	男性	233	51	106	64	12
		100.0	21.9	45.5	27.5	5.2
	女性	192	38	74	57	23
		100.0	19.8	38.5	29.7	12.0
年代	20～30代	75	11	32	20	12
		100.0	14.7	42.7	26.7	16.0
	40代	101	20	41	31	9
		100.0	19.8	40.6	30.7	8.9
	50代	129	31	51	36	11
	100.0	24.0	39.5	27.9	8.5	
	60代以上	120	27	56	34	3
		100.0	22.5	46.7	28.3	2.5
職務経験	食品生産・加工経験者	143	36	62	32	13
		100.0	25.2	43.4	22.4	9.1
	食品流通・販売経験者	62	11	26	22	3
		100.0	17.7	41.9	35.5	4.8
	研究職経験者	38	10	13	12	3
		100.0	26.3	34.2	31.6	7.9
	医療職経験者	36	7	15	9	5
		100.0	19.4	41.7	25.0	13.9
	教育職経験者	41	8	13	17	3
		100.0	19.5	31.7	41.5	7.3
	食品関係行政職経験者	18	1	8	8	1
		100.0	5.6	44.4	44.4	5.6
	その他	87	16	43	21	7
		100.0	18.4	49.4	24.1	8.0
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	30	47	40	10
		100.0	23.6	37.0	31.5	7.9
	3年目以上 (H25 以前)	298	59	133	81	25
		100.0	19.8	44.6	27.2	8.4
居住地	北海道	13	3	6	3	1
		100.0	23.1	46.2	23.1	7.7
	東北	24	4	9	8	3
		100.0	16.7	37.5	33.3	12.5
	関東	160	37	69	37	17
		100.0	23.1	43.1	23.1	10.6
	甲信越	24	6	10	6	2
		100.0	25.0	41.7	25.0	8.3
	東海	38	7	18	11	2
		100.0	18.4	47.4	28.9	5.3
近畿	84	14	36	28	6	
	100.0	16.7	42.9	33.3	7.1	
	中国・四国	41	13	15	12	1
		100.0	31.7	36.6	29.3	2.4
	九州	41	5	17	16	3
		100.0	12.2	41.5	39.0	7.3

問15. 食品安全委員会が発信した「加工肉・レドミートに関するIARCの発表について」の情報の評価

2 ホームページ

		合計	1.分かりやすい	2.どちらかといえれば分かりやすい	3.どちらかといえれば分かりにくい	4.分かりにくい
全 体		425	123	213	72	17
		100.0	28.9	50.1	16.9	4.0
性別	男性	233	68	118	40	7
		100.0	29.2	50.6	17.2	3.0
	女性	192	55	95	32	10
		100.0	28.6	49.5	16.7	5.2
年代	20～30代	75	20	39	11	5
		100.0	26.7	52.0	14.7	6.7
	40代	101	28	50	18	5
		100.0	27.7	49.5	17.8	5.0
	50代	129	38	65	23	3
		100.0	29.5	50.4	17.8	2.3
	60代以上	120	37	59	20	4
		100.0	30.8	49.2	16.7	3.3
職務経験	食品生産・加工経験者	143	45	76	16	6
		100.0	31.5	53.1	11.2	4.2
	食品流通・販売経験者	62	9	38	13	2
		100.0	14.5	61.3	21.0	3.2
	研究職経験者	38	19	12	6	1
		100.0	50.0	31.6	15.8	2.6
	医療職経験者	36	10	17	6	3
		100.0	27.8	47.2	16.7	8.3
	教育職経験者	41	15	14	10	2
		100.0	36.6	34.1	24.4	4.9
	食品関係行政職経験者	18	2	9	6	1
		100.0	11.1	50.0	33.3	5.6
	その他	87	23	47	15	2
		100.0	26.4	54.0	17.2	2.3
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	45	57	22	3
		100.0	35.4	44.9	17.3	2.4
	3年目以上 (H25 以前)	298	78	156	50	14
		100.0	26.2	52.3	16.8	4.7
居住地	北海道	13	5	6	2	-
		100.0	38.5	46.2	15.4	-
	東北	24	8	12	2	2
		100.0	33.3	50.0	8.3	8.3
	関東	160	54	67	31	8
		100.0	33.8	41.9	19.4	5.0
	甲信越	24	4	14	6	-
		100.0	16.7	58.3	25.0	-
	東海	38	11	20	5	2
		100.0	28.9	52.6	13.2	5.3
	近畿	84	20	46	14	4
		100.0	23.8	54.8	16.7	4.8
	中国・四国	41	14	21	5	1
		100.0	34.1	51.2	12.2	2.4
	九州	41	7	27	7	-
		100.0	17.1	65.9	17.1	-

問16. 食品安全委員会が発信した「加工肉・レドミートに関するIARCの発表について」の、周囲への伝達状況

		合計	1.伝えた	2.伝えなかつた	3.覚えていない
全 体		285 100.0	205 71.9	71 24.9	9 3.2
性別	男性	165 100.0	121 73.3	41 24.8	3 1.8
	女性	120 100.0	84 70.0	30 25.0	6 5.0
年代	20～30代	44 100.0	32 72.7	12 27.3	— —
	40代	66 100.0	45 68.2	17 25.8	4 6.1
	50代	88 100.0	62 70.5	24 27.3	2 2.3
	60代以上	87 100.0	66 75.9	18 20.7	3 3.4
職務経験	食品生産・加工経験者	98 100.0	72 73.5	22 22.4	4 4.1
	食品流通・販売経験者	43 100.0	32 74.4	10 23.3	1 2.3
	研究職経験者	28 100.0	19 67.9	9 32.1	— —
	医療職経験者	22 100.0	16 72.7	6 27.3	— —
	教育職経験者	30 100.0	23 76.7	7 23.3	— —
	食品関係行政職経験者	7 100.0	4 57.1	3 42.9	— —
	その他	57 100.0	39 68.4	14 24.6	4 7.0
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	86 100.0	60 69.8	24 27.9	2 2.3
	3年目以上 (H25 以前)	199 100.0	145 72.9	47 23.6	7 3.5
居住地	北海道	10 100.0	8 80.0	2 20.0	— —
	東北	18 100.0	15 83.3	3 16.7	— —
	関東	118 100.0	84 71.2	30 25.4	4 3.4
	甲信越	12 100.0	5 41.7	5 41.7	2 16.7
	東海	25 100.0	18 72.0	7 28.0	— —
	近畿	53 100.0	40 75.5	12 22.6	1 1.9
	中国・四国	24 100.0	15 62.5	9 37.5	— —
	九州	25 100.0	20 80.0	3 12.0	2 8.0

問17. 食品安全委員会が発信した「健康食品」についての情報の閲覧状況

1 国民の皆様へ、エッセンス

		合計	1.見た(この 課題報告の 参考資料が 届く前に見て いた)	2.見なかった (この課題報 告の参考資 料で初めて 見た)	3.覚えていな い
全 体		425 100.0	205 48.2	188 44.2	32 7.5
性別	男性	233 100.0	123 52.8	90 38.6	20 8.6
	女性	192 100.0	82 42.7	98 51.0	12 6.3
年代	20～30代	75 100.0	23 30.7	48 64.0	4 5.3
	40代	101 100.0	49 48.5	46 45.5	6 5.9
	50代	129 100.0	63 48.8	53 41.1	13 10.1
	60代以上	120 100.0	70 58.3	41 34.2	9 7.5
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	70 49.0	60 42.0	13 9.1
	食品流通・販売経験者	62 100.0	31 50.0	24 38.7	7 11.3
	研究職経験者	38 100.0	18 47.4	17 44.7	3 7.9
	医療職経験者	36 100.0	18 50.0	13 36.1	5 13.9
	教育職経験者	41 100.0	22 53.7	18 43.9	1 2.4
	食品関係行政職経験者	18 100.0	9 50.0	9 50.0	- -
	その他	87 100.0	37 42.5	47 54.0	3 3.4
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	61 48.0	60 47.2	6 4.7
	3年目以上 (H25 以前)	298 100.0	144 48.3	128 43.0	26 8.7
居住地	北海道	13 100.0	10 76.9	2 15.4	1 7.7
	東北	24 100.0	13 54.2	8 33.3	3 12.5
	関東	160 100.0	74 46.3	71 44.4	15 9.4
	甲信越	24 100.0	13 54.2	11 45.8	- -
	東海	38 100.0	15 39.5	21 55.3	2 5.3
	近畿	84 100.0	39 46.4	39 46.4	6 7.1
	中国・四国	41 100.0	20 48.8	18 43.9	3 7.3
	九州	41 100.0	21 51.2	18 43.9	2 4.9

問17. 食品安全委員会が発信した「健康食品」についての情報の閲覧状況  
 2 いわゆる「健康食品」に関するメッセージ

		合計	1.見た(この 課題報告の 参考資料が 届く前に見て いた)	2.見なかった (この課題報 告の参考資 料で初めて 見た)	3.覚えていな い
全 体		425 100.0	210 49.4	187 44.0	28 6.6
性別	男性	233 100.0	125 53.6	91 39.1	17 7.3
	女性	192 100.0	85 44.3	96 50.0	11 5.7
年代	20～30代	75 100.0	23 30.7	48 64.0	4 5.3
	40代	101 100.0	49 48.5	44 43.6	8 7.9
	50代	129 100.0	69 53.5	52 40.3	8 6.2
	60代以上	120 100.0	69 57.5	43 35.8	8 6.7
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	74 51.7	59 41.3	10 7.0
	食品流通・販売経験者	62 100.0	30 48.4	24 38.7	8 12.9
	研究職経験者	38 100.0	19 50.0	15 39.5	4 10.5
	医療職経験者	36 100.0	16 44.4	17 47.2	3 8.3
	教育職経験者	41 100.0	24 58.5	16 39.0	1 2.4
	食品関係行政職経験者	18 100.0	8 44.4	10 55.6	- -
	その他	87 100.0	39 44.8	46 52.9	2 2.3
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	61 48.0	59 46.5
3年目以上 (H25 以前)		298 100.0	149 50.0	128 43.0	21 7.0
居住地	北海道	13 100.0	10 76.9	3 23.1	- -
	東北	24 100.0	14 58.3	8 33.3	2 8.3
	関東	160 100.0	80 50.0	68 42.5	12 7.5
	甲信越	24 100.0	11 45.8	11 45.8	2 8.3
	東海	38 100.0	17 44.7	21 55.3	- -
	近畿	84 100.0	42 50.0	36 42.9	6 7.1
	中国・四国	41 100.0	19 46.3	18 43.9	4 9.8
	九州	41 100.0	17 41.5	22 53.7	2 4.9

問17. 食品安全委員会が発信した「健康食品」についての情報の閲覧状況  
 3 いわゆる「健康食品」に関する報告書

		合計	1.見た(この 課題報告の 参考資料が 届く前に見て いた)	2.見なかった (この課題報 告の参考資 料で初めて 見た)	3.覚えていな い
全 体		425 100.0	189 44.5	206 48.5	30 7.1
性別	男性	233 100.0	119 51.1	98 42.1	16 6.9
	女性	192 100.0	70 36.5	108 56.3	14 7.3
年代	20～30代	75 100.0	20 26.7	51 68.0	4 5.3
	40代	101 100.0	42 41.6	49 48.5	10 9.9
	50代	129 100.0	62 48.1	58 45.0	9 7.0
	60代以上	120 100.0	65 54.2	48 40.0	7 5.8
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	67 46.9	62 43.4	14 9.8
	食品流通・販売経験者	62 100.0	28 45.2	27 43.5	7 11.3
	研究職経験者	38 100.0	16 42.1	19 50.0	3 7.9
	医療職経験者	36 100.0	13 36.1	19 52.8	4 11.1
	教育職経験者	41 100.0	21 51.2	20 48.8	- -
	食品関係行政職経験者	18 100.0	7 38.9	11 61.1	- -
	その他	87 100.0	37 42.5	48 55.2	2 2.3
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127 100.0	52 40.9	68 53.5	7 5.5
	3年目以上 (H25 以前)	298 100.0	137 46.0	138 46.3	23 7.7
居住地	北海道	13 100.0	6 46.2	5 38.5	2 15.4
	東北	24 100.0	12 50.0	10 41.7	2 8.3
	関東	160 100.0	74 46.3	74 46.3	12 7.5
	甲信越	24 100.0	11 45.8	11 45.8	2 8.3
	東海	38 100.0	13 34.2	25 65.8	- -
	近畿	84 100.0	37 44.0	40 47.6	7 8.3
	中国・四国	41 100.0	19 46.3	19 46.3	3 7.3
	九州	41 100.0	17 41.5	22 53.7	2 4.9

問17. 食品安全委員会が発信した「健康食品」についての情報の閲覧状況

4 「健康食品」に関するQ&A

		合計	1.見た(この 課題報告の 参考資料が 届く前に見て いた)	2.見なかった (この課題報 告の参考資 料で初めて 見た)	3.覚えていな い
全 体		425 100.0	194 45.6	199 46.8	32 7.5
性別	男性	233 100.0	113 48.5	101 43.3	19 8.2
	女性	192 100.0	81 42.2	98 51.0	13 6.8
年代	20～30代	75 100.0	18 24.0	54 72.0	3 4.0
	40代	101 100.0	45 44.6	45 44.6	11 10.9
	50代	129 100.0	63 48.8	54 41.9	12 9.3
	60代以上	120 100.0	68 56.7	46 38.3	6 5.0
職務経験	食品生産・加工経験者	143 100.0	62 43.4	65 45.5	16 11.2
	食品流通・販売経験者	62 100.0	34 54.8	23 37.1	5 8.1
	研究職経験者	38 100.0	17 44.7	20 52.6	1 2.6
	医療職経験者	36 100.0	17 47.2	16 44.4	3 8.3
	教育職経験者	41 100.0	23 56.1	16 39.0	2 4.9
	食品関係行政職経験者	18 100.0	8 44.4	9 50.0	1 5.6
	その他	87 100.0	33 37.9	50 57.5	4 4.6
モニター継続	2 年目以下 (H27, 26)	127 100.0	52 40.9	66 52.0	9 7.1
	3 年目以上 (H25 以前)	298 100.0	142 47.7	133 44.6	23 7.7
居住地	北海道	13 100.0	7 53.8	6 46.2	- -
	東北	24 100.0	14 58.3	9 37.5	1 4.2
	関東	160 100.0	75 46.9	74 46.3	11 6.9
	甲信越	24 100.0	9 37.5	11 45.8	4 16.7
	東海	38 100.0	14 36.8	21 55.3	3 7.9
	近畿	84 100.0	42 50.0	35 41.7	7 8.3
	中国・四国	41 100.0	12 29.3	25 61.0	4 9.8
	九州	41 100.0	21 51.2	18 43.9	2 4.9

問18. 食品安全委員会が発信した「健康食品」の内容についての、周囲への伝達状況

		合計	1.伝えた	2.伝えなかった	3.覚えていない
全 体		259 100.0	196 75.7	59 22.8	4 1.5
性別	男性	157 100.0	114 72.6	40 25.5	3 1.9
	女性	102 100.0	82 80.4	19 18.6	1 1.0
年代	20～30代	31 100.0	20 64.5	11 35.5	- -
	40代	64 100.0	47 73.4	16 25.0	1 1.6
	50代	84 100.0	63 75.0	20 23.8	1 1.2
	60代以上	80 100.0	66 82.5	12 15.0	2 2.5
職務経験	食品生産・加工経験者	91 100.0	63 69.2	24 26.4	4 4.4
	食品流通・販売経験者	43 100.0	33 76.7	10 23.3	- -
	研究職経験者	23 100.0	15 65.2	8 34.8	- -
	医療職経験者	21 100.0	15 71.4	6 28.6	- -
	教育職経験者	26 100.0	24 92.3	2 7.7	- -
	食品関係行政職経験者	9 100.0	8 88.9	1 11.1	- -
	その他	46 100.0	38 82.6	8 17.4	- -
	モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	76 100.0	58 76.3	18 23.7
3年目以上 (H25 以前)		183 100.0	138 75.4	41 22.4	4 2.2
居住地	北海道	10 100.0	10 100.0	- -	- -
	東北	15 100.0	13 86.7	2 13.3	- -
	関東	98 100.0	73 74.5	23 23.5	2 2.0
	甲信越	13 100.0	11 84.6	2 15.4	- -
	東海	21 100.0	17 81.0	4 19.0	- -
	近畿	52 100.0	39 75.0	11 21.2	2 3.8
	中国・四国	25 100.0	16 64.0	9 36.0	- -
	九州	25 100.0	17 68.0	8 32.0	- -

問19.「健康食品」の摂取状況

		合計	1.現在摂取している	2.過去に摂取したことがあるが、現在は摂取していない	3.摂取したことはない
全 体		425	141	182	102
		100.0	33.2	42.8	24.0
性別	男性	233	72	90	71
		100.0	30.9	38.6	30.5
	女性	192	69	92	31
		100.0	35.9	47.9	16.1
年代	20～30代	75	24	40	11
		100.0	32.0	53.3	14.7
	40代	101	33	50	18
		100.0	32.7	49.5	17.8
	50代	129	50	47	32
		100.0	38.8	36.4	24.8
	60代以上	120	34	45	41
		100.0	28.3	37.5	34.2
職務経験	食品生産・加工経験者	143	49	59	35
		100.0	34.3	41.3	24.5
	食品流通・販売経験者	62	24	24	14
		100.0	38.7	38.7	22.6
	研究職経験者	38	15	15	8
		100.0	39.5	39.5	21.1
	医療職経験者	36	12	19	5
		100.0	33.3	52.8	13.9
	教育職経験者	41	13	17	11
		100.0	31.7	41.5	26.8
	食品関係行政職経験者	18	4	5	9
		100.0	22.2	27.8	50.0
	その他	87	24	43	20
		100.0	27.6	49.4	23.0
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	127	47	54	26
		100.0	37.0	42.5	20.5
	3年目以上 (H25 以前)	298	94	128	76
		100.0	31.5	43.0	25.5
居住地	北海道	13	2	8	3
		100.0	15.4	61.5	23.1
	東北	24	11	6	7
		100.0	45.8	25.0	29.2
	関東	160	56	71	33
		100.0	35.0	44.4	20.6
	甲信越	24	6	12	6
		100.0	25.0	50.0	25.0
	東海	38	12	14	12
		100.0	31.6	36.8	31.6
	近畿	84	25	37	22
		100.0	29.8	44.0	26.2
	中国・四国	41	15	17	9
		100.0	36.6	41.5	22.0
	九州	41	14	17	10
		100.0	34.1	41.5	24.4

問20.「健康食品」の摂取をやめた理由

	合計	1.効果が感じられなかったから	2.体調を崩したから	3.医療機関や周囲の人に注意を受けたから	4.安全性が担保されていないものがあると知ったから	5.有効性が担保されていないものがあると知ったから	6.平成27年12月の食品安全委員会の発表資料を読んだから	7.値段が高かったから	8.体調が改善し、続けて摂る必要がなくなったから	9.なんとなく	10. その他
全体	182 100.0	103 56.6	7 3.8	4 2.2	33 18.1	34 18.7	9 4.9	66 36.3	16 8.8	42 23.1	26 14.3
性別											
男性	90 100.0	56 62.2	2 2.2	2 2.2	16 17.8	18 20.0	5 5.6	34 37.8	7 7.8	15 16.7	12 13.3
女性	92 100.0	47 51.1	5 5.4	2 2.2	17 18.5	16 17.4	4 4.3	32 34.8	9 9.8	27 29.3	14 15.2
年代											
20～30代	40 100.0	17 42.5	2 5.0	1 2.5	6 15.0	7 17.5	- -	14 35.0	4 10.0	14 35.0	5 12.5
40代	50 100.0	30 60.0	2 4.0	1 2.0	11 22.0	7 14.0	2 4.0	22 44.0	4 8.0	9 18.0	7 14.0
50代	47 100.0	28 59.6	3 6.4	- -	5 10.6	8 17.0	4 8.5	15 31.9	5 10.6	10 21.3	6 12.8
60代以上	45 100.0	28 62.2	- -	2 4.4	11 24.4	12 26.7	3 6.7	15 33.3	3 6.7	9 20.0	8 17.8
職務経験											
食品生産・加工経験者	59 100.0	40 67.8	1 1.7	1 1.7	10 16.9	10 16.9	3 5.1	23 39.0	6 10.2	13 22.0	7 11.9
食品流通・販売経験者	24 100.0	11 45.8	- -	- -	4 16.7	5 20.8	1 4.2	7 29.2	2 8.3	6 25.0	2 8.3
研究職経験者	15 100.0	6 40.0	- -	- -	1 6.7	1 6.7	- -	7 46.7	2 13.3	2 13.3	5 33.3
医療職経験者	19 100.0	11 57.9	- -	1 5.3	2 10.5	3 15.8	- -	5 26.3	- -	5 26.3	5 26.3
教育職経験者	17 100.0	10 58.8	2 11.8	- -	4 23.5	4 23.5	1 5.9	6 35.3	1 5.9	2 11.8	1 5.9
食品関係行政職経験者	5 100.0	4 80.0	- -	- -	3 60.0	3 60.0	1 20.0	2 40.0	- -	- -	1 20.0
その他	43 100.0	21 48.8	4 9.3	2 4.7	9 20.9	8 18.6	3 7.0	16 37.2	5 11.6	14 32.6	5 11.6
モニター継続											
2年目以下 (H27,26)	54 100.0	28 51.9	2 3.7	1 1.9	11 20.4	10 18.5	3 5.6	17 31.5	6 11.1	13 24.1	8 14.8
3年目以上 (H25 以前)	128 100.0	75 58.6	5 3.9	3 2.3	22 17.2	24 18.8	6 4.7	49 38.3	10 7.8	29 22.7	18 14.1
居住地											
北海道	8 100.0	4 50.0	- -	- -	2 25.0	1 12.5	- -	3 37.5	2 25.0	- -	2 25.0
東北	6 100.0	4 66.7	- -	- -	- -	- -	- -	2 33.3	1 16.7	- -	1 16.7
関東	71 100.0	40 56.3	3 4.2	2 2.8	11 15.5	12 16.9	1 1.4	26 36.6	7 9.9	18 25.4	10 14.1
甲信越	12 100.0	8 66.7	- -	1 8.3	3 25.0	3 25.0	1 8.3	2 16.7	- -	4 33.3	1 8.3
東海	14 100.0	5 35.7	3 21.4	1 7.1	2 14.3	3 21.4	1 7.1	5 35.7	- -	4 28.6	3 21.4
近畿	37 100.0	24 64.9	1 2.7	- -	7 18.9	6 16.2	4 10.8	14 37.8	4 10.8	8 21.6	6 16.2
中国・四国	17 100.0	9 52.9	- -	- -	2 11.8	2 11.8	1 5.9	8 47.1	2 11.8	3 17.6	2 11.8
九州	17 100.0	9 52.9	- -	- -	6 35.3	7 41.2	1 5.9	6 35.3	- -	5 29.4	1 5.9

問21.「健康食品」を摂取したことがない理由

		合計	1.日頃からバランスのとれた食生活をしており不要だから	2.安全性が不明だから	3.効果を得られるか不明だから	4.特定成分の過剰摂取になってしまわないか不安だから	5.値段が高いから	6.その他
全体		102	59	49	55	33	33	9
		100.0	57.8	48.0	53.9	32.4	32.4	8.8
性別	男性	71	42	32	33	19	25	6
		100.0	59.2	45.1	46.5	26.8	35.2	8.5
	女性	31	17	17	22	14	8	3
		100.0	54.8	54.8	71.0	45.2	25.8	9.7
年代	20～30代	11	2	4	7	2	5	-
		100.0	18.2	36.4	63.6	18.2	45.5	-
	40代	18	12	8	9	7	3	2
		100.0	66.7	44.4	50.0	38.9	16.7	11.1
	50代	32	16	15	18	14	13	1
		100.0	50.0	46.9	56.3	43.8	40.6	3.1
	60代以上	41	29	22	21	10	12	6
		100.0	70.7	53.7	51.2	24.4	29.3	14.6
職務経験	食品生産・加工経験者	35	21	16	17	11	9	3
		100.0	60.0	45.7	48.6	31.4	25.7	8.6
	食品流通・販売経験者	14	6	5	6	3	6	-
		100.0	42.9	35.7	42.9	21.4	42.9	-
	研究職経験者	8	5	6	5	3	3	-
		100.0	62.5	75.0	62.5	37.5	37.5	-
	医療職経験者	5	2	3	2	1	-	1
		100.0	40.0	60.0	40.0	20.0	-	20.0
	教育職経験者	11	8	4	7	5	3	1
		100.0	72.7	36.4	63.6	45.5	27.3	9.1
	食品関係行政職経験者	9	7	6	4	4	2	2
		100.0	77.8	66.7	44.4	44.4	22.2	22.2
	その他	20	10	9	14	6	10	2
		100.0	50.0	45.0	70.0	30.0	50.0	10.0
モニター継続	2年目以下 (H27, 26)	26	15	16	17	10	9	3
		100.0	57.7	61.5	65.4	38.5	34.6	11.5
	3年目以上 (H25 以前)	76	44	33	38	23	24	6
		100.0	57.9	43.4	50.0	30.3	31.6	7.9
居住地	北海道	3	2	1	1	-	-	1
		100.0	66.7	33.3	33.3	-	-	33.3
	東北	7	4	5	3	3	-	1
		100.0	57.1	71.4	42.9	42.9	-	14.3
	関東	33	21	18	20	14	14	1
		100.0	63.6	54.5	60.6	42.4	42.4	3.0
	甲信越	6	4	3	3	2	5	1
		100.0	66.7	50.0	50.0	33.3	83.3	16.7
	東海	12	8	3	5	3	4	2
		100.0	66.7	25.0	41.7	25.0	33.3	16.7
	近畿	22	12	12	13	7	6	2
		100.0	54.5	54.5	59.1	31.8	27.3	9.1
	中国・四国	9	4	3	3	2	3	1
		100.0	44.4	33.3	33.3	22.2	33.3	11.1
	九州	10	4	4	7	2	1	-
		100.0	40.0	40.0	70.0	20.0	10.0	-

問14. 食品安全委員会が発信した「加工肉・レドミートに関するIARCの発表について」の情報の確認状況  
(媒体:フェイスブックについて、普段のフェイスブックの閲覧状況 クロス集計)

		合計	1.見た(この課題報告の参考資料が届く前に見ていた)	2.見なかった(この課題報告の参考資料で初めて見た)	3.覚えていない
全 体		425 100.0	150 35.3	238 56.0	37 8.7
食品安全委員会のフェイスブックの閲覧状況	1. 投稿の8～10割を見ている	60 100.0	48 80.0	8 13.3	4 6.7
	2. 投稿の5～8割を見ている	69 100.0	39 56.5	20 29.0	10 14.5
	3. 投稿の2～5割を見ている	68 100.0	25 36.8	38 55.9	5 7.4
	4. 投稿の2割以下を見ている	98 100.0	34 34.7	56 57.1	8 8.2
	5. 見たことがない	130 100.0	4 3.1	116 89.2	10 7.7

問16. 食品安全委員会が発信した「加工肉・レドミートに関するIARCの発表について」の、周囲への伝達状況  
(媒体毎に「見た」人について、周囲への伝達状況のクロス集計)

	合計	1.伝えた	2.伝えなかった	3.覚えていない	問16回答対象外
全体	425 100.0	205 48.2	71 16.7	9 2.1	140 32.9
フェイスブック・ホームページともに見た	116 100.0	94 81.0	19 16.4	3 2.6	0 0.0
フェイスブックのみ見た	28 100.0	16 57.1	9 32.1	3 10.7	0 0.0
ホームページのみ見た	119 100.0	79 66.4	38 31.9	2 1.7	0 0.0
フェイスブックは見た、ホームページは覚えていない	6 100.0	5 83.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0
フェイスブックは覚えていない、ホームページは見た	16 100.0	11 68.8	4 25.0	1 6.3	0 0.0
フェイスブックは覚えていない、ホームページは見なかった	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 100.0
フェイスブックは見なかった、ホームページは覚えていない	7 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 100.0
どちらも覚えていない	13 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13 100.0
どちらも見なかった	112 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	112 100.0

問17. 「健康食品」についての資料を閲覧した数(クロス集計)

合計	4つとも見た	3つ見た	2つ見た	1つ見た	どれも見ていない	「覚えていない」が1つでもある
425 100.0	138 32.5	27 6.4	34 8.0	26 6.1	145 34.1	55 12.9

問19 健康食品摂取状況ごとの資料別の閲覧状況(問17とのクロス集計)

		合計	1.見た	2.見なかった	3.覚えていない
現在摂取してる	エッセンス	141 100.0	79 56.0	51 36.2	11 7.8
	メッセージ	141 100.0	77 54.6	51 36.2	13 9.2
	報告書	141 100.0	73 51.8	55 39.0	13 9.2
	Q&A	141 100.0	71 50.4	57 40.4	13 9.2
過去に摂取したことがあるが、現在は摂取していない	エッセンス	182 100.0	83 45.6	86 47.3	13 7.1
	メッセージ	182 100.0	89 48.9	84 46.2	9 4.9
	報告書	182 100.0	74 40.7	97 53.3	11 6.0
	Q&A	182 100.0	78 42.9	90 49.5	14 7.7
摂取したことはない	エッセンス	102 100.0	43 42.2	51 50.0	8 7.8
	メッセージ	102 100.0	44 43.1	52 51.0	6 5.9
	報告書	102 100.0	42 41.2	54 52.9	6 5.9
	Q&A	102 100.0	45 44.1	52 51.0	5 4.9

問19 「健康食品」の摂取の状況別の、周囲への伝達状況(問18とのクロス集計)

	合計	1.伝えた	2.伝えなかった	3.覚えていない	(資料を1つも見えていない)
現在摂取してる	141 100.0	71 50.4	28 19.9	3 2.1	39 27.7
過去に摂取したことがあるが、現在は摂取していない	182 100.0	81 44.5	20 11.0	1 0.5	80 44.0
摂取したことはない	102 100.0	44 43.1	11 10.8	0 0.0	47 46.1